

都道府県の推薦について

都道府県提出資料

目次

北海道	P.3	石川	P.137	岡山	P.247
青森	P.12	福井	P.144	広島	P.255
岩手	P.20	山梨	P.151	山口	P.262
宮城	P.26	長野	P.158	徳島	P.269
秋田	P.32	岐阜	P.165	香川	P.276
山形	P.39	静岡	P.171	愛媛	P.282
福島	P.47	愛知	P.179	高知	P.290
茨城	P.53	三重	P.186	福岡	P.298
栃木	P.61	滋賀	P.193	佐賀	P.308
群馬	P.68	京都	P.201	長崎	P.315
埼玉	P.74	大阪	P.207	熊本	P.322
千葉	P.82	兵庫	P.214	大分	P.327
東京	P.91	奈良	P.222	宮崎	P.334
神奈川	P.99	和歌山	P.229	鹿児島	P.341
新潟	P.120	鳥取	P.236	沖縄	P.348
富山	P.129	島根	P.241		

北海道

北海道第二次医療圏の概要

令和7年9月1日現在

	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院							
							推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				
								新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告	
1	南渡島	2,670.63	340,061	6.8%	127.33	32	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	南檜山	1,423.38	19,254	0.4%	13.53	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	北渡島檜山	2,473.77	30,384	0.6%	12.28	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	札幌	3,540.15	2,373,015	47.1%	670.31	225	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	後志	4,305.88	190,810	3.8%	44.31	21	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	南空知	2,562.25	134,520	2.7%	52.50	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	中空知	2,162.07	90,951	1.8%	42.07	16	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	北空知	1,067.29	27,467	0.5%	25.74	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	西胆振	1,356.70	163,388	3.2%	120.43	21	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	東胆振	2,340.34	199,347	4.0%	85.18	15	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	日高	4,811.13	59,647	1.2%	12.40	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	上川中部	4,238.10	366,581	7.3%	86.50	36	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	上川北部	4,197.18	55,104	1.1%	13.13	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	富良野	2,183.41	37,642	0.7%	17.24	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	留萌	3,445.88	38,969	0.8%	11.31	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	宗谷	4,626.07	56,538	1.1%	12.22	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	北網	5,542.27	195,453	3.9%	35.27	24	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	遠紋	5,148.26	60,645	1.2%	11.78	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	十勝	10,831.62	321,232	6.4%	29.66	31	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	釧路	5,997.07	208,795	4.1%	34.82	21	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	根室	3,497.31	67,754	1.3%	19.37	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	道(全体)	78420.76	5037557	100%	64.24	518	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

北海道 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

★:都道府県拠点

- ③北海道がんセンター★ (令和7年4月1日)
- ④札幌医科大学附属病院 (令和5年4月1日)
- ⑤北海道大学病院 (令和6年4月1日)
- ⑥市立札幌病院 (令和5年4月1日)
- ⑦手稲溪仁会病院 (令和5年4月1日)
- ⑧札幌厚生病院 (令和5年4月1日)
- ⑨KKR札幌医療センター (令和6年4月1日)
- ⑩恵佑会札幌病院 (令和7年4月1日)
- ⑪斗南病院 (令和7年4月1日)
- ⑫小樽市立病院 (令和6年4月1日)
- ⑬砂川市立病院 (令和5年4月1日)
- ⑭日鋼記念病院 (令和6年4月1日)
- ⑮王子総合病院 (令和7年4月1日)

道北

- ⑯旭川医科大学病院 (令和6年4月1日)
- ⑰旭川厚生病院 (令和5年4月1日)
- ⑱市立旭川病院 (令和5年4月1日)

上川北部、富良野、留萌、宗谷の各医療圏のがん患者は、⑯⑰⑱の3病院が連携してカバー。

遠紋医療圏のがん患者は、北網医療圏の⑲の病院でカバー。

道央の空白医療圏（北空知、日高）及び他の第三次医療圏からのがん患者をカバーするため、札幌医療圏に、③～⑪の複数の拠点病院を整備。（札幌医療圏は道内人口の約47%を占める）

道央

- ⑲北見赤十字病院 (令和5年4月1日)
- ⑳帯広厚生病院 (令和6年4月1日)
- ㉑市立釧路総合病院 (令和5年4月1日)
- ㉒釧路労災病院 (令和7年4月1日)

根室医療圏のがん患者は、釧路医療圏の㉑㉒の2病院が連携してカバー。

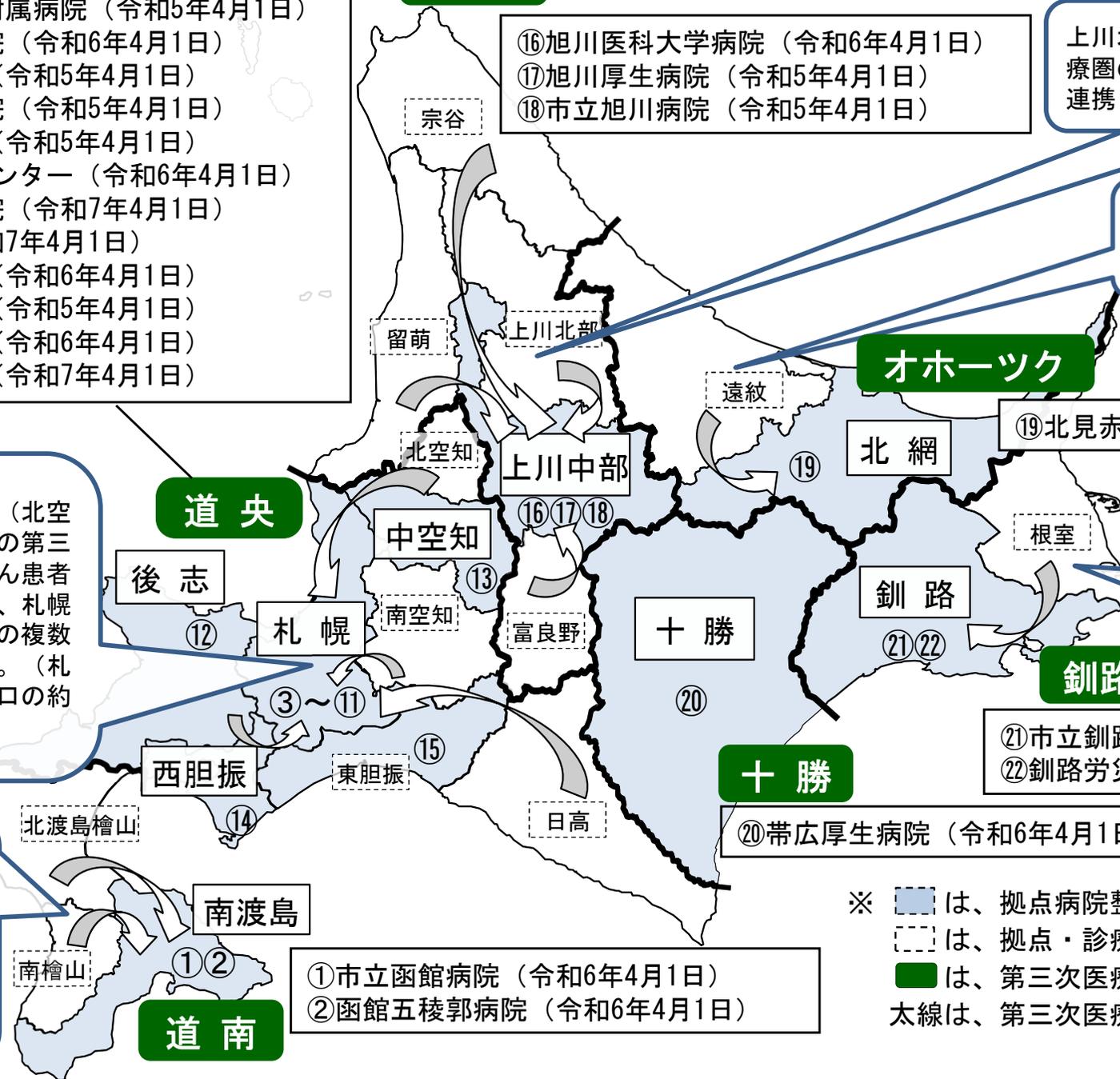
釧路・根室

南檜山及び北渡島檜山医療圏のがん患者は、南渡島医療圏の①②の2病院が連携してカバー。

道南

- ①市立函館病院 (令和6年4月1日)
- ②函館五稜郭病院 (令和6年4月1日)

※ ■ は、拠点病院整備医療圏
 □ は、拠点・診療病院空白の医療圏。
 ■ は、第三次医療圏名。
 太線は、第三次医療圏の境界。



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-①

・()内は令和6年9月提出の数値、下段は令和7年9月提出の数値

★:都道府県拠点 □:地域拠点(特例型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
① 南渡島		現況	市立函館病院	(1,191)	(498)	(1,531)	(381)	(115)	(21)	(881)
				1,303	537	1,447	357	150	22	713
② 南渡島		現況	函館五稜郭病院	(1,713)	(704)	(2,830)	(510)	(376)	(28)	(607)
				1,783	811	2,510	490	432	32	879
③ 札幌	★	現況	北海道がんセンター	(2,297)	(2,035)	(3,802)	(1,014)	(632)	(9)	(5,340)
				1,967	1,981	4,212	967	631	9	5,448
④ 札幌		現況	札幌医科大学附属病院	(2,250)	(962)	(2,089)	(840)	(387)	(9)	(2,061)
				2,228	941	2,985	899	398	8	2,121
⑤ 札幌		現況	北海道大学病院	(2,302)	(1,375)	(3,718)	(1,117)	(274)	(7)	(1,768)
				2,193	1,348	4,216	1,099	304	7	1,831
⑥ 札幌		現況	市立札幌病院	(1,515)	(764)	(2,060)	(345)	(304)	(4)	(941)
				1,373	858	1,771	554	660	3	968
⑦ 札幌		現況	手稲溪仁会病院	(2,217)	(1,328)	(4,198)	(438)	(310)	(6)	(918)
				1,968	1,391	4,529	430	291	5	787
⑧ 札幌		現況	札幌厚生病院	(1,240)	(1,936)	(1,154)	(210)	(249)	(5)	(527)
				1,149	1,993	1,224	214	245	5	544

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-②

・()内は令和6年9月提出の数値、下段は令和7年9月提出の数値

★:都道府県拠点 □:地域拠点(特例型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
◎ 札幌		現況	KKR札幌医療センター	(993)	(758)	(3,049)	(363)	(348)	(2)	(905)
				1,059	740	1,030	292	280	3	1,322
◎ 札幌		現況	恵佑会札幌病院	(1,197)	(1,071)	(1,813)	(380)	(142)	(4)	(1,342)
				1,180	1,033	1,800	404	187	5	1,175
◎ 札幌		現況	斗南病院	(1,306)	(1,046)	(1,788)	(206)	(308)	(5)	(320)
				1,269	1,175	1,489	201	1,061	5	314
◎ 後志		現況	小樽市立病院	(821)	(468)	(1,936)	(224)	(149)	(34)	(341)
				685	401	1,630	234	119	40	376
◎ 中空知		現況	砂川市立病院	(561)	(285)	(1,683)	(135)	(148)	(47)	(751)
				554	377	1,589	132	142	40	683
◎ 西胆振		現況	日鋼記念病院	(275)	(217)	(222)	(131)	(140)	(21)	(895)
				284	212	308	131	55	18	710
◎ 東胆振		現況	王子総合病院	(1,159)	(871)	(1,896)	(588)	(97)	(24)	(285)
				1,166	850	1,573	191	88	25	324
◎ 上川中部		現況	旭川医科大学病院	(1,811)	(1,098)	(1,677)	(500)	(378)	(25)	(1,706)
				1,786	1,103	1,780	493	420	23	1,235

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和6年9月提出の数値、下段は令和7年9月提出の数値

★:都道府県拠点 □:地域拠点(特例型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
⑰ 上川中部		現況	旭川厚生病院	(1,409)	(829)	(1,312)	(402)	(256)	(30)	(1,999)
				1,335	855	1,365	295	260	28	1,891
⑱ 上川中部		現況	市立旭川病院	(753)	(557)	(1,945)	(234)	(92)	(13)	(1,188)
				710	573	1,501	326	84	12	1,174
⑲ 北網		現況	北見赤十字病院	(1,326)	(883)	(1,297)	(417)	(127)	(60)	(1,025)
				1,354	1,166	1,742	499	145	49	769
⑳ 十勝		現況	帯広厚生病院	(1,367)	(856)	(2,169)	(568)	(137)	(46)	(1,080)
				1,716	975	1,992	574	185	44	973
㉑ 釧路		現況	市立釧路総合病院	(1,454)	(716)	(1,621)	(172)	(168)	(30)	(329)
				1,218	693	1,546	350	203	28	356
㉒ 釧路		現況	釧路労災病院	(1,159)	(776)	(1,552)	(292)	(307)	(30)	(1,130)
				1,019	675	1,396	208	52	32	925

北海道 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

★:都道府県拠点

道北

- ③北海道がんセンター★ (現況)
- ④札幌医科大学附属病院 (現況)
- ⑤北海道大学病院 (現況)
- ⑥市立札幌病院 (現況)
- ⑦手稲溪仁会病院 (現況)
- ⑧札幌厚生病院 (現況)
- ⑨KKR札幌医療センター (現況)
- ⑩恵佑会札幌病院 (現況)
- ⑪斗南病院 (現況)
- ⑫小樽市立病院 (現況)
- ⑬砂川市立病院 (現況)
- ⑭日鋼記念病院 (現況)
- ⑮王子総合病院 (現況)

- ⑯旭川医科大学病院 (現況)
- ⑰旭川厚生病院 (現況)
- ⑱市立旭川病院 (現況)

上川北部、富良野、留萌、宗谷の各医療圏のがん患者は、⑯⑰⑱の3病院が連携してカバー。

遠紋医療圏のがん患者は、北網医療圏の⑲の病院でカバー。

オホーツク

- ⑲北見赤十字病院 (現況)

根室医療圏のがん患者は、釧路医療圏の⑳㉑の2病院が連携してカバー。

釧路・根室

- ㉑市立釧路総合病院 (現況)
- ㉒釧路労災病院 (現況)

十勝

- ⑳帯広厚生病院 (現況)

道央

道央の空白医療圏（北空知、南空知、日高）及び他の第三次医療圏からのがん患者をカバーするため、札幌医療圏に、③～⑪の複数の拠点病院を整備。（札幌医療圏は道内人口の約47%を占める）

南檜山及び北渡島檜山医療圏のがん患者は、南渡島医療圏の①②の2病院が連携してカバー。

道南

- ①市立函館病院 (現況)
- ②函館五稜郭病院 (現況)

※ ■ は、拠点病院整備医療圏
 □ は、拠点・診療病院空白の医療圏。
 ■ は、第三次医療圏名。
 太線は、第三次医療圏の境界。

北海道におけるがん診療連携拠点病院等の整備の考え方 [NO.1]

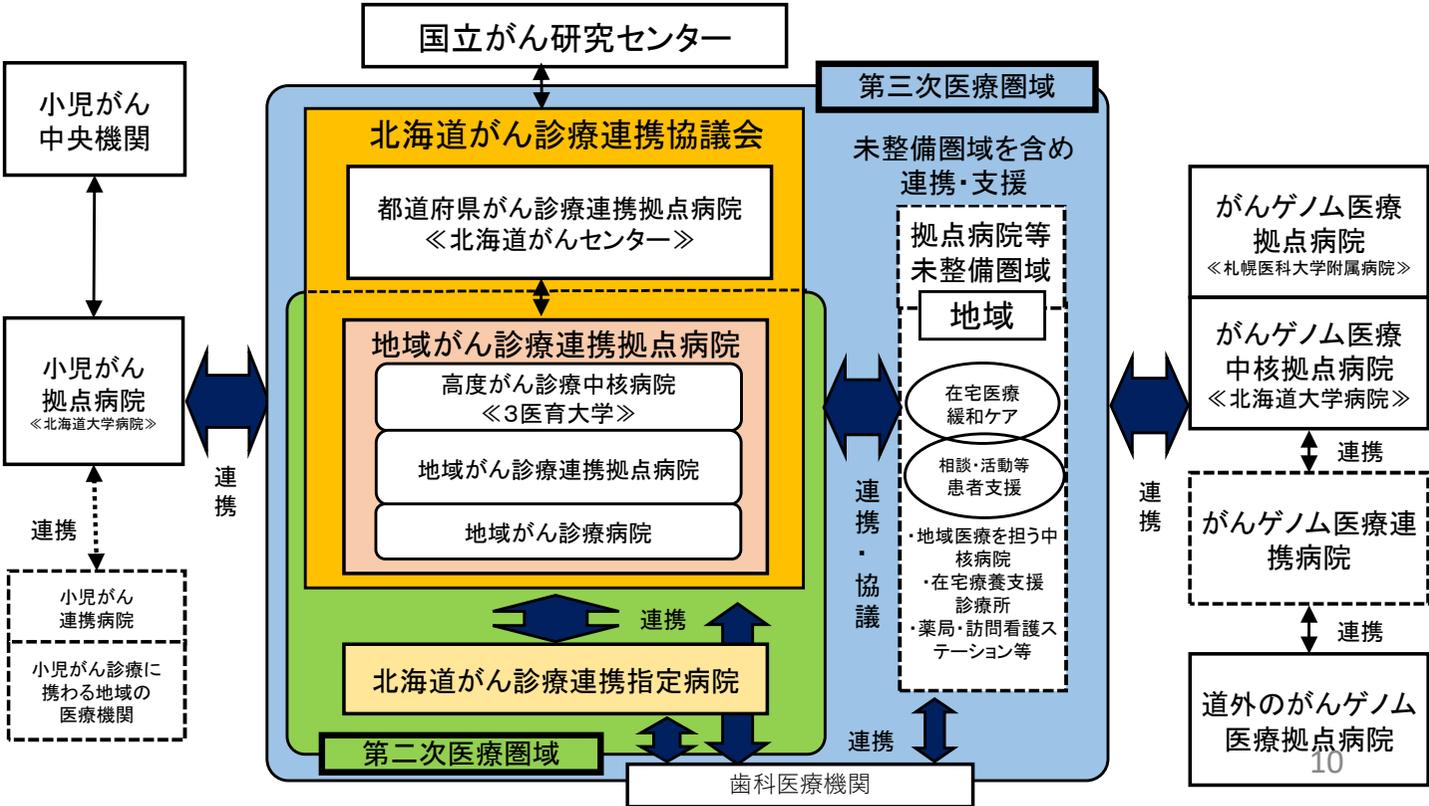
基本的な考え方	
北海道医療計画	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次医療圏ごとの整備を目指し、当面整備が困難な医療圏については、地域がん診療病院や道が独自の要件により指定する北海道がん診療連携指定病院の整備を進める。 ・未整備圏域については、がん診療連携拠点病院が地域の中核的な医療機関等と連携を図る。
北海道がん対策推進条例	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的ながん医療を提供する医療機関を整備し、及び当該医療機関を中核とした地域における診療の連携協力体制を整備する。
北海道がん対策推進計画	<ul style="list-style-type: none"> ・がん診療連携拠点病院は、拠点病院等の未整備圏域の中核的な医療機関等と連携を図り、必要とされる医療機能をカバーし道内のがん医療の連携体制の維持・向上に努める。

○本道のがんの現状

R5 人口 動態 統計	死亡者数	年齢調整死亡率 (人口10万対)		
		男性	女性	総数
北海道	20,360人	94.7	64.9	78.7
全国	382,504人	81.1	54.9	67.4

- 本道において、がんは昭和52年より死因の第1位。
- 年齢調整死亡率は、男性、女性ともに全国平均を上回っており、特に、肺がんや乳がんの死亡率が高くなっている。

北海道のがんの医療連携体制



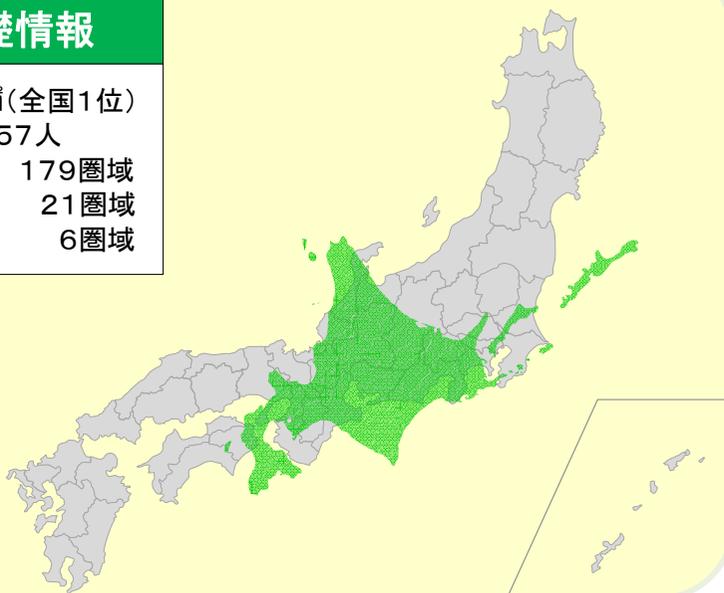
北海道におけるがん診療連携拠点病院等の整備の考え方 [NO. 2]

指定推薦にあたっての考え方

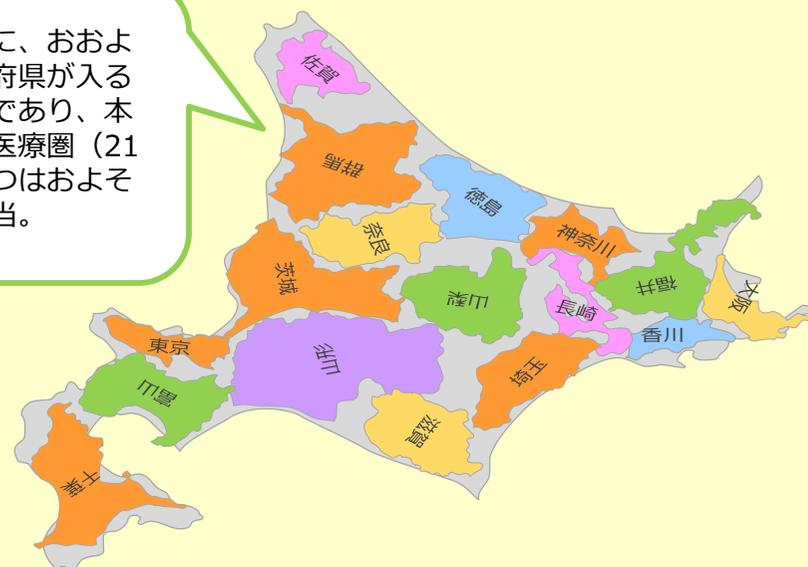
- 日本の面積の約22%を占め、九州及び中国地方12県を合わせた面積よりも広い本道においては、道が策定した計画等の考え方に沿って、第二次医療圏を医療連携圏域としつつ、第三次医療圏を基本に未整備圏域をカバーする体制を維持・強化する。
- 本道の拠点病院は、広域分散、積雪寒冷といった本道特有の事情がある中、自らの二次医療圏のみならず近隣の未整備圏域のがん診療を担うなど、各拠点病院と地域の病院が連携しながら、本道のがん医療の均てん化に大きな役割を果たしており、これまでどおり22病院により21の第二次医療圏を有する本道のがん診療の拠点として医療提供体制の整備を図る。

北海道の基礎情報

面積:	83,424km ² (全国1位)
人口:	5,037,557人
医療圏:	一次医療圏 179圏域
	二次医療圏 21圏域
	三次医療圏 6圏域



本道の中に、おおよそ17都府県が入るほど広大であり、本道の二次医療圏(21か所)一つはおおよそ1県に相当。



青 森 県

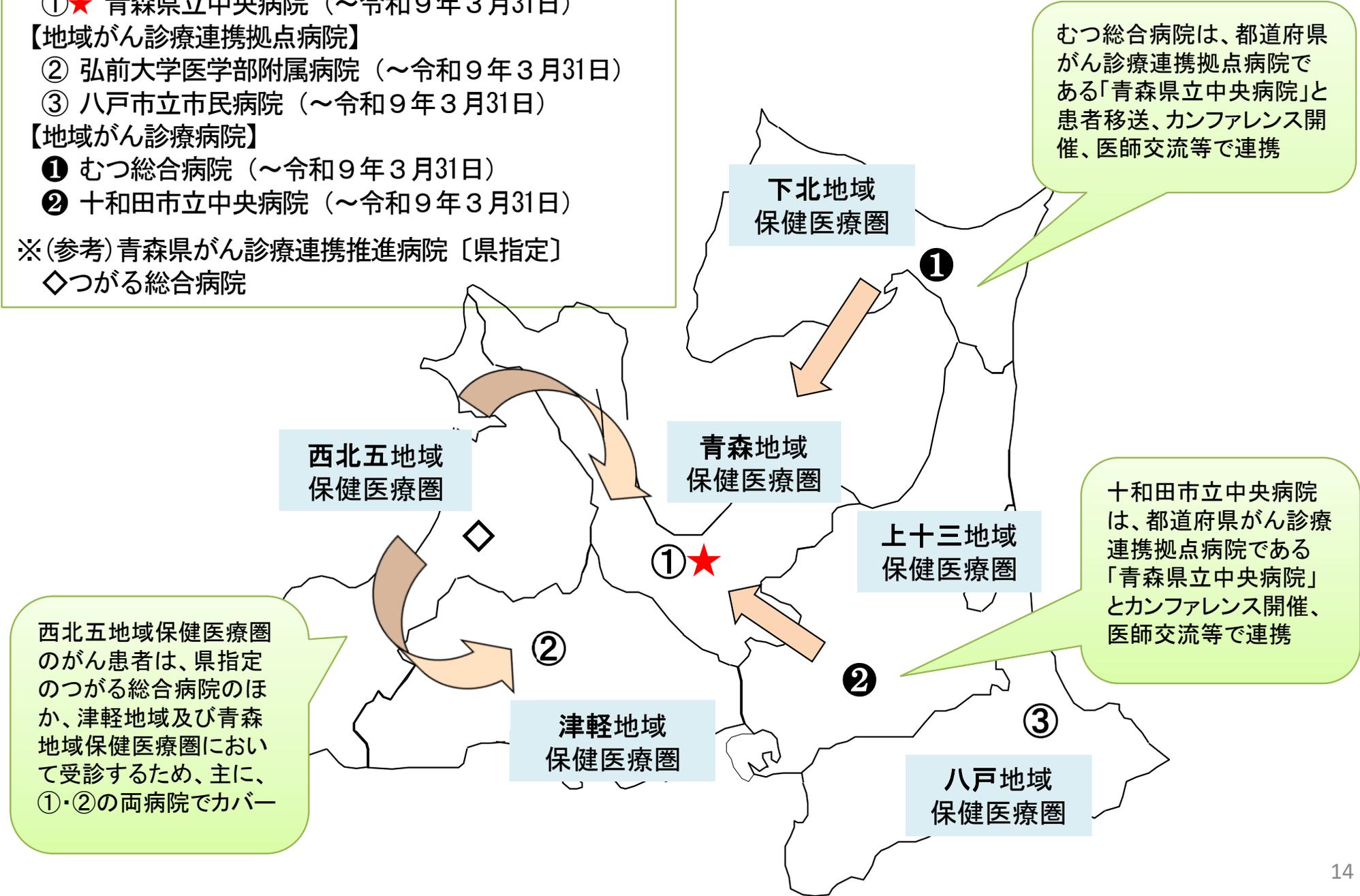
青森県 がんの医療圏の概要

〔令和 7 年 9 月 1 日現在〕

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院			
						推薦 病院 数	内訳		現況 報告	推薦 病院 数	内訳		現況 報告
							新規 申請	指定 更新			新規 申請	指定 更新	
津軽 地域保健医療圏	1,598.23	244,801	21.4	153.2	19	0	0	0	1	0	0	0	0
八戸 地域保健医療圏	1,346.85	266,450	23.2	197.8	26	0	0	0	1	0	0	0	0
青森 地域保健医療圏	1,478.11	274,225	23.9	185.5	21	0	0	0	1	0	0	0	0
西北五 地域保健医療圏	1,752.51	119,550	10.4	68.2	8	0	0	0	0	0	0	0	0
上十三 地域保健医療圏	2,054.14	180,521	15.7	87.9	11	0	0	0	0	0	0	0	1
下北 地域保健医療圏	1,416.12	60,842	5.3	43.0	3	0	0	0	0	0	0	0	1
計	9,645.96	1,146,389	100.0	118.8	88	0	0	0	3	0	0	0	2

青森県 令和7年9月1日現在の医療圏及び指定の状況

- 【都道府県がん診療連携拠点病院】
- ①★ 青森県立中央病院（～令和9年3月31日）
- 【地域がん診療連携拠点病院】
- ② 弘前大学医学部附属病院（～令和9年3月31日）
- ③ 八戸市立市民病院（～令和9年3月31日）
- 【地域がん診療病院】
- ① むつ総合病院（～令和9年3月31日）
- ② 十和田市立中央病院（～令和9年3月31日）
- ※(参考) 青森県がん診療連携推進病院〔県指定〕
- ◇ つがる総合病院



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1

・()内は令和6年10月報告の数値、下段は令和7年10月報告の数値

★:都道府県拠点

◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請等区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 基準:500件	悪性腫瘍の手術件数(年間) 基準:400件	のべ患者数(年間) 基準:1000人	のべ患者数(年間) 基準:200人	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 基準:50件	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 基準:20%	相談件数(年間)
1	青森	★	現況報告	青森県立中央病院	(2,130) 2,080	(904) 1,023	(3,747) 3,609	(510) 460	(94) 50	(33.0) 38.0	(2,185) 2,675
2	津軽		現況報告	弘前大学医学部附属病院	(2,491) 2,577	(1,857) 1,788	(1,955) 1,853	(716) 704	(95) 134	(33.0) 33.0	(597) 623
3	八戸		現況報告	八戸市立市民病院	(1,410) 1,797	(712) 1,016	(2,066) 2,060	(309) 282	(67) 58	(33.0) 21.0	(571) 637

地域がん診療病院の診療実績等

資料3-2

・()内は令和6年10月報告の数値、下段は令和7年10月報告の数値

	医療圏名	申請等区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の手術件数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	当該医療圏 に居住するがん患者の 診療の割合 (%)	相談件数 (年間)
1	下北	現況報告	むつ総合病院	(531) 631	(415) 212	(510) 746	(83) 100	(30) 19	(52.0) 58.0	(119) 77
2	上十三	現況報告	十和田市立中央病院	(598) 747	(389) 319	(493) 531	(118) 104	(74) 64	(51.0) 62.0	(189) 190

青森県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

- 【都道府県がん診療連携拠点病院】
 - ①★ 青森県立中央病院（現況報告）
 - 【地域がん診療連携拠点病院】
 - ② 弘前大学医学部附属病院（現況報告）
 - ③ 八戸市立市民病院（現況報告）
 - 【地域がん診療病院】
 - ① むつ総合病院（現況報告）
 - ② 十和田市立中央病院（現況報告）
- ※(参考)青森県がん診療連携推進病院〔県指定〕
◇つがる総合病院



青森県 がん医療連携体制に関する考え方

青森県の現状

●がんの75歳未満年齢調整死亡率と平均寿命は、ともに全国最下位

- がんによる死亡状況
がんは昭和57年以降、死因の第1位で、死亡原因の約3割を占める
- がんの75歳未満年齢調整死亡率
男女ともに全国最下位で推移している
- 青森県の平均寿命
男女ともに全国最下位に位置する
(令和2年 都道府県別生命表)

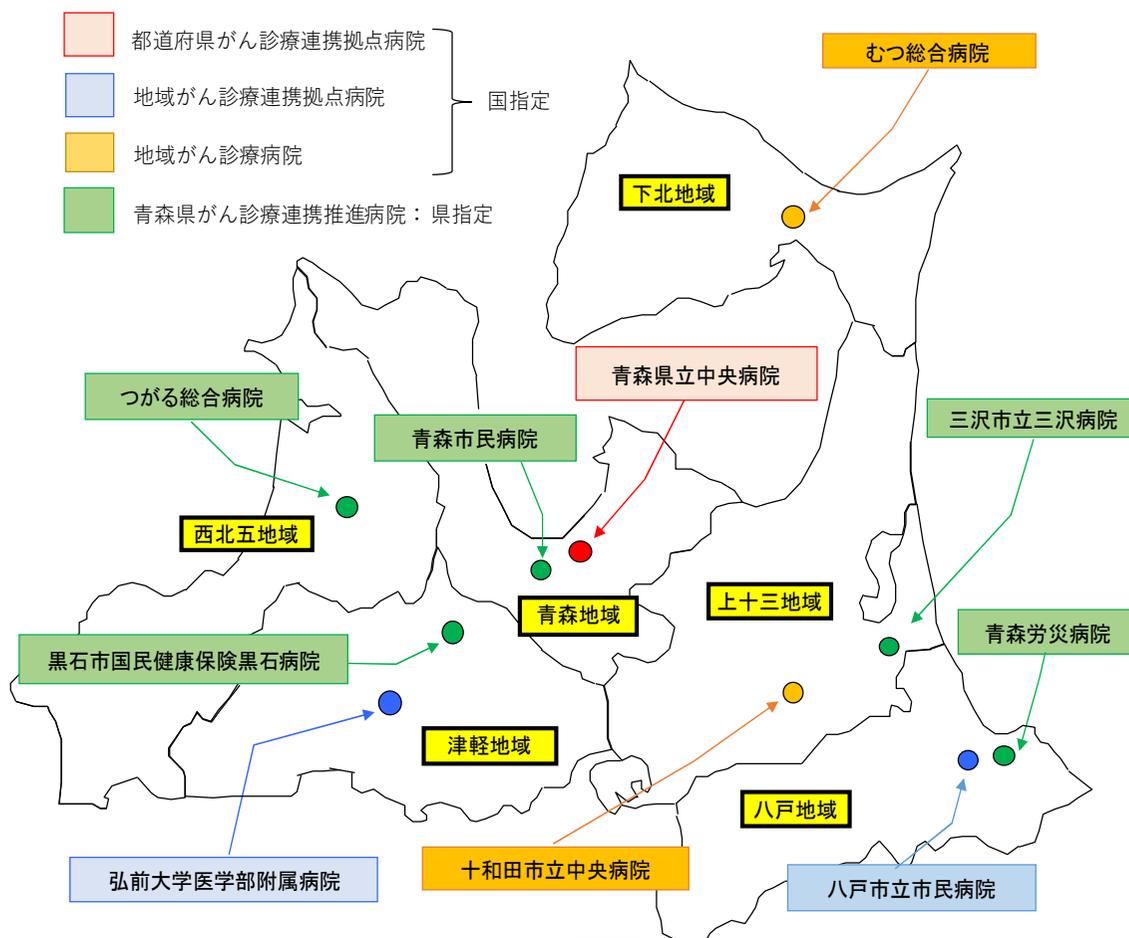
- 県民一人ひとりの健康づくりの推進
- がんの克服をめざす体制づくり

- ヘルスリテラシーの向上による生活習慣の改善
- 科学的根拠に基づくがん対策の充実
- がん治療体制の充実と、がんと共に生きることを支える仕組みの強化

■第四期青森県がん対策推進計画

- ・がんの一次予防（生活習慣の改善）の推進
- ・がんの二次予防（科学的根拠に基づくがん検診）の促進
- ・持続可能ながん医療の提供（がん医療提供体制）
- ・がんとともに尊厳を持って暮らせる社会の構築

青森県のがん医療連携体制



第四期青森県がん対策推進計画では、本県のがん医療提供体制や地域連携について、都道府県がん診療連携拠点病院を中核として、地域がん診療連携拠点病院や地域がん診療病院、及びこれに準じる機能を有する病院として県が指定するがん診療連携推進病院、その他の医療機関による機能分担と連携により構築されるものと位置付ける

青森県では、令和7年9月現在、青森県立中央病院、弘前大学医学部附属病院及び八戸市立市民病院の3病院が「がん診療連携拠点病院」に指定され、むつ総合病院及び十和田市立中央病院の2病院が「地域がん診療病院」に指定されている。

本県に特有の地理的な要因やバランス、今後の人口減少社会への対応を踏まえ、各保健医療圏においてがんの標準医療を受けられるがん医療提供体制を維持していくためには、がん診療連携拠点病院等の整備に関して、

- ・人口規模が大きい都市に所在する青森県立中央病院（青森地域）、弘前大学医学部附属病院（津軽地域）及び八戸市立市民病院（八戸地域）は「がん診療連携拠点病院」
- ・その他の医療圏の都市に所在するむつ総合病院（下北地域）及び十和田市立中央病院（上十三地域）は「地域がん診療病院」

として、それぞれ指定が継続されていることが不可欠である。

なお、現状において国指定の地域がん診療病院等のない西北五地域保健医療圏については、令和2年4月以降、つがる総合病院を県の青森県がん診療連携推進病院として指定し、連携体制を構築しているものであり、県と病院が連携し、国の指定申請に向けて取り組んでいるところである。

岩 手 県

岩手県がんの医療圏の概要

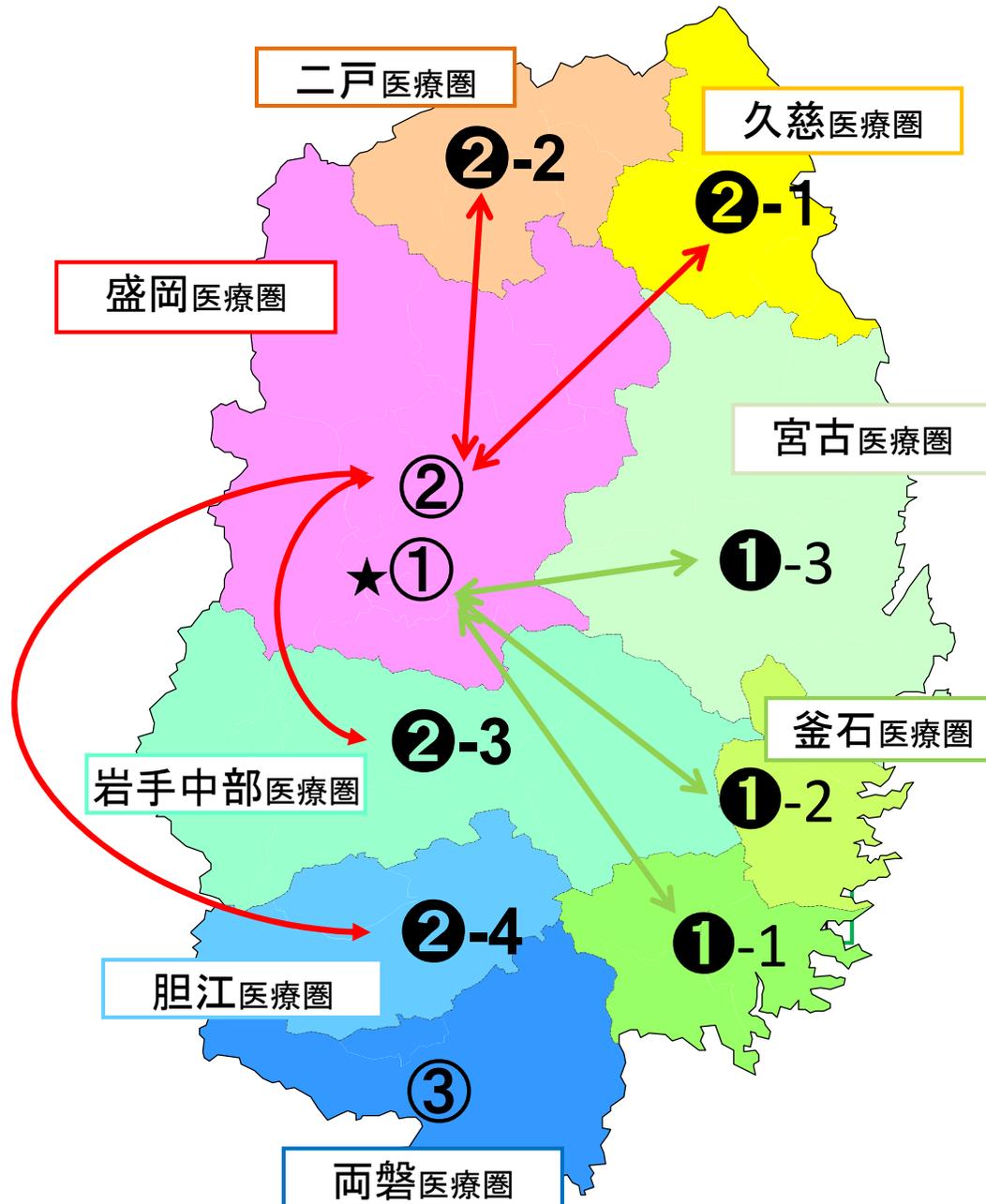
令和7年9月1日現在

	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口 (R7.9.1)	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院					
							推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳				
								新規申請	指定更新	指定類型 変更		現況報告	新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告
1	盛岡保健医療圏	3,641.77	443,044	39.3%	121.7	38	2				2	0				
2	岩手中部保健医療圏	2,762.65	206,135	18.3%	74.6	12	1			1		0				
3	胆江保健医療圏	1,173.06	119,610	10.6%	102.0	9	1			1		0				
4	両磐保健医療圏	1,319.81	108,487	9.6%	82.2	10	1				1	0				
5	気仙保健医療圏	889.29	51,894	4.6%	58.4	3	0					1			1	
6	釜石保健医療圏	640.76	38,102	3.4%	59.5	6	0					1			1	
7	宮古保健医療圏	2,670.51	67,255	6.0%	25.2	6	0					1			1	
8	久慈保健医療圏	1,076.88	48,607	4.3%	45.1	4	0					1			1	
9	二戸保健医療圏	1,100.29	44,859	4.0%	40.8	3	0					1			1	
	計	15,275.02	1,127,993	100.0%	73.8	91	5	0	1	2	2	5	0	0	0	5

(注) 令和6年3月に策定した岩手県保健医療計画(2024-2029)及び第4次岩手県がん対策推進計画では、地域密着で提供すべき医療との役割分担の下で高度・専門的ながん医療を広域的に提供するため、疾病・事業別医療圏として「盛岡・気仙・釜石・宮古」「盛岡・久慈・二戸」「岩手中部」「胆江」「両磐」の5つのがん診療連携医療圏を県独自に設定しているが、がん医療圏は患者の適切ながん医療へのアクセスを確保するため二次医療圏単位としており、がん診療連携医療圏はがん医療圏とは異なるものである。

岩手県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ★: 都道府県拠点
- : がん診療連携拠点病院
- : 地域がん診療病院



盛岡医療圏におけるがん診療連携拠点病院の役割

【岩手医科大学附属病院★】

- がんセンターを設置し、高度ながん医療を提供
- がん医療を担う専門的人材の養成
- 県内各医療圏の拠点病院との緊密な連携

【県立中央病院】

- 盛岡医療圏のがん患者への標準的治療実施
- 県立病院（20病院・6診療所）のセンター病院

地域がん診療病院におけるグループ化

① 岩手医科大学附属病院★

② 県立中央病院

③ 県立磐井病院

①-1 県立大船渡病院

①-2 県立釜石病院

①-3 県立宮古病院

②-1 県立久慈病院

②-2 県立二戸病院

②-3 県立中部病院(類型変更)

②-4 県立胆沢病院(類型変更)

令和7年度がん診療連携拠点病院診療実績等(類型変更分を含む)

- ★:都道府県拠点
○:地域がん診療連携拠点病院
●:地域がん診療病院

・上段は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

がん医療圏名	R7 類型	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援 センター	
				院内がん 登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の 手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに 対する新規診療依 頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏 に居住する がん患者の 診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)	
1	盛岡	★	現況 報告	岩手医科 大学 附属病院	(2,537) 2,423	(2,041) 1,954	(15,319) 5,198	(1,363) 1,472	(431) 405	(24) 37	(1,223) 1,137
2	盛岡	○	現況 報告	県立中央 病院	(1,822) 1,834	(1,322) 1,385	(2,367) 2,535	(572) 606	(66) 65	(28) 25	(702) 811
3	岩手中部	●	類型 変更	県立中部 病院	(1,255) 1,242	(817) 925	(2,304) 2,102	(340) 386	(295) 338	(60) 42	(955) 965
4	胆江	●	類型 変更	県立胆沢 病院	(1,153) 1,105	(570) 684	(968) 1,102	(272) 220	(50) 49	(43) 44	(288) 250
5	両磐	○	更新	県立磐井 病院	(706) 631	(534) 425	(527) 520	(199) 185	(76) 90	(53) 47	(705) 705

令和7年度地域がん診療病院の診療実績等

・上段は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
1	気仙	現況報告	県立大船渡病院	(427) 589	(308) 292	(366) 444	(84) 80	(126) 80	(60) 62	(675) 675
2	釜石	現況報告	県立釜石病院	(300) 264	(211) 176	(125) 123	(125) 97	(86) 89	(53) 40	(1,292) 948
3	宮古	現況報告	県立宮古病院	(432) 419	(207) 195	(382) 384	(104) 92	(116) 77	(30) 30	(262) 147
4	久慈	現況報告	県立久慈病院	(330) 330	(177) 157	(1,087) 1,026	(64) 64	(71) 107	(38) 37	(84) 112
5	二戸	現況報告	県立二戸病院	(409) 290	(105) 108	(308) 411	(82) 112	(45) 56	(29) 31	(197) 276

指定推薦等に係る岩手県の考え方

【現状】

がん医療圏：9

都道府県がん診療連携拠点病院：1、地域がん診療連携拠点病院：2、地域がん診療病院：7

【R8.4.1以降】 がん医療圏：9

都道府県がん診療連携拠点病院：1、地域がん診療連携拠点病院：4、地域がん診療病院：5

県内のがん診療連携体制

- 岩手医科大学附属病院を都道府県がん診療連携拠点病院として位置づけ、高度ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療連携拠点病院等の連携の中心として均てん化を推進する。
- 岩手県立中央病院は、岩手県立病院26施設のセンター病院として高度な医療機能を有している
- 盛岡保健医療圏については、県人口約113万人（令和7年10月1日現在）のうち、約4割の約45万人が集中し、本県では最も人口の多い圏域であり、他圏域からの患者流入も多い。そのため、岩手医科大学附属病院と県立中央病院の2病院が、引き続き盛岡保健医療圏をカバーするとともに、グループ指定を受ける地域がん診療病院と連携して各地域におけるがん診療等の提供体制を確保する。
- 県立中部病院及び県立胆沢病院については、病理医等一部の条件において充足へ向け現在調整中であるものの、がん医療圏における唯一のがん診療連携拠点病院診療等に該当することから地域における医療体制に大きな影響がある場合と考えられるため、地域がん診療連携拠点病院への類型変更の申請を行う。

宮 城 県



宮城県がんの医療圏の概要

令和7年9月1日現在

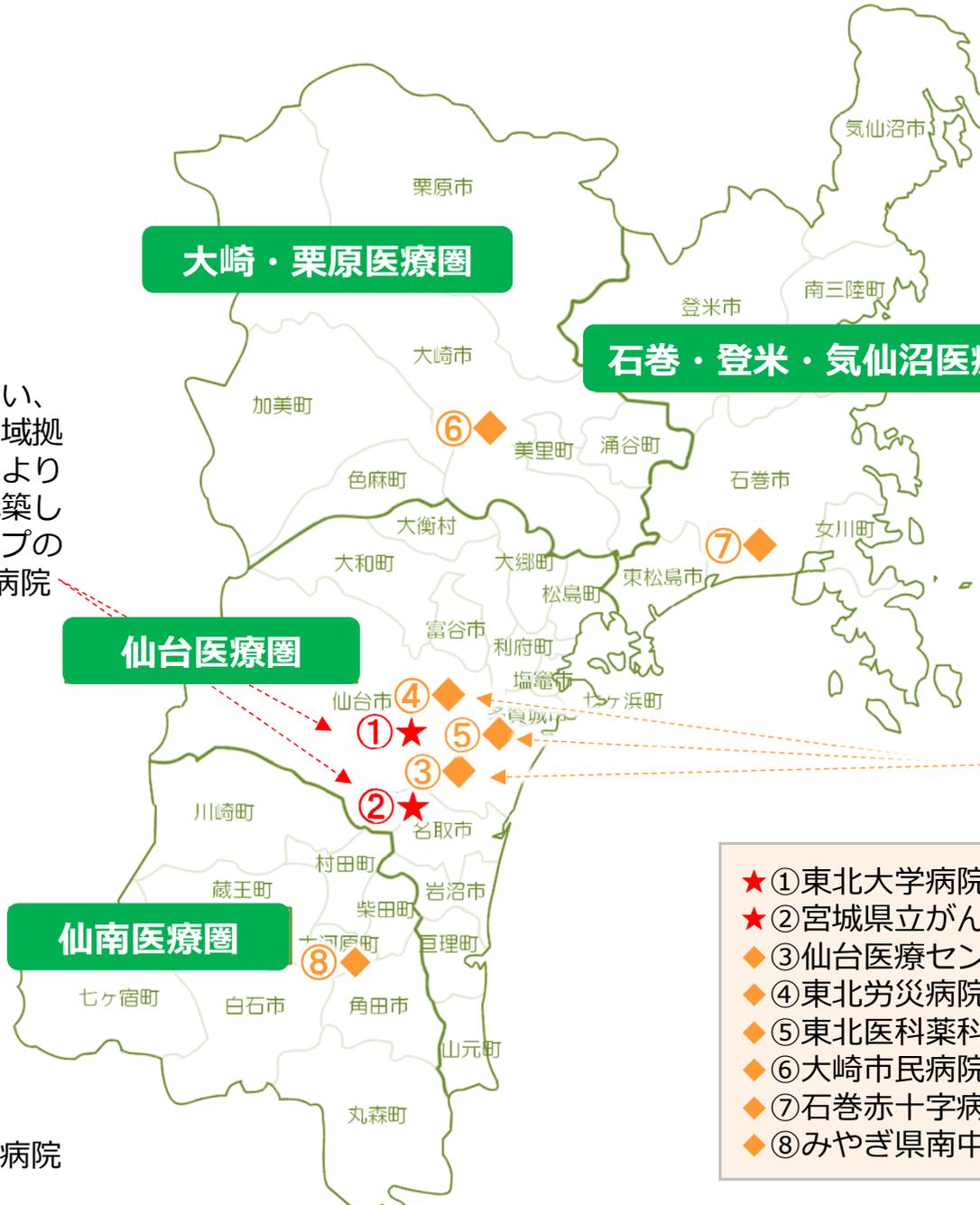
医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口 割合 (%)	人口 密度 (人/km ²)	病院数	がん診療連携拠点病院				
						推薦 施設数	内訳			
							新規	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告
仙 南	1,551.4	154,845	6.94%	99.8	13	1			1	
仙 台	1,648.9	1,528,859	68.18%	927.2	77	5			5	
大崎・栗原	2,328.9	239,769	10.86%	103.0	25	1			1	
石巻・登米・気仙沼	1,753.1	307,980	13.96%	175.7	19	1			1	
計	7,282.3	2,231,453	100%	306.4	134	8	0	0	0	8

(本県のがん医療圏は、医療法で規定する二次医療圏と同じ)

宮城県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★【都道府県拠点】

①、②の病院が役割分担を行い、相互に協力するとともに、地域拠点等と密接に連携することにより「全県的がん診療体制」を構築していることから、ダブルトップの指定が必要であるとして、2病院を指定している。



◆【仙台医療圏の地域拠点】

仙台医療圏（人口約153万人）は、県内人口の約3分の2をかかえ、加えて県内の他の医療圏や他県からの流入が大きいいため、複数の拠点病院が必要である。また、特徴を活かした役割分担を行い、がん診療の質の向上を図ることができるとして③、④、⑤の病院を指定。

- | | |
|--------------|------------|
| ★①東北大学病院 | (令和7年4月1日) |
| ★②宮城県立がんセンター | (令和7年4月1日) |
| ◆③仙台医療センター | (令和7年4月1日) |
| ◆④東北労災病院 | (令和7年4月1日) |
| ◆⑤東北医科薬科大学病院 | (令和7年4月1日) |
| ◆⑥大崎市民病院 | (令和7年4月1日) |
| ◆⑦石巻赤十字病院 | (令和7年4月1日) |
| ◆⑧みやぎ県南中核病院 | (令和7年4月1日) |

★：都道府県拠点病院

◆：地域がん診療連携拠点病院

がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3

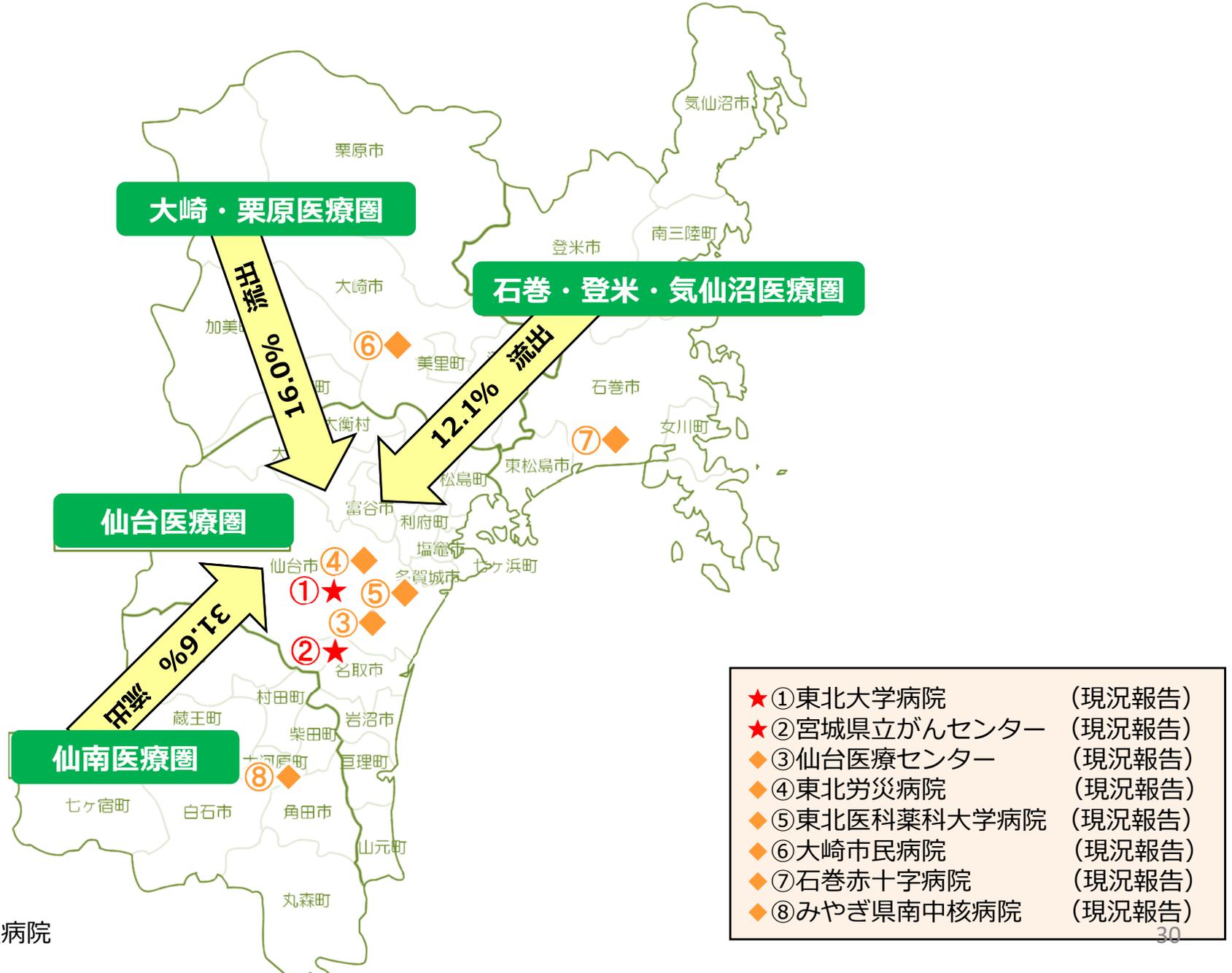
・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
★:都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
①	仙台	★	現況報告	東北大学病院	(3,097) 3,129	(2,440) 2,373	(6,442) 6,573	(1,238) 1,496	(500) 452	(18) 20	(1,219) 1,178
②	仙台	★	現況報告	宮城県立がんセンター	(2,070) 2,177	(1,381) 1,397	(3,122) 3,297	(793) 821	(489) 509	(9) 8	(1,795) 1,790
③	仙台		現況報告	仙台医療センター	(1,561) 1,732	(1,700) 1,031	(3,667) 3,724	(463) 399	(301) 555	(12) 13	(592) 570
④	仙台		現況報告	東北労災病院	(844) 810	(648) 571	(1,058) 1,010	(279) 260	(240) 244	(5) 4	(783) 715
⑤	仙台		現況報告	東北医科薬科大学病院	(1,306) 1,371	(903) 938	(1,386) 1,452	(361) 349	(146) 169	(8) 9	(544) 510
⑥	大崎 栗原		現況報告	大崎市民病院	(1,815) 1,829	(990) 1,001	(2,229) 2,580	(530) 521	(129) 132	(62) 51	(695) 719
⑦	石巻 登米 気仙沼		現況報告	石巻赤十字病院	(1,825) 1,807	(1,505) 1,494	(2,732) 2,104	(458) 469	(53) 30	(29) 44	(406) 416
⑧	仙南		現況報告	みやぎ県南中核病院	(899) 859	(666) 675	(1,388) 1,024	(194) 133	(173) 185	(70) 32	(1,869) 1,203



宮城県

令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



指定に係る宮城県の考え方

がん診療連携拠点病院の整備方針

- 2つの都道府県拠点病院が県全体を牽引する、ダブルトップ体制を整備する
- 4つの医療圏に1箇所以上の地域拠点病院等を整備する
- 仙台医療圏は、県内人口の約3分の2をかかえ、他の医療圏からの流入が大きいいため、複数の拠点病院を配置する
- 上記による全県的がん診療体制を整備し、がん医療の均てん化を実現する

秋 田 県

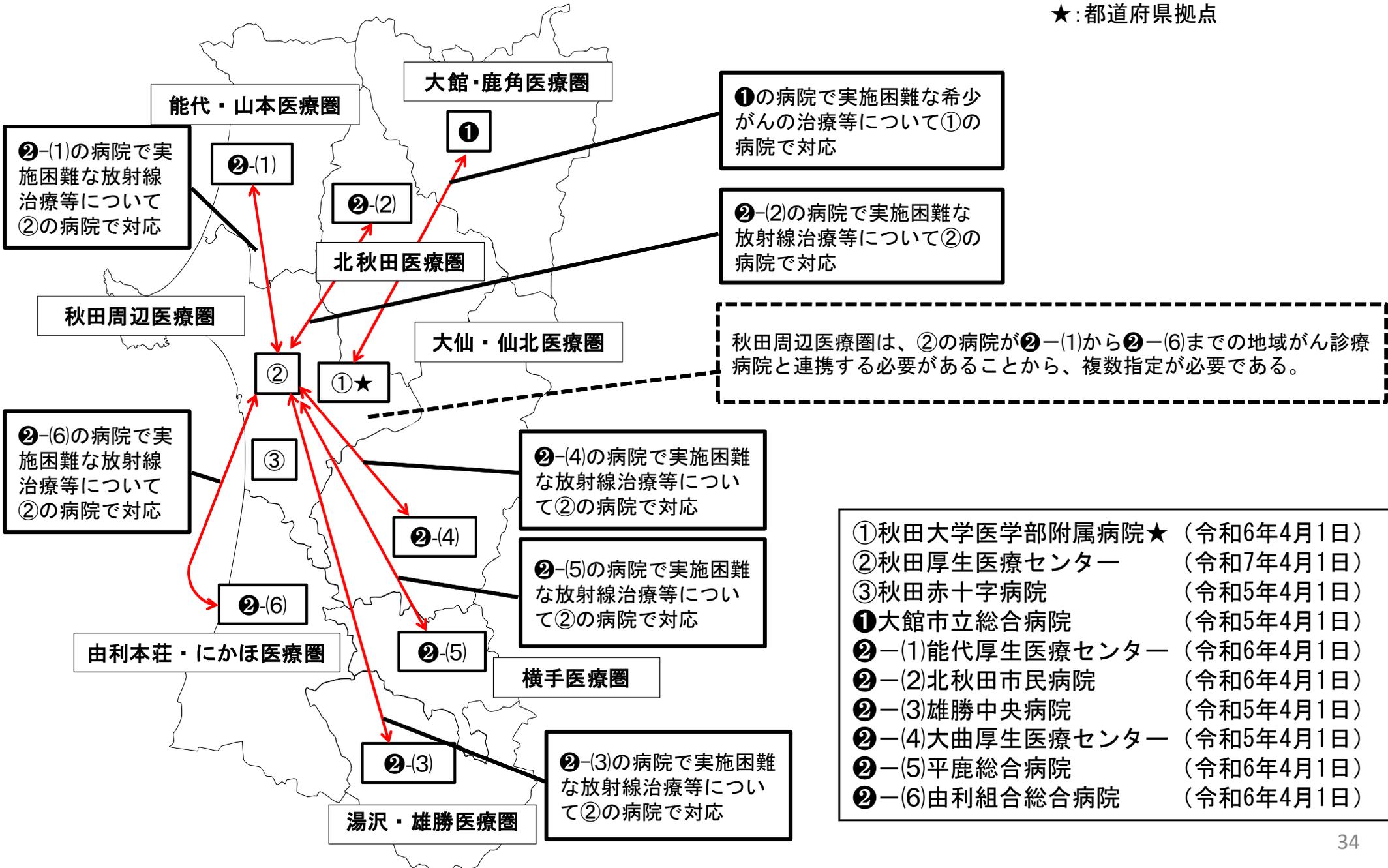
秋田県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院					
						推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				
							新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告		新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告	
大館・鹿角	1,822.44	92,923	10.6	51.0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
北秋田	1,409.48	28,250	3.2	20.0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
能代・山本	1,191.20	66,204	7.5	55.6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
秋田周辺	1,716.80	364,027	41.4	212.0	25	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
由利本荘・にかほ	1,450.72	90,205	10.3	62.2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大仙・仙北	2,128.67	109,185	12.4	51.3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
横手	692.80	77,263	8.8	111.5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
湯沢・雄勝	1,225.38	51,991	5.9	42.4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	11,637.49	880,048	100.0	75.6	64	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	7

秋田県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点



- ①秋田大学医学部附属病院★ (令和6年4月1日)
- ②秋田厚生医療センター (令和7年4月1日)
- ③秋田赤十字病院 (令和5年4月1日)
- ①大館市立総合病院 (令和5年4月1日)
- ②-①能代厚生医療センター (令和6年4月1日)
- ②-②北秋田市民病院 (令和6年4月1日)
- ②-③雄勝中央病院 (令和5年4月1日)
- ②-④大曲厚生医療センター (令和5年4月1日)
- ②-⑤平鹿総合病院 (令和6年4月1日)
- ②-⑥由利組合総合病院 (令和6年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・()内は令和5年1月1日～令和5年12月31日の数値、下段は令和7年10月提出(令和6年1月1日～令和6年12月31日)の数値

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	秋田周辺	★	現況報告	秋田大学医学部附属病院	(2,240)	(1,421)	(9,657)	(715)	(96)	(22)	(2,184)
					1,813	1,332	30,755	611	130	47	1,847
2	秋田周辺		現況報告	秋田厚生医療センター	(968)	(632)	(1,351)	(210)	(147)	(20)	(918)
					883	587	1,365	249	164	18	748
3	秋田周辺		現況報告	秋田赤十字病院	(1,165)	(725)	(2,272)	(148)	(123)	(24)	(835)
					1,200	667	2,297	203	135	22	737

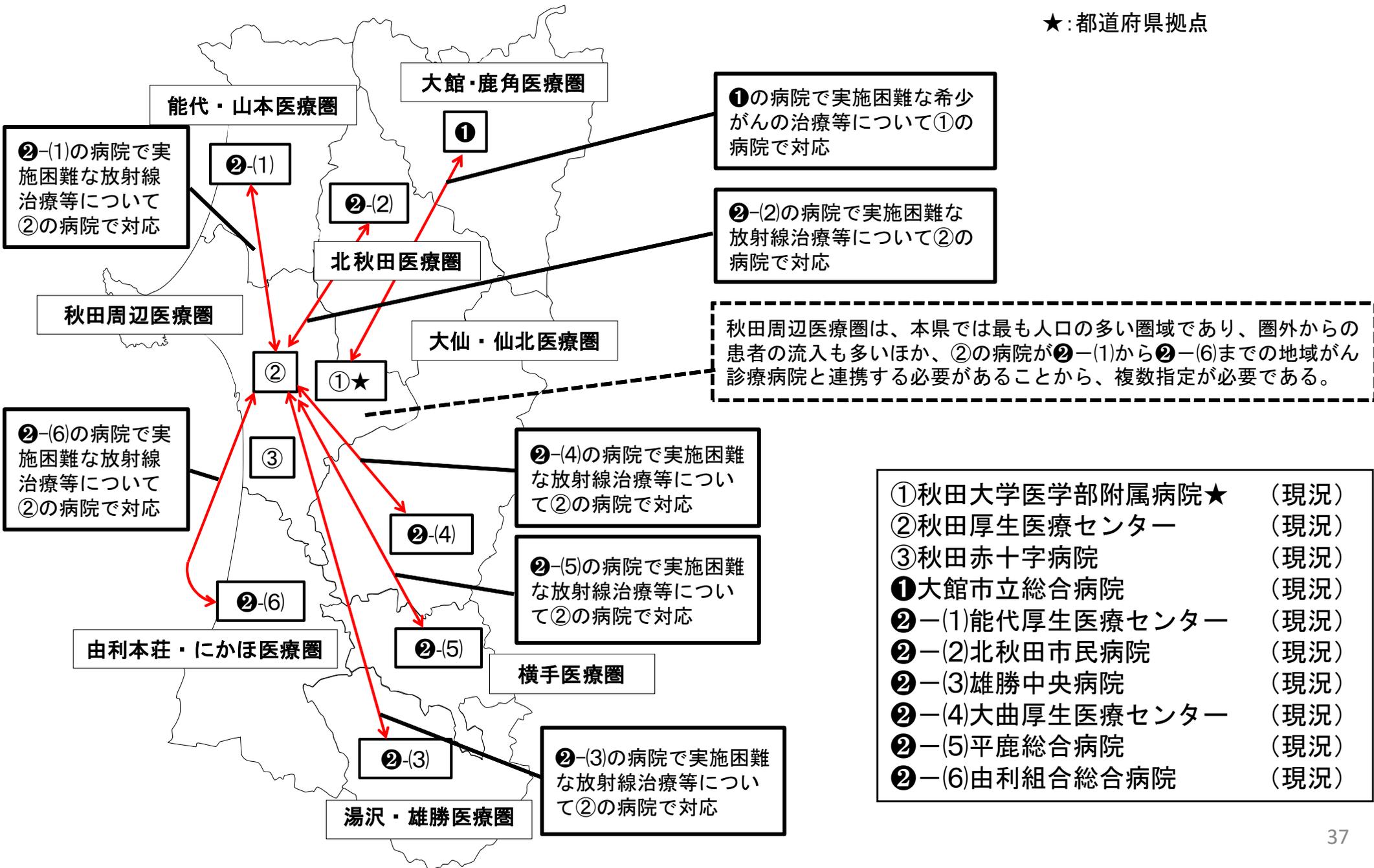
地域がん診療病院の診療実績等

・()内は令和5年1月1日～令和5年12月31日の数値、下段は令和7年10月提出(令和6年1月1日～令和6年12月31日)の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
				院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
1	大館・鹿角	現況報告	大館市立総合病院	(917)	(417)	(4,999)	(203)	(56)	(76)	(471)
				784	411	5,086	170	41	86	494
2	能代・山本	現況報告	能代厚生医療センター	(499)	(265)	(725)	(56)	(164)	(49)	(178)
				579	353	810	67	144	45	158
3	由利本荘・にかほ	現況報告	由利組合総合病院	(608)	(397)	(645)	(111)	(40)	(25)	(2,300)
				650	398	713	123	65	46	2,377
4	北秋田	現況報告	北秋田市民病院	(275)	(97)	(1,369)	実施なし	(71)	(57)	(111)
				253	31	1,300		51	32	159
5	湯沢・雄勝	現況報告	雄勝中央病院	(317)	(114)	(579)	実施なし	(107)	(22)	(243)
				328	96	131		89	22	258
6	大仙・仙北	現況報告	大曲厚生医療センター	(875)	(523)	(812)	(246)	(118)	(75)	(223)
				860	536	1,309	208	98	64	214
7	横手	現況報告	平鹿総合病院	(979)	(417)	(3,699)	(230)	(198)	(38)	(882)
				754	462	1,197	224	158	32	562

秋田県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点



- | | |
|-----------------|------|
| ①秋田大学医学部附属病院★ | (現況) |
| ②秋田厚生医療センター | (現況) |
| ③秋田赤十字病院 | (現況) |
| ①大館市立総合病院 | (現況) |
| ②-(1)能代厚生医療センター | (現況) |
| ②-(2)北秋田市民病院 | (現況) |
| ②-(3)雄勝中央病院 | (現況) |
| ②-(4)大曲厚生医療センター | (現況) |
| ②-(5)平鹿総合病院 | (現況) |
| ②-(6)由利組合総合病院 | (現況) |

秋田県のがん診療体制に関する考え方

【現状】

医療圏：8

都道府県がん診療連携拠点病院：1 地域がん診療連携拠点病院：2 地域がん診療病院：7

1. 県内のがん診療連携体制について

- 秋田大学医学部附属病院を都道府県がん診療連携拠点病院として位置づけ、高度ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療連携拠点病院等の連携の中心として均てん化を推進する。
- 秋田周辺医療圏は、県人口約88万人（令和7年9月1日現在）のうち約4割の約36万人が集中し、圏外からの患者の流入も多い。そのため、秋田厚生医療センターと秋田赤十字病院の2病院が秋田周辺医療圏をカバーすることにより、がん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の確保を図る。
- 地域がん診療病院は、グループ指定を受ける秋田大学医学部附属病院又は秋田厚生医療センターと連携して各がん医療圏におけるがん診療等の提供体制を確保する。

2. 指定により期待される効果

- 拠点病院を中心とした集学的治療や標準的治療の提供体制の強化
- がんの種類や病態等に応じた適切な医療や緩和ケアの提供、相談支援の実施
- 医療圏内の各医療機関と連携したがんに係る地域医療の充実及び質の向上

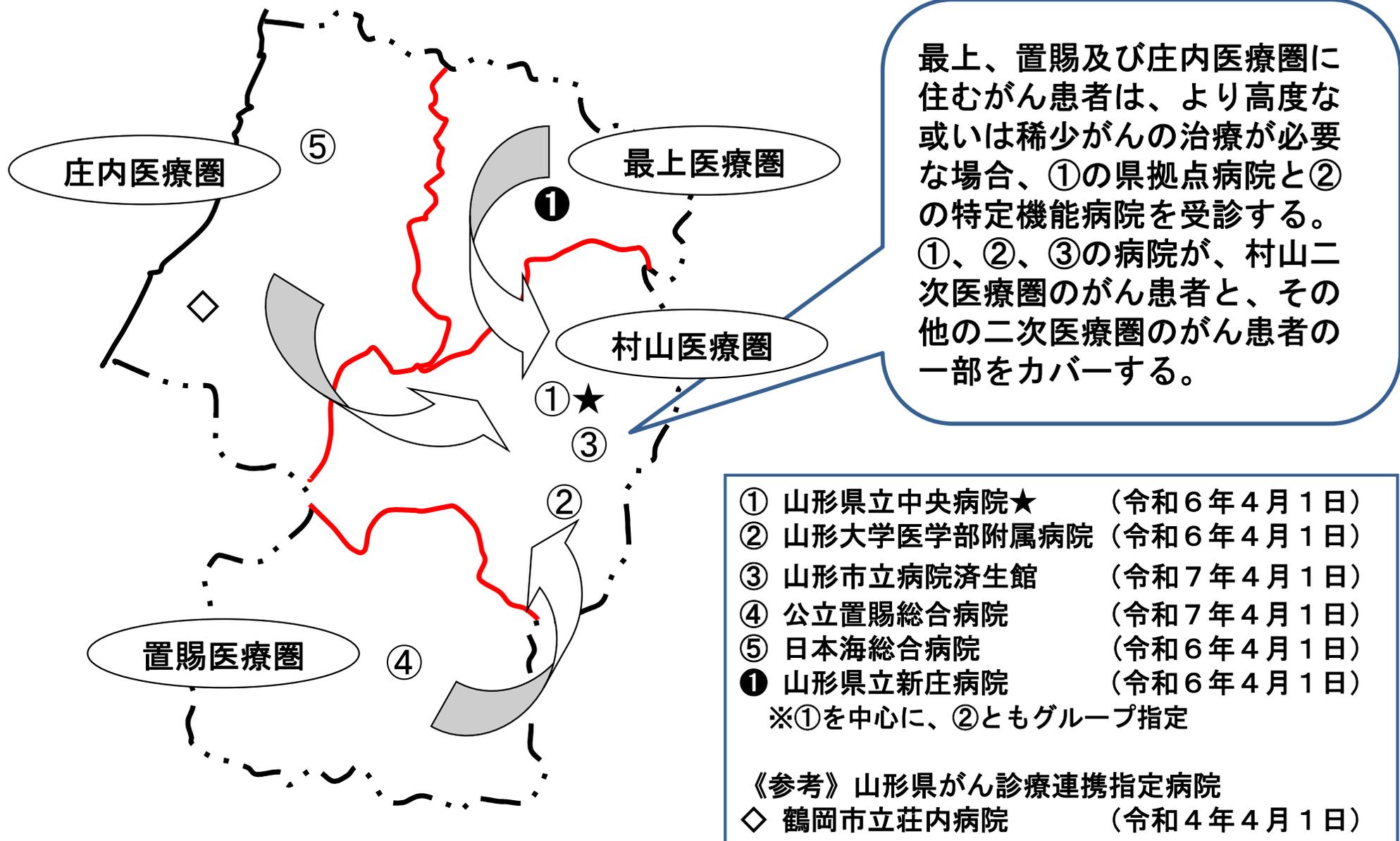
山形県

山形県 がんの医療圏の概要

令和7年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人) R7.9.1	人口割合 (%)	人口密度 (人)	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院							
						推薦施設数	内訳			推薦施設数	内訳			推薦施設数	内訳						
							新規申請	指定更新	指定類型変更		現況報告	新規申請	指定更新		指定類型変更	現況報告	新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告	
村山 医療圏	2,619.40	504,123	50.6	192.5	33	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最上 医療圏	1,803.23	63,179	6.3	35.0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
置賜 医療圏	2,495.24	185,599	18.6	74.4	14	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
庄内 医療圏	2,405.27	242,589	24.4	100.9	14	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	9,323.14	995,490	100.0	106.8	66	1	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

山形県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点

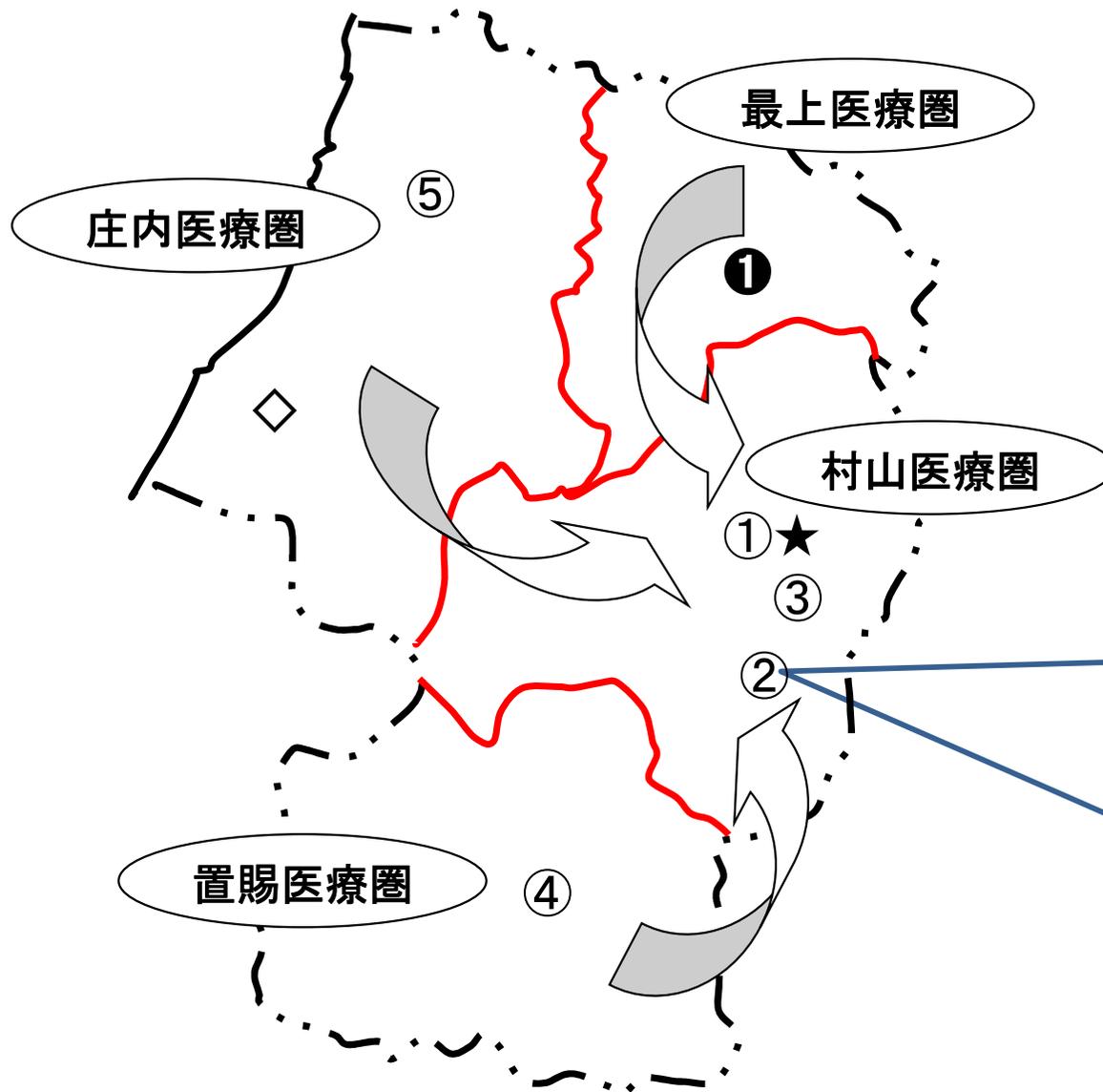
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
					500件以上	400件以上	1,000人以上	200人以上	50人以上	2割程度	
1	村山医療圏	★	現況	山形県立中央病院	(1,936)	(1,299)	(2,116)	(409)	(199)	(40.6)	(3,344)
					1,871	1,296	2,305	443	199	35.5	3,276
2	村山医療圏		現況	山形大学医学部附属病院	(2,027)	(1,291)	(3,867)	(1,138)	(192)	(30.0)	(267)
					2,961	594	3,657	1,275	261	26.0	238
3	村山医療圏		指定辞退	山形市立病院 済生館	(791)	(587)	(1,213)	(138)	(129)	(11.0)	(946)
					803	597	1,088	121	172	10.0	800
4	置賜医療圏		指定更新	公立置賜総合病院	(912)	(533)	(1,780)	(240)	(67)	(39.4)	(298)
					1,163	574	1,952	255	83	39.0	233
5	庄内医療圏		現況	日本海総合病院	(2,005)	(969)	(2,003)	(261)	(206)	(77.5)	(1,432)
					2,069	611	2,023	255	234	75.0	1,297

地域がん診療病院の診療実績等

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	相談支援 センター
				院内がん 登録数 (年間)	悪性腫瘍の 手術件数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	当該2次医療圏 に居住するがん 患者の診療の 割合(%)	相談件数 (年間)
1	最上 医療圏	現況	山形県立 新庄病院	(603)	(348)	(737)	(86)	(99)	(44.8)	(435)
				673	312	579	140	144	99.6	355

山形県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



- | | |
|------------------|--------|
| ① 山形県立中央病院★ | (現況) |
| ② 山形大学医学部附属病院 | (現況) |
| ③ 山形市立病院済生館 | (指定辞退) |
| ④ 公立置賜総合病院 | (指定更新) |
| ⑤ 日本海総合病院 | (現況) |
| ● 山形県立新庄病院 | (現況) |
| ※①を中心に、②ともグループ指定 | |

《参考》山形県がん診療連携指定病院
◇ 鶴岡市立荘内病院

最上、置賜及び庄内医療圏に住むがん患者は、より高度な、或いは稀少がんの治療が必要な場合に、①の県拠点病院と②の特定機能病院を受診する。県内の人口の半分を占める村山医療圏において、①、②と、③（県指定とする予定）の病院が、村山二次医療圏のがん患者と、その他の二次医療圏のがん患者の一部をカバーする。

山形県のがん対策について

1 基本的な方向

本県では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す」ことを目標に、がん予防、がん医療、がんとの共生の3分野を柱とし、がん罹患率及びがんによる死亡者の減少並びにがん生存率の向上を図るとともに、全てのがん患者とその家族の療養生活の質の向上に取り組んでいる。

2 がん医療提供体制

- がん医療の質の向上や均てん化・集約化による効率的かつ持続可能ながん医療の提供に向け、二次保健医療圏ごとにがん診療連携拠点病院又はがん診療病院を整備している。
- 地域がん診療病院の県立新庄病院は、山形大学医学部附属病院及び県立中央病院とグループ指定を行い、医療を提供している。
- がん診療連携拠点病院等では、地域におけるがん医療の拠点として、相談支援センターをはじめ、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅医療支援診療所、訪問看護ステーション、保険薬局、介護・福祉関係機関等との地域連携の構築を行い、切れ目のない医療を提供している。

3 がん診療連携体制

- 都道府県がん診療連携拠点病院である山形県立中央病院を中核機関として、各地域がん連携拠点病院等との連携調整を図っている。
- 同一医療圏に複数ある地域がん診療連携拠点病院等の役割分担を明確化し連携体制を構築している。

[県立中央病院]

- ・早期から進行期がんの標準的治療から先進的治療を提供
- ・拠点病院への教育研修及び県内の緩和ケア体制の充実

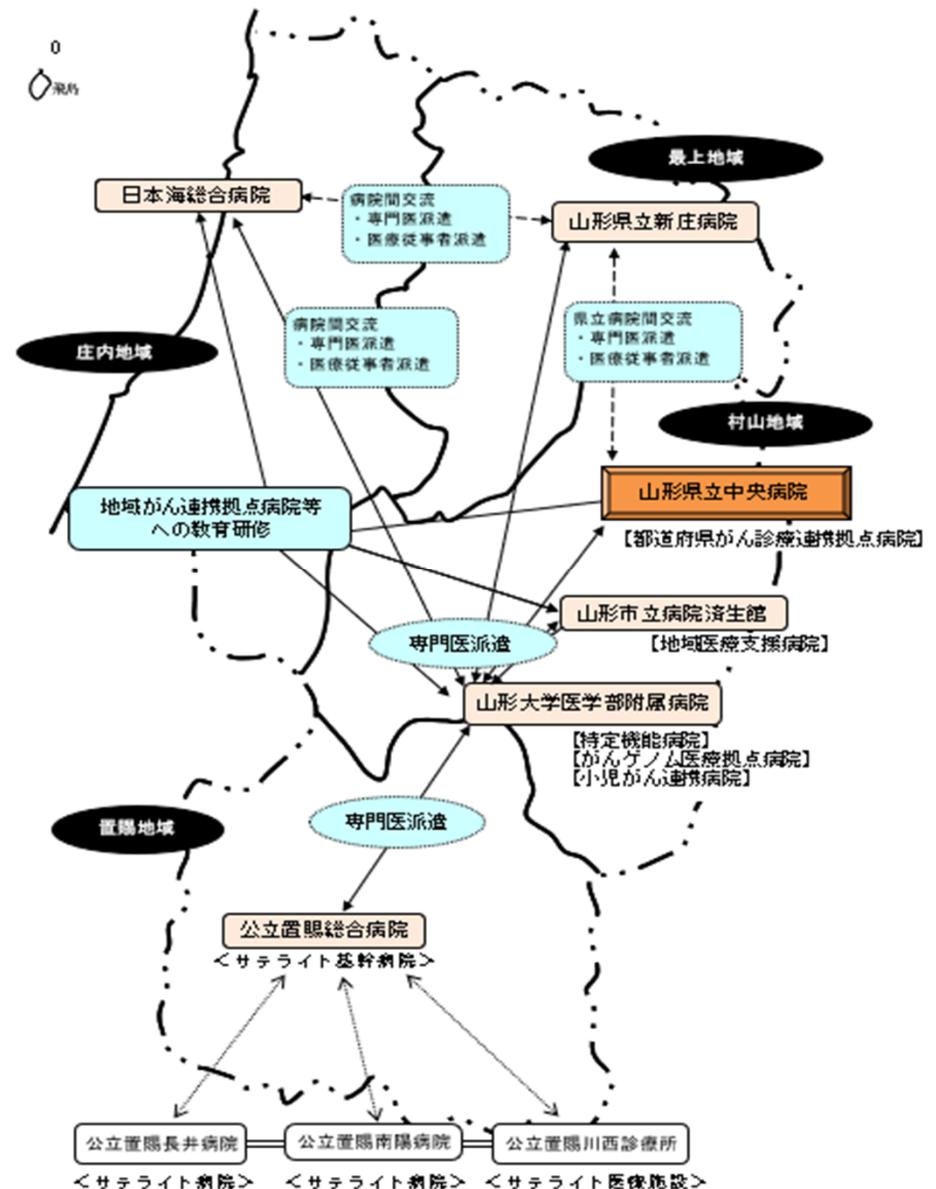
[山形大学医学部附属病院]

- ・稀少がん、ゲノム医療、小児がん、特殊高度かつ先進的がん医療を提供
- ・拠点病院等への高度ながん治療の支援

[山形市立病院済生館] 指定辞退しR8年4月～県指定(予定)

- ・比較的早期のがん医療を提供
- ・県内初の「地域医療支援病院」として村山圏域の医療機関と連携
- ・地域医療従事者への教育研修

山形県のがん診療連携体制



福島県

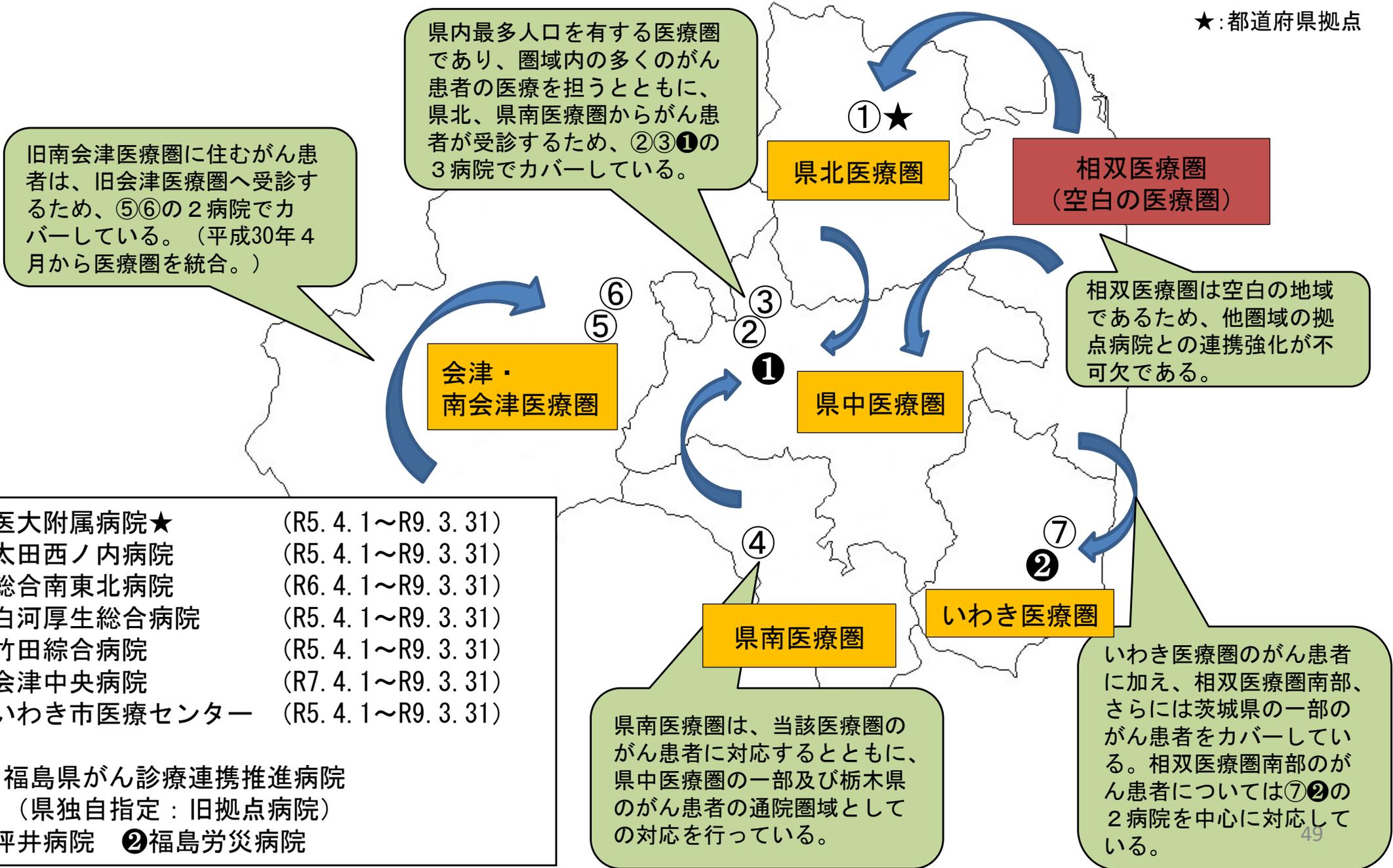
福島県 がんの医療圏の概要

令和7年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
県北医療圏	1,753.34	440,453	25.62%	251.2	30	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
県中医療圏	2,406.25	494,680	28.78%	205.6	32	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
県南医療圏	1,233.07	131,175	7.63%	106.4	7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
会津・南会津 医療圏	5,420.31	233,758	13.60%	43.1	18	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
相双医療圏	1,738.93	105,178	6.12%	60.5	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき医療 圏	1,232.51	313,831	18.26%	254.6	25	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	13,784.41	1,719,075	100.00%	124.71	127	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0

福島県 令和 7 年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

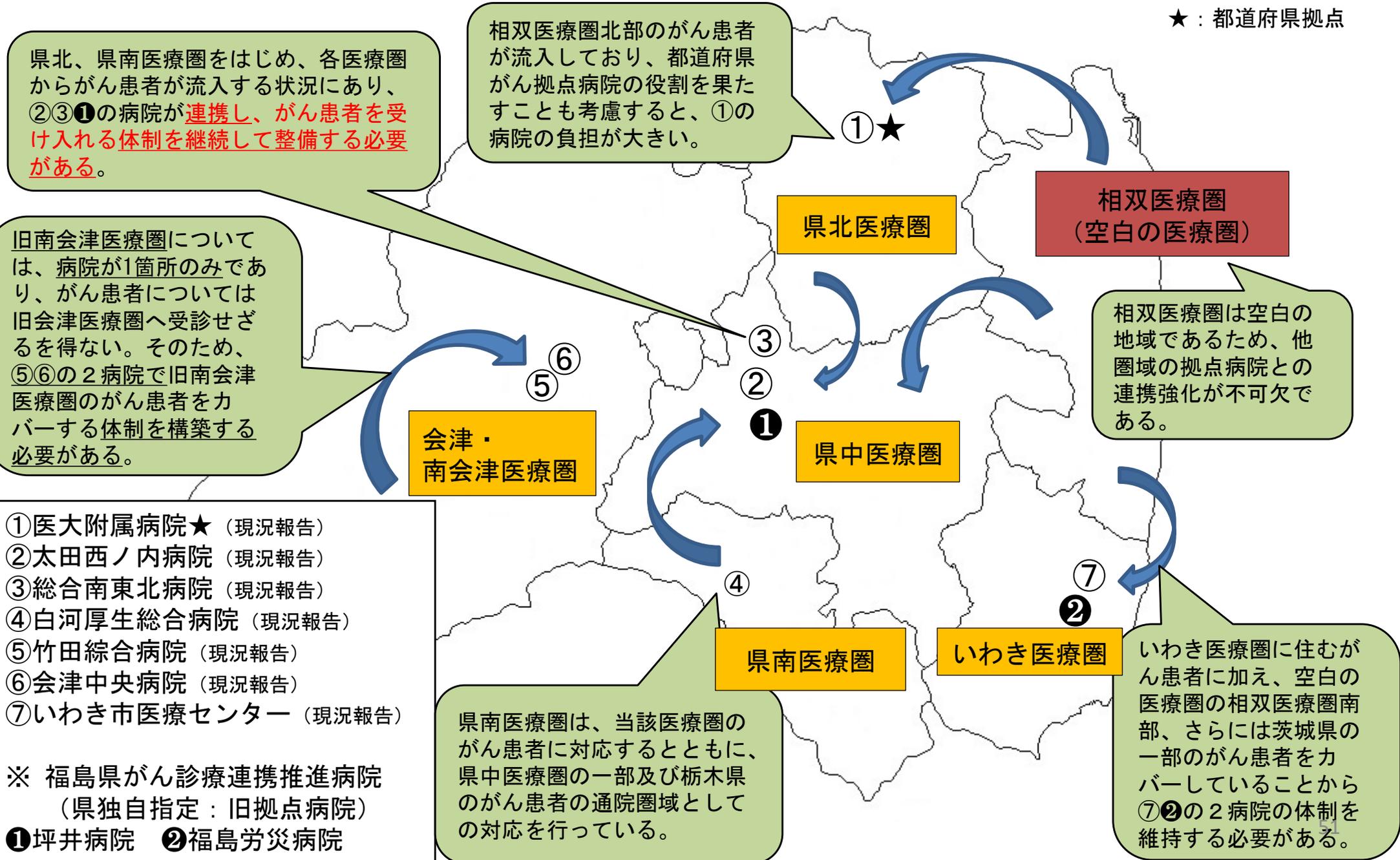
・ () 内は令和6年度提出の数値、下段は令和7年度提出の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	県北	★	現況	医大附属 病院	(2,528) 2,392	(2,734) 2,759	(11,242) 13,121	(800) 829	(206) 222	(63) 53.9	(1,586) 1,491
2	県中		現況	太田西ノ 内病院	(1,452) 1,264	(978) 904	(6,532) 7,418	(275) 264	(64) 80	(24.2) 27.2	(3,170) 2,523
3	県中		現況	総合南東 北病院	(1,970) 1,877	(1,254) 1,432	(1,507) 1,827	(1,364) 773	(191) 367	(23.0) 24.0	(1,448) 801
4	県南		現況	白河厚生 総合病院	(650) 650	(517) 516	(1,366) 1,032	(195) 179	(59) 90	(29.0) 29.0	(737) 936
5	会津・ 南会津		現況	竹田総合 病院	(1,269) 1,153	(946) 923	(1,012) 1,044	(341) 346	(250) 310	(42.0) 42.0	(2,329) 1,986
6	会津・ 南会津		更新	会津中央 病院	(592) 719	(487) 489	(2,525) 2,326	(201) 238	(66) 81	(31.0) 31.0	(1,576) 1,300
7	いわき		現況	いわき市 医療セン ター	(1,374) 1,243	(809) 840	(4,456) 6,687	(373) 280	(67) 67	(36.0) 27.0	(2,080) 1,654

福島県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点



1 基本的な考え方

当県では「がん患者を含めた県民が、がんを知り、がんと向き合い、がんを負けないふくしまの実現」を目指し、平成19年度に「福島県がん対策推進計画」を策定し、「がん対策推進基本計画」の見直し等を踏まえ、令和5年度に「第四期福島県がん対策推進計画」を策定した。

また、当県には高度のがん医療機関として、現在7つのがん診療連携拠点病院が存在する一方、がん診療連携拠点病院の要件を満たす病院が存在しない二次医療圏もある。空白医療圏においても県民に質の高いがん医療を提供するため、がん診療連携拠点病院を中心とした医療提供体制を整備し、機能強化を図ることにしている。

2 同一医療圏に複数の医療機関を指定する理由

当県は本州で岩手県に次いで2番目に広い。東京都、神奈川県、埼玉県及び千葉県の合計に匹敵する面積を有しており、現在6つの医療圏による医療提供体制をとっている。

また、当県は南北に走る山地・山脈により浜通り地方（相双医療圏及びいわき医療圏）、中通り地方（県北医療圏、県中医療圏及び県南医療圏）及び会津地方（会津・南会津医療圏）の3つの地域に分かれている。各医療圏で地理的環境や気候が大きく異なるほか、医師や医療機関の分布及び規模にも医療圏の間で大きな偏りがあることから、医療圏によっては圏内の医療機関において必要ながん医療を十分に受けられずに、隣接する医療圏に依存することも多い。

この実情を勘案し、当県におけるがん医療の均てん化及び連携強化を促進するためには、がん診療体制が比較的充実している医療圏に地域がん診療連携拠点病院を複数指定し、がん診療連携拠点病院となり得る病院が当面存在しない空白医療圏や、がん患者の動向などから圏外の医療機関との連携を強く求められる医療圏について、複数の医療圏での連携体制を構築することが必要である。

3 まとめ

広大な面積を有する当県においては、それぞれの病院の特徴や地理的条件、さらには東日本大震災・原子力災害で県内の各医療圏に避難を余儀なくされた患者の状況を踏まえると、がん診療提供体制を整備する上で1医療圏内に複数の拠点病院が必要な地域もあり、拠点病院相互に連携を強化することで当県のがん診療提供体制の一層の強化が期待される。

したがって、7病院を現況報告することにしたい。

茨 城 県

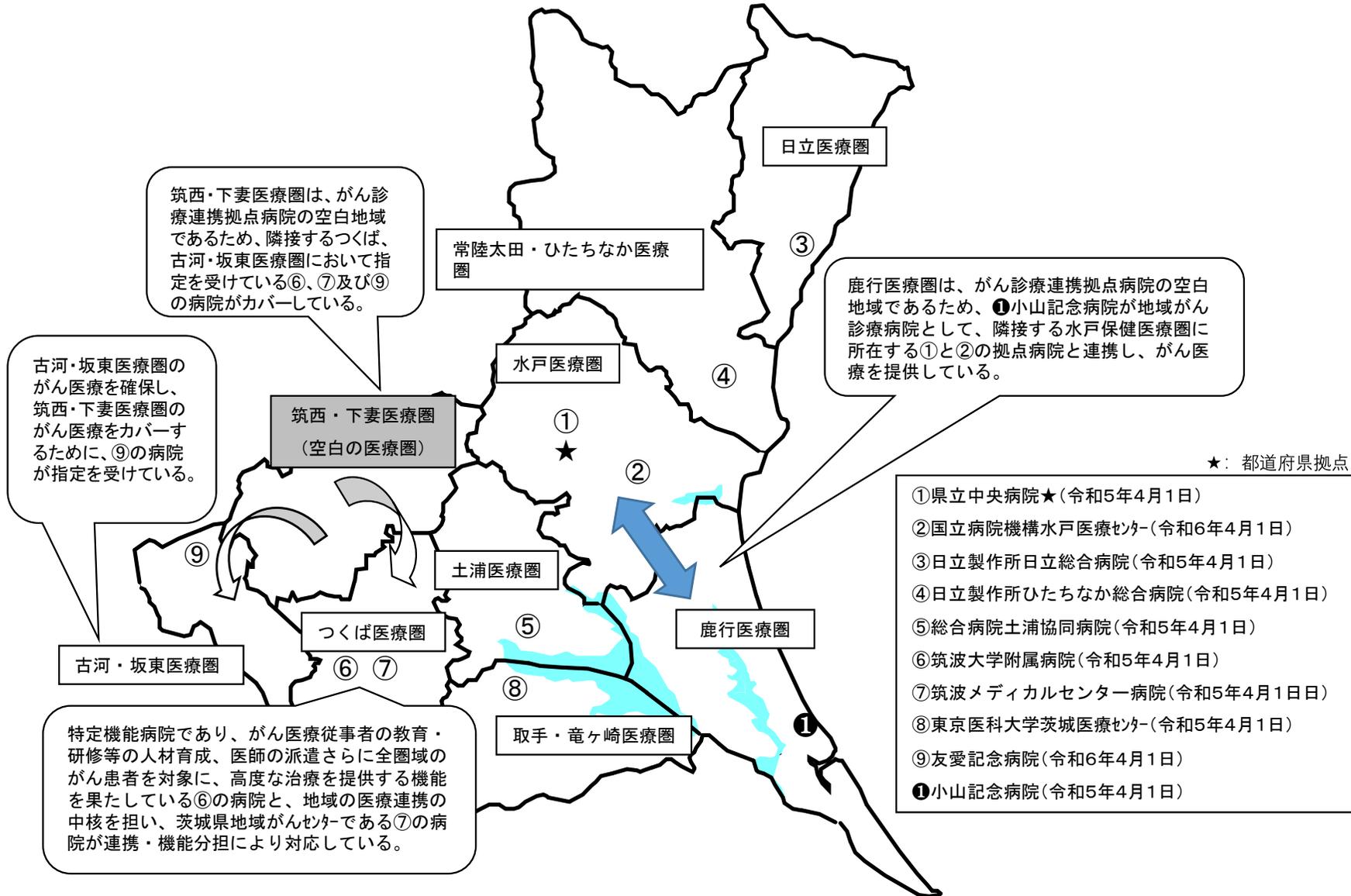
茨城県 がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院						
							推薦 施設 数	内訳			推薦 施設 数	内訳			推薦 施設 数	内訳					
								新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更		現況 報告	新規 申請	指定 更新		指定 類型 変更	現況 報告	新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告
1	水戸	909.73	443,475	15.9%	487.5	38	0				2	0				0					
2	日立	606.07	224,512	8.0%	370.4	20	0				1	0				0					
3	常陸太田・ひ たちなか	1282.3	335,426	12.0%	261.6	19	0				1	0				0					
4	鹿行	754.49	256,292	9.2%	339.7	12	0					0				0				1	
5	土浦	495.02	248,443	8.9%	501.9	16	0				1	0				0					
6	つくば	486.52	371,850	13.3%	764.3	15	0				2	0				0					
7	取手・竜ヶ崎	656.14	453,119	16.2%	690.6	23	0				1	0				0					
8	筑西・下妻	590.99	242,099	8.7%	409.6	14	0					0				0					
9	古河・坂東	316.31	218,321	7.8%	690.2	11	0				1	0				0					
	県(全体)	6097.57	2,793,537	100%	458.1	168	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

茨城県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
①	水戸	★	現況	茨城県立中央病院	(1,672)	(1,004)	(1,535)	(535)	(333)	(19)	(1,631)
					1,689	993	1,726	577	355	28	1,537
②	水戸		現況	水戸医療センター	(1,367)	(682)	(1,597)	(271)	(109)	(17)	(701)
					1,415	727	1,715	303	132	22	1038
③	日立		現況	日立総合病院	(2,023)	(1,323)	(1,474)	(418)	(189)	(37)	(906)
					2,040	1,345	2,193	265	185	92	792
④	常陸太田・ひたちなか		現況	ひたちなか総合病院	(712)	(411)	(1,345)	(247)	(121)	(15)	(420)
					745	418	1,442	369	113	17	518
⑤	土浦		現況	土浦協同病院	(1,945)	(1,092)	(2,318)	(470)	(407)	(36)	(567)
					2,279	1,109	2,375	525	412	39	681
⑥	つくば		現況	筑波大学附属病院	(2,846)	(2,066)	(6,017)	(1,318)	(637)	(23)	(511)
					2,952	2,084	2,402	1,263	730	19	605
⑦	つくば		現況	筑波メディカルセンター病院	(1,023)	(668)	(1,236)	(198)	(344)	(23)	(1,483)
					1,191	869	1,299	647	298	18	1,413
⑧	取手・竜ヶ崎		現況	東京医科大学茨城医療センター	(878)	(620)	(987)	(359)	(55)	(12)	(281)
					899	539	1,037	283	63	11	315
⑨	古河・坂東		現況	友愛記念病院	(691)	(578)	(1,031)	(178)	(117)	(27)	(653)
					710	577	1,031	182	115	30	737

地域がん診療病院の診療実績等

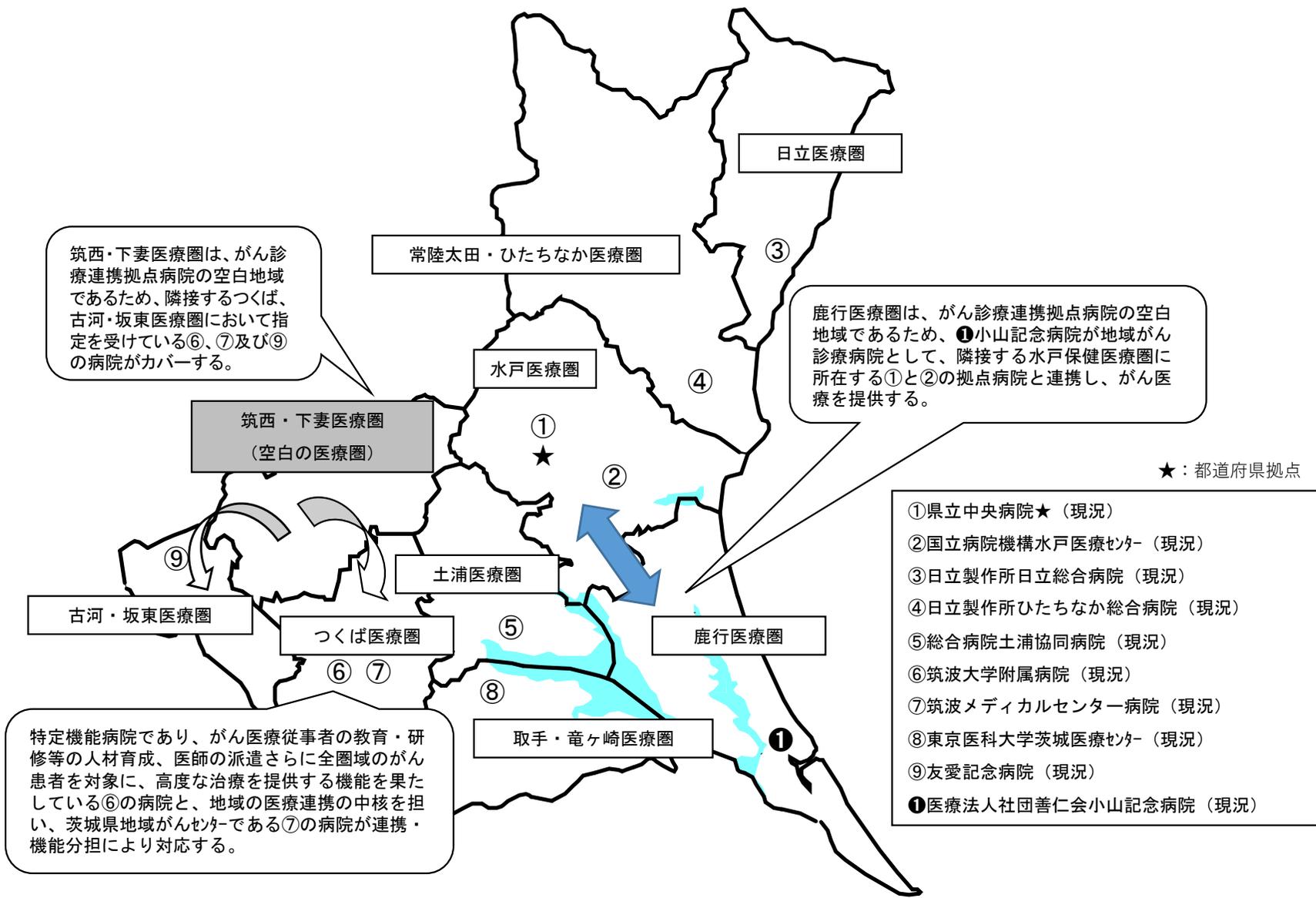
資料 3 - 2

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施してい れば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援 センター
				院内がん登録 数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチー ムに対する新 規診療依頼数 (年間)	当該2次医療 圏に居住する がん患者の診 療の割合(%)	相談件数 (年間)
①	鹿行	現況	小山記念病院	(732)	(265)	(1855)		(130)	(16)	(676)
				763	331	390		133	31	424

茨城県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料4



指定に係る茨城県の考え方

本県では、「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例（平成27年12月策定・令和6年6月一部改正）」、並びに茨城県総合がん対策推進計画-第五次計画-（令和6年3月策定）を基に、がん対策を推進している。

これまで、がん医療の水準の向上及びがん医療の均てん化を図るため、9医療圏のうち8医療圏に、がん診療連携拠点病院を9か所、地域がん診療病院を1か所整備してきたところであり、別添のような連携体制を構築している。

茨城県のがん診療連携拠点病院の連携体制

全県レベルの機能

多臓器にまたがる難治がん、進行・再発がん、我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）の治療を中心に対応

特定機能病院・地域がん診療連携拠点病院

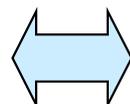
筑波大学附属病院

- ・がん診療連携拠点病院の医療従事者に対する高度ながん医療に関する研修を実施
- ・がん診療連携拠点病院への医師派遣
- ・全県の希少がん、小児がん（小児がん連携病院）に対応
- ・陽子線治療、がんゲノム医療（がんゲノム医療連携病院）、がん生殖医療の実施

都道府県がん診療連携拠点病院

県立中央病院・茨城県地域がんセンター

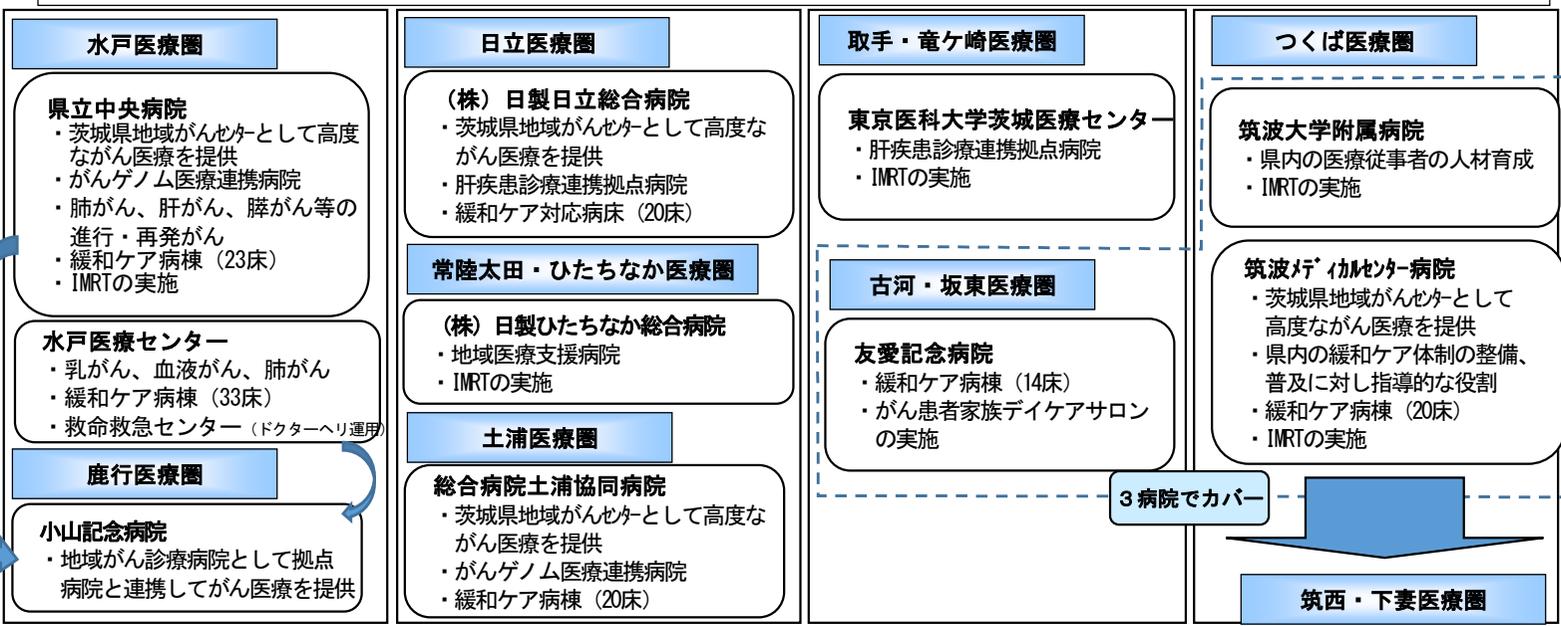
- ・茨城県がん診療連携協議会の運営（緩和ケア、各種研修に関する計画作成、PDCAサイクルの確保の中心的役割）
- ・緩和ケアセンター
- ・がんゲノム医療連携病院



連携支援

2次医療圏レベルの機能

我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）を中心に治療を提供、5大がん以外に各病院が専門とするがんに対応、地域の医療従事者の研修会開催、相談支援センターを設置し、ピアサポート相談・就労支援窓口、患者サロンを開設



栃 木 県

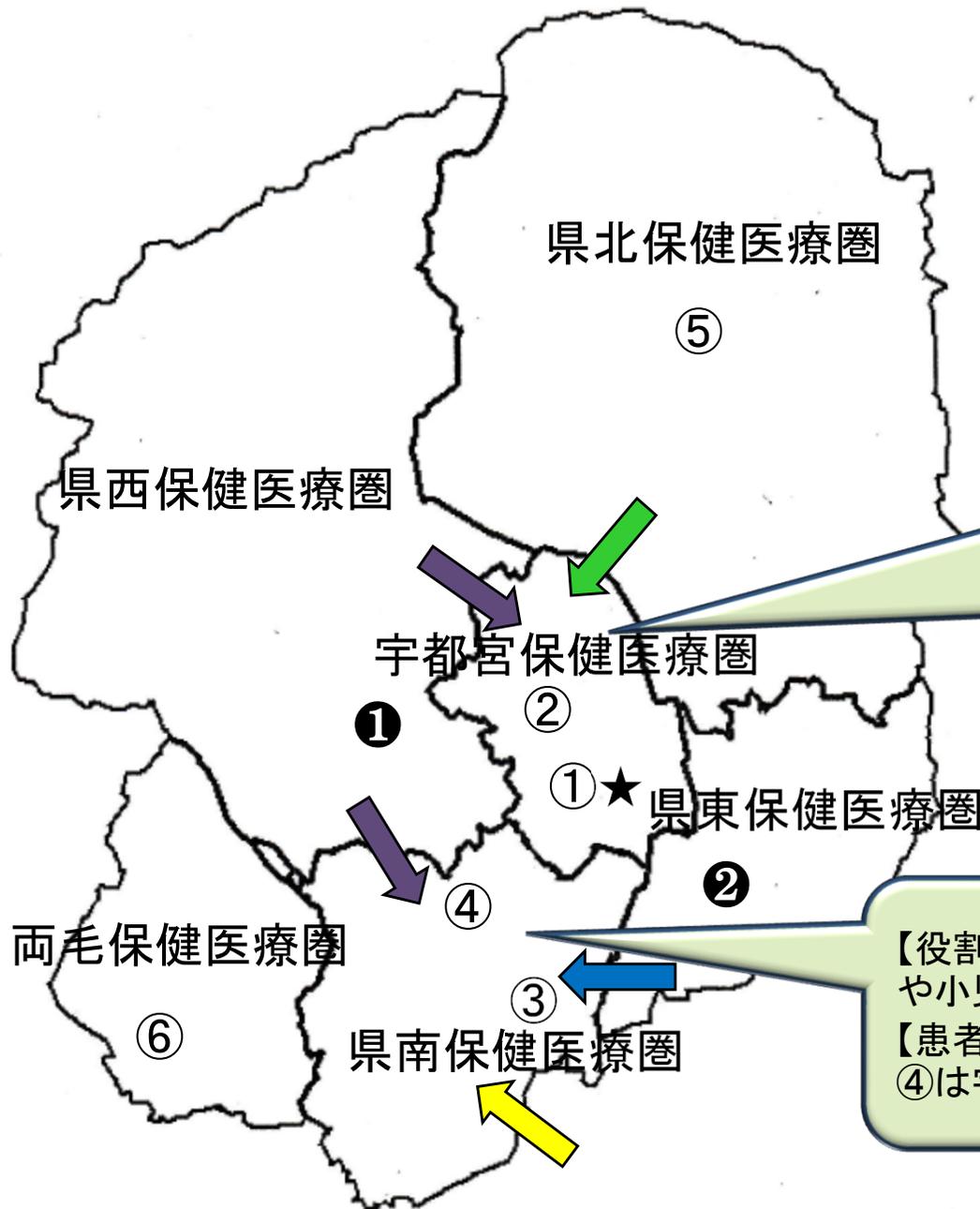
栃木県 がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院				
						今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	計	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	計	
宇都宮保健医療圏	416.9	511,211	27.3	1,226.2	32	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
県西保健医療圏	1,940.5	161,512	8.6	83.2	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
県東保健医療圏	563.8	132,096	7.1	234.3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
県南保健医療圏	723.6	466,222	24.9	644.3	23	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
県北保健医療圏	2,229.6	350,648	18.8	157.3	21	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
両毛保健医療圏	533.8	247,858	13.3	464.3	16	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計	6,408.2	1,869,547	100	291.7	108	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	2	2

栃木県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ① 栃木県立がんセンター★(2024年4月1日)
- ② 栃木県済生会宇都宮病院(2023年4月1日)
- ③ 自治医科大学附属病院(2024年4月1日)
- ④ 獨協医科大学病院(2023年4月1日)
- ⑤ 那須赤十字病院(2024年4月1日)
- ⑥ 足利赤十字病院(2023年4月1日)
- ① 上野原総合病院(2023年4月1日)
- ② 芳賀赤十字病院(2023年4月1日)

【役割】①はがん専門病院として希少がんや高度進行がん、再発がんの患者等の診療を行い、②はDPC特定病院群の総合病院として合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等の診療を行う。

【患者受療動向】①は県西・県北のがん患者を、②は県北のがん患者を多く診療している。

【役割】③及び④は特定機能病院として、高度ながん医療や小児がん医療を提供する。

【患者受療動向】③は県外・宇都宮・県東等のがん患者を、④は宇都宮・県西等のがん患者を多く診療している。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・()内は令和6年度提出の数値、下段は令和7年度提出の数値

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談支援センターを初めて利用した者の相談件数(年間)
1 宇都宮	★	現況	栃木県立がんセンター	(1,685) 1,571	(1,319) 1,562	(2,902) 3,079	(453) 440	(72) 132	(21) 32.7	(2,887) 3,733
2 宇都宮		現況	栃木県済生会宇都宮病院	(1,850) 1,937	(1,066) 1,105	(1,830) 1,840	(502) 527	(171) 189	(30) 27.3	(366) 377
3 県南		現況	自治医科大学附属病院	(3,075) 2,780	(2,164) 2,235	(4,762) 4,778	(1,025) 965	(319) 384	(34) 30.0	(717) 769
4 県南		現況	獨協医科大学病院	(2,553) 3,401	(2,783) 2,354	(3,987) 3,998	(671) 613	(180) 205	(29) 26.0	(1,233) 429
5 県北		現況	那須赤十字病院	(811) 879	(578) 582	(1,270) 1,295	(222) 132	(62) 66	(30) 25.0	(268) 256
6 両毛		現況	足利赤十字病院	(1,278) 1,239	(622) 695	(1,237) 1,308	(436) 450	(226) 224	(61) 60.0	(179) 186

地域がん診療病院の診療実績等

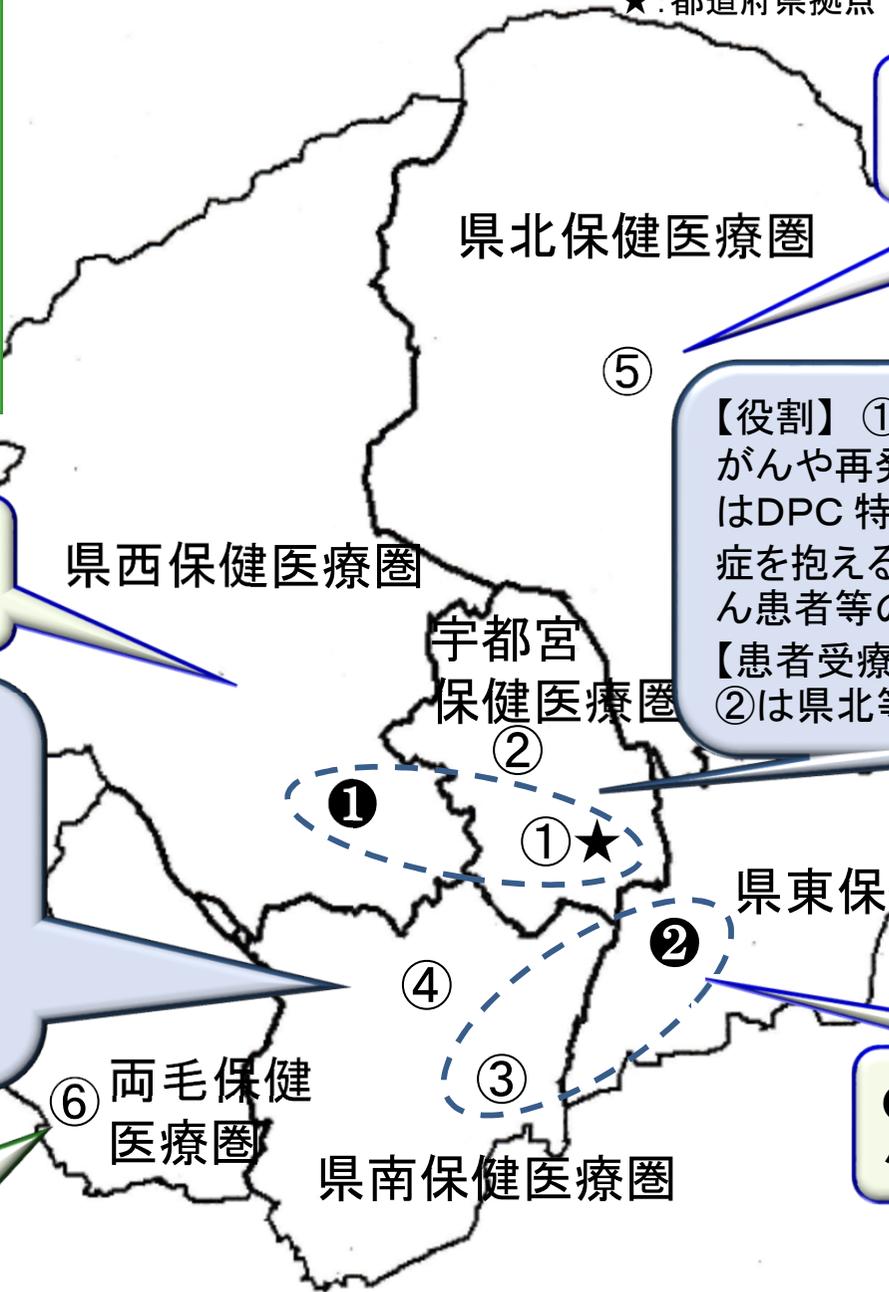
・()内は令和6年度提出の数値、下段は令和7年度提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する 新規診療 依頼数 (年間)	相談支援センターに 初めて利用した者の 相談件数 (年間)
①	県西	現況	上都賀総合病院	(322)	(124)	(1,109)	(51)	(60)	(59)
				531	178	218	46	70	57
②	県東	現況	芳賀赤十字病院	(741)	(401)	(2,209)	(-)	(111)	(139)
				708	374	633	-	85	323

栃木県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ① 栃木県立がんセンター★(現況)
- ② 栃木県済生会宇都宮病院(現況)
- ③ 自治医科大学附属病院(現況)
- ④ 獨協医科大学病院(現況)
- ⑤ 那須赤十字病院(現況)
- ⑥ 足利赤十字病院(現況)
- ① 上都賀総合病院(現況)
- ② 芳賀赤十字病院(現況)



⑤は県土の1/3に及ぶ広域な医療圏のがん患者に対応している。

【役割】 ①はがん専門病院として高度進行がんや再発がんの患者等の診療を行い、②はDPC 特定病院群の総合病院として、合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等の診療を行う。

【患者受療動向】 ①は県全域のがん患者を、②は県北等のがん患者をカバーする。

①は①との連携により、圏内がん患者の診療を行う。

【役割】 ③及び④は特定機能病院として高度ながん医療や小児がん医療を提供する。

【患者受療動向】 共に圏域にとどまらず圏域を越えたがん患者も受け入れる。圏域では特に③が宇都宮・県東等のがん患者を、④が宇都宮・県西等のがん患者をカバーする。

⑥は圏域の大部分をがん診療を実施しており、圏域のみならず県外からのがん患者も受け入れる。

②は③との連携により、圏内がん患者の診療を行う。

栃木県のがん対策と診療体制の充実について

栃木県がん対策推進計画(4期計画)

「県民一人一人ががんの理解を深め、がんの克服を目指す社会」を構築することを全体目標とし、その実現のため、「がんの予防及び早期発見の推進」を基本として、がん患者等の置かれている状況や地域の実情に応じ、「がん医療の充実」を図るとともに、「がん患者等を支えるための環境づくり」を推進するため、県、市町、県民、事業者、医療関係者等が一体となって、がん対策を総合的かつ計画的に推進する。

がん診療体制の充実

「がん医療の充実」を計画の基本方針のひとつとして掲げ、県内どこに居住していても等しく質の高い標準的ながん医療を受けられる体制を構築するため、県内全ての二次保健医療圏に、がん診療連携拠点病院等を整備している。

これまで、集学的治療や標準的治療の提供、がん相談支援センターや緩和ケアチームの整備、院内がん登録の実施など、各医療圏におけるがん診療連携拠点病院等の取組により、県内におけるがん医療の均てん化が進展してきた。

今後は、拠点病院等と地域の医療機関等との役割分及び連携強化を図り、地域の実情に応じたがん診療体制の更なる充実を図るものとする。

群馬県

群馬県 がんの医療圏の概要

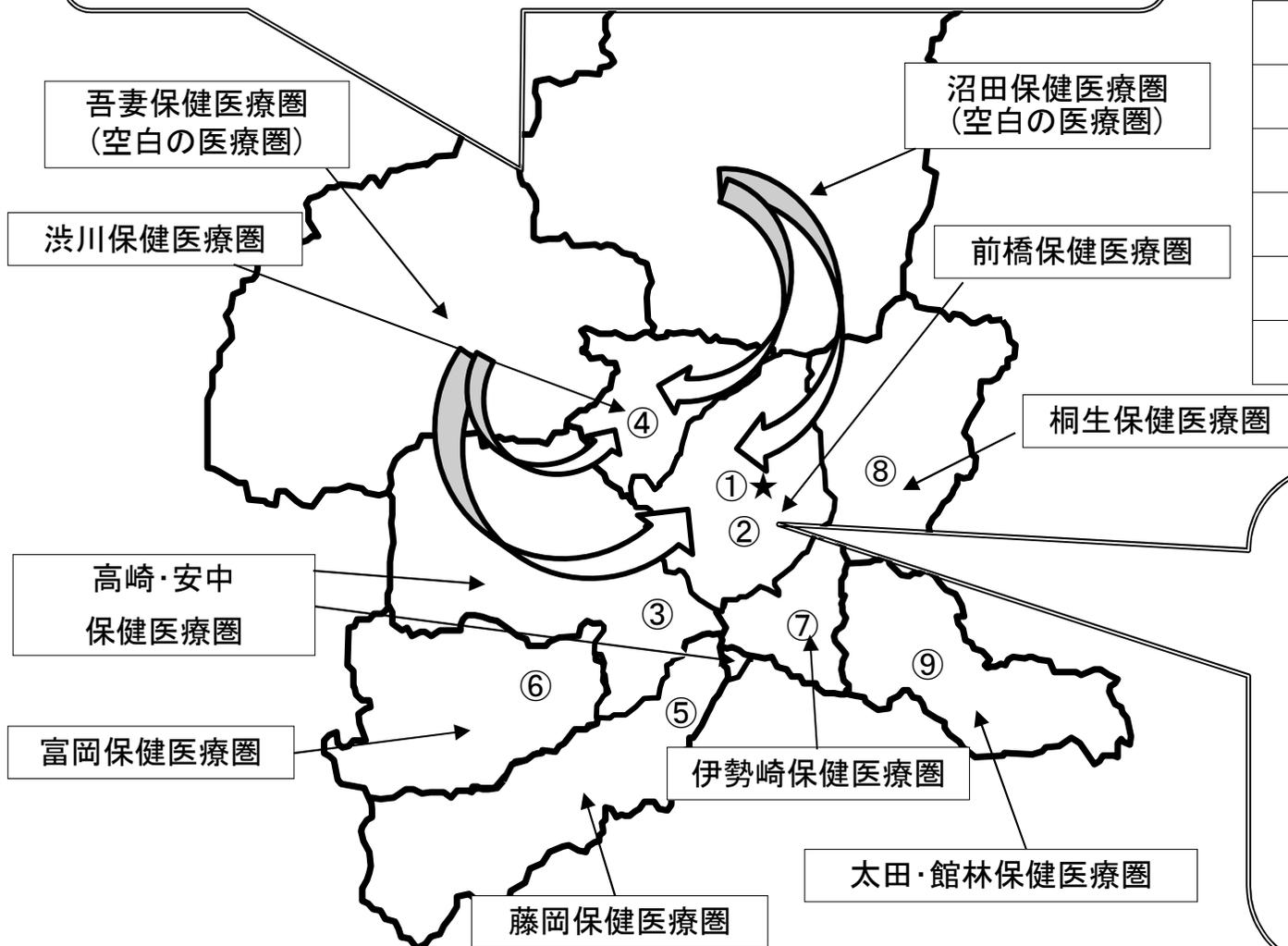
令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
前橋保健医療圏	311.6	325,124	17.3%	1043.4	20	2	0	0	2
高崎・安中保健医療圏	735.5	416,614	22.2%	566.4	30	1	0	0	1
渋川保健医療圏	288.7	106,890	5.7%	370.2	10	1	0	0	1
藤岡保健医療圏	476.7	62,218	3.3%	130.5	5	1	0	0	1
富岡保健医療圏	488.7	62,868	3.3%	128.6	4	1	0	0	1
吾妻保健医療圏	1,278.6	47,638	2.5%	37.3	9		0	0	0
沼田保健医療圏	1,765.7	70,489	3.8%	39.9	7		0	0	0
伊勢崎保健医療圏	165.2	245,437	13.1%	1485.7	11	1	0	0	1
桐生保健医療圏	482.9	145,215	7.7%	300.7	12	1	0	0	1
太田・館林保健医療圏	368.9	394,848	21.0%	1070.3	19	1	0	0	1
計	6,362.5	1,877,341	100.0%	5173.2	127	9	0	0	9

群馬県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

空白の2医療圏は、がん診療連携拠点病院の2病院がカバーする体制を整備

- ・① 群馬大学医学部附属病院★(都道府県がん診療連携拠点病院)
- ・④ 渋川医療センター(地域がん診療連携拠点病院)



①	群馬大学医学部附属病院★	R7. 4. 1
②	前橋赤十字病院	R7. 4. 1
③	高崎総合医療センター	R7. 4. 1
④	渋川医療センター	R7. 4. 1
⑤	公立藤岡総合病院	R7. 4. 1
⑥	公立富岡総合病院	R7. 4. 1
⑦	伊勢崎市民病院	R7. 4. 1
⑧	桐生厚生総合病院	R7. 4. 1
⑨	群馬県立がんセンター	R7. 4. 1

複数配置による役割分担

①★の病院の役割

- ・ 県内のがん医療の中核
- ・ 人材育成及び高度医療の提供
- ・ 拠点病院が空白の医療圏のカバー
- ・ 群馬県がん診療連携推進病院(県独自の指定病院)の支援

②の病院の役割

- ・ 地域のがん医療の中核
- ・ 地域の医療機関等に向けた緩和ケア研修等の実施
- ・ 地域連携の促進

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3

・()内は令和6年9月提出の数値、下段は令和7年9月提出の数値

★: 都道府県拠点

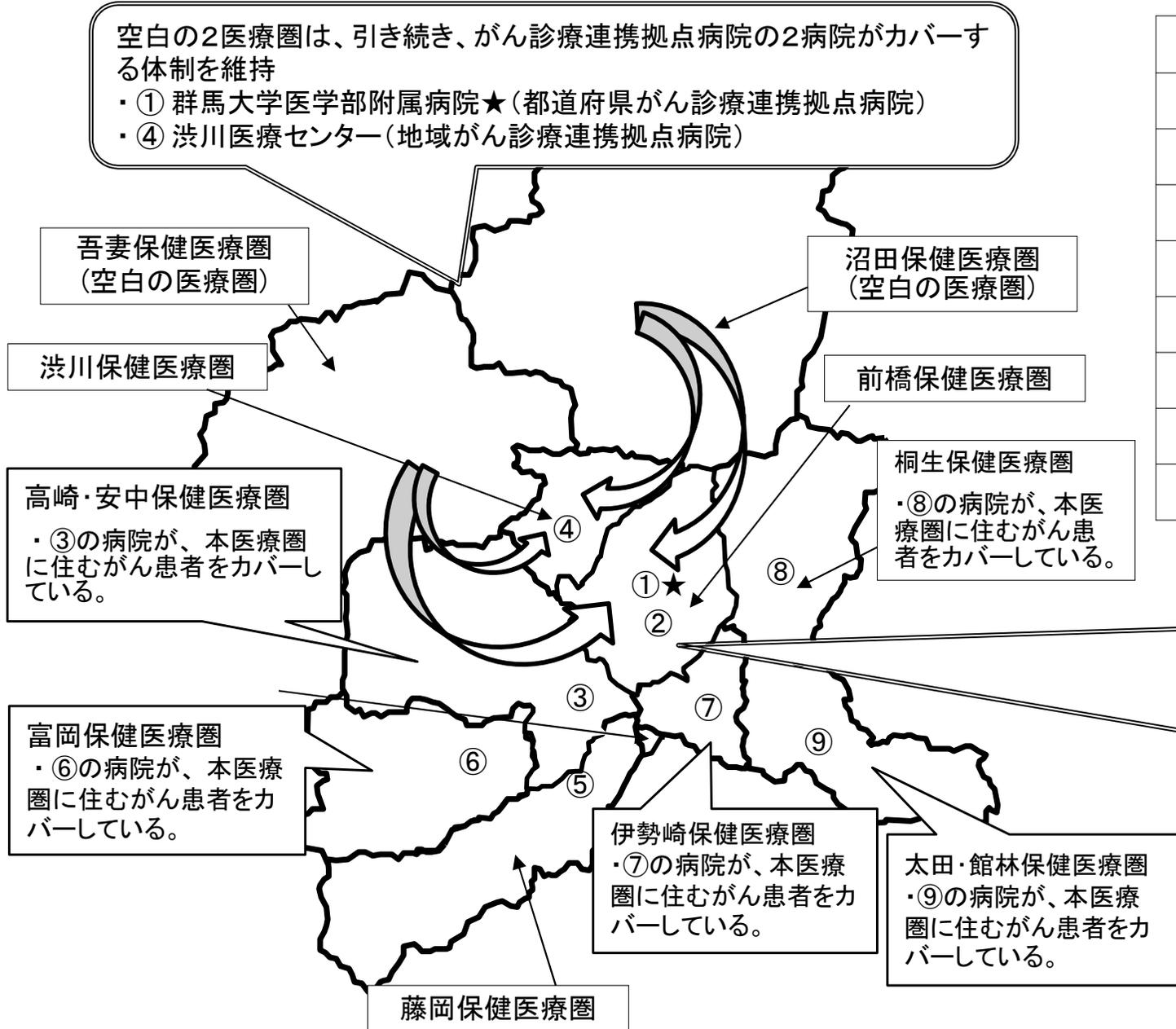
●: 特例型

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 前橋	★	現況報告	群馬大学医学部附属病院	(2,729) 2,724	(2,329) 2,295	(2,769) 3,204	(1,719) 1,553	(132) 139	(22) 29.0	(932) 916
2 前橋		現況報告	前橋赤十字病院	(1,412) 1,477	(739) 966	(1,921) 1,720	(520) 486	(143) 145	(15) 15.0	(2,479) 3,093
3 高崎・安中		現況報告	高崎総合医療センター	(2,129) 2,189	(1,543) 1,534	(1,434) 2,165	(458) 483	(142) 93	(32.5) 33.7	(4,157) 2,793
4 渋川		現況報告	渋川医療センター	(1,199) 1,160	(551) 638	(2,043) 1,101	(395) 337	(117) 82	(57) 57.4	(3,170) 2,834
5 藤岡		現況報告	公立藤岡総合病院	(835) 807	(468) 424	(1,198) 1,321	(234) 228	(355) 309	(51) 27.0	(296) 282
6 富岡		現況報告	公立富岡総合病院	(675) 661	(370) 359	(448) 765	(101) 110	(314) 302	(57) 61.0	(148) 128
7 伊勢崎		現況報告	伊勢崎市民病院	(1,362) 1,300	(1,102) 1,014	(1,249) 1,622	(267) 286	(376) 448	(31) 23.0	(78) 67
8 桐生		現況報告	桐生厚生総合病院	(566) 630	(362) 437	(704) 768	(155) 134	(61) 63	(34) 36.0	(82) 53
9 太田・館林		現況報告	県立がんセンター	(1,880) 1,917	(1,107) 1,562	(2,476) 2,965	(623) 526	(71) 96	(36) 20.0	(13,783) 8,833

群馬県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ●：特例型

①	群馬大学医学部附属病院★	現況報告
②	前橋赤十字病院	現況報告
③	高崎総合医療センター	現況報告
④	渋川医療センター	現況報告
⑤	公立藤岡総合病院	現況報告
⑥	公立富岡総合病院	現況報告
⑦	伊勢崎市民病院	現況報告
⑧	桐生厚生総合病院	現況報告
⑨	群馬県立がんセンター	現況報告



引き続き複数配置により、以下の役割を分担

- ①★の病院の役割
 - ・ 県内のがん医療の中核
 - ・ 人材育成及び高度医療の提供
 - ・ 拠点病院が空白の医療圏のカバー
 - ・ 群馬県がん診療連携推進病院（県独自の指定病院）の支援
- ②の病院の役割
 - ・ 地域のがん医療の中核
 - ・ 地域の医療機関等に向けた緩和ケア研修等の実施
 - ・ 地域連携の促進

本県の考え方

本県における拠点病院整備に関する基本方針

群馬県がん対策推進計画(令和6年度～11年度)

- ① 県民がどこに住んでいても質の高いがん医療が受けられる体制の維持
- ② がん医療圏(2次保健医療圏)ごとに、がん診療連携拠点病院を整備
 - ・都道府県がん診療連携拠点病院を中心としたがん診療連携拠点病院の相互連携による機能の維持・強化
- ③ 空白の医療圏は、がん診療連携拠点病院と本県独自指定の「群馬県がん診療連携推進病院」との連携による地域がん医療提供体制を整備

空白の医療圏のがん医療提供体制

【 吾妻保健医療圏、利根沼田保健医療圏 】

- ・当該保健医療圏のがん患者の受診を、群馬大学医学部附属病院(都道府県がん診療連携拠点病院)と渋川医療センター(地域がん診療連携拠点病院)がカバーする体制の維持

埼玉県

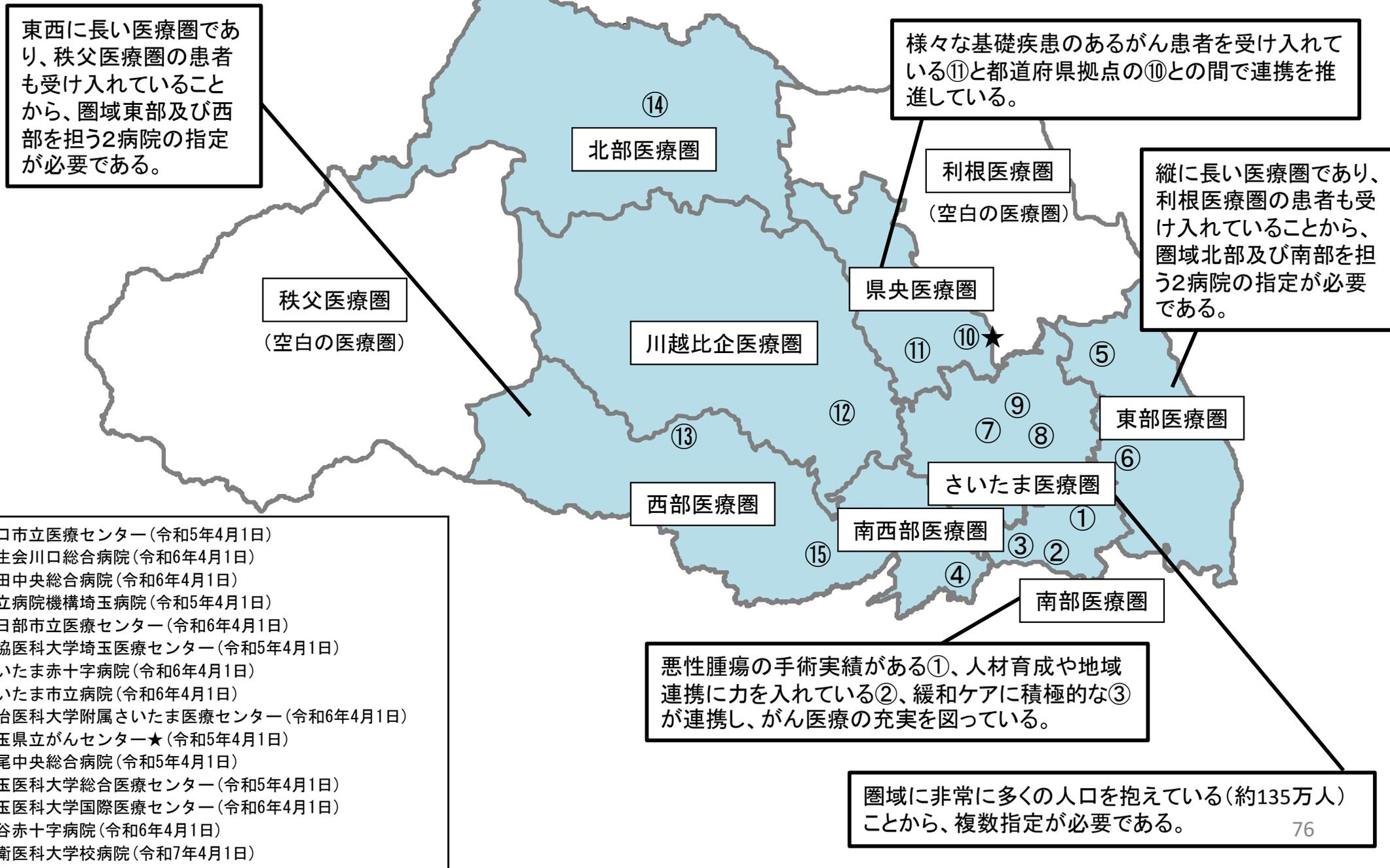
埼玉県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
南部	85.25	813,729	11.1%	9545.2	31	3	0	0	3
南西部	110.95	735,229	10.0%	6626.7	30	1	0	0	1
東部	249.71	1,148,010	15.7%	4597.4	49	2	0	0	2
さいたま	217.43	1,355,563	18.5%	6234.5	39	3	0	0	3
県央	172.91	527,502	7.2%	3050.7	18	2	0	0	2
川越比企	626.53	784,214	10.7%	1251.7	48	1	0	0	1
西部	406.32	759,686	10.4%	1869.7	52	2	0	0	2
利根	473.95	624,516	8.5%	1317.7	31	0	0	0	0
北部	562.12	488,396	6.7%	868.8	34	1	0	0	1
秩父	892.62	86,529	1.2%	96.9	7	0	0	0	0
計	3797.79	7,323,374	100%	1928.3	339	15	0	0	15

埼玉県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の 手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに 対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	南部	現況	川口市立医療センター	(1,054) 1,016	(757) 679	(1,205) 1,111	(291) 303	(171) 243	(14) 9	(1,568) 1,661
2	南部	現況	済生会川口総合病院	(1,079) 1,136	(653) 769	(3,048) 3,215	(237) 179	(62) 57	(12) 13	(269) 297
3	南部	現況	戸田中央総合病院	(1,012) 1,009	(760) 826	(1,298) 1,350	(213) 252	(244) 234	(12) 15	(13,231) 8,043
4	南西部	現況	国立病院機構埼玉病院	(1,267) 1,172	(735) 688	(1,217) 1,166	(453) 279	(167) 264	(12) 12	(300) 306
5	東部	現況	春日部市立医療センター	(956) 1,026	(696) 734	(1,332) 1,292	(348) 305	(57) 83	(11) 12	(3,180) 3,972
6	東部	現況	獨協医科大学 埼玉医療センター	(3,175) 3,063	(1,630) 1,817	(3,917) 5,503	(393) 412	(213) 213	(19) 21	(3,180) 3,624
7	さいたま	現況	さいたま赤十字病院	(1,752) 1,873	(1,771) 1,721	(2,360) 1,928	(870) 822	(106) 150	(16) 17	(563) 462
8	さいたま	現況	さいたま市立病院	(1,625) 1,496	(775) 648	(1,330) 1,442	(525) 431	(237) 244	(8) 9	(124) 181

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の 手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに 対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
9	さいたま		現況	自治医科大学附属 さいたま医療センター	(2,440) 2,499	(1,356) 1,394	(2,894) 3,995	(536) 478	(156) 104	(14) 15	(6,160) 6,042
10	県央	★	現況	埼玉県立がんセンター	(3,649) 3,570	(2,252) 2,230	(4,775) 3,927	(1,449) 1,441	(521) 528	(35) 39	(10,843) 10,401
11	県央		現況	上尾中央総合病院	(1,942) 2,022	(1,131) 1,170	(1,774) 1,608	(384) 372	(170) 193	(25) 24	(1,287) 1,392
12	川越比企		現況	埼玉医科大学 総合医療センター	(2,521) 2,647	(1,928) 2,005	(3,185) 2,291	(839) 861	(259) 397	(24) 15	(1,741) 1,675
13	西部		現況	埼玉医科大学 国際医療センター	(4,277) 4,139	(2,907) 2,833	(5,462) 5,439	(1,987) 2,046	(141) 191	(9) 14	(2,032) 1,987
14	西部		現況	防衛医科大学校病院	(1,602) 1,625	(1,219) 712	(1,003) 3,051	(202) 126	(119) 86	(13) 29	(492) 505
15	北部		現況	深谷赤十字病院	(1,274) 1,256	(751) 877	(1,158) 1,023	(353) 206	(54) 76	(19) 19	(286) 610

埼玉県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



利根医療圏に住むがん患者は、県央医療圏、さいたま医療圏又は東部医療圏へ受診するため、主に⑩、⑨、⑤及び⑥でカバーしている。加えて、⑦、⑧及び⑪もフォローする体制が整備されている。

秩父医療圏に住むがん患者は、西部医療圏又は北部医療圏へ受診するため、⑬、⑭及び⑮でカバーしている。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| ①川口市立医療センター | ⑨自治医科大学附属さいたま医療センター |
| ②済生会川口総合病院 | ⑩埼玉県立がんセンター★ |
| ③戸田中央総合病院 | ⑪上尾中央総合病院 |
| ④国立病院機構埼玉病院 | ⑫埼玉医科大学総合医療センター |
| ⑤春日部市立医療センター | ⑬埼玉医科大学国際医療センター |
| ⑥獨協医科大学埼玉医療センター | ⑭深谷赤十字病院 |
| ⑦さいたま赤十字病院 | ⑮防衛医科大学校病院(新規) |
| ⑧さいたま市立病院 | |
- ★:都道府県拠点

1 埼玉県の地域特性と現状

- 推計人口は令和7年10月時点で約732万人（昨年全国第5位）
- 人口増減率（2024年）は0.01%（全国第2位）
- さいたま・南西部・南部医療圏は人口が増加し、患者の集中が見込まれる。
一方、北部・利根・秩父地域は特に人口が減少している。
- 人口が100万人を超える医療圏は2箇所（さいたま、東部）
- 10医療圏うち8医療圏で拠点病院を指定（利根・秩父医療圏が空白）
- 今後、高齢化が急速に進むことが予想されており、高齢化率は令和7年（2025年）には27.8%、令和22年（2040年）には33.3%となる見込みである。
- 人口10万人当たりの医師数は186.2人（全国最下位）



2 がん診療連携体制の整備方針

- (1) 都道府県がん診療連携拠点病院は、引き続き埼玉県立がんセンターとし、連携体制を維持。
- (2) 地域がん診療連携拠点病院は、①～③のとおり体制をつくる。
 - ①各医療圏1箇所に拠点病院を整備することを原則とし、地域ごとに異なる条件や実情を踏まえ、限られた医療資源を効率的に活用できるよう整備を進める。
 - ②複数の拠点病院が必要な医療圏は引き続き、特性や役割を活かし、質の高いがん医療の提供を維持。
 - ③空白医療圏（利根・秩父）は、隣接医療圏の拠点病院や、県が拠点病院に準じて医療を提供できるとして指定した「埼玉県がん診療指定病院」で補填。

3 同一医療圏に複数配置する拠点病院の役割分担

<さいたま>

さいたま赤十字病院は、幅広いがん種と合併症に対応可能であり、サイバーナイフ治療やがんゲノム治療に対応。

さいたま市立病院は、当該医療圏の患者を中心に地域医療に貢献。

自治医科大学さいたま医療センターは、空白医療圏である利根医療圏の患者も多く受け入れるとともに、希少がんや血液がんの造血幹細胞移植に対応。

<南部>

川口市立医療センターは、公立病院として地域医療を支えながら、悪性腫瘍の手術を多く実施。

済生会川口総合病院は、人材育成や、地域の医療機関との積極的な医療連携に貢献。

戸田中央総合病院は、医療圏内で多くの緩和ケア患者に対応し、相談支援センターにおける相談も都道府県拠点に次ぐ件数。

<東部>

春日部市立医療センターは、初診から末期がん在宅医療まで切れ目のない医療を提供し、利根医療圏のがん医療も補填。

獨協医科大学埼玉医療センターは、AYA世代のがん患者に対する妊孕性温存療法や、がんゲノム治療に対応。

<県央>

埼玉県立がんセンターは、都道府県拠点病院として、全県を対象とした、高度で先進的ながん医療を提供。

上尾中央総合病院は、総合的な診療機能を有し、人工透析や基礎疾患を有する患者を受け入れている。

<西部>

埼玉医科大学国際医療センターは、医療圏西部や秩父医療圏の患者を多く受け入れており、高度な専門医療を提供。

防衛医科大学校病院は、医療圏東部の患者を多く受け入れており、造血細胞移植にも対応。

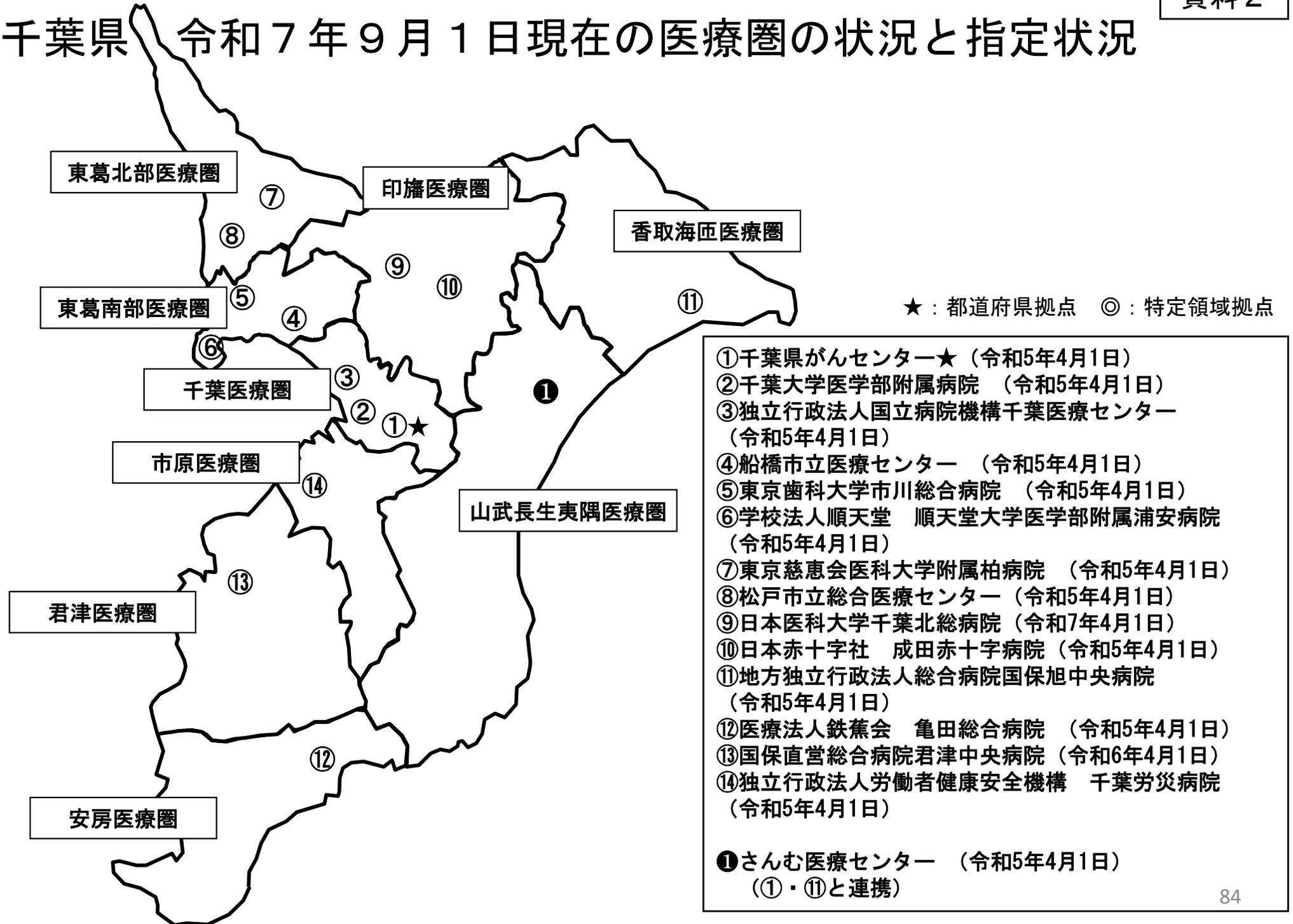
千葉県

千葉県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院 数	がん診療連携拠点病院					特定領域 がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院					
						推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				
							新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告		新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告		新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告	
千葉	271.76	987,234	15.7	3632.7	47	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東葛南部	253.91	1,818,214	29.0	7160.9	61	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東葛北部	358.14	1,435,444	22.9	4008.1	58	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
印旛	691.66	717,298	11.4	1037.1	30	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
香取海匝	717.46	241,389	3.8	336.5	21	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山武長生夷隅	1161.72	387,190	6.2	333.3	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
安房	575.91	110,150	1.8	191.3	15	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
君津	758	318,581	5.1	420.3	19	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市原	368.16	261,074	4.2	709.1	13	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5156.72	6,276,574	100	1217.164	287	2	1	1	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

千葉県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・ () 内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

医療圏名	申請 類型	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物 療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援 センター
				院内 がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の 手術件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住 するがん患者の診療 の割合 (%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1 千葉	★	現況	千葉県がんセンター	(3,264) 3,352	(2,512) 2,575	(4,294) 4,310	(953) 953	(385) 388	(26.5) 29.6	(3,828) 4,861
2 千葉		現況	千葉大学 医学部附属 病院	(3,048) 2,673	(2,185) 2,228	(6,660) 5,462	(777) 802	(231) 226	(33) 28	(12,678) 11,407
3 千葉		現況	独立行政法人 国立病院機構千葉医療センター	(971) 856	(685) 656	(2,021) 2,184	(218) 214	(140) 115	(14) 13	(1,622) 1,163
4 東葛 南部		現況	船橋市立医療 センター	(1,749) 1,668	(1,067) 1,174	(1,775) 2,264	(445) 453	(192) 69	(13) 7	(2,046) 2,157
5 東葛 南部		現況	東京歯科大学 市川総合病院	(1,272) 1,379	(1,070) 1,068	(1,646) 1,756	(339) 385	(149) 169	(8) 7	(1,403) 1,301
6 東葛 南部		現況	順天堂大学 医学部附属 浦安病院	(1,854) 1,881	(1,165) 1,142	(1,794) 1,913	(478) 405	(707) 599	(13) 11	(524) 499
7 東葛 北部		現況	東京慈恵会医科 大学附属柏病院	(1,603) 1,751	(888) 1,034	(3,468) 3,764	(363) 344	(158) 174	(11) 12	(1,136) 1,086
8 東葛 北部		現況	松戸市立総合 医療センター	(985) 952	(502) 571	(1,900) 2,024	(417) 302	(120) 113	(4.2) 4.3	(1,473) 1,522

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・ () 内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1,000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住 するがん患者の診療 の割合 (%) 2割程度	相談件数 (年間)
9 印旛		更新	日本医科大学 千葉北総病院	(1,566) 1,423	(1,232) 1,285	(1,449) 1,351	(180) 224	(219) 215	(18) 21.4	(1,536) 1,181
10 印旛		現況	日本赤十字社 成田赤十字病院	(1,300) 1,118	(764) 830	(2,216) 2,286	(208) 305	(78) 85	(20) 18.1	(972) 955
11 香取 海匝		現況	地方独立行政 法人総合病院 国保旭中央病院	(2,678) 2,694	(1,531) 1,131	(2,645) 2,868	(612) 688	(79) 136	(64) 51	(3,237) 4,071
12 安房		現況	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	(2,503) 2,575	(1,682) 1,738	(3,757) 3,624	(714) 660	(502) 427	(46) 37	(1,385) 1,165
13 君津		現況	国保直営総合 病院君津中央 病院	(1,648) 1,658	(1,031) 1,083	(1,512) 1,612	(299) 338	(125) 193	(46) 43.3	(2,474) 3,053
14 市原		現況	独立行政法人 労働者健康安全 機構 千葉労災病院	(1,212) 1,239	(709) 762	(1,976) 1,878	(250) 218	(115) 87	(19) 33	(1,700) 1,541
15 印旛		新規	国際医療福祉 大学成田病院	1,378	942	1,654	437	184	13	73

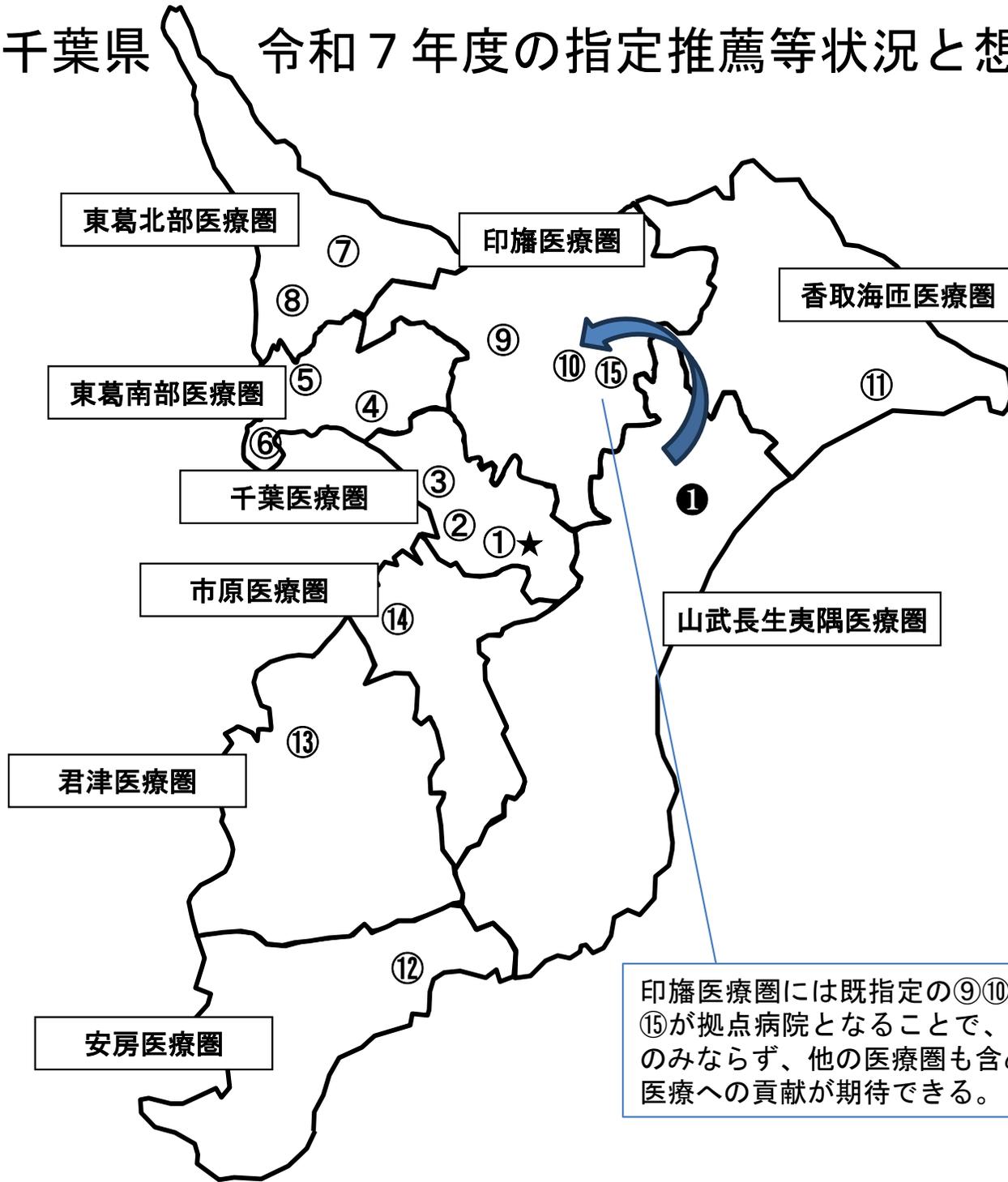
地域がん診療病院の診療実績等

- （ ）は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合 (%)	相談件数 (年間)
①	山武 長生 夷隅	現況	さんむ医療センター	(169) 209	(106) 108	(96) 132	実施なし	(23) 35	(6) 4	(394) 572

千葉県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点



- ①千葉県がんセンター★（現況）
- ②千葉大学医学部附属病院（現況）
- ③独立行政法人国立病院機構
千葉医療センター（現況）
- ④船橋市立医療センター（現況）
- ⑤東京歯科大学市川総合病院（現況）
- ⑥学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属
浦安病院（現況）
- ⑦東京慈恵会医科大学附属柏病院（現況）
- ⑧松戸市立総合医療センター（現況）
- ⑨日本医科大学千葉北総病院（更新）
- ⑩日本赤十字社 成田赤十字病院（現況）
- ⑪地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
（現況）
- ⑫医療法人鉄蕉会 亀田総合病院（現況）
- ⑬国保直営総合病院君津中央病院（現況）
- ⑭独立行政法人労働者健康安全機構
千葉労災病院（現況）
- ⑮国際医療福祉大学成田病院（新規）
- さんむ医療センター（現況）
（①・⑪と連携）

印旛医療圏には既指定の⑨⑩があるが、
⑮が拠点病院となることで、印旛医療圏
のみならず、他の医療圏も含めてがん
医療への貢献が期待できる。

今回の指定推薦等に係る千葉県の考え方

1 千葉県のがんの状況

- 昭和57年以来がんは死亡順位の第1位
- 急速な高齢化が進行しており、令和22年（2040年）には33.4%が65歳以上となることが見込まれている。
- 今後さらにはがん患者が増加していくと見込まれ、がん対策への取り組みは重要な課題

2 現在のがん診療連携拠点病院等の整備状況

- 都道府県がん診療連携拠点病院：1病院を整備
- 地域がん診療連携拠点病院：県内9つの二次医療圏のうち、8医療圏に13病院を整備
- 地域がん診療病院：地域がん診療連携拠点病院のない山武長生夷隅医療圏に1病院を整備

3 がん診療連携体制の整備方針

- 都道府県がん診療連携拠点病院である千葉県がんセンターは、引き続き県内で中心的な役割を果たし、がん診療の連携協力体制の整備や、がんに関する相談支援情報の提供を担う。
- 地域がん診療連携拠点病院については、各2次医療圏に1か所整備することを基本に、人口が一定規模（概ね人口50万人程度）以上の医療圏については複数整備し、全ての県民に質の高いがん医療へのアクセスを確保する。

今回の指定推薦等に係る千葉県の考え方

4 がん診療連携拠点病院等の新規指定に係る推薦について

【新規推薦：国際医療福祉大学成田病院】

- 印旛医療圏は交通網が発達しており、拠点病院のない山武長生夷隅を含む隣接した医療圏の患者が利用しやすい場所に位置している。また、圏央道全線開通や成田空港の拡大等により、2次医療圏を超えた地域からのがん医療需要が今後更に高くなると予想される。
- 印旛医療圏では現在、日本医科大学千葉北総病院と成田赤十字病院が地域がん診療連携拠点病院に指定されている。
- 日本医科大学千葉北総病院は印旛医療圏の西部に位置し、患者全体の約80%を印旛医療圏の患者が占めている。人工透析を必要とするがん患者に対応できる施設であり、また、救命救急センターでは、印旛医療圏のみならず広域の三次救急患者を受け入れており、がん救急の患者に対しても多科連携による適切な治療体制を整備している。
- 成田赤十字病院は、造血幹細胞移植の認定施設であり、特に血液腫瘍領域においては県内全域でも随一の治療実績を有している。また、精神科救急・合併症入院料を算定する精神科病床50床を有しており、統合失調症等の重度精神疾患を合併したがん患者の治療にも対応できる、県内でも数少ない病院の一つである。
- 国際医療福祉大学成田病院は、香取海匝医療圏から13%、山武長生夷隅医療圏から10%、県外から14%など、印旛医療圏以外から約40%のがん患者を受け入れている。拠点病院として指定されることで、他院との連携により、他の医療圏も含めたがん医療への貢献が期待できる。また、県内2つ目の医学部附属本院・教育機関として、がん医療を担う専門医や専門コメディカルの県内医療機関への輩出などを通じて、千葉県がん医療の充実に貢献が期待できる。

東京都

東京都がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
区中央部	63.63	1,002,294	7.03%	15,751.9	49	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
区南部	84.71	1,187,119	8.33%	14,013.9	39	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
区西南部	87.83	1,483,388	10.41%	16,889.3	51	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
区西部	67.87	1,312,074	9.20%	19,332.2	40	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
区西北部	113.92	2,037,724	14.28%	17,887.3	93	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
区東北部	98.21	1,392,641	9.76%	14,180.2	91	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
区東部	106.66	1,524,381	10.69%	14,292.0	55	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
西多摩	572.7	370,635	2.60%	647.1	28	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
南多摩	324.46	1,443,735	10.12%	4,449.6	73	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
北多摩西部	90.05	665,329	4.67%	7,388.4	25	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
北多摩南部	96.1	1,068,890	7.50%	11,122.7	42	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
北多摩北部	76.51	752,898	5.28%	9,840.5	43	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
島しょ	412.61	22,264	0.16%	53.9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2,195.26	14,263,372	100%	6,484.0	630	28	1	0	29	0	0	0	1	0	0	0

東京都 令和7年9月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料2

北多摩西部

地域医療の中核であり災害拠点病院でもある⑭と、先進医療含む豊富な治療実績や地域連携に強みを有する⑮が連携して対応するとともに、西多摩圏域もフォローする。

北多摩南部

患者との連携に特色がある⑯、大学病院として人材育成の実績がある⑰、多摩地域唯一の都立総合病院である⑱が連携し、多摩地域のがん医療の充実を図る。

区西北部

圏域内人口（約199万人）、医療機関数（約1,800施設）とも多く、緩和ケア推進に積極的な⑲と⑳が連携してカバーする。

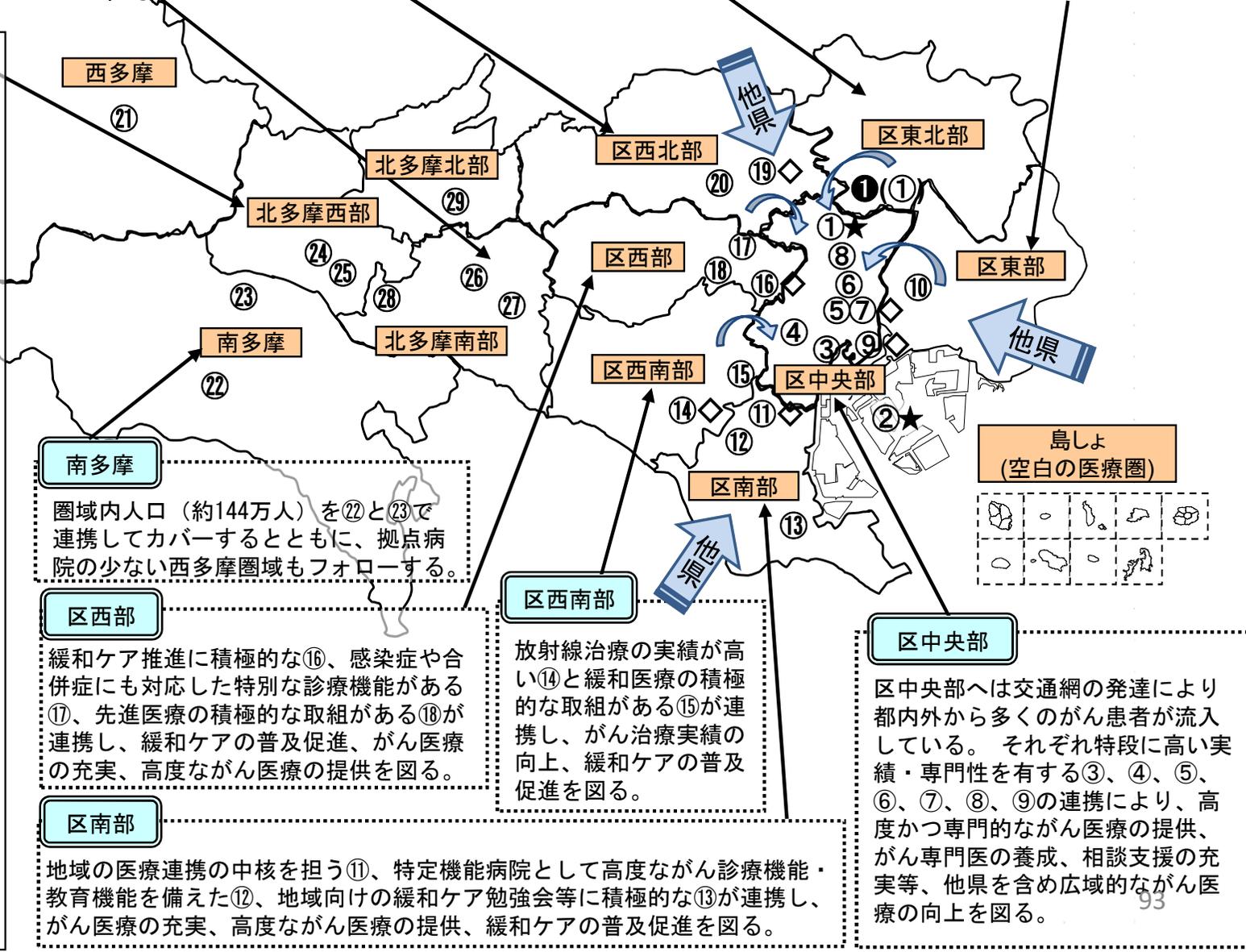
区東北部

①と都道府県拠点病院①をグループ指定し、連携して体制を整備するとともに、患者の利便性を考慮して①と⑧が引き続きがん診療をフォローする。

区東部

圏域内の患者を多く受け入れている⑩と都道府県拠点病院の②とともに、隣接する⑨が引き続き診療をフォローする。

- ① 東京都立駒込病院★ (現況)
- ② 公益財団法人がん研究会有明病院★ (現況)
- ③ 東京慈恵会医科大学附属病院 (現況)
- ④ 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 (現況)
- ⑤ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 (現況)
- ⑥ 東京大学医学部附属病院 (現況)
- ⑦ 東京科学大学病院 (現況)
- ⑧ 日本医科大学付属病院 (現況)
- ⑨ 聖路加国際病院 (現況)
- ⑩ 東京都立墨東病院 (現況)
- ⑪ NTT東日本関東病院 (現況)
- ⑫ 昭和医科大学病院 (現況)
- ⑬ 東邦大学医療センター大森病院 (現況)
- ⑭ 国立病院機構東京医療センター (現況)
- ⑮ 日本赤十字社医療センター (現況)
- ⑯ 慶應義塾大学病院 (現況)
- ⑰ 国立国際医療センター (現況)
- ⑱ 東京医科大学病院 (現況)
- ⑲ 帝京大学医学部附属病院 (現況)
- ⑳ 日本大学医学部附属板橋病院 (現況)
- ㉑ 市立青梅総合医療センター (現況)
- ㉒ 東京医科大学八王子医療センター (現況)
- ㉓ 東海大学医学部附属八王子病院 (現況)
- ㉔ **国立病院機構災害医療センター (更新)**
- ㉕ 国家公務員共済組合連合会立川病院 (現況)
- ㉖ 武蔵野赤十字病院 (現況)
- ㉗ 杏林大学医学部附属病院 (現況)
- ㉘ 東京都立多摩総合医療センター (現況)
- ㉙ 公立昭和病院 (現況)
- ① 東京女子医科大学附属足立医療センター (現況)



南多摩
圏域内人口（約144万人）を⑳と㉑で連携してカバーするとともに、拠点病院の少ない西多摩圏域もフォローする。

区西部
緩和ケア推進に積極的な⑯、感染症や合併症にも対応した特別な診療機能がある⑰、先進医療の積極的な取組がある⑱が連携し、緩和ケアの普及促進、がん医療の充実、高度ながん医療の提供を図る。

区南部
地域の医療連携の中核を担う⑪、特定機能病院として高度ながん診療機能・教育機能を備えた⑫、地域向け緩和ケア勉強会等に積極的な⑬が連携し、がん医療の充実、高度ながん医療の提供、緩和ケアの普及促進を図る。

区西南部
放射線治療の実績が高い⑭と緩和医療の積極的な取組がある⑮が連携し、がん治療実績の向上、緩和ケアの普及促進を図る。

区中央部
区中央部へは交通網の発達により都内外から多くのがん患者が流入している。それぞれ特段に高い実績・専門性を有する③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨の連携により、高度かつ専門的ながん医療の提供、がん専門医の養成、相談支援の充実等、他県を含め広域ながん医療の向上を図る。

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-1

・ () 内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★：都道府県拠点 ◎：特例型

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1,000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住するがん患者 の診療の割合 (%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	区中央部	★	現況	東京都立駒込病院	(3,308) 3,541	(2,700) 2,719	(5,126) 5,716	(1,227) 1,353	(427) 437	(4) 7	(8,288) 8,188
2	区東部	★	現況	がん研有明病院	(7,112) 7,067	(5,653) 6,562	(8,318) 8,704	(1,797) 1,835	(1,431) 1,900	(10) 10	(4,940) 5,205
3	区中央部		現況	東京慈恵会医科大学附属病院	(2,701) 3,214	(1,616) 1,609	(2,010) 3,552	(895) 909	(303) 441	(2) 5	(620) 1,040
4	区中央部		現況	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	(3,155) 3,205	(2,930) 3,159	(5,313) 5,105	(899) 981	(500) 616	(4) 4	(6,843) 4,426
5	区中央部		現況	順天堂大学医学部附属順天 堂医院	(3,967) 3,675	(3,818) 3,954	(7,630) 7,609	(957) 1,054	(351) 414	(4) 4	(4,356) 4,457
6	区中央部		現況	東京大学医学部附属病院	(2,899) 2,917	(2,548) 2,758	(3,415) 3,426	(1,157) 1,112	(1,158) 1,130	(5) 6	(1,059) 837
7	区中央部		現況	東京科学大学病院	(2,375) 2,438	(1,699) 1,699	(2,233) 2,952	(849) 827	(518) 483	(1) 1	(4,609) 4,923
8	区中央部 (区東北部)		現況	日本医科大学付属病院	(2,870) 2,878	(2,157) 2,121	(3,614) 3,800	(513) 563	(191) 212	(5) 5	(2,946) 3,452
9	区中央部 (区東部)		現況	聖路加国際病院	(1,953) 1,927	(1,597) 1,620	(3,041) 3,126	(536) 490	(206) 193	(3) 3	(2,085) 2,350
10	区東部		現況	東京都立墨東病院	(1,597) 1,666	(879) 992	(1,697) 4,929	(393) 377	(129) 168	(9) 10	(1,598) 1,102
11	区南部		現況	NTT東日本関東病院	(2,022) 2,043	(1,925) 1,790	(4,204) 4,313	(460) 485	(238) 310	(9) 8	(2,596) 2,763
12	区南部		現況	昭和医科大学病院	(3,269) 3,509	(1,856) 1,828	(2,406) 2,506	(813) 791	(544) 555	(14) 12	(1,963) 224
13	区南部		現況	東邦大学医療センター大森 病院	(1,965) 1,962	(1,253) 1,231	(3,032) 3,163	(583) 621	(494) 483	(21) 18	(231) 231
14	区西南部		現況	国立病院機構東京医療セン ター	(1,878) 1,919	(1,540) 1,600	(1,805) 2,841	(882) 990	(510) 515	(16) 18	(3,185) 3,319
15	区西南部		現況	日本赤十字社医療センター	(1,046) 1,100	(975) 964	(1,586) 2,044	(589) 594	(211) 173	(6) 6	(3,295) 3,053

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-2

・ () 内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★：都道府県拠点 ◎：特例型

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数	悪性腫瘍の手術件数	のべ患者数	のべ患者数	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合	相談件数
					(年間) 500件以上	(年間) 400件以上	(年間) 1,000人以上	(年間) 200人以上	(年間) 50件以上	(%) 2割程度	(年間)
16	区西部		現況	慶応義塾大学病院	(3,650)	(3,020)	(3,973)	(924)	(445)	(4)	(4,962)
					3,692	3,049	4,405	1,083	462	4	4,710
17	区西部		現況	国立国際医療センター	(1,515)	(1,449)	(2,407)	(502)	(327)	(5)	(2,915)
					1,508	1,280	2,555	477	309	5	2,622
18	区西部		現況	東京医科大学病院	(3,644)	(2,686)	(6,003)	(942)	(296)	(19)	(2,189)
					3,624	2,621	6,156	913	313	17	2,475
19	区西北部		現況	帝京大学医学部附属病院	(1,908)	(1,791)	(3,375)	(626)	(474)	(6)	(4,646)
					1,848	1,671	3,587	621	462	8	5,068
20	区西北部		現況	日本大学医学部附属板橋病院	(1,200)	(1,814)	(2,402)	(535)	(274)	(10)	(1,002)
					1,770	1,850	2,110	573	266	10	864
21	西多摩		現況	市立青梅総合医療センター	(1,152)	(764)	(1,383)	(123)	(184)	(29)	(938)
					1,253	891	1,443	149	195	28	1,109
22	南多摩		現況	東京医科大学八王子医療センター	(1,490)	(842)	(2,532)	(403)	(252)	(11)	(3,861)
					1,545	1,043	2,485	389	241	17	4,048
23	南多摩		現況	東海大学医学部附属八王子病院	(1,752)	(1,859)	(2,467)	(508)	(147)	(14)	(1,092)
					1,670	1,756	2,530	509	136	11	948
24	北多摩西部	◎	更新	国立病院機構災害医療センター	(994)	(572)	(1,276)	(267)	(127)	(9)	(3,407)
					1,005	655	1,602	* 121	115	13	2,990
25	北多摩西部		現況	国家公務員共済組合連合会立川病院	(1,317)	(966)	(1,214)	(374)	(131)	(15)	(1,420)
					1,349	911	1,142	376	157	14	1,477
26	北多摩南部		現況	武蔵野赤十字病院	(2,808)	(1,472)	(5,291)	(654)	(506)	(18)	(2,392)
					2,076	1,537	5,420	611	820	14	1,868
27	北多摩南部		現況	杏林大学医学部附属病院	(2,710)	(2,296)	(3,884)	(732)	(314)	(11)	(650)
					2,656	2,420	3,610	596	261	10	798
28	北多摩南部		現況	東京都立多摩総合医療センター	(2,520)	(1,649)	(3,705)	(791)	(380)	(13)	(713)
					3,181	1,736	2,908	830	456	13	953
29	北多摩北部		現況	公立昭和病院	(1,442)	(952)	(1,717)	(378)	(137)	(19)	(2,613)
					1,365	984	1,647	255	143	18	2,205

*災害医療センターの放射線治療のべ患者数が指定要件である200人以上を下回っているが、令和6年7月から令和7年2月までの期間、放射線治療機器の更新により治療を停止したことによる。再開後から8月までで223人の実績を挙げている。

地域がん診療病院の診療実績について

・ () 内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	当該2次医療圏に 居住するがん患者 の診療の割合 (%)	相談件数 (年間)
①	区東北部	現況	東京女子医科大学附属足立 医療センター	(1,272)	(1,522)	(1,089)	(0)	(66)	(7)	(1,057)
				1,279	1,476	1,107	0	83	6	700

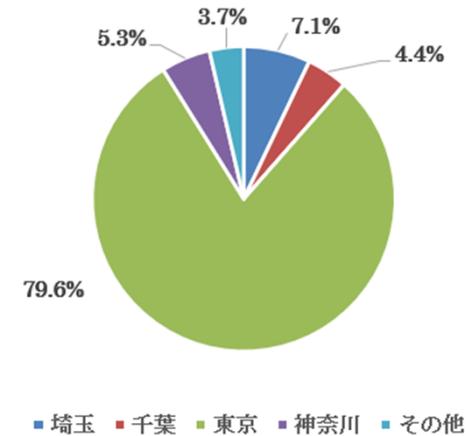
東京都における拠点病院整備の考え方

東京都の地域特性

- ◆ がん患者が全国の10分の1、一方、拠点病院数が全国の15分の1～拠点病院が足りない～

- ◆ 大学病院が多数あり、交通網や道路網が高度に発達し、昼間人口も多いため、他道府県からの流入患者2割程度も含め、がんの医療圏を越えて患者が受診

都内の病院における患者の住所地割合（2023年院内がん登録全国集計）



項目	東京都	全国との比較
人口	1,426万人	全国の1/9
一日の推計がん患者数	26.9千人	全国の1/10
がん医療圏の平均人口	109万人	全国平均の2.9倍
拠点病院数	30か所 *国立がん研究センター中央病院を除く	全国の1/15

東京都における拠点病院の必要数及び整備方針

- ◆ 都の人口や患者数、他都道府県からの流入状況を見ても、都内の拠点病院数は不足
 - ◆ がんの医療圏を越えて患者が受診
 - ◆ 地域連携の推進に当たり、東京都は診療所の数が多く、1施設当たりが連携する診療所数が全国平均と比較し約2.3倍程度
- 都平均 15,376か所/30病院≒513か所 ※地域がん診療病院を含む。国立がん研究センター中央病院を除く。
 全国平均 105,519か所/463病院≒228か所



現状の拠点病院数では不足しており、さらなる整備が必要
 （※都が独自に東京都がん診療連携拠点病院を整備し、拠点病院数の不足を補っている。）

がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備することによる効果

現状・課題と効果

項目	現状・課題	効果
がん患者の通院圏域に応じたがん医療の提供	交通網の発達による多様な受療行動	患者・家族のニーズに合った医療提供の推進
	治療と就労の継続	職場の近くで治療可能な体制確保
専門的ながん医療提供体制の充実	全国トップクラスの医療機関が集結	高度かつ専門的ながん医療提供の推進
	医師緩和ケア研修について ・1か所の拠点病院で研修を受けられる医師数には限りがある ・既に複数回開催している拠点病院が多数ある	医師緩和ケア研修修了者数の拡大
相談支援体制の充実	医療提供・相談支援ニーズの増加・複雑化	身近な地域での医療提供体制の充実 きめ細かい相談支援の推進
地域の診療所・中小病院との連携促進	拠点病院1か所あたりの診療所数 都平均 513か所 全国平均 228か所	切れ目ながん医療提供の推進

がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

神奈川県

神奈川県 がん医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院				
							推薦施設数	内訳			現況報告	推薦施設数	内訳				推薦施設数	内訳			
								新規申請	指定更新	指定類型変更			新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告
1	横浜	437.55	3,769,584	40.9	8615.2	130	0				10	0					0				
2	川崎北部	64.28	877,941	9.5	13658.1	20	0				2	0					0				
3	川崎南部	78.72	673,721	7.3	8558.4	18	2	1	1		2	0					0				
4	相模原	328.91	723,407	7.8	2199.4	34	0				2	0					0				
5	横須賀・三浦	206.86	665,464	7.2	3217.0	28	0				2	0					0				
6	湘南東部	118.6	737,474	8.0	6218.2	24	1	1			1	0					0				
7	湘南西部	253.4	577,227	6.3	2277.9	21	1	1			1	0					0				
8	県央	292.75	865,868	9.4	2957.7	32	0				1	0					0				
9	県西	635.09	328,295	3.6	516.9	23	0				1	0					0				
10	県（全体）	2416.16	9,218,981	100	3815.6	330	4	3	1	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

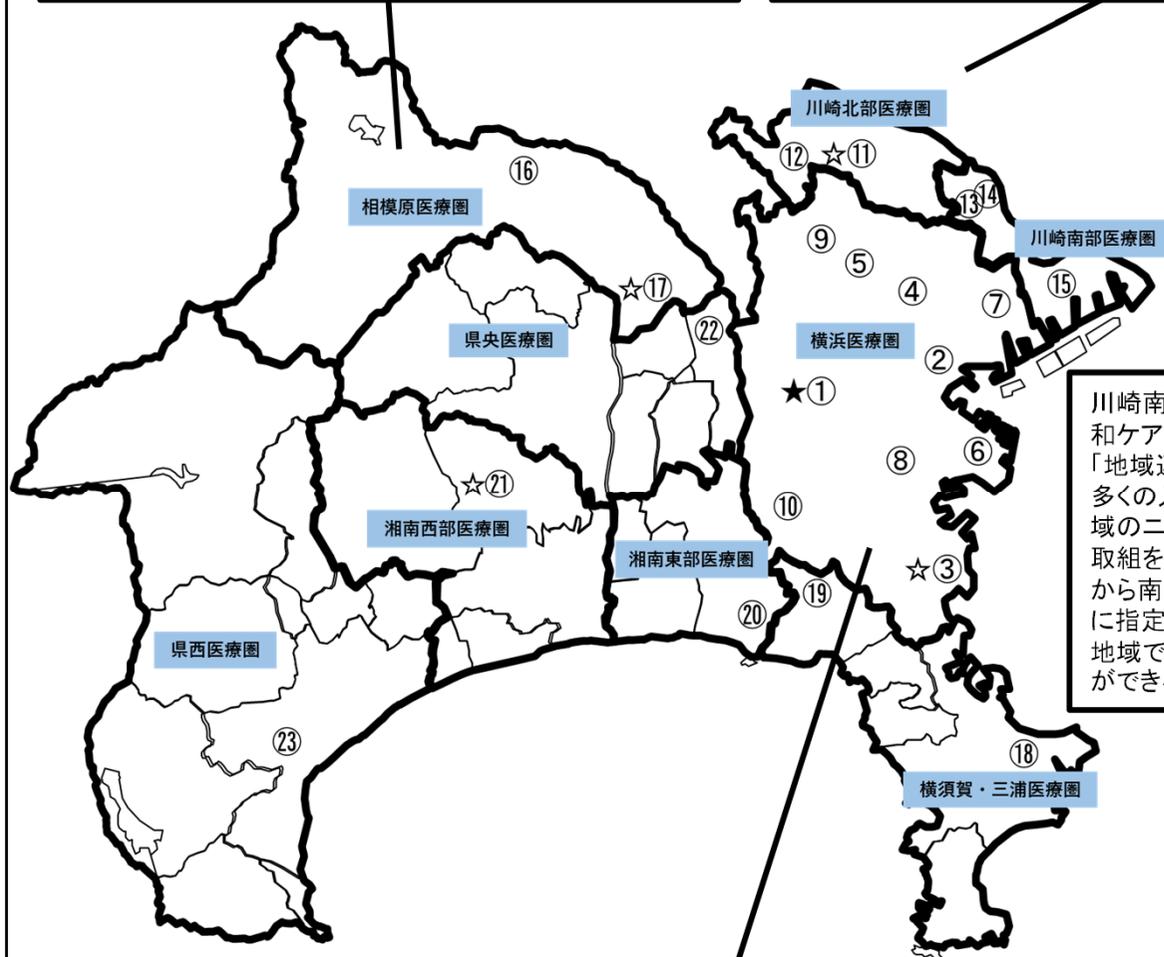
神奈川県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ☆:特定機能病院

- ①★神奈川県立がんセンター (令和5年4月1日)
- ②横浜市立市民病院 (令和5年4月1日)
- ③☆横浜市立大学附属病院 (令和5年4月1日)
- ④横浜労災病院 (令和6年4月1日)
- ⑤昭和医科大学横浜市北部病院 (令和5年4月1日)
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院 (令和5年4月1日)
- ⑦済生会横浜市東部病院 (令和5年4月1日)
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター (令和5年4月1日)
- ⑨昭和医科大学藤が丘病院 (令和5年4月1日)
- ⑩横浜医療センター (令和6年4月1日)
- ⑪☆聖マリアンナ医科大学病院 (令和5年4月1日)
- ⑫新百合ヶ丘総合病院 (令和5年4月1日)
- ⑬川崎市立井田病院 (令和7年4月1日)
- ⑭関東労災病院 (令和6年4月1日)
- ⑮川崎市立川崎病院 (令和5年4月1日)
- ⑯相模原協同病院 (令和6年4月1日)
- ⑰☆北里大学病院 (令和5年4月1日)
- ⑱横須賀共済病院 (令和5年4月1日)
- ⑲湘南鎌倉総合病院 (令和5年4月1日)
- ⑳藤沢市民病院 (令和5年4月1日)
- ㉑☆東海大学医学部附属病院 (令和6年4月1日)
- ㉒大和市立病院 (令和7年4月1日)
- ㉓小田原市立病院 (令和6年4月1日)

相模原医療圏は、特定機能病院である⑰が、圏域を越えた患者を対象とした高度ながん医療の提供や診療支援、研修会等を実施し、⑯が、地域の患者へのがん医療の提供や地域の医療従事者への研修会等を実施。

川崎北部医療圏には特定機能病院である⑪に加え、令和4年度から緩和ケア病棟を持つ⑫が拠点病院に指定された。



川崎南部医療圏は、⑬が「緩和ケア」を軸とした「在宅ケア」「地域連携」に力を注ぎ、⑭が多くの入院患者の受入れ、地域のニーズに合わせた幅広い取組を行ってきた。令和4年度から南端に位置する⑮が新規に指定され、患者がより身近な地域でがん診療を受けることができるようになった。

横浜医療圏は、平成30年4月から北部(②④⑤⑦⑨の5病院)・西部(①)・南部(③⑥⑧の3病院)の3つの二次医療圏が1つに統合された。
 申請当時、北部及び南部に複数の病院が必要であった理由は次のとおりである。
 北部二次医療圏は 労災病院である④、大学の附属病院である⑤、総合病院で高度ながん医療に力を注いでいる⑦が機能的に役割分担をすることで、圏域内のがん診療が、量・質ともに向上するため。
 南部二次医療圏は、特定機能病院である③が、圏域を越えた高度ながん医療を提供し、圏域唯一の緩和ケア病棟を有する⑥と当該医療圏の診療実績が最も多い⑧が連携することで、圏域内の患者が身近な地域でがん診療を受けられるため。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームの 新規介入患者数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住する がん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1	横浜	★	現況	県立がんセンター	(3,846) 3,992	(2,947) 4,715	(6,827) 6,447	(1,188) 1,437	(71) 58	(10) 11	(7,579) 8,745
2			現況	横浜市立市民病院	(1,824) 1,690	(1,146) 1,175	(2,658) 2,866	(739) 670	(202) 246	(1) 6	(2,390) 1,766
3			現況	横浜市大附属病院	(2,350) 2,825	(1,937) 1,267	(4,487) 4,878	(714) 660	(257) 322	(6) 6	(7,930) 4,738
4			現況	横浜労災病院	(1,901) 1,892	(1,888) 1,329	(1,869) 1,792	(966) 972	(166) 130	(5) 4.9	(107) 332
5			現況	横浜市北部病院	(1,820) 2,391	(1,107) 1,306	(2,196) 2,327	(308) 344	(175) 173	(5) 5	(1,069) 955
6			現況	みなと赤十字病院	(1,197) 1,274	(738) 687	(1,332) 1,344	(110) 291	(185) 185	(4) 4	(2,390) 5,292
7			現況	横浜市東部病院	(1,891) 1,816	(1,142) 1,112	(1,624) 1,760	(605) 694	(125) 115	(4) 3.6	(2,159) 2,654
8			現況	市大附属市民総合医療センター	(2,943) 3,020	(2,026) 2,024	(3,331) 4,491	(583) 608	(219) 239	(7) 4.3	(1,322) 1,275
9			現況	昭和大学藤が丘病院	(2,330) 2,511	(960) 890	(1,490) 1,570	(479) 407	(141) 119	(3) 3.2	(1,110) 1,062
10			現況	横浜医療センター	(680) 1,223	(801) 862	(1,229) 1,211	(238) 125	(112) 115	(3) 3	(437) 102,247

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム の新規介入患者 数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
11	川崎北部		現況	聖マリアンナ病院	(2,622) 2,392	(2,321) 2,117	(3,865) 4,097	(732) 777	(467) 480	(25) 21	(1,172) 1,451
12			現況	新百合ヶ丘総合病院	(1,222) 1,218	(1,052) 938	(3,493) 2,295	(421) 414	(142) 129	(9) 7.6	(2,413) 3,097
13	川崎南部		更新	川崎市立井田病院	(660) 640	(433) 468	(1,763) 1,367	(440) 273	(243) 231	(4) 4	(3,783) 4,047
14			現況	関東労災病院	(1,172) 1,199	(594) 610	(1,701) 1,662	(312) 274	(130) 121	(11) 16	(512) 513
15			現況	川崎市立川崎病院	(1,723) 1,441	(738) 754	(6,499) 1,589	(368) 387	(186) 228	(21) 21	(478) 388
16	相模原		現況	相模原協同病院	(991) 908	(758) 806	(1,064) 1,103	(507) 239	(230) 235	(9) 14	(735) 629
17			現況	北里大学病院	(3,583) 4,273	(3,388) 2,895	(5,335) 6,129	(1,384) 1,457	(371) 367	(33) 30	(6,444) 7,029
18	横須賀・三浦		現況	横須賀共済病院	(2,530) 2,131	(1,443) 1,421	(1,806) 2,766	(240) 501	(155) 246	(29) 27	(301) 145
19			現況	湘南鎌倉総合病院	(2,093) 2,232	(1,314) 1,392	(2,219) 2,534	(660) 690	(168) 127	(12) 11	(222) 140
20	湘南東部		現況	藤沢市民病院	(1,918) 1,614	(1,304) 1,029	(1,480) 2,058	(411) 418	(325) 274	(29) 21	(1,377) 103,253

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

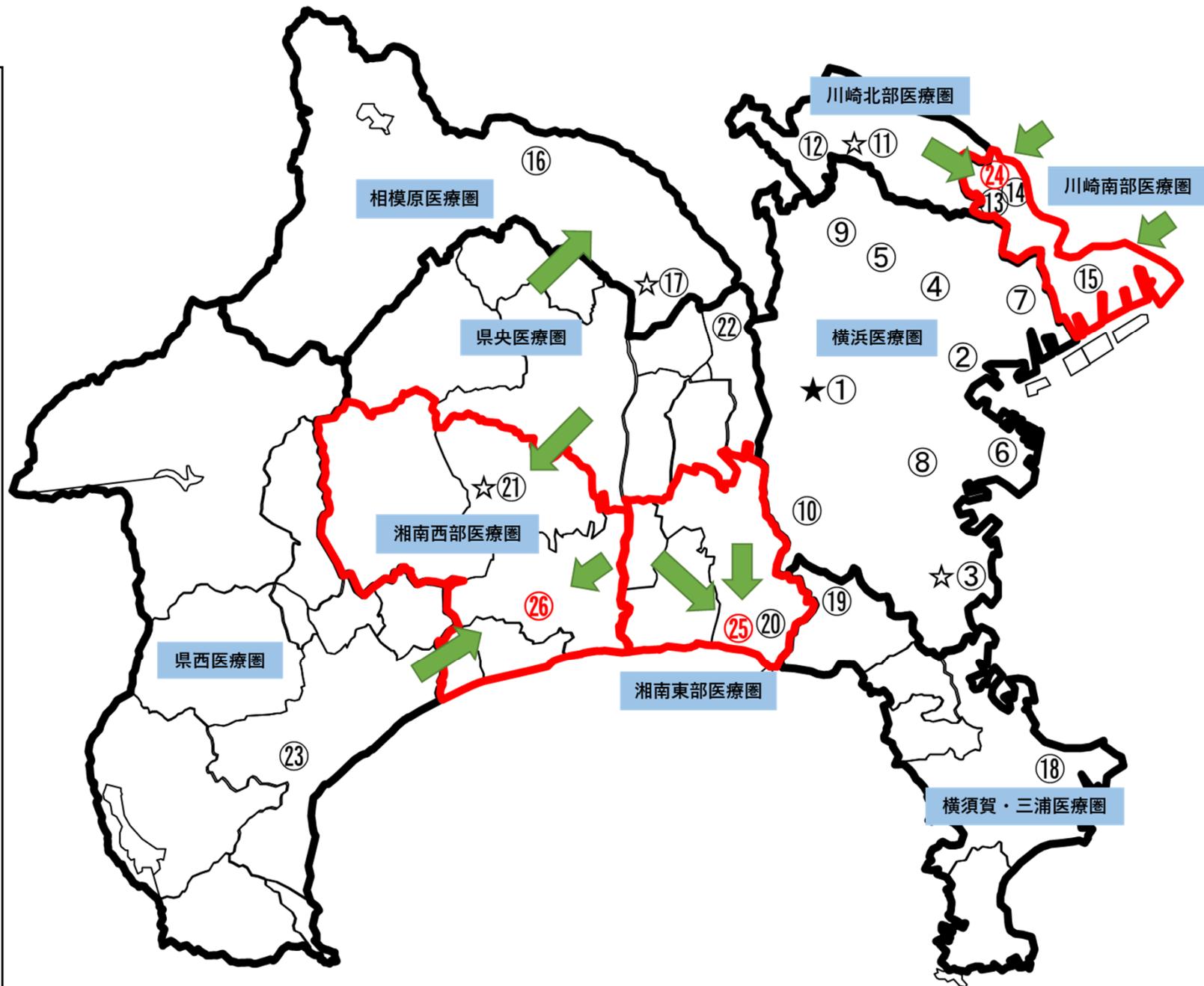
・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
21	湘南西部		現況	東海大学医学部付属病院	(3,266)	(2,179)	(5,003)	(1,002)	(336)	(26)	(2,914)
					3,293	1,919	6,137	1,115	346	33	2,909
22	県央		現況	大和市立病院	(972)	(416)	(1,252)	(261)	(84)	(20)	(1,313)
					935	463	1,128	268	67	19	1,208
23	県西		現況	小田原市立病院	(848)	(417)	(1,027)	(210)	(302)	(18)	(169)
					978	477	1,027	230	385	10	251
24	川崎南部		新規	日本医科大学武蔵小杉病院	1,154	740	1,698	209	55	9	1,616
25	湘南東部		新規	湘南藤沢徳洲会病院	1,018	535	1,004	541	78	10	449
26	湘南西部		新規	平塚市民病院	1,242	669	1,171	208	53	12	679

神奈川県 令和7年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ☆:特定機能病院

- ①★神奈川県立がんセンター
- ②横浜市立市民病院
- ③☆横浜市立大学附属病院
- ④横浜労災病院
- ⑤昭和医科大学横浜市北部病院
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院
- ⑦済生会横浜市東部病院
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター
- ⑨昭和医科大学藤が丘病院
- ⑩横浜医療センター
- ⑪☆聖マリアンナ医科大学病院
- ⑫新百合ヶ丘総合病院
- ⑬川崎市立井田病院
- ⑭関東労災病院
- ⑮川崎市立川崎病院
- ⑯相模原協同病院
- ⑰☆北里大学病院
- ⑱横須賀共済病院
- ⑲湘南鎌倉総合病院
- ⑳藤沢市民病院
- ㉑☆東海大学医学部附属病院
- ㉒大和市立病院
- ㉓小田原市立病院
- ㉔(新規推薦) 日本医科大学武蔵小杉病院
- ㉕(新規推薦) 湘南藤沢徳洲会病院
- ㉖(新規推薦) 平塚市民病院



神奈川県のがん診療連携拠点病院整備の考え方

1 現在のがん診療連携拠点病院の整備状況

【都道府県がん診療連携拠点病院】 神奈川県立がんセンター

【地域がん診療連携拠点病院】 県内9つの二次医療圏に22病院を整備（空白医療圏なし）

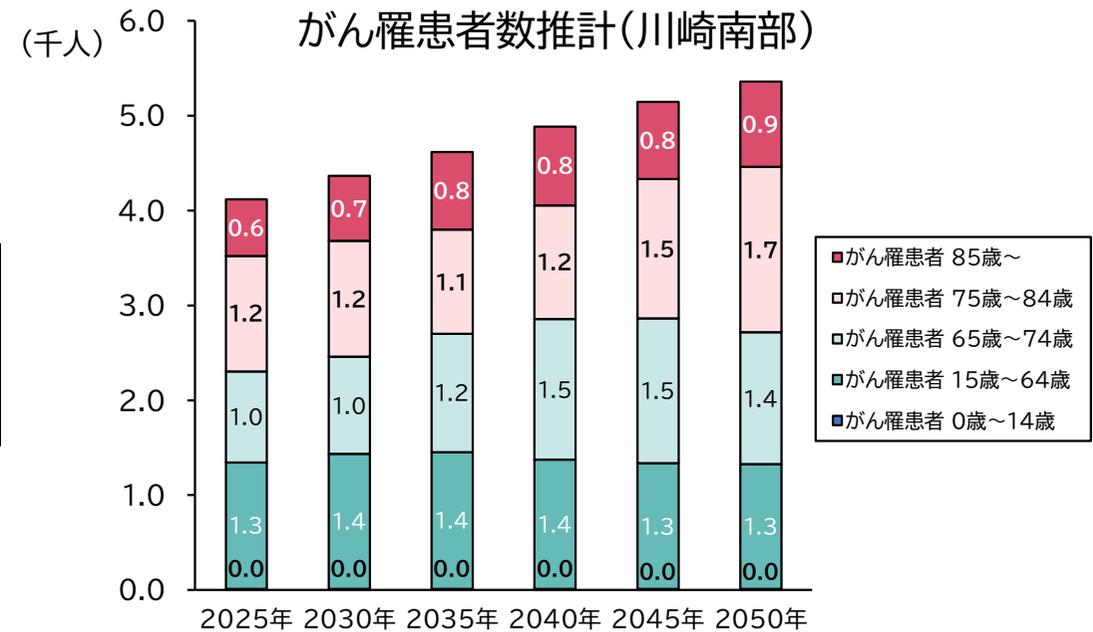
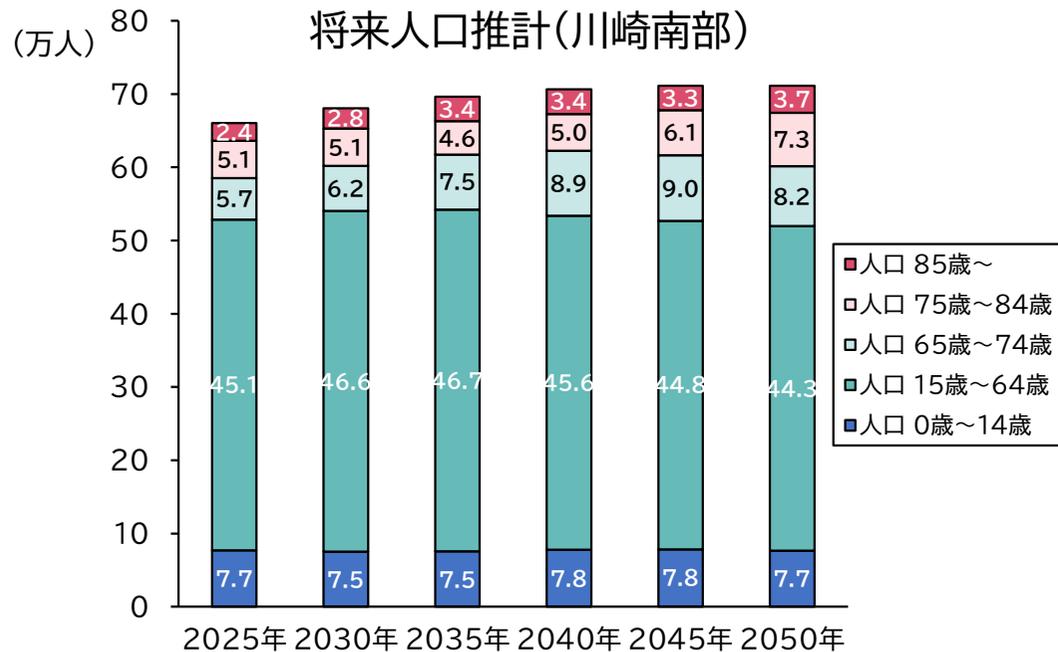
2 神奈川県状況を踏まえた整備方針

- 神奈川県立がんセンターを中心に、拠点病院が連携・協力し、本県のがん医療の充実を図る。
- 特定機能病院である地域がん診療連携拠点病院4カ所を分散配置し、がん診療に携わる人材の育成や先端的治療を推進する。
- 本県の中でも人口が集中する大都市部では、二次医療圏の人口が多いことから、がん患者が身近な地域で高度ながん医療を受けられるよう、複数の拠点病院を整備する必要がある。

【地域がん診療連携拠点病院】 日本医科大学武蔵小杉病院(川崎南部医療圏)

川崎南部医療圏

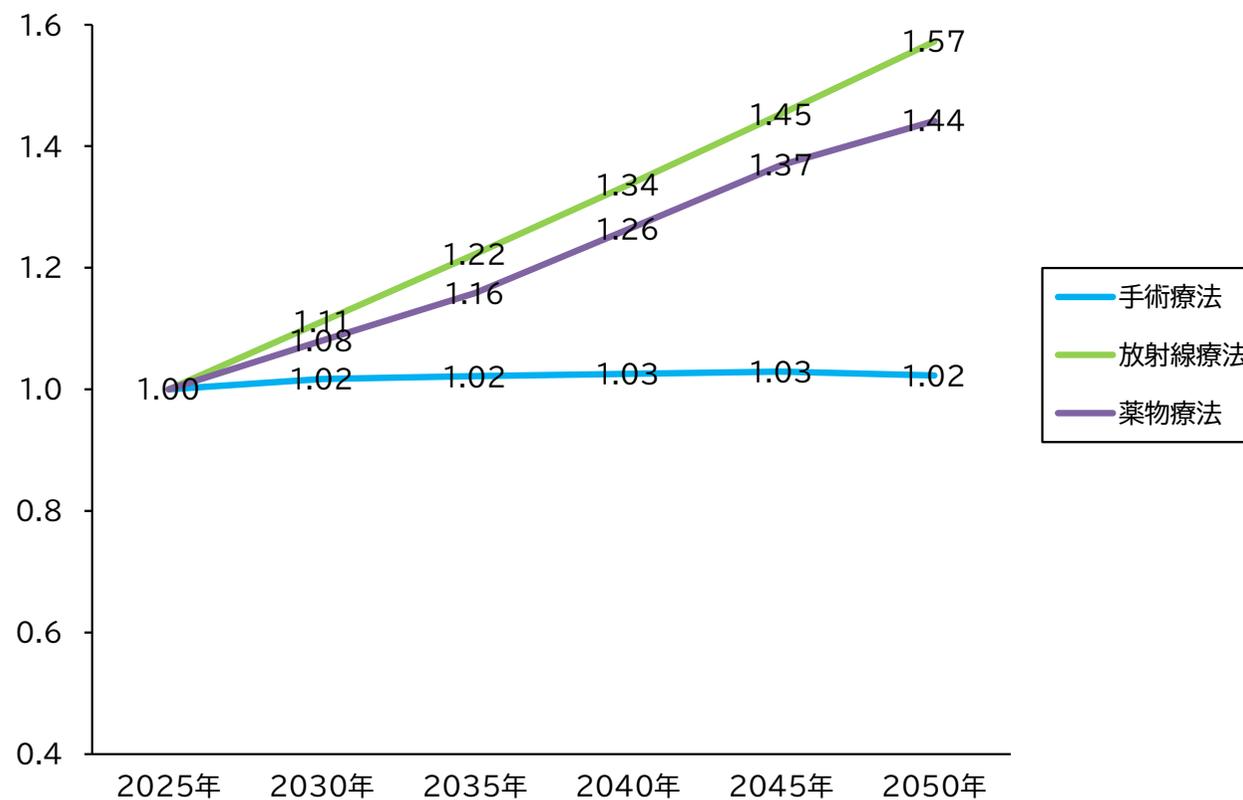
- ・川崎南部医療圏の人口は、673,721人（令和7年1月1日現在）で神奈川県人口の7.30%を占め、県内では6番目に人口の多い医療圏である。
- ・同病院は川崎南部医療圏の北西に位置し、同医療圏には地域がん診療連携拠点病院として川崎市立井田病院、関東労災病院、川崎市立川崎病院が指定されている。



将来推計人口では、2050年まで一貫して増加し、総人口に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

がん罹患患者数推計では、2050年まで一貫して増加し、総罹患患者数に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

新規診断時の三大療法の需要推計(湘南東部)



新規診断時の三大療法の需要推計では、2050年まで手術療法を除き一貫して増加し、放射線療法の増加率が特に高い。

手術療法

- ・ 2024年の悪性腫瘍に対する手術件数は573件であり、そのうちロボット支援手術は149件（26%）。
- ・ 悪性腫瘍に対する手術を実施している診療科の数は10であり、なかでも消化器外科、乳腺外科の件数が多い。2024年の実績は次のとおり。〔食道がん：22件（6件）、胃がん：43件（11件）、肝臓がん：22件（19件）、膵臓がん：52件（17件）、大腸がん：135件（43件）〕 ※（ ）内はロボット手術件数
- ・ 十分な実績と経験があることはもとより、ロボット支援手術や腹腔鏡手術など低侵襲手術の導入により、病状の進行に対応して、適切な術式を選択することが可能。

放射線療法

- ・ 2021年に放射線治療部門を新設し、IMRT（強度変調放射線治療）対応の放射線治療装置の設置、専門医師、放射線物理士を配置。
- ・ 治療実績について、2024年度は206件であった。

薬物療法

- ・ 他の拠点病院でも腫瘍内科（がん薬物療法専門医）が主に担当していることのない、乳がん、婦人科がん、皮膚がん、泌尿器がん、骨軟部腫瘍を担っている。
- ・ 希少がんを専門にしており、卵巣顆粒膜細胞腫、乳腺葉状腫瘍、骨軟部腫瘍、神経内分泌癌などの治療に積極的に取り組んでいる。卵巣顆粒膜細胞腫は、神奈川県拠点病院でも治療不可能と言われた症例も担当している。
- ・ 抗がん薬の脱感作療法について、本県では唯一の専門施設であり、抗がん薬の脱感作療法の依頼が他の拠点病院から、また全国の拠点病院より紹介されている。
- ・ 外来化学療法にも積極的に取り組んでいる。約9割を外来で施行しており、全国でもトップレベルの施行割合。実績（2024年度：のべ4421件）として、川崎市以外の近隣医療圏からも多くの患者を受け入れている。

がん患者支援プログラムの提供

- ・がん患者支援プログラムを積極的に提供しており、がん患者を対象としたがんサロンや、患者、地域医療者を対象とした勉強会などを2012年より開催している。2025年6～10月のがん患者サロン出席者数は、6月 24名、7月 17名、9月 18名、10月 27名であった。
- ・患者支援プログラムとして、ACP（アドバンスト・ケア・プランニング）チームをつくり、がん患者のQOLを重点においたがん患者と地域をつなぐチームとして、積極的に取り組んでいる。

病院へのアクセスの良さ

- ・JR、私鉄を合わせて主要5路線、乗り入れ路線を含めると21路線（東京メトロ副都心線、南北線、西武池袋線、東武東上線、相鉄線、都営三田線等）が利用でき、関東各地からのアクセスが良い。また、駅から徒歩5分というアクセスの良さも患者の負担軽減につながっている。

他の拠点病院及び地域の医療機関との連携体制

- ・手術、薬物療法に関しては、専門とする分野、他院での専門とする分野について情報共有し、互いに紹介している。放射線治療に関しては、放射線治療機器の修理や更新の際に、拠点病院間での連携をし、患者に不利益がないよう対応している。
- ・地域のクリニックや在宅医療機関と連携し、がん患者の紹介、逆紹介をしている。2024年度のがん診療の紹介患者数は799件、2025年度上半期は429件であり、昨年度より増加傾向にある。

同病院が地域がん診療連携拠点病院になることの効果

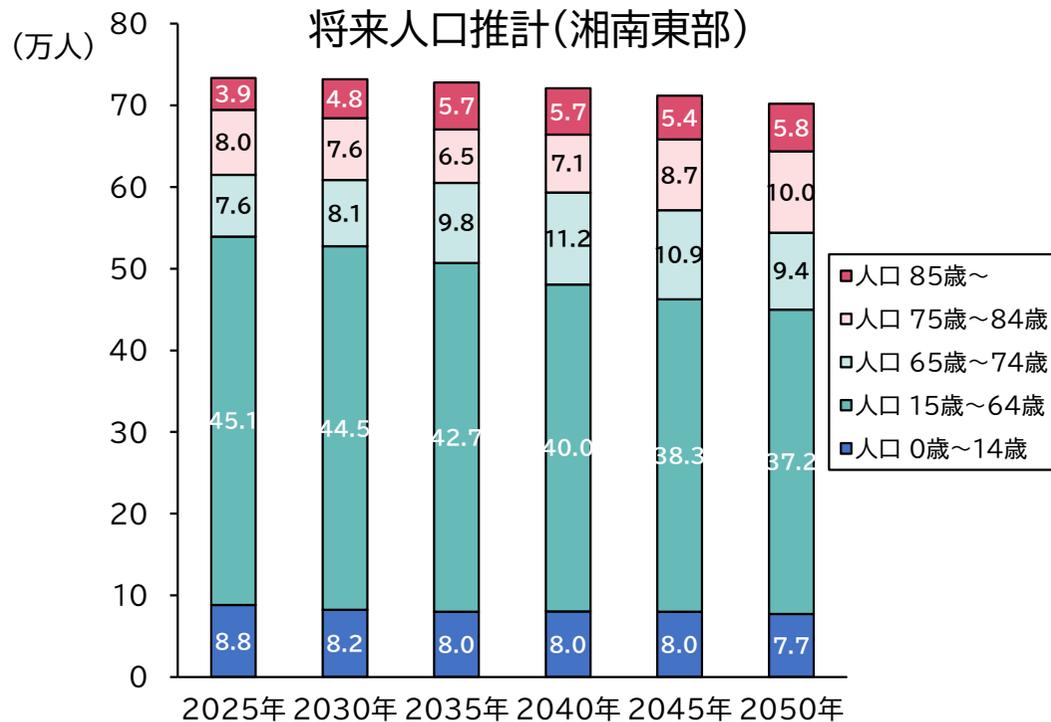
- ・同病院は、川崎北部医療圏の高津区及び宮前区と隣接し、2024年がん登録では、全体数1,493人のうち、高津区206人（13.8%）、宮前区61人（4.1%）であった。今後、拠点病院になることで属する医療圏はもとより、他の医療圏とも連携しつつ質の高いがん医療が期待できる。

新規推薦(2)

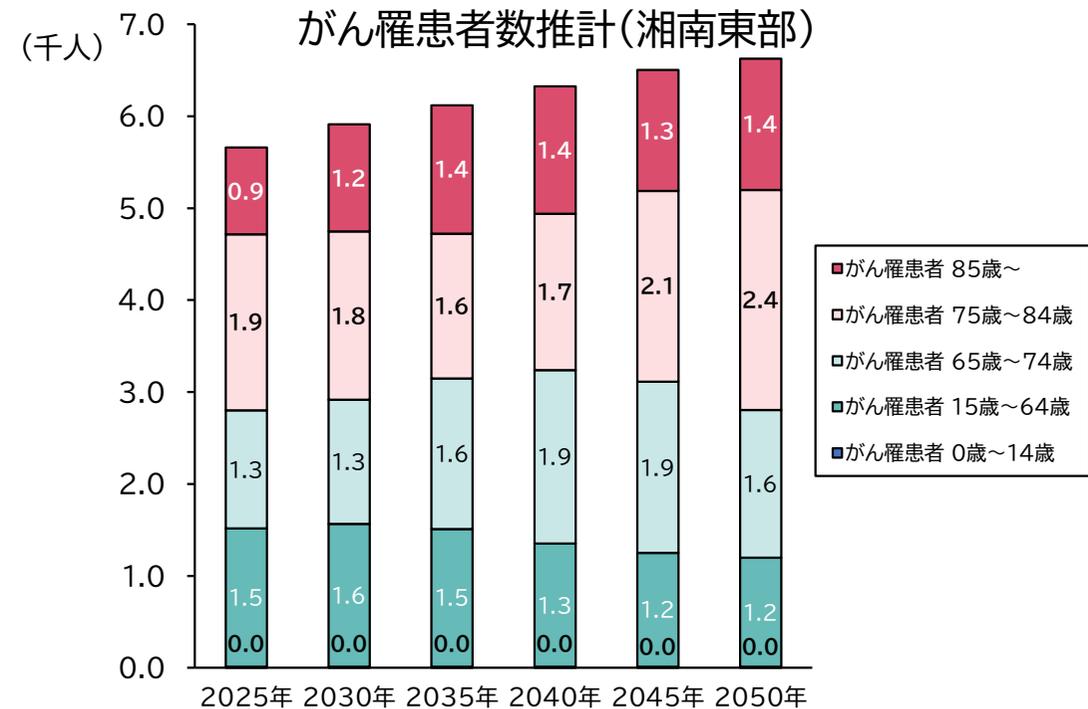
【地域がん診療連携拠点病院】 湘南藤沢徳洲会病院(湘南東部医療圏)

湘南東部医療圏

- ・湘南東部医療圏の人口は、737,474人（令和7年1月1日現在）で神奈川県人口の7.99%を占め、県内では4番目に人口の多い医療圏である。
- ・同病院は湘南東部医療圏の南東に位置し、同医療圏には地域がん診療連携拠点病院として藤沢市民病院が指定されている。

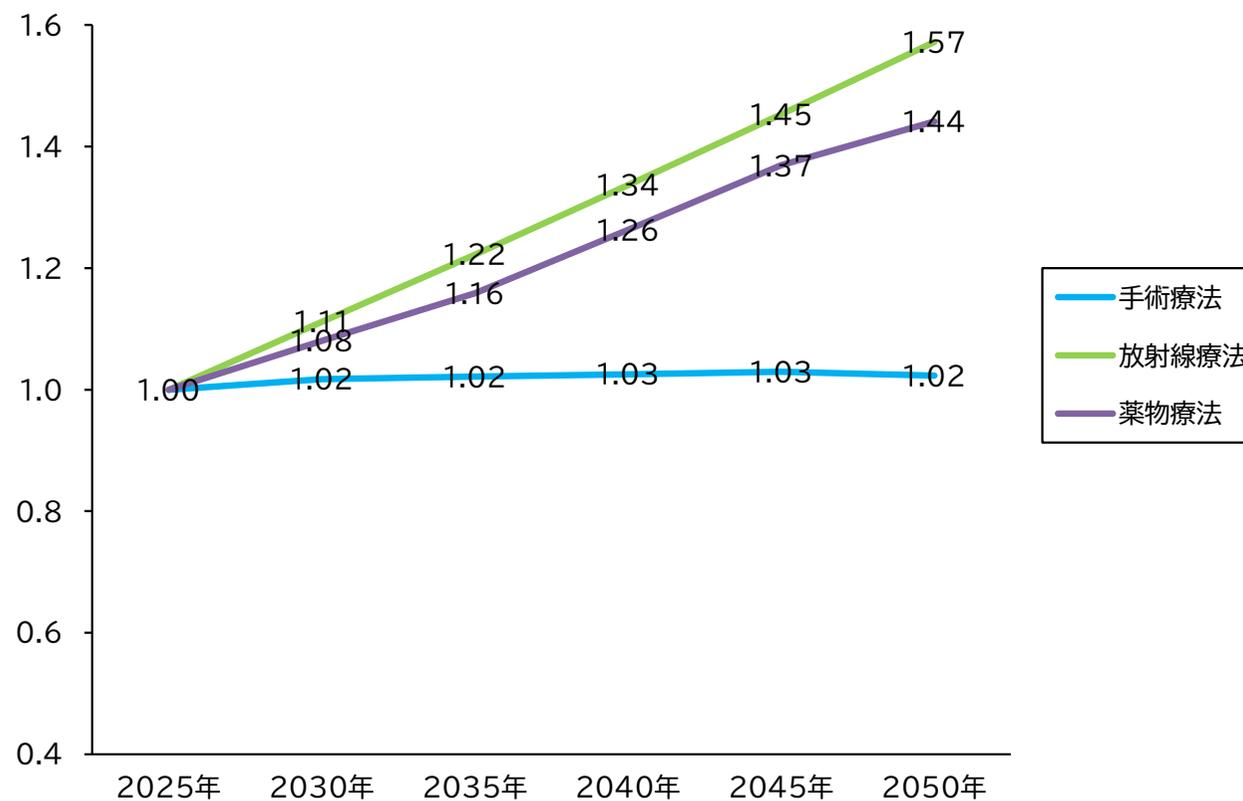


将来人口推計では、2050年まで一貫して減少し、総人口に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。



がん罹患患者数推計では、2050年まで一貫して増加し、総罹患患者数に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

新規診断時の三大療法の需要推計(湘南東部)



新規診断時の三大療法の需要推計では、2050年まで手術療法を除き一貫して増加し、放射線療法の増加率が特に高い。

手術療法

- ・今後も増加傾向が続く胃がん、大腸がん、肝がん、前立腺がん等に関して、藤沢市民病院と同等の治療実績を有している。
(2024年：胃がん38件、大腸がん97件、肝がん13件、前立腺がん50件、乳がん81件、肺がん26件)

放射線療法

- ・放射線治療件数の10%が湘南西部医療圏からの患者であり、医療圏外からの患者も多い。(2023年度：577件のうち57件)
- ・放射線治療専門医は2名、うち乳がんの放射線治療専門の女性医師1名が在籍。
- ・治療効果と安全性が担保されつつ、外来かつ照射回数が5回と短期間で済む定位照射(SBRT)を積極的に実施。

薬物療法

- ・外来化学療法室は、2025年1月より23床から30床へと拡充し、より多くの患者に対応できる体制を整備するとともに、専門性の高い医療スタッフが連携しながら質の高いがん治療を提供。
- ・スタッフステーションでは、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士など多職種が集まり、カンファレンスを行える体制を整備。

集学的治療

- ・肝胆膵・消化器病センターを整備している特徴として、集学的治療を要する肝細胞がんは、県下有数(同医療圏内では最多)の症例数を有する。(2024年：手術13件、経皮的肝動脈化学塞栓療法47件、複合免疫療法(薬物療法)15件)

国際化に伴うがん治療体制

- ・近年の外国人患者の増加に対応するため、2016年に国際医療支援室を設置。常勤専従の5ヶ国言語対応可能な医療通訳5名を配置。医療通訳はコーディネーターも担っており、それぞれ英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語に対応。
- ・JMIP(外国人患者受け入れ医療機関認証制度)認証医療機関として外国人患者を積極的に受け入れており、2022年度は入院・外来合わせて2,368名(うちがん患者6名)、2023年度4,944名(うちがん患者17名)、2024年度は4,829名(うちがん患者10名)の外国人患者に対応し、月平均約400人の外国人患者を診療。
- ・藤沢市には2023年6月で7,593人、2025年9月で8,957人の外国人が居住し、また患者は同医療圏のほか、横須賀、厚木、座間からも来院している。

病理診断の充実

- ・病理専門医と細胞診専門医の両方の資格を持つ常勤医が3名在籍。
- ・院内にとどまらず院外においても、13の医療機関と連携しながら診断を行っており、院外受託実績は年々増加傾向。二次医療圏を含む広い範囲で病理医不足問題をカバーしている。
(組織診断 2023年：3,925件、2024年：4,678件) (細胞診 2023年：0件、2024年：464件) (迅速組織 2023年：13件、2024年：15件) (剖検 2023年：1件、2024年：3件)

病院へのアクセスの良さ

- ・神奈川県西部より東京に向かう国道1号線沿いにあり、東名高速道路へのアクセス道路である新湘南バイパス出入口に近接。
- ・JR東海道線辻堂駅から徒歩7分の徒歩圏に位置し、公共交通および自動車を含め交通利便性が非常に高く、病院近郊のみならず、伊豆～県西からの受診者もいる。
- ・病院独自に地域シャトルバスが周辺地域で運行されており、自転車や自家用車を有しない移動の困難な住民にとって利便性が高い。

他の拠点病院及び地域の医療機関との連携体制

- ・ 2024年の院内がん登録患者の同医療圏内での内訳は、藤沢市在住の患者は44.66%、茅ヶ崎市と寒川町在住患者の合計が40.39%で、過半数弱の患者が、医療圏内でも西側に居住している。
- ・ 藤沢市の166施設(クリニック)が連携登録施設となっており、藤沢市民病院は317施設(クリニック)となっている。一方、茅ヶ崎市と寒川町の92施設(クリニック)が湘南藤沢徳洲会病院の連携登録施設となっており、藤沢市民病院の同地域における連携登録施設は21施設であり、役割分担ができています。
- ・ 通院の負担軽減を図るため、茅ヶ崎市と寒川町へのシャトルバスを運行。同医療圏内でも茅ヶ崎市在住のがん患者を積極的に受け入れており、藤沢市民病院とは立地条件的に役割分担ができています。

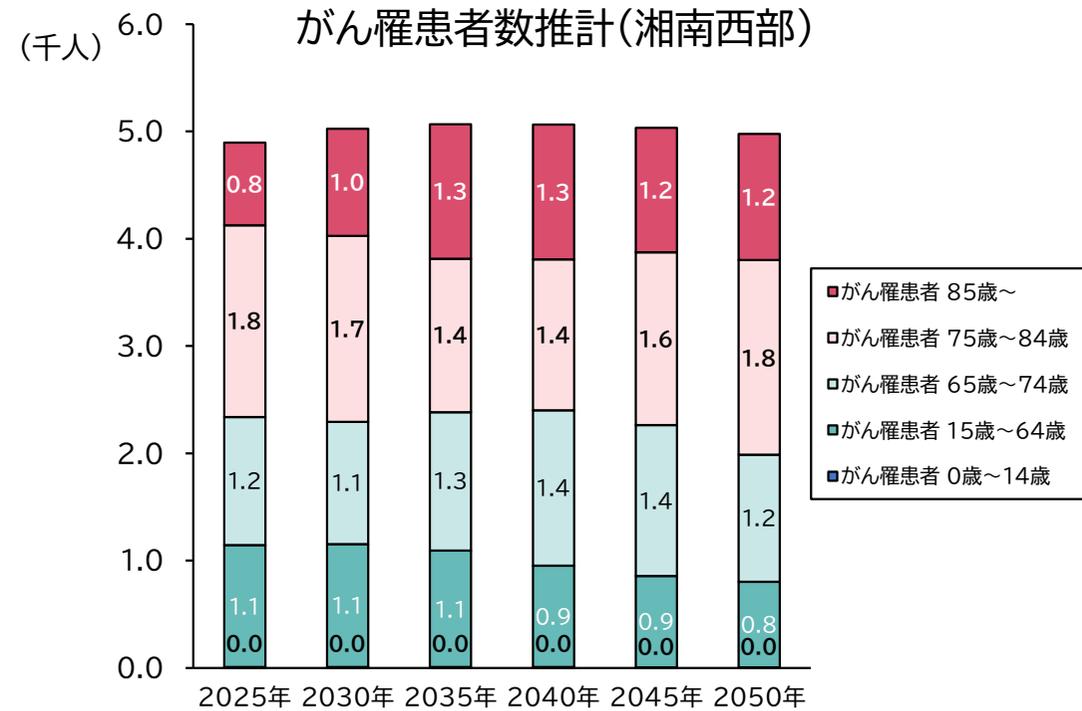
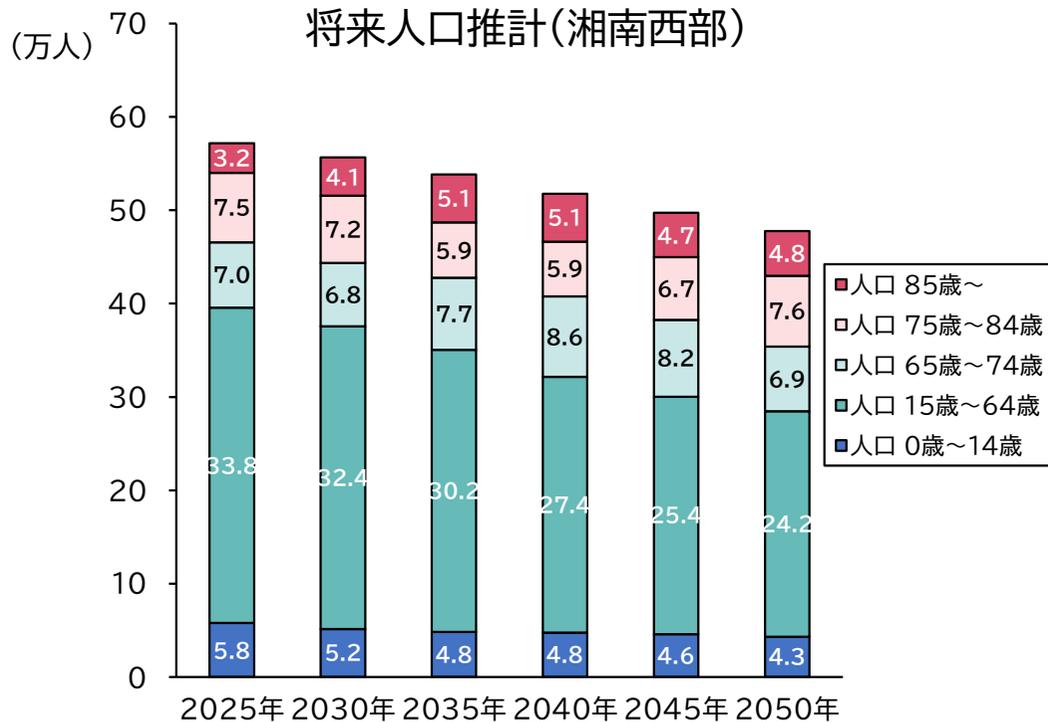
同病院が地域がん診療連携拠点病院になることの効果

- ・ 湘南東部医療圏には、既指定の拠点病院である藤沢市民病院があるが、湘南藤沢徳洲会病院が拠点病院となることで、更なる連携を図ることができる。また、隣接する医療圏の拠点病院との連携協力体制にも一層注力できることから、医療資源の不足解消や、より質の高い医療提供が期待できる。

【地域がん診療連携拠点病院】 平塚市民病院(湘南西部医療圏)

湘南西部医療圏

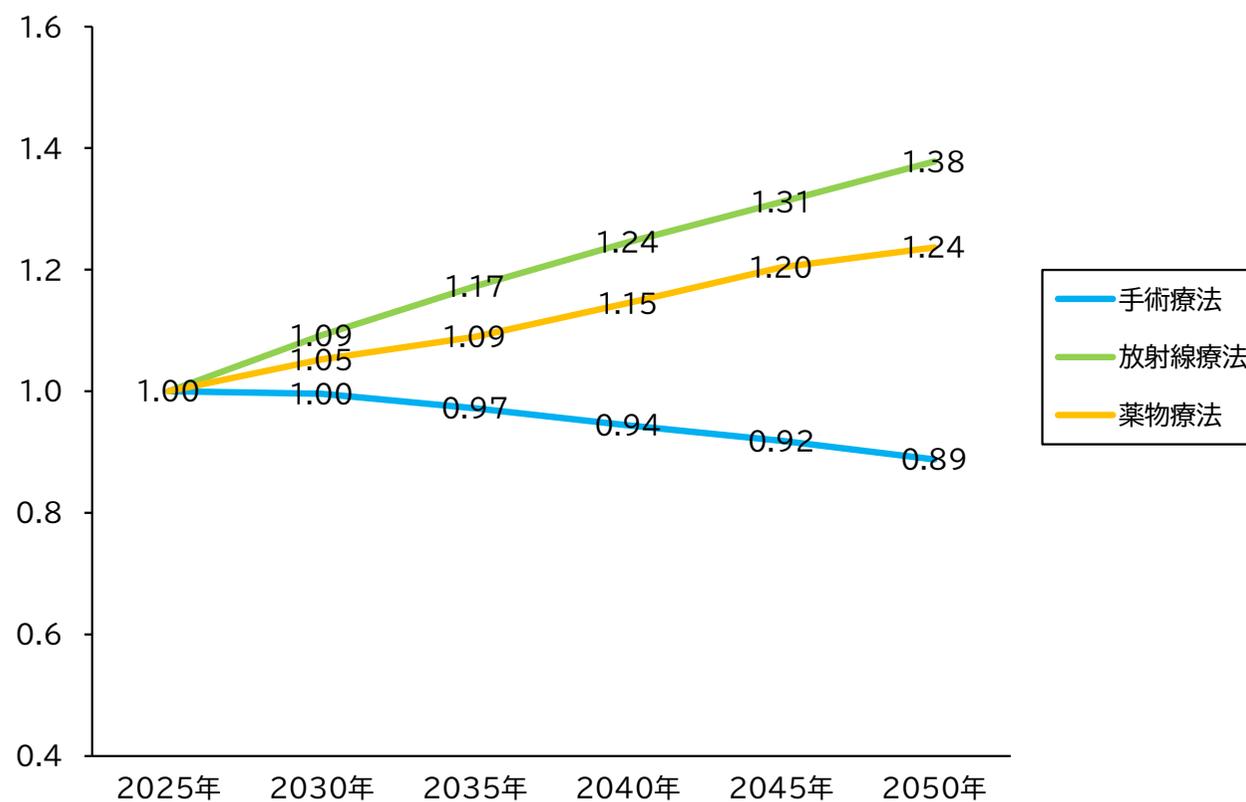
- ・ 湘南西部医療圏の人口は、577,227人（令和7年1月1日現在）で神奈川県人口の6.26%を占め、県内では8番目に人口の多い医療圏である。
- ・ 同病院は湘南西部医療圏の中央南に位置し、同医療圏には地域がん診療連携拠点病院として東海大学医学部附属病院が指定されている。



将来推計人口では、2050年まで一貫して減少し、総人口に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

がん罹患患者数推計では、2040年をピークに減少し、総罹患患者数に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

新規診断時の三大療法の需要推計(湘南西部)



新規診断時の三大療法の需要推計では、2050年まで手術療法が一貫して減少。一方、放射線療法及び薬物療法が一貫して増加し、放射線療法の増加率が特に高い。

手術療法

- ・ 2023年度DPCデータによる平塚市・中郡エリアの急性期病院における「悪性腫瘍・手術あり（MDC 6分類）」症例は全体で1,335件あり、そのうち同病院は783件（58.7%）を担っている。
- ・ 外科においては、勤務環境の整備により特に消化器外科医、女性外科医が常勤で多数在籍しているほか、日本専門医機構によって認定された外科領域専門研修プログラムを有する基幹施設として、専門医の育成に努めており、2040年に向けても安定して人材を確保し手術を実施できる環境となっている。

放射線療法

- ・ 放射線治療専門医が3名常勤で在籍しており、日本放射線腫瘍学会（JASTRO）の認定施設となっている。
- ・ 強度変調回転照射（VMAT）や定位放射線治療（SRT）、深吸気息止め照射（DIBH）などの高精度、低侵襲照射を実施し、照射患者数は年間200人を超えていることから、高度で安定した治療が提供できる体制にある。

薬物療法

- ・ 日々進歩する分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬による治療は多職種が連携し、入院だけでなく外来でも安全に数多く実施している。
- ・ 令和6年に実施した注射による化学療法の延べ件数は合計3,478件あり、そのうち3,062件（88.0%）を外来で実施。外来化学療法を積極的に取組むことで、患者の経済的負担を軽減し、生活の質の維持に配慮している。

病院へのアクセス

- ・平塚市民病院の入院患者の地域別割合は、平塚市と中郡に居住している患者が88%であるのに対し、伊勢原市と秦野市に居住している患者は4%に留まっていることから、南北方向のアクセスに制約があることが分かる。
- ・伊勢原市に東海大学医学部付属病院があるが、患者の主な移動手段である電車と自家用車の利用に鑑みると、同医療圏内で南北をつなぐ鉄道や幹線道路がなく、アクセスが悪い。一方、平塚市は東海道線と国道1号線、伊勢原市は小田急線と国道246号線のように、東西の動線は充実している。

他の拠点病院との連携とがん診療の取組

- ・既指定の拠点病院である東海大学医学部付属病院は大学病院の本院であるため、学術、研究に対する協力や希少がんなどに対する高度な専門治療については、十分に連携が図られている。
- ・がん診療に対する充実を図るため、令和7年（2025年）12月に22床の緩和ケア病棟を設置する予定で病棟の改修を進めている。患者・家族の多様なニーズに応えるため、医師・看護師のみならず、薬剤師、心理士、ソーシャルワーカー、リハビリ技師など多職種が連携し、質の高い全人的ケアを実践していく。

同病院が地域がん診療連携拠点病院になることの効果

- ・湘南西部医療圏には、既指定の拠点病院である東海大学医学部付属病院があるが、同医療圏の特徴として南北のアクセスに制約があるため、南側エリアに設置することで、生活圏から拠点病院へのアクセスが向上すると考えられる。
- ・平塚市民病院は、これまでの実績に加え、更にごがん診療提供体制の充実を図る方向性にあるため、拠点病院として指定されることで、同医療圏におけるがん医療提供体制の質の向上が期待できる。

新潟県

新潟県 がんの医療圏（*）の概要

（令和7年9月1日時点）

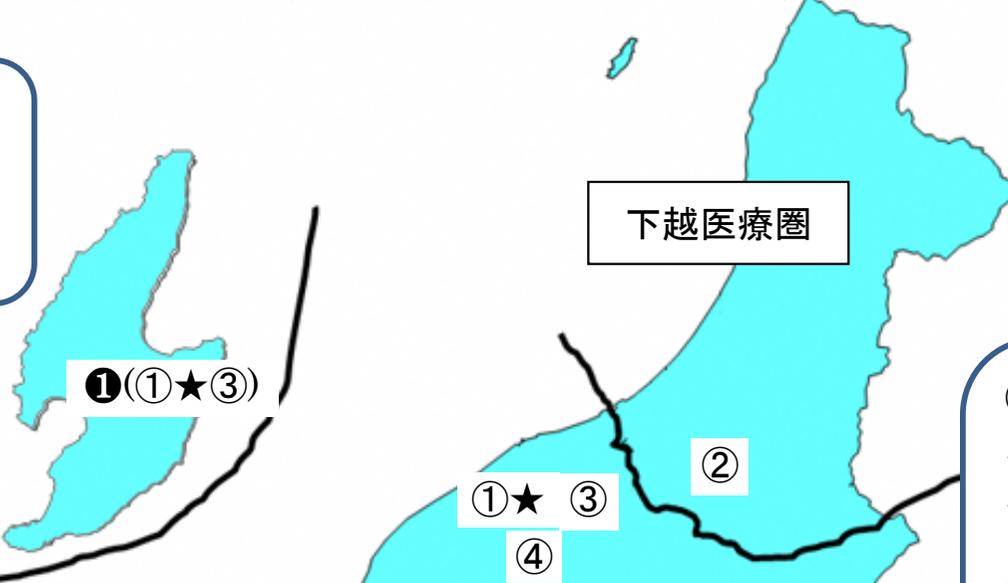
	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院						
							推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳					
								新規申請	指定更新	指定類型 変更		現況報告	新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告	
1	下越	2319.13	185966	9%	80.18	16	0				1	0					
2	新潟	2223.55	850147	41%	382.33	47	0				3	0					
3	県央	733.51	202887	10%	276.59	9	0				0	0					
4	中越	1636.93	404180	20%	246.91	19	0				2	0					
5	魚沼	2649.2	142471	7%	53.77	10	0				1	0					
6	上越	2165.93	241467	12%	111.48	14	0				1	0					
7	佐渡	855.68	45388	2%	53.04	2	0				0	0				1	
	県(全体)	12583.93	2072506	1	164.69465	117	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	1

（*）新潟県のがんの医療圏は2次医療圏と一致している。

新潟県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

佐渡医療圏に住むがん患者を新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して対応している。

佐渡医療圏



①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院で対応している。

空白の県央医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院で対応している。

中越医療圏

県央医療圏
(空白の医療圏)

上越医療圏

魚沼医療圏

★: 都道府県拠点

- ① 県立がんセンター新潟病院★（平成27年4月1日）
- ② 県立新発田病院（平成28年4月1日）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（平成27年4月1日）
- ④ 新潟市民病院（平成28年4月1日）
- ⑤ 長岡赤十字病院（平成27年4月1日）
- ⑥ 長岡中央総合病院（平成27年4月1日）
- ⑦ 県立中央病院（平成27年4月1日）
- ⑧ 魚沼基幹病院（令和3年4月1日）
- ① 佐渡総合病院（平成29年4月1日）

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	新潟	★	現況	県立がんセンター新潟病院	(3,556) 2,995	(3,364) 2,941	(2,906) 3,295	(1,017) 975	412	38%	12,127
2	下越		現況	県立新発田病院	(1,385) 1,358	(768) 721	(1,218) 1,207	(298) 389	63	54%	1,538
3	新潟		現況	新潟大学医歯学総合病院	(2,044) 2,121	(1,486) 1,455	(2,143) 2,247	(683) 652	189	25%	3,133
4	新潟		現況	新潟市民病院	(1,835) 1,675	(1,835) 1,069	(2,194) 2,228	(289) 261	242	16%	695
5	中越		現況	長岡赤十字病院	(1,972) 1,908	(1,972) 1,013	(3,994) 2,797	(389) 528	485	35%	689
6	中越		現況	長岡中央総合病院	(1,970) 1,927	(1,970) 1,690	(1,257) 2,754	(406) 376	68	41%	367
7	魚沼		現況	魚沼基幹病院	(924) 1,107	(924) 508	(3,573) 1,928	(263) 274	96	38%	571
8	上越		現況	県立中央病院	(1,439) 1,478	(878) 876	(1,507) 1,637	(435) 390	65	43%	489

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん 登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施してい れば)	緩和ケア	がん相談支援 センター
				院内がん 登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	佐渡	現況	佐渡総合病院	(388) 361	(178) 161	(1,674) 238	(80) 101	29	593

新潟県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して佐渡医療圏に住むがん患者に対応するため、①の病院を推薦する。

佐渡医療圏

①(①★③)

下越医療圏

下越医療圏に住むがん患者に対応するため、推薦する。

①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院を推薦する。

新潟医療圏

空白の県央医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院を推薦する。

中越医療圏

県央医療圏
(空白の医療圏)

★:都道府県拠点

上越医療圏

⑦

上越医療圏に住むがん患者に対応するため、推薦する。

魚沼医療圏

魚沼医療圏に住むがん患者に対応するため、推薦する。

- ① 県立がんセンター新潟病院★（現況）
- ② 県立新発田病院（現況）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（現況）
- ④ 新潟市民病院（現況）
- ⑤ 長岡赤十字病院（現況）
- ⑥ 長岡中央総合病院（現況）
- ⑦ 県立中央病院（現況）
- ⑧ 魚沼基幹病院（現況）
- ① 佐渡総合病院（現況）

1. 今回推薦に係る新潟県の考え方

- 本県におけるがん患者の受療動向及びがん医療提供体制等を踏まえ、現在指定を受けている全病院を推薦したい。
※本県におけるがん患者の受療動向については【参考1】を、がん医療提供体制については、【参考2】を参照
- 空白となっている以下の医療圏については、引き続き、がん診療連携拠点病院等の指定を検討していく。
・県央医療圏・・・令和6年3月に開院した県央基幹病院の動向を踏まえ、指定推薦を検討する。

2. 同一医療圏における複数の拠点病院等の指定について

(1) 新潟医療圏

- 県立がんセンター新潟病院は、5大がん以外のがんについて全県的に対応しており、特に血液腫瘍等では全国有数の診療実績
- 新潟大学医歯学総合病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応
- 政令指定都市である新潟市を含む新潟医療圏は人口が集中(80万人強・県人口の40%)し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、新潟市民病院を含む3病院で対応する必要有

(2) 中越医療圏

- 隣接する空白の県央医療圏に住むがん患者にも対応するため、長岡赤十字病院及び長岡中央総合病院の2病院が必要

⇒以上は、本県における患者の受療動向とも一致しており、推薦する全病院は本県のがん医療提供体制の充実・向上に必要である。

【参考1】新潟県におけるがん患者の受療動向

- 新潟医療圏は、県内で唯一全県から患者が流入している。
- 新潟医療圏では、人口が集中し、患者も多い中、同圏域内での受療率は9割を超えている。
- 空白の県央医療圏に住む患者の4割は、隣接する新潟・中越医療圏で受療している。

		受療先医療機関							合計	
		下越	新潟	県央	中越	魚沼	上越	佐渡		
患者 居 住 地	下越	患者数(人)	6,865	1,097						7,962
		自足率(%)	86.2%	13.8%						100.0%
	新潟	患者数	844	32,791	421	120		29		34,205
		自足率	2.5%	95.9%	1.2%	0.4%		0.1%		100.0%
	県央	患者数	44	2,380	4,900	1,260				8,584
		自足率	0.5%	27.7%	57.1%	14.7%				100.0%
	中越	患者数	56	309	225	15,392	39	16		16,037
		自足率	0.3%	1.9%	1.4%	96.0%	0.2%	0.1%		100.0%
	魚沼	患者数	12	79		988	5,942	55		7,076
		自足率	0.2%	1.1%		14.0%	84.0%	0.8%		100.0%
	上越	患者数				70	10	9,296		9,376
		自足率				0.7%	0.1%	99.1%		100.0%
	佐渡	患者数		684					1,978	2,662
		自足率		25.7%					74.3%	100.0%

※集計対象となっているレセプトは国民健康保険、退職国保、後期高齢者医療制度の令和3年度の診療分

※二次医療圏単位で10未満の数は集計対象外となっている

【参考2】新潟県におけるがん医療提供体制

【全県レベルの機能】

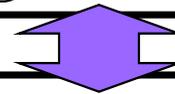
- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)以外のがんに対応
- ・高度な診断・診療機能
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携による県全体のがん医療提供体制の充実・向上(県立がんセンター新潟病院)

県立がんセンター新潟病院 (都道府県がん診療連携拠点病院)

- ・5大がん以外のがんについて、全県的に対応(特に、血液がん等では全国有数の診療実績)
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携

新潟大学医歯学総合病院

- ・県内唯一の特定機能病院・大学病院・がんゲノム拠点病院として、5大がんを含むすべてのがんに対する治療と研究を実施



連携によるがん医療提供体制の充実・向上

【2次医療圏レベルの機能】

- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)に対応。その他、各病院が得意とするがんに対応
- ・地域のがん診療を担う病院やかかりつけ医と連携し、地域のがん医療提供体制を充実・向上

下越医療圏

【下越医療圏を1病院で対応】

県立新発田病院

- ・圏域の基幹的な医療機関
- ・圏域内の医療従事者の研修の実施等、地域のがん診療の質の向上に寄与

佐渡医療圏

【新潟医療圏と連携して対応】

佐渡総合病院

- ・佐渡島内唯一の総合病院として、がん患者の大半を診療しているがん医療の中心的病院

新潟医療圏

【新潟医療圏、県央医療圏の一部を3病院で対応】

県立がんセンター新潟病院

- ・定位照射装置、PET等で高度な医療を提供
- ・がん登録の向上に重要な役割

新潟市民病院

- ・消化器がんへの鏡視下手術は県内最多の手術数、手術の後進育成に中心的役割
- ・県内病院の緩和ケア体制整備・普及に指導的役割

新潟大学医歯学総合病院

- ・希少ながんに全県的対応
- ・放射線療法・薬物療法・手術の全てで高度な治療
- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・がんゲノム医療拠点病院

中越医療圏

【中越医療圏、県央医療圏の一部を2病院で対応】

長岡赤十字病院

- ・肺がん等で高い実績
- ・患者支援チームによる質の高いがん医療の提供

長岡中央総合病院

- ・がん予防に尽力
- ・外来薬物療法の充実

上越医療圏

【上越医療圏を1病院で対応】

県立中央病院

- ・上部消化器腫瘍に重点
- ・隣接圏域も対象に高度な放射線治療の提供

魚沼医療圏

【魚沼医療圏を1病院で対応】

魚沼基幹病院

- ・圏域内の医療従事者への研修を実施、地域のがん診療の質の向上に寄与
- ・県内唯一の動体追跡併用定位放射線治療を実施

富 山 県

富山県がんの医療圏の概要

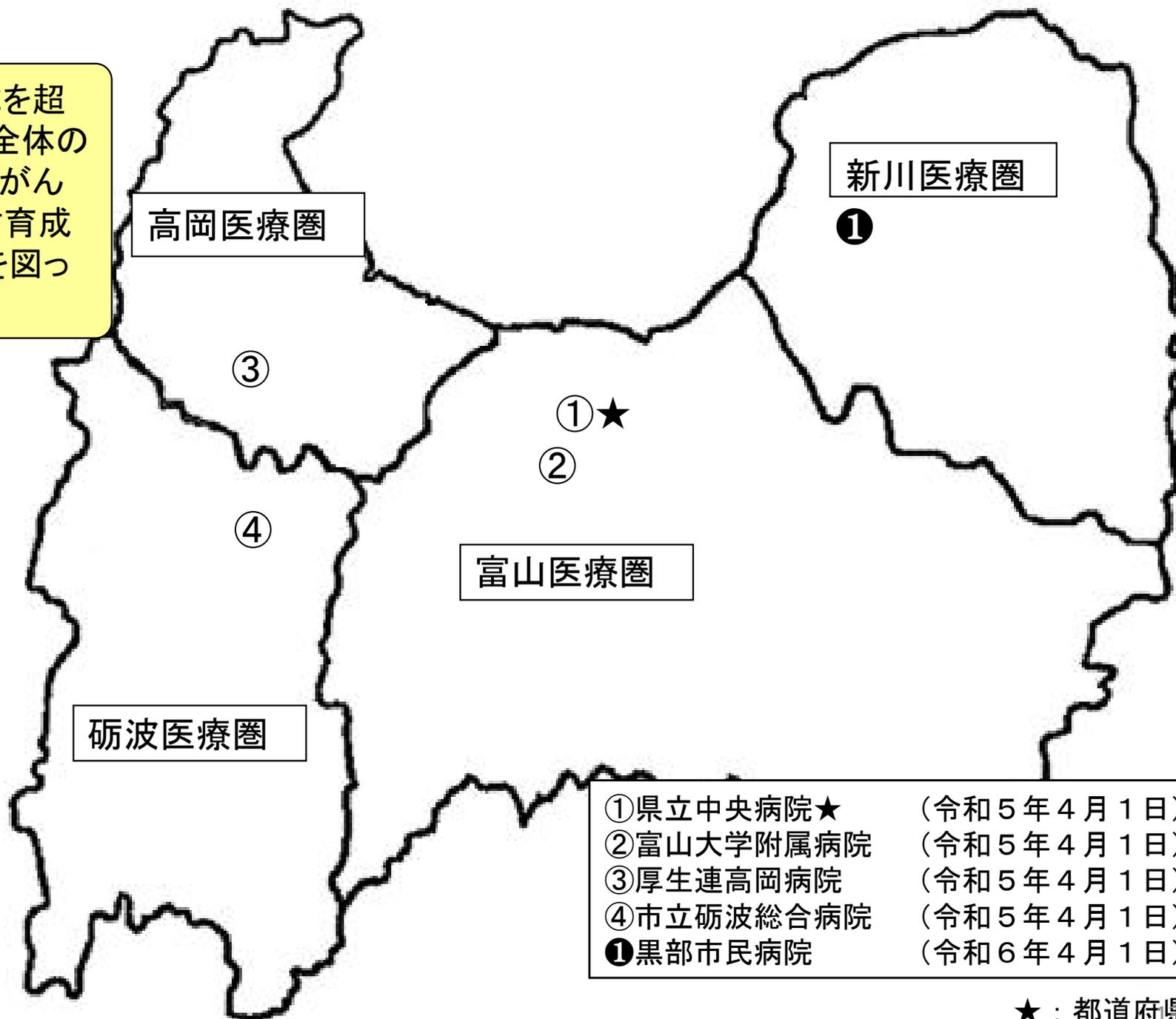
令和 7 年 9 月 1 日現在

	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院					
							推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳				
								新規申 請	指定更 新	指定 類型 変更		現況報告	新規申 請	指定更 新	指定 類型 変更	現況報告
1	新川医療圏	924	106,342	10.8%	115.1	14	0					0				1
2	富山医療圏	1,844	477,433	48.4%	258.9	47	0				2	0				
3	高岡医療圏	549	286,040	29.0%	521.0	26	0				1	0				
4	砺波医療圏	930	116,975	11.9%	125.8	16	0				1	0				
	県(全体)	4,247	986,790	100.0%	232.3	103	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1

富山県 令和7年4月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

5つの拠点病院が圏域を超えて相互に連携し、県全体のがん医療の均てん化、がん医療水準の強化、人材育成及び診療設備の充実を図っている。



★：都道府県拠点

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

- ・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点

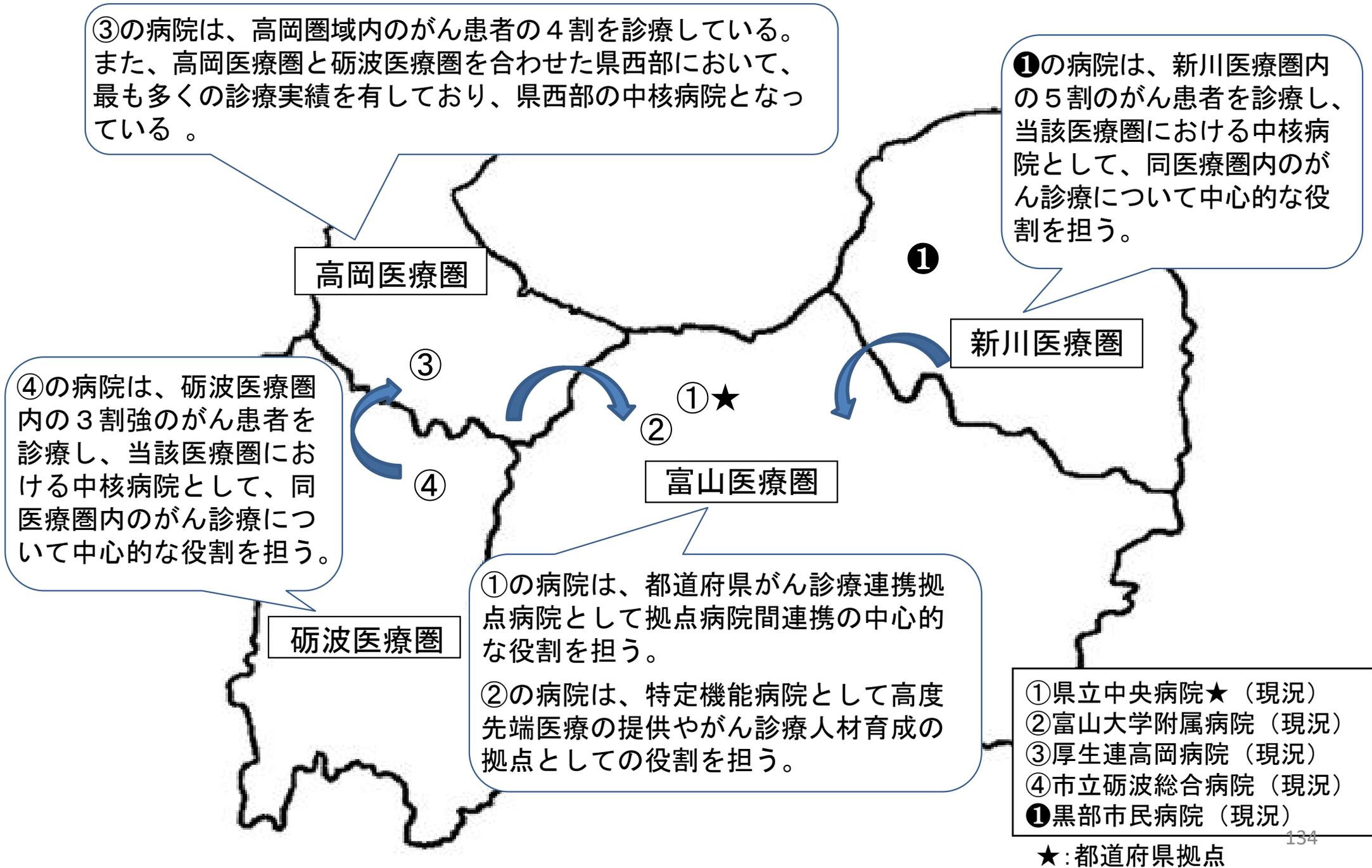
医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 富山	★		富山県立中央病院	(2,142) 2,156	(1,648) 1,531	(3,104) 3,237	(475) 477	(216) 673	(34) 34	(1,420) 1,907
2 富山			富山大学附属病院	(1,825) 1,766	(1,376) 1,377	(2,139) 2,410	(454) 472	(140) 153	(20) 20	(1,093) 1,035
3 高岡			厚生連高岡病院	(1,432) 1,436	(774) 636	(1,945) 2,017	(325) 328	(97) 144	(40) 40	(270) 511
4 砺波			市立砺波総合病院	(611) 587	(426) 732	(513) 615	(118) 128	(172) 137	(33) 31	(863) 733

地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん 登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	相談支援 センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の 手術件数(年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する 新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
1	新川		黒部市民病院	(621) 665	(410) 390	(898) 953	(105) 103	(91) 70	(432) 603

富山県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



本県では5つのがん診療連携拠点病院等が、医療圏別又は圏域を超えて相互に連携し、県全体のがん医療の均てん化や、がん医療水準の強化に努めている。

基本的な考え方

全国より早く高齢化が進展する本県のがん罹患率は全国を上回って推移しており、今後のさらなる高齢化に伴い、がん患者、認知症を有するがん患者の増加が見込まれる中で、これまでと同様に、県民が安心して質の高いがん医療を受けられるようにするため、下記のとおり、本県の拠点病院がこれまで担ってきた役割を継続・強化する必要がある。

- ①手術、放射線治療及び薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療や各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等をごん患者の状態に応じて適切に施していくこと
- ②緩和ケアチームの介入によるがん患者の負担軽減
- ③医師・看護師等のがん専門人材の育成・医療安全に対応する人材の育成・配置
- ④高度な先端技術等を用いた治療やがんゲノム医療の実践に向けた取組みといった最新の医療技術への対応

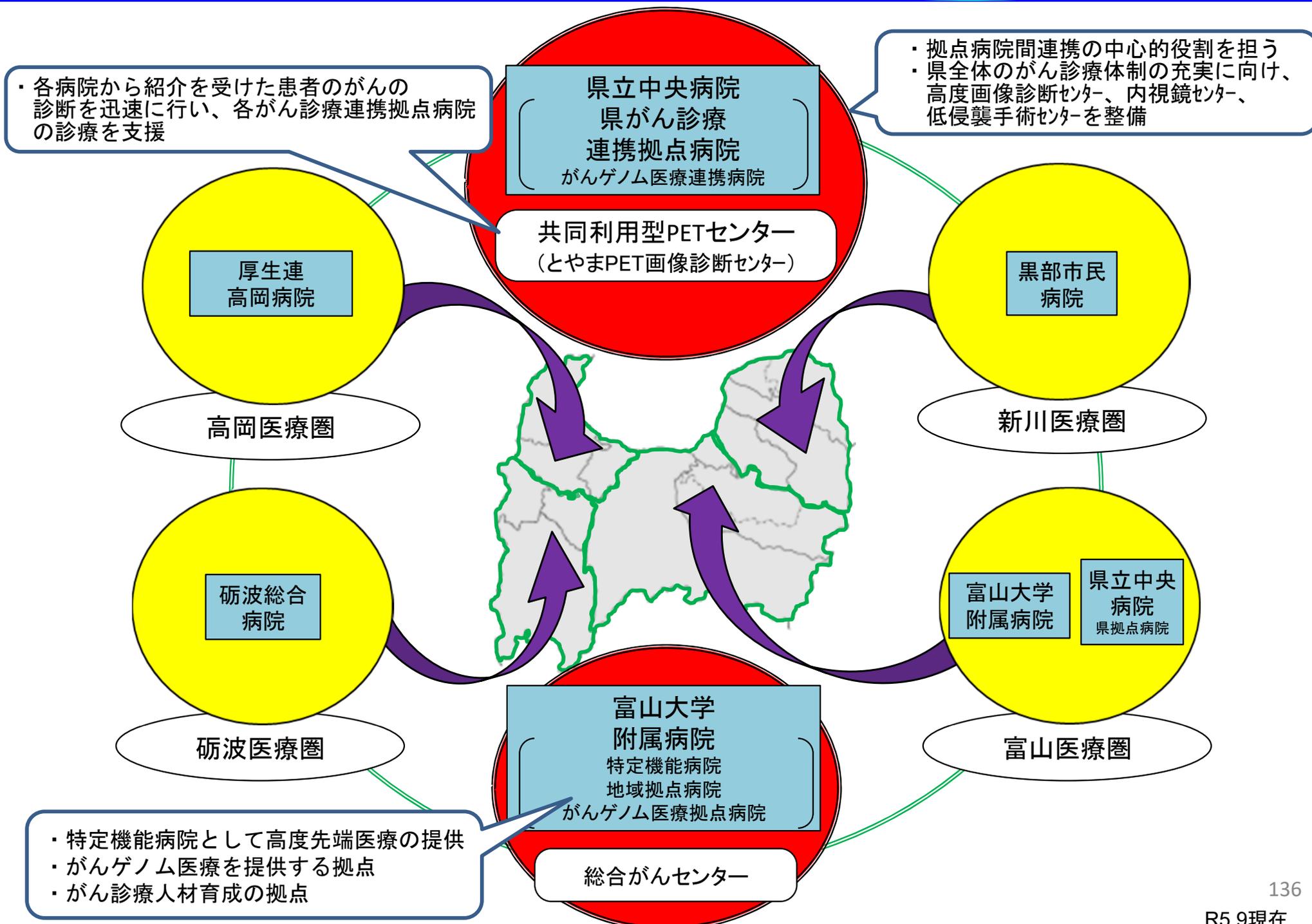
県計画等における位置付け

本県では、がんの克服を疾病対策の重要課題と位置付け、国の「がん対策推進基本計画」に基づき、「富山県がん対策推進計画」を策定し、「予防の強化と早期発見の推進」「質の高い医療の確保」「患者支援体制の充実」の3つを重点課題として、総合的ながん対策を推進してきた。

現在の第4期計画においては、拠点病院が連携協力し、病院毎の特性を活かしながら、二次医療圏毎に、集学的医療、緩和ケア、在宅療養支援を提供できる体制を構築し、患者支援体制の充実及び県全体のがん医療水準のさらなる向上を図ることとしている。

今後の富山県のがん診療体制

都道府県がん診療連携拠点病院として県立中央病院が拠点病院間連携の中心的役割を担い、地域がん診療連携拠点病院として富山大学附属病院、厚生連高岡病院、市立砺波総合病院、地域がん診療病院として黒部市民病院の5病院からなるがん診療体制により、高齢社会に対応した包括的ながん診療を提供することで、県民が安心して質の高いがん医療が受けられる体制の充実に取り組む。



石 川 県

石川県 がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

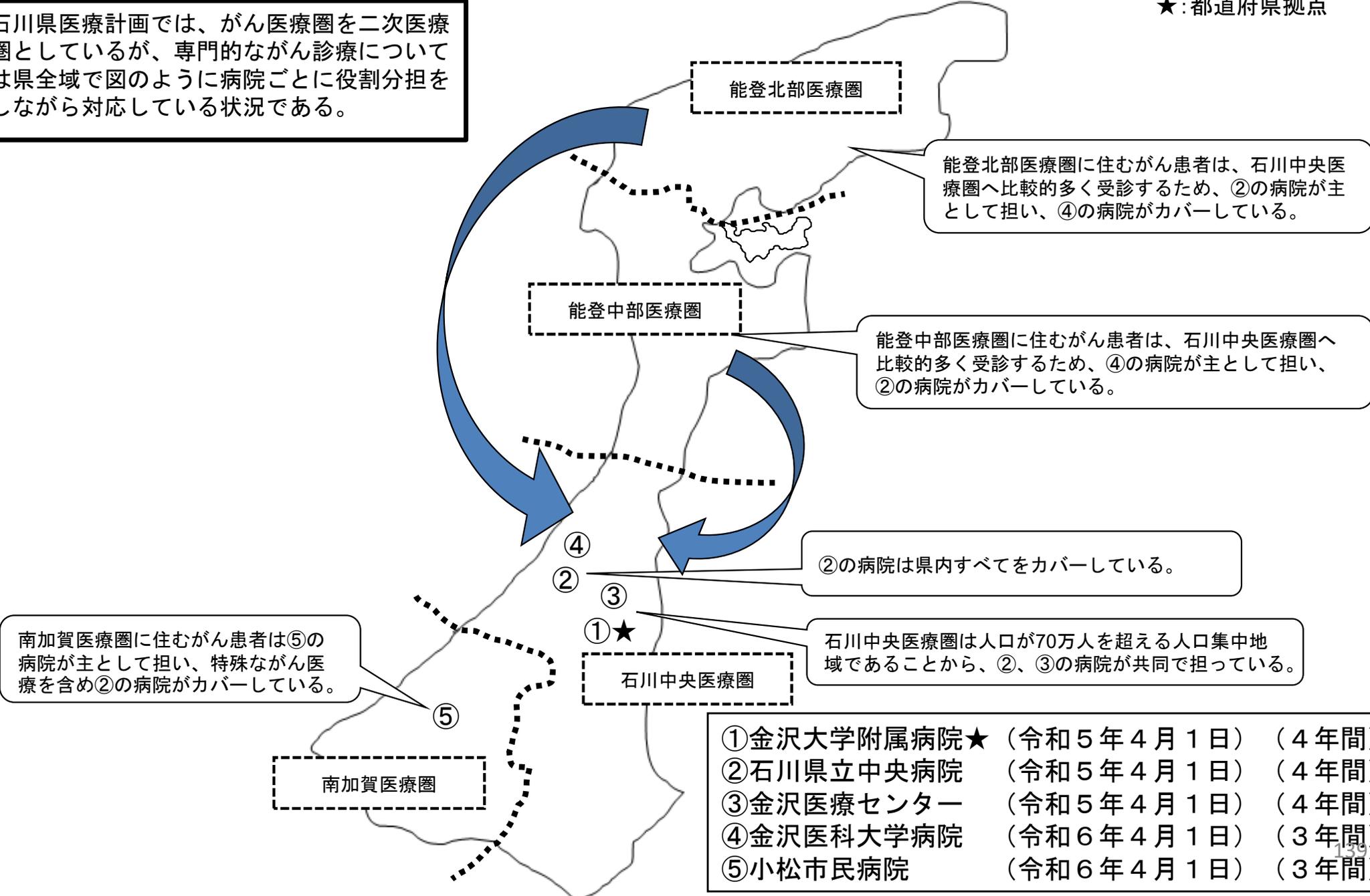
医療圏名		面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
							現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
二次 医療圏	能登北部医療圏	1,129.99	48,355	4.4	42.79	5	0	0	0	0
	能登中部医療圏	847.87	105,841	9.7	124.83	8	0	0	0	0
	石川中央医療圏	1,432.64	719,460	66.0	502.19	58	4	0	0	4
	南加賀医療圏	775.70	216,358	19.8	278.92	18	1	0	0	1
石川県		4,186.20	1,090,014	100	260.38	89	5	0	0	5

※ 特定領域がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院は該当なし

石川県 令和 7 年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

石川県医療計画では、がん医療圏を二次医療圏としているが、専門的ながん診療については県全域で図のように病院ごとに役割分担をしながら対応している状況である。

★: 都道府県拠点



①金沢大学附属病院★	(令和5年4月1日)	(4年間)
②石川県立中央病院	(令和5年4月1日)	(4年間)
③金沢医療センター	(令和5年4月1日)	(4年間)
④金沢医科大学病院	(令和6年4月1日)	(3年間)
⑤小松市民病院	(令和6年4月1日)	(3年間)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1 - ①

★：都道府県拠点

上段（ ）内は令和6年10月提出の数値（令和5年1月～12月実績）

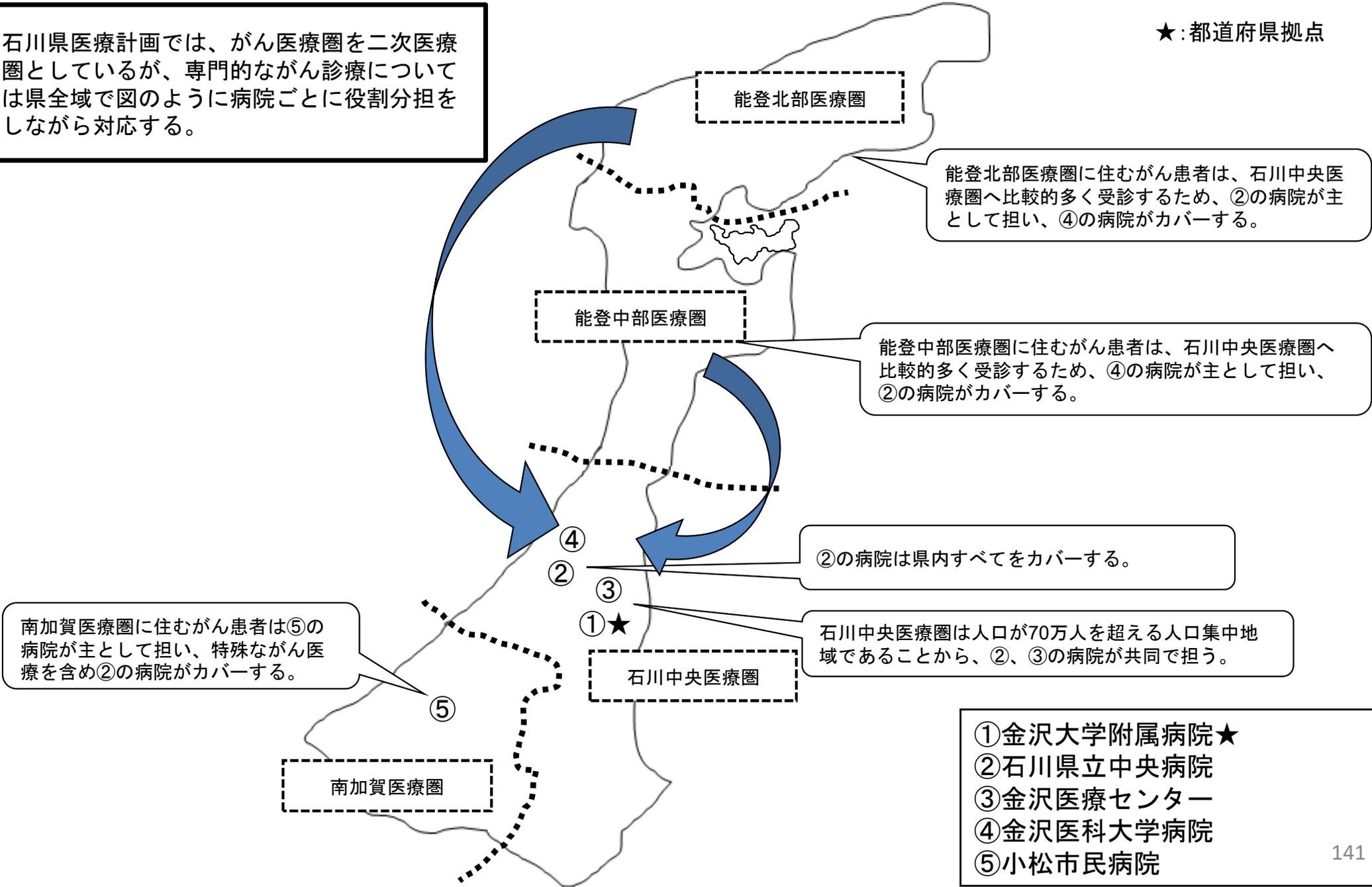
下段は令和7年10月提出の数値（令和6年1月～12月実績）

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する 新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住する がん患者の診療の割合(%)※ <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	★	現況報告	金沢大学附属病院	(1,955) 1,996	(1,608) 1,658	(2,252) 2,597	(649) 620	(150) 199	17.0	(4,909) 4,749
2		現況報告	石川県立中央病院	(2,337) 2,330	(1,619) 1,576	(1,960) 2,235	(420) 456	(51) 135	20.0	(1,349) 1,146
3		現況報告	金沢医療センター	(840) 820	(450) 412	(1,736) 1,879	(251) 224	(102) 144	5.7	(3,369) 3,483
4		現況報告	金沢医科大学病院	(1,370) 1,311	(979) 659	(1,374) 1,590	(300) 159	(185) 163	8.0	(1,667) 1,909
5		現況報告	小松市民病院	(836) 779	(457) 448	(1,516) 1,644	(190) 204	(88) 111	19.0	(1,148) 984

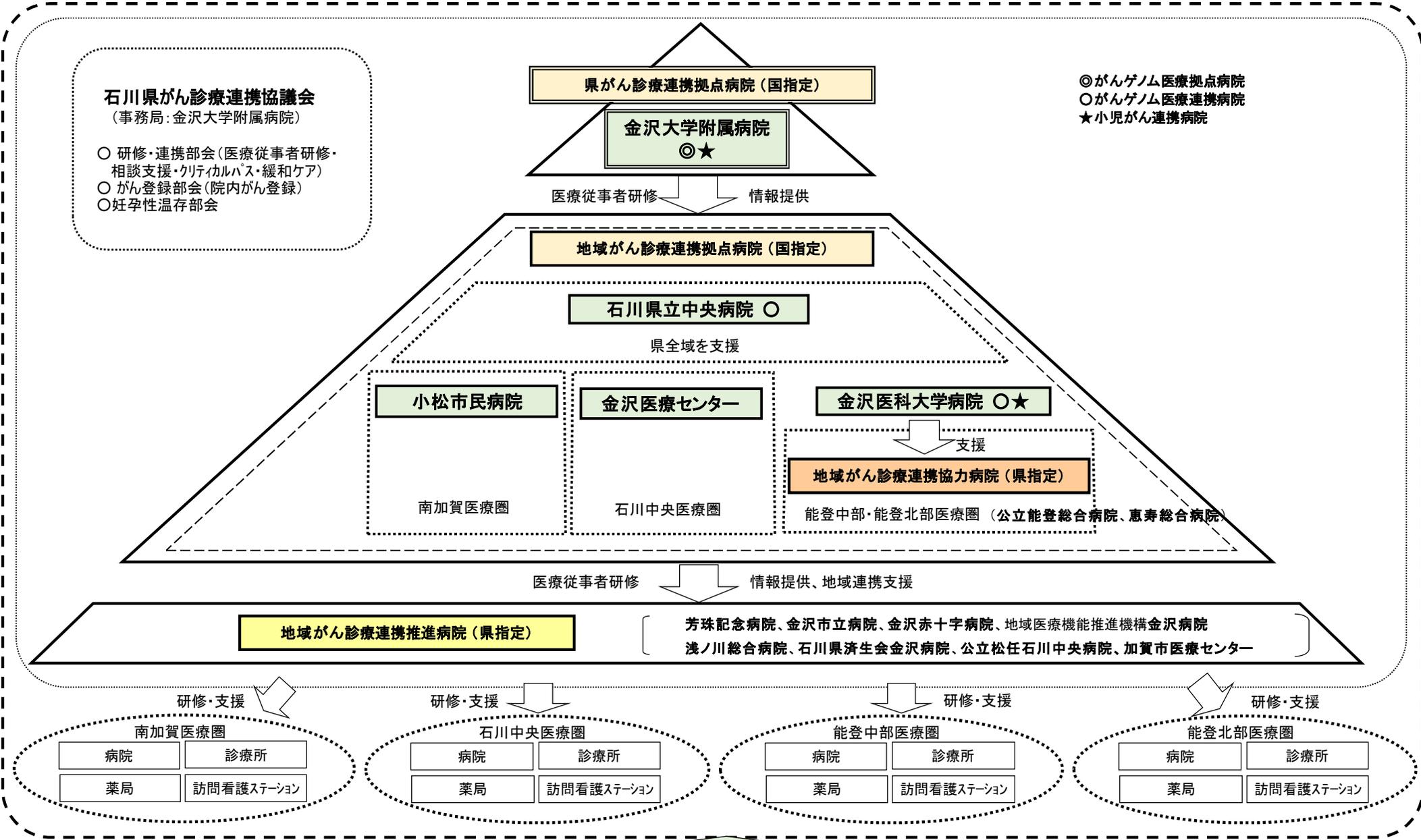
石川県 令和8年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

石川県医療計画では、がん医療圏を二次医療圏としているが、専門的ながん診療については県全域で図のように病院ごとに役割分担をしながら対応する。

★: 都道府県拠点



石川県のがん医療対策



石川県がん診療連携協議会
(事務局: 金沢大学附属病院)

- 研修・連携部会(医療従事者研修・相談支援・クリティカルパス・緩和ケア)
- がん登録部会(院内がん登録)
- 妊孕性温存部会

◎がんゲノム医療拠点病院
○がんゲノム医療連携病院
★小児がん連携病院

1 本県の地域特性と整備にあたっての方針

- ・がん診療については基本的に二次医療圏内で対応しているが、専門的で高度ながん診療については二次医療圏の枠を超えて県全域で対応する。
- ・地域がん診療連携拠点病院については4つの二次医療圏を基本として整備しているが、人口も医療資源も金沢市を中心とする石川中央医療圏に集中しており、国が定める指定要件を満たす医療機関が能登北部・能登中部医療圏には存在しないことから、高度ながん医療については石川中央医療圏の地域がん診療連携拠点病院で役割分担をしながらカバーする体制を確保する。
- ・高齢のがん患者が増加する中で、一般的ながん診療や緩和ケア等については身近な環境でがん医療を受けることができるよう、地域がん診療連携拠点病院と県指定の地域がん診療連携協力・推進病院の連携体制を確保する。
- ・がん医療が高度化する中で質の高いがん医療の提供を推進するためがん医療の均てん化と共に医療機関間の役割分担を踏まえた集約化を推進する。

2 県立中央病院と金沢大学附属病院の役割分担

金沢大学附属病院は、特定機能病院として、薬物療法や放射線治療などの専門部署であるがんセンターを置き、がんの集学的治療を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院等のがん医療の中心となる医師を対象とした薬物療法、放射線治療、緩和ケア等に関する研修を行うなど、地域がん診療連携拠点病院のがん診療レベルの向上を図り、本県におけるがん診療の均てん化を進めていく役割を担う。

一方、県立中央病院は、唯一の県立総合病院であり、県内すべての地域の医療機関との間で患者の受入や紹介といった地域連携を進めているほか、積極的な診療支援を行うなど、県全域を支援する。

福 井 県

福井県 がんの医療圏の概要

令和7年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	病院数	医師数 (R4現在)	がん診療連携拠点病院		
						都道府県 拠点病院	地域 拠点病院	計
福井・坂井	957.45	382,406	52.2	35	1,485	1	1	2
奥越	1126.31	48,473	6.6	6	68	0	1	1
丹南	1006.78	175,099	23.9	16	238	0	1	1
嶺南	1100.04	126,302	17.3	10	251	0	1	1

福井県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ・ ①の病院は、主に福井市、
②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町
- ・ ①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。
- ・ ②の病院は、特定機能病院として高度先端医療の提供および嶺南医療圏を含めた県内全域の他病院への人的支援、医療従事者への研修により、がん医療の人材育成・提供を行う。
- ①. ②の病院ともゲノム医療連携病院および小児がん連携病院としての指定を受け、県内のがんゲノム、小児がん医療の中心的な役割を担っている。

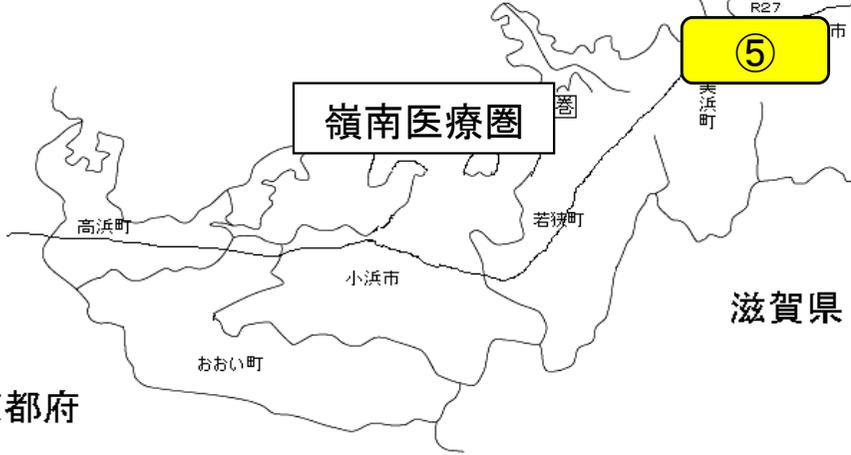
福井・坂井医療圏



奥越医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、③の病院でカバーする。

丹南医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、④の病院でカバーする。

嶺南医療圏



★：都道府県拠点病院

- ①福井県立病院 ★ (令和5年4月1日)
- ②福井大学医学部附属病院 (令和5年4月1日)
- ③福井県済生会病院 (令和5年4月1日)
- ④福井赤十字病院 (令和6年4月1日)
- ⑤市立敦賀病院 (令和6年4月1日)

がん診療連携拠点病院の実績

・上段は令和6年の実績、()内は令和5年の実績

	医療圏名	類型	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療 依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療の 割合(%) <u>2割程度</u>	のべ相談件数 (年間)
1	福井・坂井医療圏	都道府県拠点病院	福井県立病院	1,746 (1,489)	787 (787)	1,708 (1,589)	473 (518)	116 (162)	15 (15)	1,719 (1,064)
2	福井・坂井医療圏	地域拠点病院	福井大学医学部附属病院	1,683 (1,410)	1,194 (1,175)	2,340 (2,101)	235 (251)	547 (561)	24 (22)	1,274 (1,038)
3	福井・坂井医療圏	地域拠点病院	福井県済生会病院	1,233 (1,249)	705 (738)	1,709 (1,755)	405 (314)	271 (181)	30 (35)	1,020 (1,017)
4	福井・坂井医療圏	地域拠点病院	福井赤十字病院	1,212 (1,209)	911 (919)	1,028 (1,076)	257 (231)	173 (145)	30 (29)	1,424 (1,443)
5	嶺南医療圏	地域拠点病院	市立敦賀病院	773 (450)	234 (213)	513 (372)	27 (27)	110 (62)	21 (20)	116 (130)

福井県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ・①の病院は、主に福井市、
- ・②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町

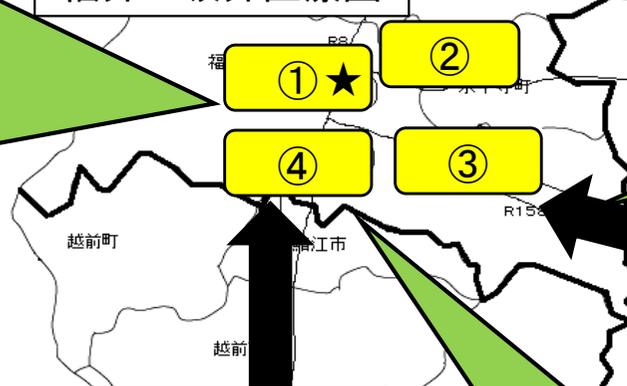
・①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。

・②の病院は、特定機能病院として高度先端医療の提供および嶺南医療圏を含めた県内全域の他病院への人的支援、医療従事者への研修により、がん医療の人材育成・提供を行う。

①、②の病院ともゲノム医療連携病院および小児がん連携病院としての指定を受け、県内のがんゲノム、小児がん医療の中心的な役割を担っている。

道路交通の利便性が悪く、嶺南医療圏に住むがん患者は自医療圏内の医療機関に受診するため、⑤の病院を維持する必要性が高い。

福井・坂井医療圏



奥越医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、③の病院でカバーする。

奥越医療圏
(空白の医療圏)

丹南医療圏
(空白の医療圏)

丹南医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、④の病院でカバーする。

★：都道府県拠点

嶺南医療圏



滋賀県

京都府

- ①福井県立病院 ★
- ②福井大学医学部附属病院
- ③福井県済生会病院
- ④福井赤十字病院
- ⑤市立敦賀病院

福井県のがん診療連携拠点病院整備について

(1) がん診療連携拠点病院の整備に関する本県の基本的考え方

- ・全国でもトップクラスの健康長寿県
- ・昭和55年以降、死因の第1位ががんであり、死因の約3割を占めている。
- ・がん医療提供体制の一層の充実を図り、県内どこでも質の高いがん医療を受けることができるよう、地域のがん医療の中核を担う地域がん診療連携拠点病院を県内4つのがんの医療圏に1か所ずつ、都道府県がん診療連携拠点病院をそれとは別に1か所整備する。
- ・今回、既指定の病院が引き続き指定を受けることにより、それぞれが担当するがんの医療圏で構築された病診連携体制をさらに発展させることができる。

(2) 福井・坂井医療圏 県がん診療連携拠点病院 1か所指定（福井県立病院） 地域がん診療連携拠点病院 1か所指定（福井大学医学部附属病院）

●担当地域と医療機能の分担による、限られた医療資源の効果的な発展

- ・福井県立病院は主に福井市、福井大学医学部附属病院は主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担当している。
- ・福井県立病院はがん医療センターや陽子線施設による高度ながん医療の提供やがん登録の推進および各地域がん診療連携拠点病院間の連携および地域のがん診療を行う医療機関との連携体制の構築等において中核的役割を果たしている。
- ・福井大学医学部附属病院は特定機能病院として高度先端医療の提供および大学病院として専門医の育成や嶺南医療圏を含めた県内全域の他病院への医師派遣など県内全域におけるがん医療の人材育成・提供機能を有している。
- ・両病院とも、がんゲノム医療連携病院および小児がん連携病院の指定を受け、県内のがんゲノムおよび小児がん医療を集約し、提供している。

(3) 奥越医療圏、丹南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 各1か所指定（奥越：福井県済生会病院、丹南：福井赤十字病院）

●空白の医療圏からのがん患者流入の実態を考慮した指定による受療機会の均てん化

- ・両医療圏には、地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院の指定要件を満たす病院がなく、将来的にも整備される見込みがない。
- ・各医療圏から地理的に近く、各医療圏のがん患者を多く受け入れている病院を地域がん診療連携拠点病院として指定している。

福井県済生会病院	奥越医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合	30%
福井赤十字病院	丹南医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合	30%

- ・福井県済生会病院は、高精度放射線治療装置トモセラピーを活用し、高度な医療を行うとともに、ハローワークと連携したがん患者の就労支援やがん哲学外来、多職種と相談できるメディカルカフェの開設等を行うなど、がん患者の支援に力を入れている。
- ・福井赤十字病院は、高精度放射線治療装置 Vero4DRTを活用し、高度な医療を行うとともに、県の地域連携クリティカルパスの整備、令和元年度から小児がん連携病院としての指定を受け、地域の医療機関との病診連携体制の構築において中心的な役割を担っている。

(4) 嶺南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 1か所指定（市立敦賀病院）

●医療機関との連携による医療体制の充実

- ・東西に長い地形に加え、交通の便が悪く、他医療圏への患者の流出が少ないため、当医療圏内での拠点整備の必要性が高い。
- ・市立敦賀病院は、医療圏に居住するがん患者の診療割合が21%と高く、医療圏におけるがん診療において大きな役割を果たしている。
- ・福井県立病院と連携した陽子線治療外来の設置。
- ・福井大学医学部附属病院からの多くの人的資源および人材交流による連携強化によって医療従事者の充実が見込まれる。

福井県のがん医療連携体制

都道府県がん診療連携拠点病院（福井・坂井）

陽子線がん治療施設

緩和ケアセンター
緩和ケア病棟



**福井県立病院
(がん医療センター)**

がんゲノム医療連携病院
小児がん連携病院
(R1.11.1指定)

- ・陽子線がん治療（高度X線治療と両方の実施が可能）
- ・ロボット支援手術の多部位展開（がん9部位）
- ・主要5部位の治療件数が県内最多
- ・日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構基幹施設
- ・地域への出張型カンファレンスの実施
- ・患者サロン（AYA世代サロン、オンライン活用）
- ・県がん登録室を配置、病院等への技術的支援（分析・評価）
- ・地域への出張型カンファレンスの実施
- ・見える事例検討会による地域の医療機関との連携促進

高度生殖医療センター



**福井大学医学部附属病院
(がん診療推進センター)**

緩和ケアセンター
緩和ケア病床

がんゲノム医療連携病院
(H30.4.1指定)
がんゲノム外来
小児がん連携病院
(R1.11.1指定)

- ・高度先端医療の実施
- ・ロボット支援手術の多部位展開（がん4部位）
- ・希少がんや難治がんに対する集学的医療体制の提供
- ・小児がん医療の実施
(薬物療法、外科治療、放射線治療などの集学的治療)
- ・AYA世代外来（小児がん長期フォローアップ外来）の整備
- ・がんゲノム外来の実績が県内最多
- ・がん生殖医療ネットワーク事務局
- ・各拠点病院の医療従事者への緩和ケアフォローアップ研修の実施
- ・患者会の支援サポート
- ・県内全域の病院等への人的、技術的支援
- ・大学間ネットワークを利用した広域的な連携（北信がんプロ）
- ・大学病院の教育機能を活かした人材育成・教育の実施
- ・がん教育の普及啓発

地域がん診療連携拠点病院（丹南）



緩和ケア病棟

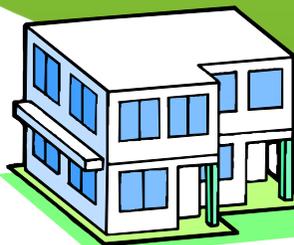
**福井赤十字病院
(がん診療センター)**

小児がん連携病院
(R1.11.1指定)
がんゲノム医療連携病院
(R3.4.1指定)

- ・圏域内病院等との連携
- ・情報連携体制の整備
- ・緩和ケア体制の推進
- ・小児がん医療の推進

福井県がん診療連携協議会

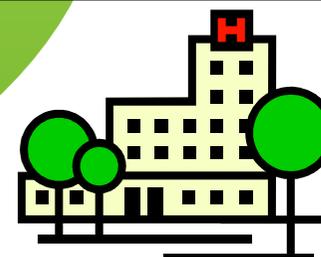
地域がん診療連携拠点病院（嶺南）



市立敦賀病院

- ・圏域内病院等との連携
- ・嶺南地域の医療水準の向上
- ・患者相談支援の推進
- ・緩和ケア体制の推進

地域がん診療連携拠点病院（奥越）



緩和ケア病棟

**福井県済生会病院
(集学的がん診療センター)**

- ・圏域内病院等との連携
- ・緩和ケア体制の推進
- ・患者相談支援の推進

山 梨 県

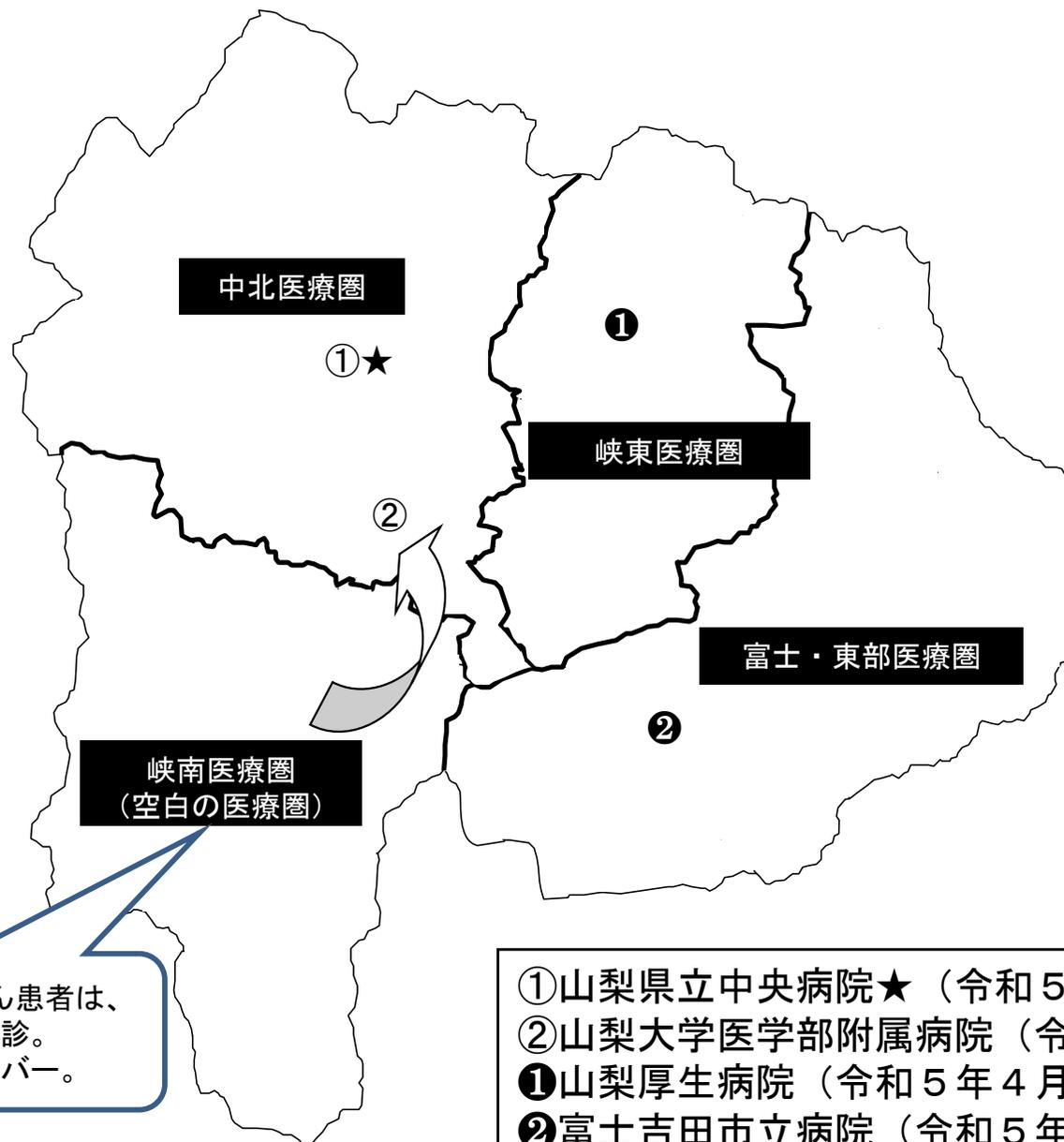
山梨県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
中北 医療圏	1335.5	453,323	57.8%	339.44	32	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
峡東 医療圏	755.83	123,497	15.7%	163.39	14	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
峡南 医療圏	1059.99	42,817	5.5%	40.39	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富士・東部 医療圏	1309.25	164,538	21.0%	125.67	8	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	4460.57	784,175	100.0%	175.80	60	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0

山梨県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



峡南医療圏に住むがん患者は、
中北医療圏へ受診。
主に②の病院でカバー。

- ①山梨県立中央病院★（令和5年4月1日）
- ②山梨大学医学部附属病院（令和5年4月1日）
- ①山梨厚生病院（令和5年4月1日）
- ②富士吉田市立病院（令和5年4月1日）

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

- ・ () 内は令和6年度提出の数値、下段は令和7年度提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対す る新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居 住するがん患者の診 療の割合 (%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
①	中北	★	現況報告	山梨県立中央病院	(1,858) 1,938	(1,207) 1,195	(8,613) 9,252	(487) 554	(345) 376	(30.4) 29.0	(1,525) 1,792
②	中北		現況報告	山梨大学医学部 附属病院	(2,190) 2,184	(1,375) 1,366	(3,520) 3,929	(558) 569	(414) 413	(35.0) 29.0	(1,069) 1,342

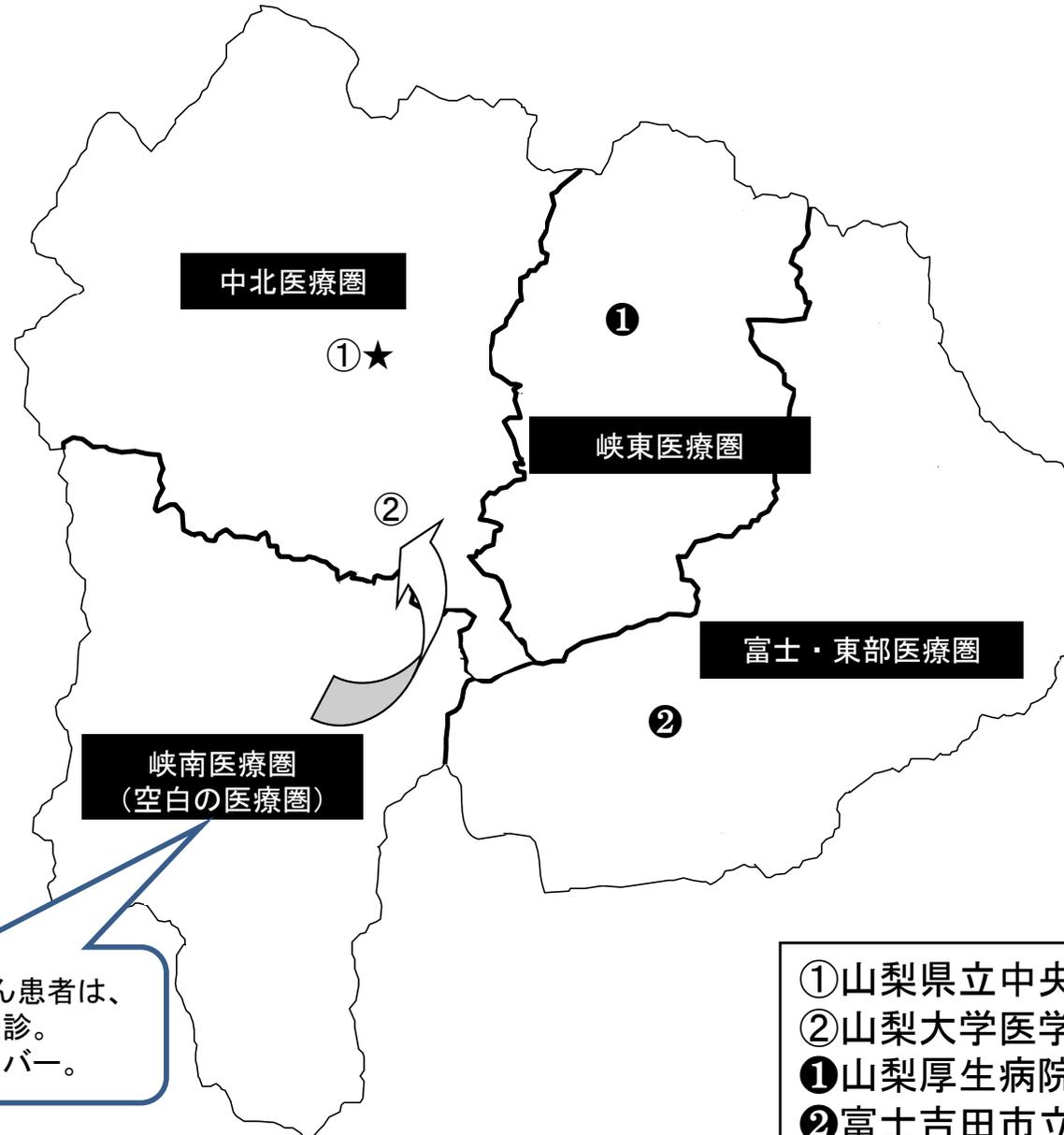
地域がん診療病院の診療実績等

- ・ () 内は令和 6 年度提出の数値、下段は令和 7 年度提出の数値
- ・ 申請区分は資料 4 の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する 新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	峡東	現況報告	山梨厚生病院	(409) 387	(472) 327	(1,703) 347	実施なし	(93) 79	(264) 242
②	富士・東部	現況報告	富士吉田市立病院	(483) 531	(246) 290	(961) 1,034	(114) 134	(40) 35	(437) 108

山梨県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点



峡南医療圏に住むがん患者は、
中北医療圏へ受診。
主に②の病院でカバー。

- ①山梨県立中央病院★（現況）
- ②山梨大学医学部附属病院（現況）
- ①山梨厚生病院（現況）
- ②富士吉田市立病院（現況）

今回の指定推薦に係る山梨県の考え方

がん医療の質の向上、それぞれのがんの特性に応じたがん医療の均てん化と集約化及び効率的かつ持続可能ながん医療を実現することを目標とする。

現 状

- 高度で専門的な医療機関が中北医療圏に集中しており、全ての医療圏において質の高いがん医療を提供できるよう、がん医療の均てん化を図ってきた。
- 空白の医療圏となっている峡南医療圏については、中北医療圏内の拠点病院がカバーしている。



今後の方針

- 2 拠点病院＋2 診療病院により現行のがん医療体制を維持。
 - 各拠点病院等が連携・協力することにより、県全体のがん医療の充実を図っていく。
-
- 今後も各拠点病院が行う診療体制の強化・充実に対して積極的に支援し、中北医療圏については、自圏域内でがん医療を完結する体制を維持。
 - 峡東医療圏については、地域がん診療病院である山梨厚生病院が山梨県立中央病院と連携することで、診療機能の充実を図り、基本がん診療の体制を継続する。
 - 富士・東部医療圏については、地域がん診療病院である富士吉田市立病院が山梨大学医学部附属病院と連携することで、診療機能の充実を図り、基本がん診療の体制を継続する。
 - 峡南医療圏については、立地状況や患者の受療動向等から、今後も中北医療圏内の拠点病院でカバーする体制を継続する。

長野県

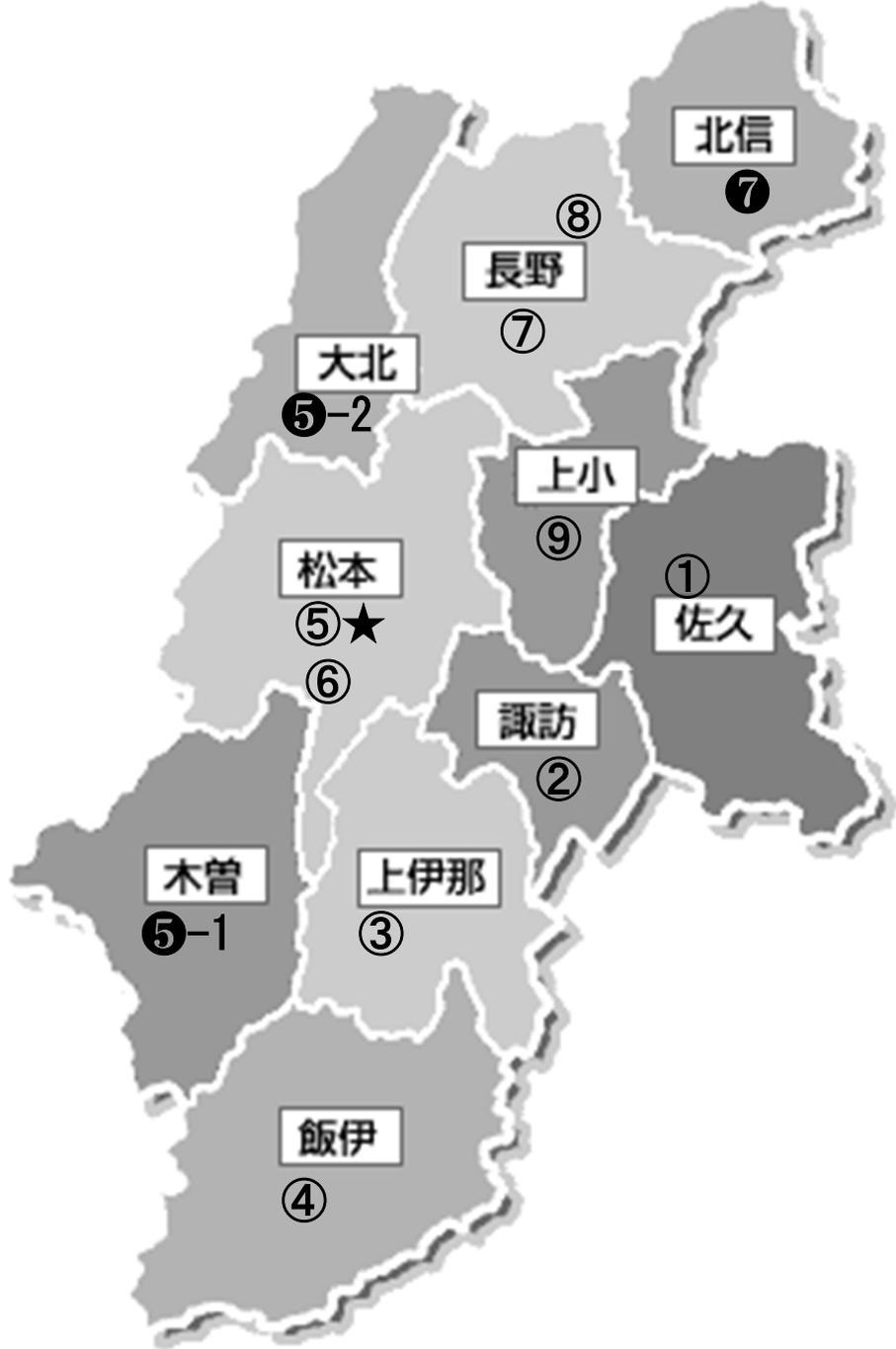
長野県 がん医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			計
						現況 報告 病院数	今回 現況報告 病院数	指定類型 変更 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 現況報告 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 現況報告 病院数	新規 申請 病院数	
佐久医療圏	1,571.62	202,617	10.27%	128.9	13	1										1
上小医療圏	905.34	187,129	9.49%	206.7	14	1										1
諏訪医療圏	715.40	185,598	9.41%	259.4	11	1										1
上伊那医療圏	1,348.28	173,234	8.78%	128.5	9	1										1
飯伊医療圏	1,929.19	145,763	7.39%	75.6	9	1										1
木曾医療圏	1,546.26	22,849	1.16%	14.8	1								1			1
松本医療圏	1,869.14	413,184	20.95%	222.7	26	2										2
大北医療圏	1,109.53	53,230	2.70%	48	2								1			1
長野医療圏	1,558.39	512,558	25.98%	328.9	32	2										2
北信医療圏	1,009.08	76,402	3.87%	75.7	3								1			1
計	13,562.23	1,972,564	100%	145.445	120	9							3		159	12

長野県 令和 7 年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◎: 特定領域拠点



①	佐久総合病院佐久医療センター	(令和 5 年 4 月 1 日)
②	諏訪赤十字病院	(令和 6 年 4 月 1 日)
③	伊那中央病院	(令和 6 年 4 月 1 日)
④	飯田市立病院	(令和 5 年 4 月 1 日)
⑤	信州大学医学部附属病院★	(令和 6 年 4 月 1 日)
⑥	相澤病院	(令和 6 年 4 月 1 日)
⑦	長野赤十字病院	(令和 5 年 4 月 1 日)
⑧	長野市民病院	(令和 6 年 4 月 1 日)
⑨	信州上田医療センター	(令和 7 年 4 月 1 日)
⑤-1	県立木曽病院	(令和 6 年 4 月 1 日)
⑤-2	北アルプス医療センターあづみ病院	(令和 5 年 4 月 1 日)
⑦	北信総合病院	(令和 6 年 4 月 1 日)

がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-①

()内： R5.1.1～R5.12.31 の数値 ★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療の 割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 佐久		現況報告	佐久総合病院佐久医療センター	(1,780) 1,591	(1,478) 1,749	(2,732) 2,897	(566) 470	(110) 96	(74) 61	(1,207) 1,152
2 諏訪		現況報告	諏訪赤十字病院	(1,301) 1,379	(907) 1,028	(1,609) 1,250	(405) 408	(223) 213	(70) 75	(1,126) 1,362
3 伊那		現況報告	伊那中央病院	(1,043) 902	(582) 586	(1,287) 1,092	(300) 275	(410) 238	(38) 41	(1,018) 991
4 飯伊		現況報告	飯田市立病院	(881) 880	(613) 623	(2,243) 2,109	(352) 333	(97) 160	(44) 45	(1,227) 1,331
5 松本	★	現況報告	信州大学医学部附属病院	(1,959) 2,019	(1,485) 1,629	(2,220) 2,442	(511) 506	(344) 260	(31) 32	(1,223) 932
6 松本		現況報告	相澤病院	(1,113) 1,214	(617) 736	(1,277) 1,256	(585) 586	(161) 125	(19) 27	(1,418) 1,531
7 長野		現況報告	長野赤十字病院	(1,714) 1,751	(1,171) 1,184	(2,486) 2,456	(573) 596	(323) 304	(26) 24	(5,924) 4,880
8 長野		現況報告	長野市民病院	(1,791) 1,677	(1,379) 1,273	(1,913) 1,470	(447) 454	(294) 379	(19) 18	(1,401) 670
9 上田		現況報告	信州上田医療センター	(888) 877	(643) 665	(1,070) 1,029	(188) 228	(116) 157	(30) 28	(2,367) 162,737

地域がん診療病院の診療実績等

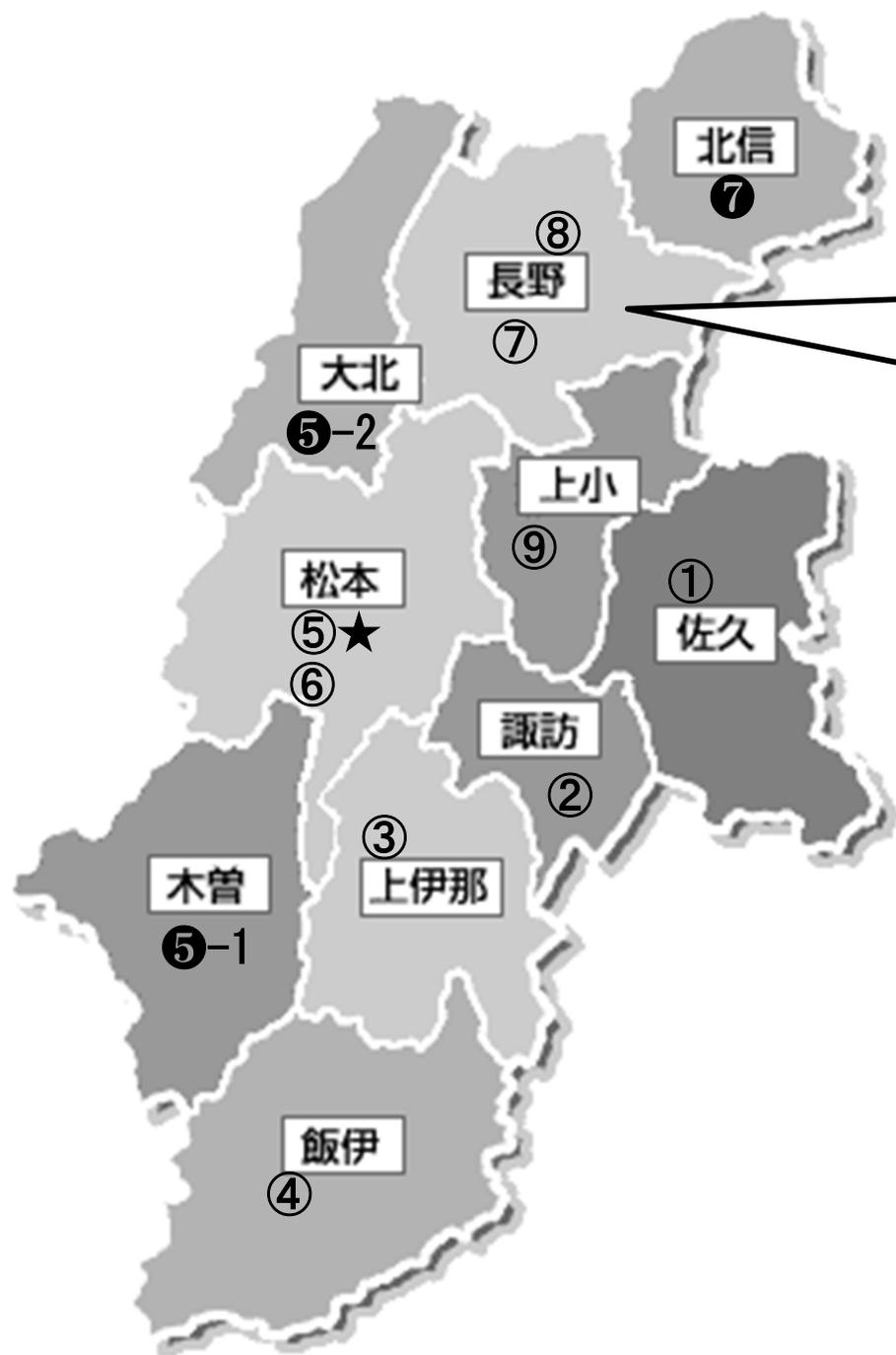
資料 3 - 2

()内： R 5 . 1 . 1 ~ R 5 . 1 2 . 3 1 の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
⑤	木曽	現況報告	県立木曽病院	(125) 110	(30) 37	(117) 149	(-) -	(31) 48	(2,443) 2,486
⑤	大北	現況報告	北アルプス医療センター あづみ病院	(367) 367	(276) 345	(445) 348	(-) -	(49) 42	(815) 766
⑦	北信	現況報告	北信総合病院	(593) 571	(376) 378	(691) 688	(98) 54	(189) 182	(832) 405

長野県 令和8年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点



患者動向について、圏域中央部から南が長野赤十字病院へ、北が長野市民病院へと、圏域内における分担がされている。

- | | | |
|-----|------------------|------|
| ① | 佐久総合病院佐久医療センター | (更新) |
| ② | 諏訪赤十字病院 | (更新) |
| ③ | 伊那中央病院 | (更新) |
| ④ | 飯田市立病院 | (更新) |
| ⑤ | 信州大学医学部附属病院★ | (更新) |
| ⑥ | 相澤病院 | (更新) |
| ⑦ | 長野赤十字病院 | (更新) |
| ⑧ | 長野市民病院 | (更新) |
| ⑨ | 信州上田医療センター | (更新) |
| ⑤-1 | 県立木曾病院 | (更新) |
| ⑤-2 | 北アルプス医療センターあづみ病院 | (更新) |
| ⑦ | 北信総合病院 | (更新) |

◇ 基本的な考え方

令和6年3月に策定した長野県がん対策推進計画を包括する第3期信州保健医療総合計画では、がん対策推進基本計画を踏まえ、「県民ががんの予防につとめるとともに、罹患した場合も必要な医療を受け、安心して暮らすことができる」ことを目指す姿とし、県民及び関係機関・団体と連携したがん対策に取り組むこととしています。

がんの医療提供体制については、本県におけるがん医療水準の均てん化を図るため、全ての2次医療圏にがん診療連携拠点病院等が整備されている状況を維持することを目指しており、がん医療の質の維持・向上に向けて一層取り組んでいきます。

◇ 現況報告について

本県では、「長野県がん診療連携拠点病院整備検討委員会」を設置し、がん診療連携拠点病院等の推薦の可否に関する検討・協議等を行っています。

現在指定されている病院については、地域におけるがん診療の中核を担い、十分な実績と機能を有し、機能向上に努め、地域住民からの信頼も得ていることから、それぞれがん診療連携拠点病院等としての指定の継続を望むものです。

岐 阜 県

岐阜県がんの医療圏の概要

令和7年9月現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院		
						推薦施設数	内訳			内訳		内訳		
							新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告	新規申請	現況報告	新規申請	現況報告
岐阜	993	779,861	40.8	785.4	38	0	0	0	0	4	0	0	0	0
西濃	1,433	342,949	17.9	239.3	14	0	0	0	0	1	0	0	0	0
中濃	2,454	352,244	18.4	143.5	19	1	0	1	0	1	0	0	0	0
東濃	1,563	307,528	16.1	196.8	14	0	0	0	0	1	0	0	0	0
飛騨	4,178	130,494	6.8	31.2	8	0	0	0	0	1	0	0	0	0
計	10,621	1913076	100	180.1	93	1	0	1	0	8	0	0	0	0

岐阜県 令和 7 年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★＝都道府県拠点

- ①岐阜大学医学部附属病院★
- ②岐阜県総合医療センター
- ③岐阜市民病院
- ④松波総合病院
- ⑤大垣市民病院
- ⑥中部国際医療センター
- ⑦岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院
- ⑧岐阜県立多治見病院
- ⑨高山赤十字病院

【中濃】

可茂地域（南部）は⑥に武儀・郡上地域（北部）は⑦に受診する。

【岐阜】

都道府県拠点病院の①と、地域がん診療連携拠点病院の②③④でがん治療をカバーしている。

（複数設置の理由）

- ・ 県民の約40%が在住している人口密集地域である
- ・ ②は岐阜医療圏東部、③は西部、④は南部及び西濃医療圏のがん医療をカバー
- ・ 高度医療を求め他圏域からもがん患者が流入
- ・ 医療機関数も多く、医療連携体制整備・推進の観点からも複数設置が必要

【西濃】

⑤または岐阜医療圏へ受診する。

【飛騨】

面積が広大で山間僻地であり高齢化率も高い。⑨は飛騨圏域の中で高度ながん医療を提供できる唯一の医療機関であり、圏域内から多くの患者が受診する。

⑨

飛騨医療圏

中濃医療圏

岐阜医療圏

【東濃】

西部と恵那地域に分かれている。おおむね⑧に受診するが、西部は⑥、恵那地域北部は⑨にも受診する

東濃医療圏

西濃医療圏

がん診療連携拠点病院

資料3

★:都道府県拠点

()内は前年度報告数

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
					500件以上	400件以上	1,000人以上	200人以上	50人以上	2割程度	
1	岐阜	★	現況報告	岐阜大学医学部附属病院	(2,107)	(2,142)	(2,594)	(624)	(344)	(21)	(1,911)
					2,116	1,544	2,340	679	383	23	1,254
2	岐阜		現況報告	岐阜県総合医療センター	(1,858)	(1,082)	(1,609)	(400)	(231)	(19)	(1,223)
					1,760	1,046	1,553	427	270	19	1,232
3	岐阜		現況報告	岐阜市民病院	(1,635)	(901)	(2,229)	(417)	(115)	(19)	(2,126)
					1,290	1,291	2,191	382	112	21	2,093
4	岐阜		現況報告	松波総合病院	(839)	(699)	(1,019)	(213)	(114)	(20)	(378)
					868	644	1,096	220	159	27	438
5	西濃		現況報告	大垣市民病院	(2,509)	(1,339)	(1,893)	(479)	(134)	(58)	(1,318)
					2,533	1,368	1,853	390	124	80.8	1,456
6	中濃		指定更新	中部国際医療センター	(1,467)	(1,163)	(1,675)	(454)	(218)	(35)	(799)
					1,660	1,222	4,081	619	220	36	1534
7	中濃		現況報告	岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院	(725)	(401)	(3028)	(209)	(106)	(20)	(799)
					759	446	803	242	97	24	870
8	東濃		現況報告	岐阜県立多治見病院	(1,545)	(804)	(1,737)	(239)	(153)	(42)	(1,724)
					1,636	885	1,919	479	148	37	1,411
9	飛騨		現況報告	高山赤十字病院	(549)	(320)	(934)	(207)	(156)	(36)	(214)
					523	273	922	194	111	31	196

岐阜県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★=都道府県拠点

- ①岐阜大学医学部附属病院★
- ②岐阜県総合医療センター
- ③岐阜市民病院
- ④松波総合病院
- ⑤大垣市民病院
- ⑥中部国際医療センター
- ⑦岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院
- ⑧岐阜県立多治見病院
- ⑨高山赤十字病院

【岐阜】①★②③④

都道府県拠点病院の①と、地域がん診療連携拠点病院の②③④でがん治療をカバーしている。

①は都道府県拠点病院及び大学病院として、岐阜県全体のがん医療を牽引する。

②③④は、地域がん診療連携拠点病院として、岐阜圏域及び隣接圏域のがん患者を受け入れ、①と協力の上、圏域内医療機関等を牽引する。

【西濃】⑤

⑤は西濃圏域唯一の医療機関であり、西濃圏域のがん医療を担っている。西濃圏の患者の一部は、隣接する岐阜圏域にて受診することもある。

【中濃】⑥⑦

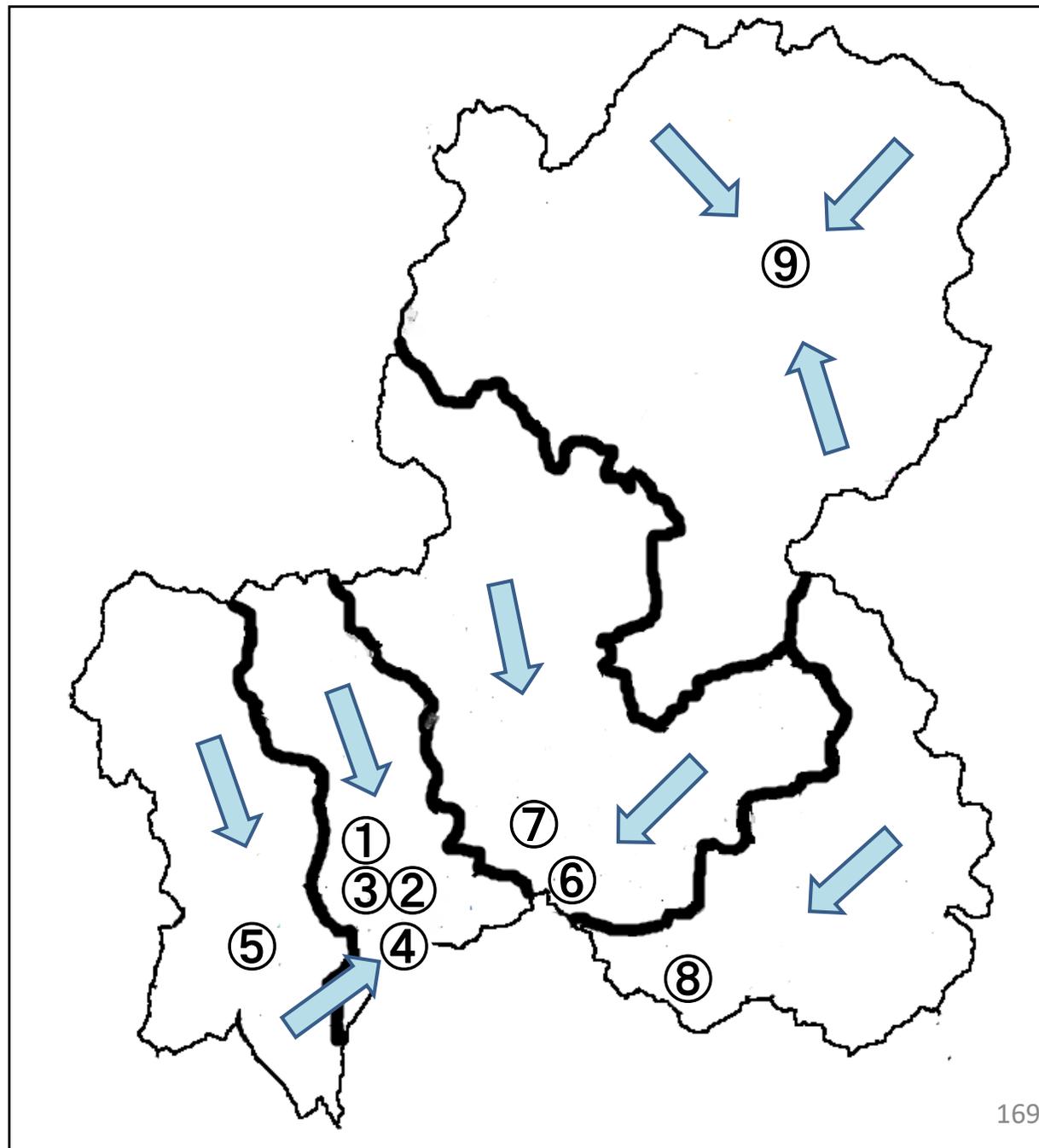
可茂地域（南部）を⑥が、武儀・郡上地域（北部）を⑦が診療している。中濃圏域北部のがん患者の一部は、隣接する岐阜圏域にて受診することもある。

【東濃】⑧

西部と恵那地域に分かれている。概ね⑧に受診する。

【飛騨】⑨

⑨は飛騨圏域の中で高度ながん医療を提供できる唯一の医療機関である。また、がん医療について圏域内医療機関を牽引していく。



指定推薦等にかかる岐阜県の考え方

1. 基本的な考え方

第8期保健医療計画及び第4次岐阜県がん対策推進計画にある「患者本位で持続可能ながん医療の提供」に向け、本県におけるがん医療水準の均てん化を図るとともに、がん患者の居住する地域で最適ながん医療及びがん相談支援が受けられるよう、全ての二次医療圏域に1か所以上のがん診療連携拠点病院等を整備することを目指しています。

2. がん診療連携拠点病院の指定継続の必要性について

現行の各拠点病院は、県民にがん医療の中核医療機関として認知されており、二次医療圏内でのがん患者診察割合も高く、当該地域におけるがん医療の担い手として必要とされています。

がん医療の均てん化、集約化のために、現在指定を受けている拠点病院については継続して指定が必要と考えています。

また、現在指定を受けている9病院は、令和7年9月1日時点で指定要件をおおむね満たしており、拠点病院に求められる機能を有しています。

静岡県

静岡県 がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院				
						推薦施設数	内訳				推薦施設数	内訳				推薦施設数	内訳			
							新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告
賀茂	583.55	52,987	1.5	90.8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熱海伊東	185.88	92,389	2.6	497.0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
駿東田方	1276.93	608,963	17.4	476.9	46	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富士	634.03	360,871	10.3	569.2	17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
静岡	1411.83	667,026	19.1	472.5	27	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
志太榛原	1209.37	434,067	12.4	358.9	13	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中東遠	831.13	452,286	12.9	544.2	19	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部	1644.62	824,955	23.6	501.6	34	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7777.34	3,493,544	100	449.2	170	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

静岡県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①静岡県立静岡がんセンター★（令和5年4月1日）
- ②順天堂大学医学部附属静岡病院（令和5年4月1日）
- ③富士市立中央病院（令和5年4月1日）
- ④静岡県立総合病院（令和5年4月1日）
- ⑤静岡市立静岡病院（令和5年4月1日）
- ⑥藤枝市立総合病院（令和5年4月1日）
- ⑦磐田市立総合病院（令和5年4月1日）
- ⑧中東線総合医療センター（令和5年4月1日）
- ⑨聖隷三方原病院（令和5年4月1日）
- ⑩聖隷浜松病院（令和5年4月1日）
- ⑪浜松医科大学医学部附属病院（令和5年4月1日）
- ⑫浜松医療センター（令和5年4月1日）
- ⑬国際医療福祉大学熱海病院（令和5年4月1日）

志太榛原医療圏

⑥の病院を中心にがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図っている。

駿東田方医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
①静岡県立静岡がんセンター★	①が県全域をカバーするほか、当該2病院で駿東田方、賀茂、熱海伊東のがん医療を担っているため。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携
②順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携

**熱海伊東医療圏
(空白の医療圏)**

**賀茂医療圏
(空白の医療圏)**

拠点病院が空白の賀茂及び熱海伊東医療圏のがん患者は、駿東田方医療圏の①及び②の拠点病院並びに①の地域がん診療病院を主に受診している。

富士医療圏

③の病院を中心にがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図っている。

静岡医療圏

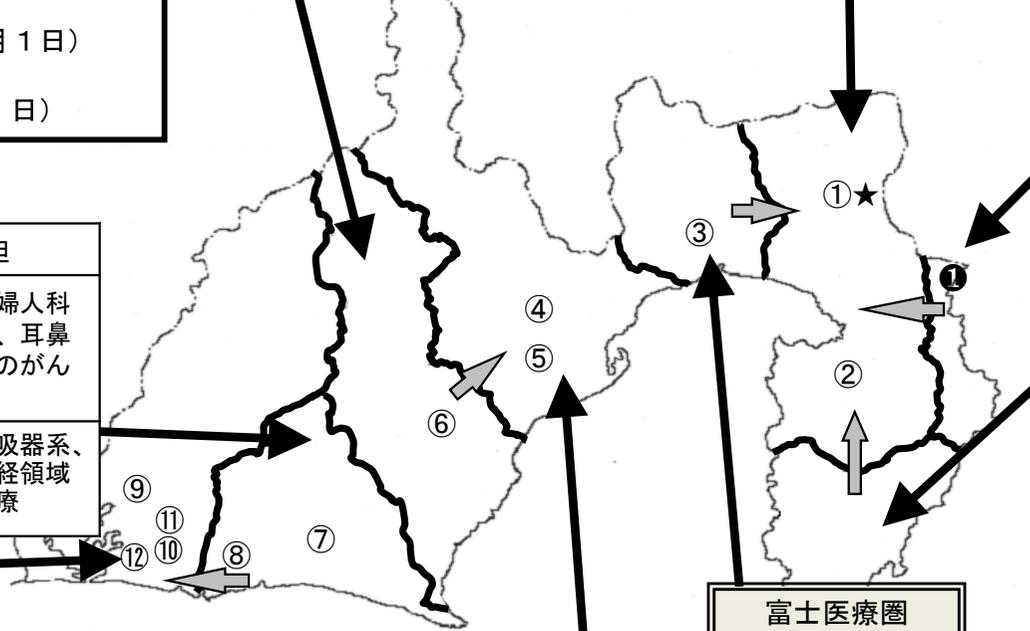
病院名	複数必要である理由	機能分担
④静岡県立総合病院	人口約67万人と県内で西部医療圏に次いで2番目に多い医療圏であり、当該2病院で約5割のがん患者を受け入れているため。	集学的治療
⑤静岡市立静岡病院		地域連携 共同診療

中東遠医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
⑦中東遠総合医療センター	互いに強みとしている領域で補完・連携し合うことで、がん診療機能が強化されるため。	泌尿器科系、婦人科系、皮膚科系、耳鼻咽喉科系領域のがん種の診療
⑧磐田市立総合病院		消化器系、呼吸器系、血液系、脳神経領域のがん種の診療

西部医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
⑨聖隷三方原病院	人口約82.5万人と県内医療圏で最も多く、また、地形も南北に広いことから、当該4病院が連携し、それぞれの特長を活かしながら機能等を分担し、がん医療体制を維持しているため。また、隣接する医療圏のがん患者の受け入れを行っているため。	地域における緩和ケアネットワークの構築(在宅緩和ケア)
⑩聖隷浜松病院		多職種チーム医療による集学的治療の実践(手術療法、放射線療法等)
⑪浜松医科大学医学部附属病院		がん専門医の育成と医師派遣(がんプロ、医師派遣、臨床試験)
⑫浜松医療センター		地域連携(在宅医療)体制の構築(共同診療、病診連携、就労支援)



静岡県 がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-①

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値 ★:都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 駿東田方	★	現況	静岡県立静岡がんセンター	(5,660)	(4,450)	(11,909)	(2,020)	(680)	(36)	(19,203)
				5,602	4,476	12,341	1,948	622	43	15,228
2 駿東田方		現況	順天堂大学医学部附属静岡病院	(1,527)	(847)	(1,571)	(325)	(156)	(15)	(1,020)
				1,631	894	1,679	333	152	13	2,479
3 富士		現況	富士市立中央病院	(965)	(534)	(1,202)	(238)	(165)	(23)	(1,090)
				901	531	1,402	249	163	24	938
4 静岡		現況	静岡県立総合病院	(2,800)	(2,366)	(2,787)	(894)	(393)	(35)	(2,411)
				2,886	2,324	2,548	863	345	35	2,725
5 静岡		現況	静岡市立静岡病院	(1,378)	(775)	(1,675)	(368)	(66)	(27)	(5,022)
				1,475	964	1,636	415	59	20	5,648
6 志太榛原		現況	藤枝市立総合病院	(1,065)	(711)	(1,160)	(469)	(78)	(21)	(981)
				1,145	757	1,192	485	151	29	1,025

静岡県 がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-②

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値 ★:都道府県拠点

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
7	中東遠		現況	中東遠総合医療センター	(1,049) 998	(682) 676	(1,397) 1,467	(271) 272	(145) 192	(25) 24	(1,686) 1,688
8	中東遠		現況	磐田市立総合病院	(1,301) 1,409	(784) 819	(2,383) 2,185	(363) 405	(241) 259	(31) 34	(2,737) 2,572
9	西部		現況	聖隷三方原病院	(1,326) 1,299	(834) 776	(1,334) 1,242	(339) 279	(330) 211	(29) 21	(2,302) 2,316
10	西部		現況	聖隷浜松病院	(2,142) 2,100	(1,688) 1,630	(1,479) 2,034	(630) 630	(312) 400	(26) 23	(3,981) 4,355
11	西部		現況	浜松医科大学医学部附属病院	(1,852) 1,902	(1,284) 1,291	(2,126) 2,412	(669) 700	(300) 310	(23) 23	(3,710) 3,866
12	西部		現況	浜松医療センター	(1,060) 1,273	(626) 729	(1,157) 1,402	(322) 365	(222) 202	(15) 16	(3,844) 4,527

静岡県 地域がん診療病院の診療実績等

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	熱海伊東	現況	国際医療福祉大学 熱海病院	(379) 384	(392) 408	(2,136) 269	(実施なし) 実施なし	(57) 55	(986) 976

静岡県 令和7年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

資料4

志太榛原医療圏

志太榛原医療圏のがん患者の一部は、隣接する医療圏の拠点病院を受診しているが、⑥の病院を中心に、医療圏内の更なるがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。

富士医療圏

富士医療圏のがん患者の一部は、隣接する医療圏の拠点病院を受診しているが、③の病院を中心に、医療圏内の更なるがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。

中東遠医療圏

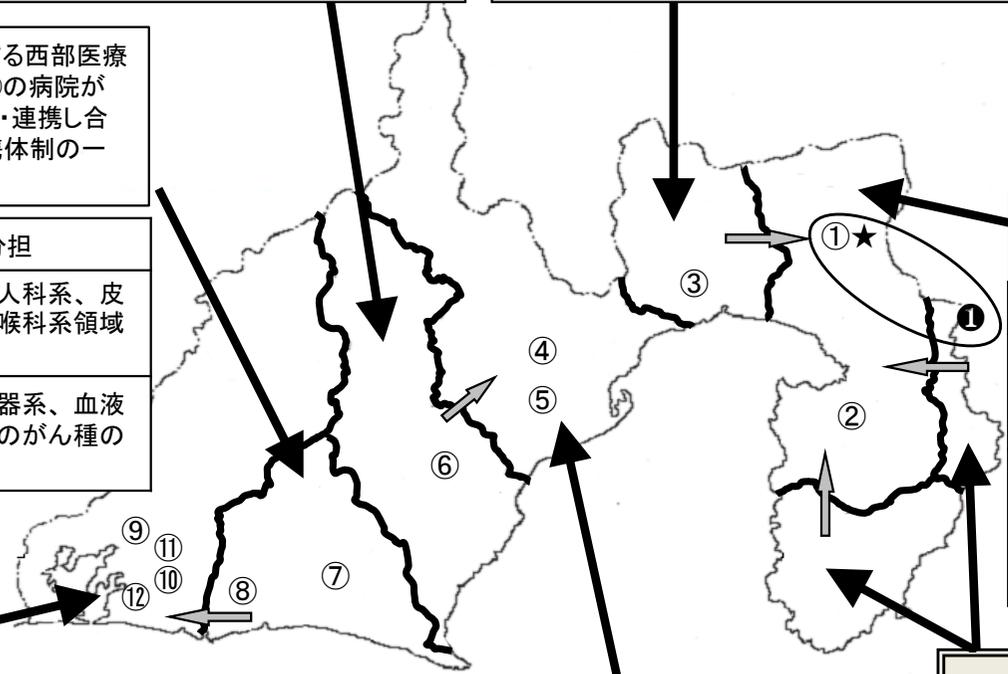
中東遠医療圏のがん患者の一部は、隣接する西部医療圏の拠点病院を主に受診しているが、⑦、⑧の病院が中心となり互いに強みとしている領域で補完・連携し合い、医療圏内の更なるがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。

病院名	地域分担	機能分担
⑦中東遠総合医療センター	中部～東部 (東遠地区)	泌尿器科系、婦人科系、皮膚科系、耳鼻咽喉科系領域のがん種の診療
⑧磐田市立総合病院	中部～西部 (中遠地区)	消化器系、呼吸器系、血液系、脳神経領域のがん種の診療

駿東田方医療圏

病院名	地域分担	機能分担
①静岡県立静岡がんセンター	①が県全域をカバーするほか、既存の2病院で駿東田方、賀茂及び熱海伊東医療圏における連携体制の充実・強化を図る。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携 ①のグループ指定先病院
②順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携

- ①静岡県立静岡がんセンター★(現況)
- ②順天堂大学医学部附属静岡病院(現況)
- ③富士市立中央病院(現況)
- ④静岡県立総合病院(現況)
- ⑤静岡市立静岡病院(現況)
- ⑥藤枝市立総合病院(現況)
- ⑦中東遠総合医療センター(現況)
- ⑧磐田市立総合病院(現況)
- ⑨聖隷三方原病院(現況)
- ⑩聖隷浜松病院(現況)
- ⑪浜松医科大学医学部附属病院(現況)
- ⑫浜松医療センター(現況)
- ⑬国際医療福祉大学熱海病院(現況)



西部医療圏

病院名	地域分担	機能分担
⑨聖隷三方原病院	北部～北西部	地域における緩和ケアネットワークの構築 (在宅緩和ケア、緩和ケア病棟)
⑩聖隷浜松病院	中部～南東部	多職種チーム医療による集学的治療の実践 (手術療法、放射線療法、化学療法)
⑪浜松医科大学医学部附属病院	東部～北東部	がん専門医の育成と医師派遣 (がんプロフェッショナル養成、医師派遣、臨床試験)
⑫浜松医療センター	西部～南西部	地域連携(在宅医療)体制の構築 (共同診療、病診連携)

賀茂医療圏 (空白の医療圏)

熱海伊東医療圏 (空白の医療圏)

拠点病院が空白の賀茂及び熱海伊東医療圏のがん患者は、駿東田方医療圏の①及び②の拠点病院並びに①の地域がん診療病院を中心にカバーする。

静岡医療圏

病院名	地域分担	機能分担
④静岡県立総合病院	中心部～北部隣接医療圏の一部	集学的治療
⑤静岡市立静岡病院	中心部～南部	地域連携、共同診療

○ 静岡県がん対策推進計画におけるがん診療連携拠点病院等の位置付け

これまで静岡県では、県民がどこに住んでいても質の高いがん医療が受けられるように2次医療圏ごとにごがん診療連携拠点病院等を整備することを目標とし、医療体制の整備を進めてきたところである。

静岡県がん対策推進計画では、がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院が県指定のがん診療連携推進病院等と連携することにより、地域差のないがん対策を進めることとしている。

令和6年3月に策定した第4次静岡県がん対策推進計画（計画期間：令和6年度～令和11年度）において、「国指定要件を満たす拠点病院等の数」を数値目標の1つ（現状値と同じ13病院）として設定している。

○ がん診療連携拠点病院等の整備の考え方

- 国の整備指針に従い、各2次医療圏に原則1か所の医療機関を「がん診療連携拠点病院」として整備する。
- ただし、がん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の整備がより一層図られることが明確である場合には、既にがん診療連携拠点病院が指定されている2次医療圏においても、「がん診療連携拠点病院」を整備する。
- がん診療連携拠点病院が存在しない2次医療圏（熱海伊東医療圏）については、近隣医療圏のがん診療連携拠点病院とグループ指定を受けた地域がん診療病院により、地域住民への情報提供や在宅療養支援を図る。
- がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院が存在しない2次医療圏（賀茂医療圏）については、県指定のがん相談支援センター設置病院が近隣医療圏の国指定病院と連携し、地域住民への情報提供や在宅療養支援を図る。

愛 知 県

愛知県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数 (R6.10.1)	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						新規申請 病院数	今回更新 病院数	現況報告 病院数	計	新規申請 病院数	今回更新 病院数	現況報告 病院数	新規申請 病院数	今回更新 病院数	現況報告 病院数	
名古屋・尾張中部	370.94	2,499,693	33.48%	6738.8	119	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0
海部	208.63	319,220	4.28%	1530.1	11	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尾張東部	230.14	475,213	6.37%	2064.9	18	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
尾張西部	193.17	504,417	6.76%	2611.3	18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
尾張北部	295.96	722,493	9.68%	2441.2	26	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
知多半島	392.06	617,647	8.27%	1575.4	19	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
西三河北部	950.51	476,631	6.38%	501.4	20	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
西三河南部東	443.92	423,292	5.67%	953.5	15	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
西三河南部西	364.24	697,120	9.34%	1913.9	22	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
東三河北部	1052.43	48,813	0.65%	46.4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東三河南部	671.23	680,711	9.12%	1014.1	36	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5173.23	7,465,250	1	1443.054	307	0	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0

愛知県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点病院
●：がん診療連携拠点病院（特例型）

①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、⑤、⑦の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

人口が集中した都市部の医療圏の概ね東西南北を②③④⑥⑧が担当し、更に、近隣医療圏から流入する患者を受け入れる。

②は陽子線治療の拠点として県全体をカバーする。

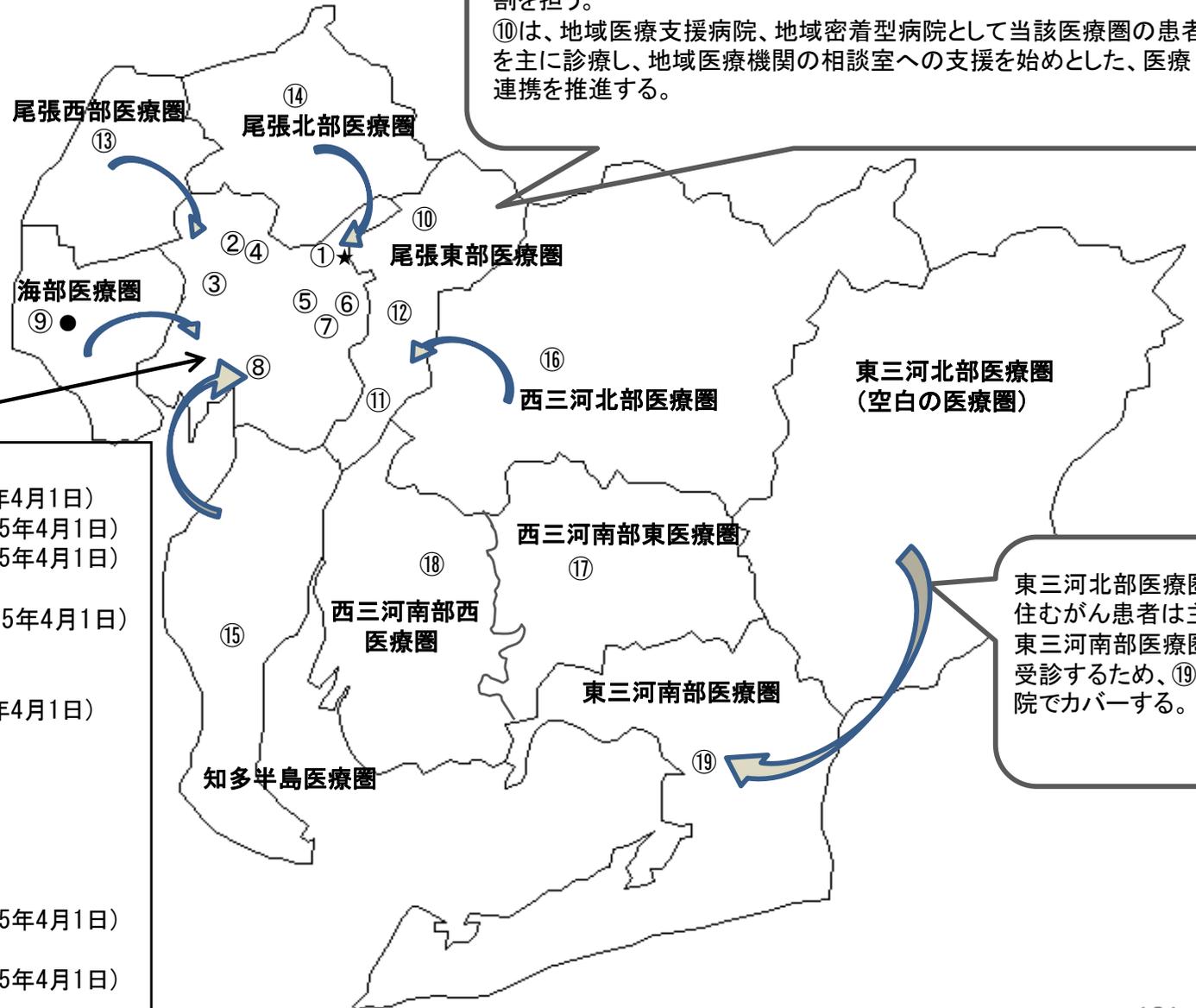
また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

⑪、⑫の大学病院はその豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

⑩は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めとした、医療連携を推進する。

名古屋・尾張中部医療圏

- ①愛知県がんセンター★（令和6年4月1日）
- ②名古屋市立大学医学部附属西部医療センター（令和5年4月1日）
- ③日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院（令和5年4月1日）
- ④独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター（令和5年4月1日）
- ⑤名古屋大学医学部附属病院（令和5年4月1日）
- ⑥日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（令和5年4月1日）
- ⑦名古屋市立大学病院（令和6年4月1日）
- ⑧地域医療推進機構中京病院（令和5年4月1日）
- ⑨愛知県厚生農業協同組合連合会 海南病院●（令和7年4月1日）
- ⑩公立陶生病院（令和6年4月1日）
- ⑪藤田医科大学病院（令和6年4月1日）
- ⑫愛知医科大学病院（令和5年4月1日）
- ⑬一宮市立市民病院（令和6年4月1日）
- ⑭小牧市民病院（令和5年4月1日）
- ⑮知多半島総合医療センター（令和6年4月1日）
- ⑯愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院（令和5年4月1日）
- ⑰岡崎市民病院（令和5年4月1日）
- ⑱愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院（令和5年4月1日）
- ⑲豊橋市民病院（令和5年4月1日）



東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑲の病院でカバーする。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★: 都道府県拠点病院 ●: がん診療連携拠点病院(特例型)

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 名古屋・尾張中部	★	現況	愛知県がんセンター	(3,036) 2,881	(3,515) 3,119	(6,615) 6,591	(1,078) 1,068	(548) 859	(6) 8	(7,757) 8,612
2 名古屋・尾張中部		現況	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	(1,438) 1,459	(909) 947	(2,168) 2,139	(1,321) 1,282	(213) 207	(8) 7	(1,162) 1,174
3 名古屋・尾張中部		現況	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	(2,484) 2,462	(2,044) 1,777	(4,491) 3,980	(643) 606	(269) 214	(5) 6	(7,367) 7,979
4 名古屋・尾張中部		現況	名古屋医療センター	(1,450) 1,343	(724) 731	(1,488) 1,419	(273) 243	(400) 478	(4) 4	(5,128) 8,013
5 名古屋・尾張中部		現況	名古屋大学医学部附属病院	(4,095) 4,367	(2,558) 2,826	(3,506) 8,750	(927) 1,636	(325) 293	(8) 5	(1,291) 1,285
6 名古屋・尾張中部		現況	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	(1,723) 1,805	(1,145) 1,355	(2,025) 2,675	(405) 413	(146) 170	(5) 6	(737) 794
7 名古屋・尾張中部		現況	名古屋市立大学病院	(2,476) 2,399	(1,802) 2,005	(1,913) 3,806	(733) 838	(445) 578	(10) 9	(1,506) 2,137
8 名古屋・尾張中部		現況	中京病院	(1,019) 1,001	(735) 762	(1,005) 1,351	(274) 284	(93) 62	(5) 4	(1,926) 2,097
9 海部	●	更新	海南病院	(1,404) 1,644	(642) 604	(1,772) 1,991	(416) 458	(249) 197	(53) 26	(892) 963
10 尾張東部		現況	公立陶生病院	(1,470) 1,430	(694) 697	(1,392) 1,362	(209) 230	(313) 374	(29) 28	(3,235) 3,073

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★: 都道府県拠点病院 ●: がん診療連携拠点病院(特例型)

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
11	尾張東部		現況	藤田医科大学病院	(3,492) 3,541	(2,406) 2,548	(4,821) 5,052	(1,004) 880	(923) 844	(19) 19	(2,716) 3,241
12	尾張東部		現況	愛知医科大学病院	(2,132) 2,135	(1,162) 1,268	(2,252) 1,293	(699) 625	(502) 500	(22) 23	(1,727) 3,089
13	尾張西部		現況	一宮市立市民病院	(1,533) 1,210	(617) 621	(1,667) 1,679	(389) 413	(133) 167	(20) 19	(1,389) 1,323
14	尾張北部		現況	小牧市民病院	(1,656) 1,589	(898) 1,076	(1,625) 1,651	(483) 539	(258) 264	(26) 17	(897) 1,000
15	知多半島		現況	知多半島総合医療センター	(1,089) 1,030	(696) 630	(1,002) 1,032	(238) 235	(89) 111	(18) 18	(1,667) 2,044
16	西三河北部		現況	豊田厚生病院	(1,718) 1,755	(1,259) 1,233	(2,117) 2,065	(162) 346	(207) 188	(35) 41	(721) 793
17	西三河南部東		現況	岡崎市民病院	(1,570) 1,706	(1,208) 1,079	(1,810) 1,753	(283) 351	(235) 559	(37) 38	(1,570) 1,521
18	西三河南部西		現況	安城更生病院	(2,304) 2,711	(1,227) 1,243	(3,142) 3,184	(618) 571	(257) 247	(57) 58	(1,918) 1,811
19	東三河南部		現況	豊橋市民病院	(2,513) 2,511	(1,290) 1,458	(3,112) 3,038	(597) 656	(210) 329	(49) 36	(1,273) 2,346

愛知県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ★: 都道府県拠点病院
●: がん診療連携拠点病院(特例型)

①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、⑤、⑦の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

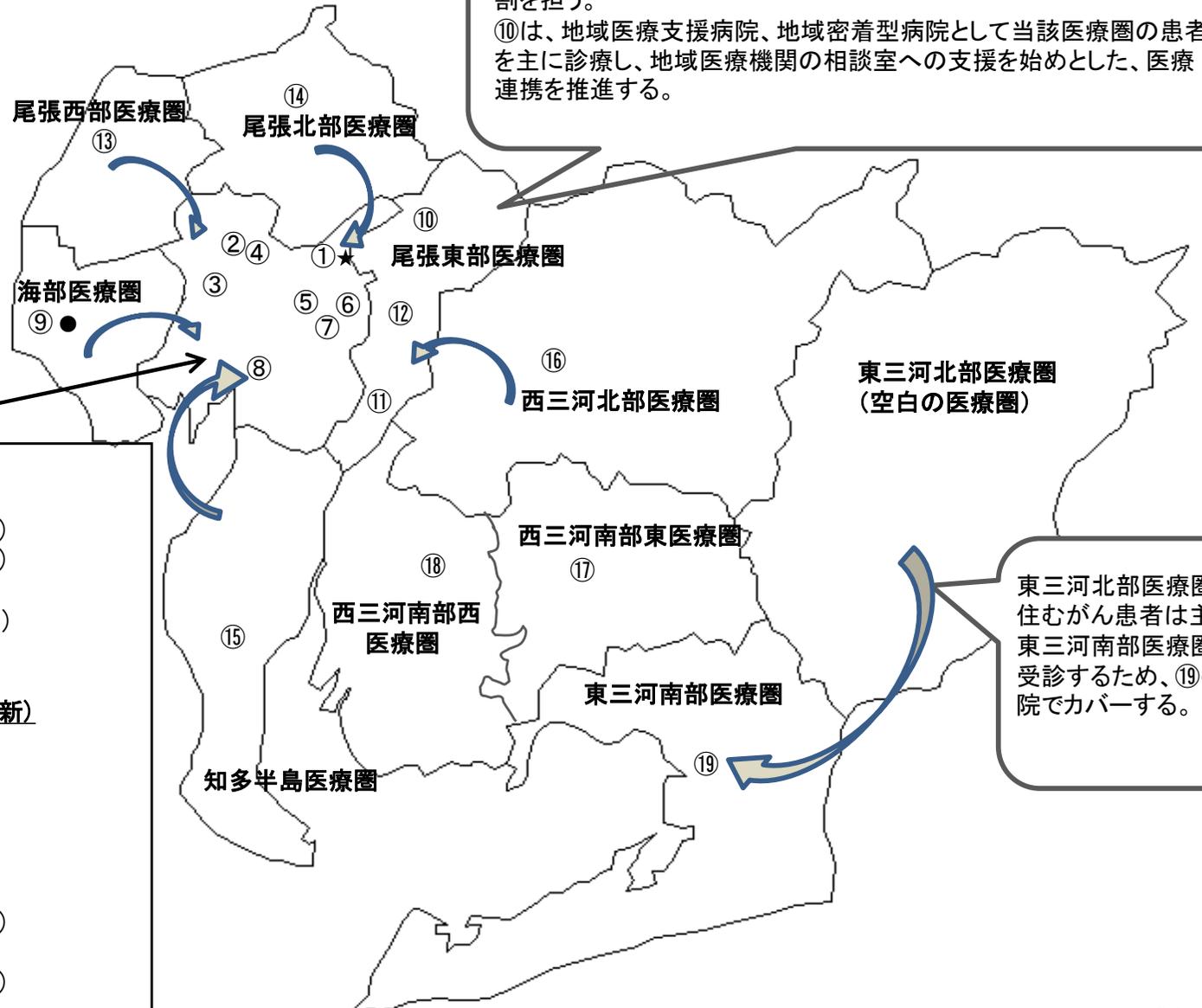
人口が集中した都市部の医療圏の概ね東西南北を②③④⑥⑧が担当し、更に、近隣医療圏から流入する患者を受け入れる。

②は陽子線治療の拠点として県全体をカバーする。

また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

名古屋・尾張中部医療圏

- ①愛知県がんセンター★(現況)
②名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(現況)
③日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院(現況)
④独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター(現況)
⑤名古屋大学医学部附属病院(現況)
⑥日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院(現況)
⑦名古屋市立大学病院(現況)
⑧地域医療推進機構中京病院(現況)
⑨愛知県厚生農業協同組合連合会 海南病院●(指定更新)
⑩公立陶生病院(現況)
⑪藤田医科大学病院(現況)
⑫愛知医科大学病院(現況)
⑬一宮市立市民病院(現況)
⑭小牧市民病院(現況)
⑮知多半島総合医療センター(現況)
⑯愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院(現況)
⑰岡崎市民病院(現況)
⑱愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院(現況)
⑲豊橋市民病院(現況)



⑪、⑫の大学病院はその豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

⑩は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めとした、医療連携を推進する。

東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑲の病院でカバーする。

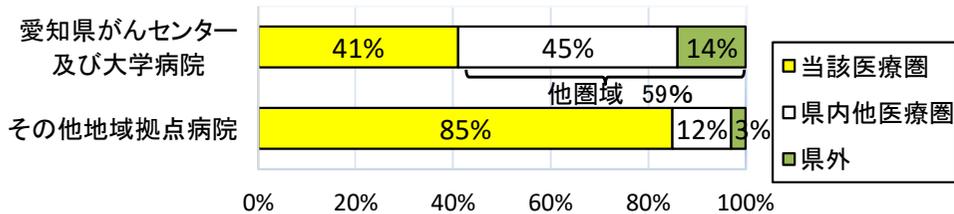
愛知県の拠点病院推薦にあたっての考え方

愛知県の地域特性

- ◇県の人口 約**747**万人
- ◇新規がん患者数 約**4.9**万人
- ◇名古屋・尾張中部医療圏の人口 約**250**万人(県人口の3分の1)
←全国平均37万人の約**6.8**倍
- ◇上記以外の2次医療圏の平均人口 約**50**万人 ←全国の約**1.35**倍

- ・都市部に人口が集中している
- ・2次医療圏に一つの病院では、人口に対し拠点病院が足りない

《都道府県拠点である「愛知県がんセンター」及び大学病院であるがん診療連携拠点病院の入院患者の受け入れ割合》



- ・大学病院が都市部及び近郊に集中している
- ・愛知県がんセンター及び大学病院へ他圏域から高度な医療を求めて患者が流入している

拠点病院の整備指針

県内どこに住んでいても病状に応じた適切ながん治療や緩和ケアを受けられるがん対策を推進するため、高度な医療を有する都道府県拠点病院と大学病院が地域の拠点病院を支援し、がん医療の均てん化を図る。

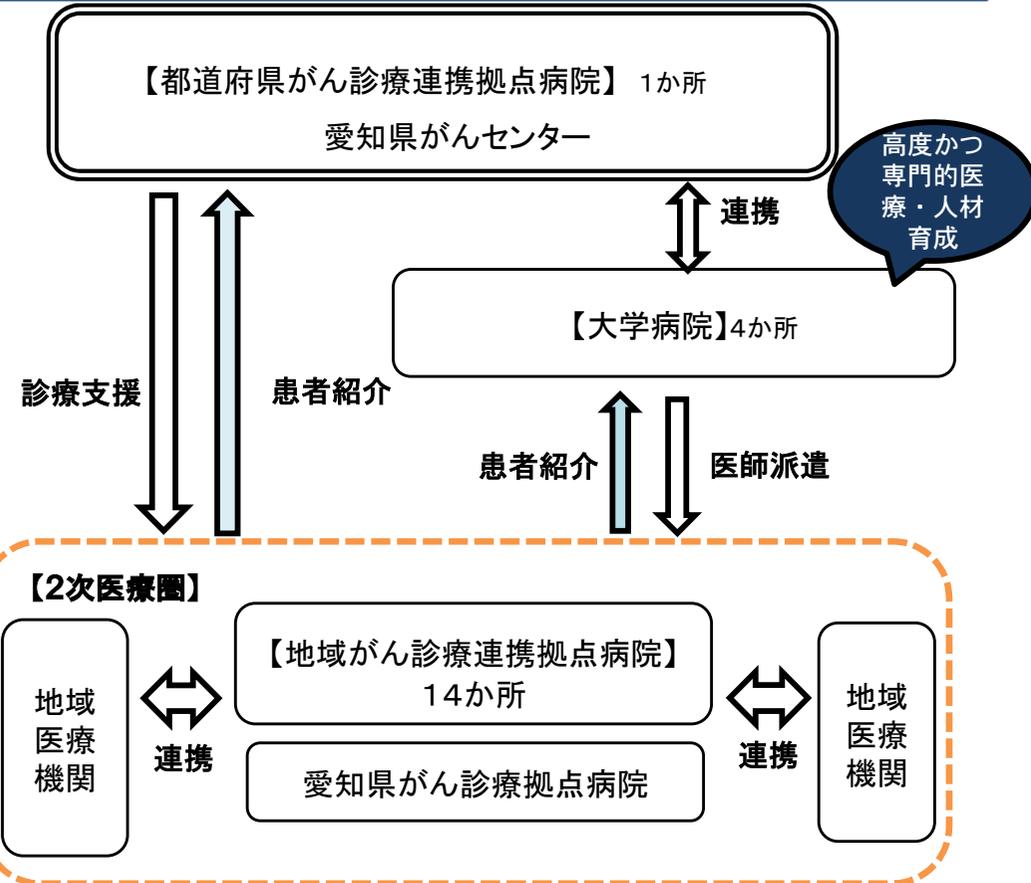
《必要拠点病院数》

- 名古屋・尾張中部医療圏 $\text{人口}250\text{万人} \div 37\text{万人} = 6.8$ か所
 - 上記以外の2次医療圏 $\text{人口}497\text{万人} \div 37\text{万人} = 13.4$ か所
- } 合計 20か所

現在、愛知県は都市部に人口が集中しており、県全体としても人口が多く、2次医療圏に1つの拠点病院では拠点病院が足りていない。

がん拠点病院の役割分担

都道府県拠点病院：拠点病院の統括
 大学病院：高度かつ専門的な医療の提供 **全県的な拠点**
 その他の拠点病院：地域の患者の生活環境に合わせた医療の提供



三重県

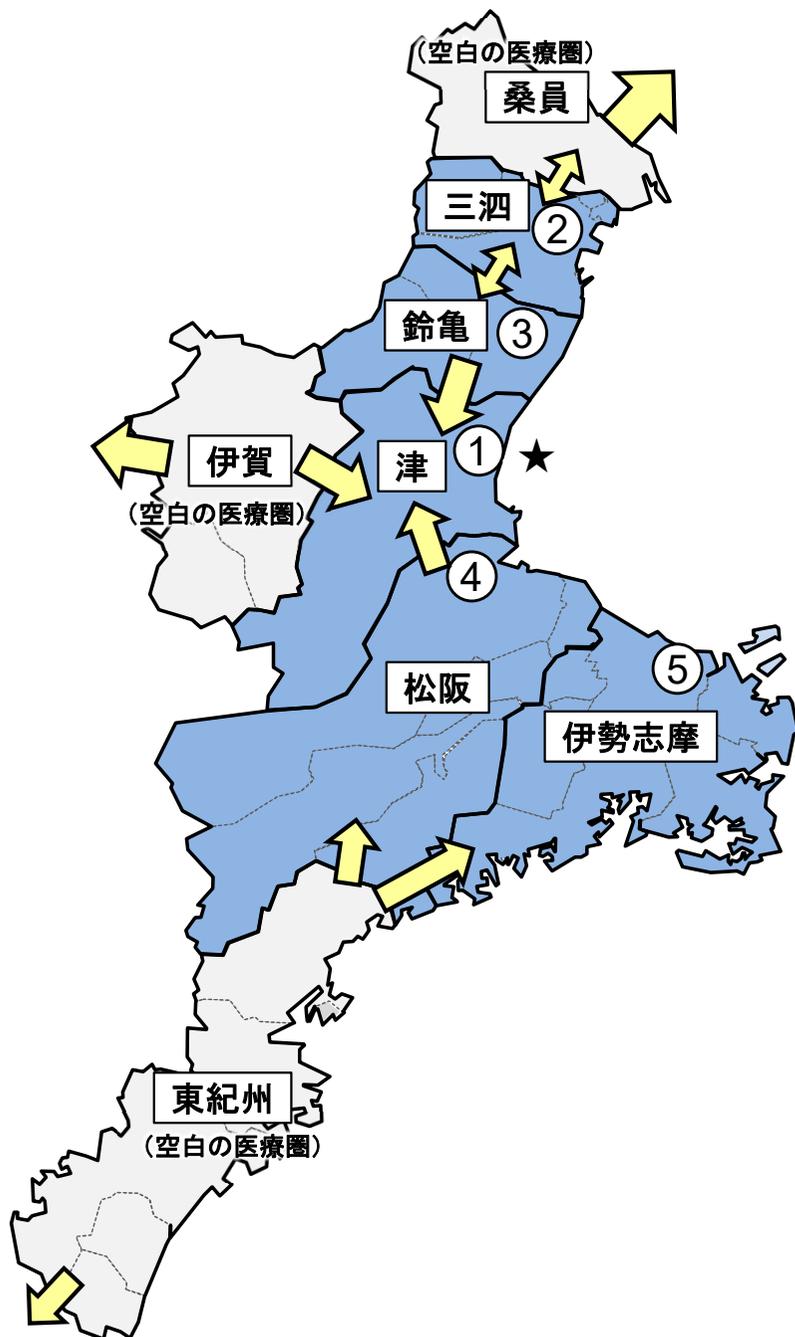
三重県のがん医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

二次医療圏名	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口 割合(%)	人口密度 (人/km ²)	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
							新規申請	指定更新	指定類型 変更	新規申請	指定更新	指定類型 変更	新規申請	指定更新	指定類型 変更	
北勢	桑員	394.93	209,454	12.35	530.4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	三泗	328.25	365,215	21.54	1112.6	14	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	鈴亀	385.50	239,047	14.10	620.1	13	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
中勢伊賀	津	711.19	264,568	15.60	372.0	22	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	伊賀	688.00	154,484	9.11	224.5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南勢志摩	松阪	1363.86	201,217	11.87	147.5	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	伊勢志摩	912.42	203,313	11.99	222.8	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
東紀州	東紀州	990.35	58,117	3.43	58.7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	5774.5	1,695,415	100	293.6	92	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0

三重県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



- | | |
|---------------|------------|
| ①三重大学医学部附属病院★ | (令和5年4月1日) |
| ②市立四日市病院 | (令和5年4月1日) |
| ③鈴鹿中央総合病院 | (令和5年4月1日) |
| ④松阪中央総合病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑤伊勢赤十字病院 | (令和5年4月1日) |

がん患者の受療動向

拠点病院のない桑員がん医療圏、伊賀がん医療圏、東紀州がん医療圏の流出率が比較的高くなっています。これらの医療圏では、県外への流出割合も高い状況にあります。

【がん患者の流出割合】

がん医療圏	入院(県外分)	外来(県外分)
桑員	28.7%(18.8%)	27.8%(18.5%)
三泗	18.1%(3.9%)	12.2%(3.9%)
鈴亀	23.9%(1.1%)	18.5%(1.2%)
津	9.5%(0.2%)	9.1%(1.1%)
伊賀	33.5%(21.4%)	22.9%(16.0%)
松阪	21.1%(0.2%)	12.2%(0.8%)
伊勢志摩	9.8%(0.4%)	5.4%(0.8%)
東紀州	41.4%(10.9%)	29.0%(13.2%)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

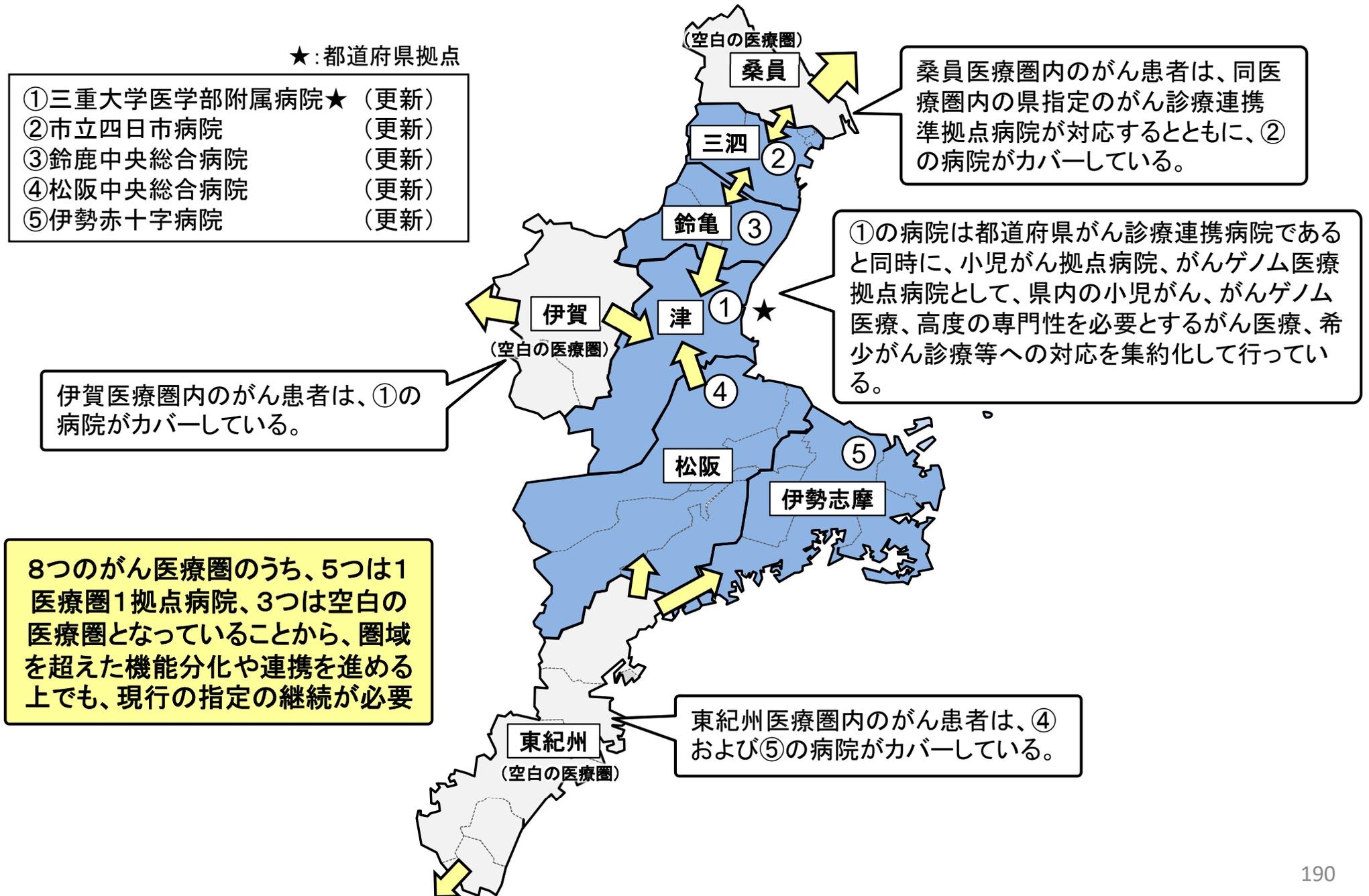
資料 3 - 1 - ①

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★：都道府県拠点

	がん医療圏	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該がん医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	津	★	更新	三重大学医学部 附属病院	(2,440) 3,409	(2,301) 2,508	(3,276) 3,542	(966) 1,161	(258) 655	(70) 99	(743) 783
2	三泗		更新	市立四日市病院	(1,742) 1,699	(1,176) 1,153	(2,249) 2,097	(415) 367	(159) 132	(39) 40	(1,026) 946
3	鈴亀		更新	鈴鹿中央総合病院	(1,071) 1,143	(466) 535	(1,121) 1,175	(214) 199	(132) 119	(73) 53	(574) 713
4	松阪		更新	松阪中央総合病院	(830) 854	(516) 489	(1,056) 1,093	(192) 239	(124) 88	(28) 18	(4,908) 4,728
5	伊勢志摩		更新	伊勢赤十字病院	(1,993) 1,944	(1,266) 1,297	(1,913) 1,827	(425) 420	(193) 145	(64) 66.2	(1,685) 3,017

三重県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



本県では、県内5施設のがん診療連携拠点病院を中心として各医療機関の連携による医療提供体制の整備・充実に取り組んでいます。がん医療の均てん化を図る観点から、がん医療圏は4つの2次医療圏を細分化した地域医療構想区域（桑員、三泗、鈴亀、津、伊賀、松阪、伊勢志摩、東紀州）を基本として設定しています。その上で、がん医療圏には1以上の拠点又は県独自の準拠点病院を配置することをめざしています。一方、高度医療・希少がん診療については集約化の観点から、全県域を中心にがん診療連携体制の構築を図ることが適切と考えます。

そのため、引き続き現在の県内5病院のがん診療連携拠点病院の指定を継続することで、がん診療連携体制の構築に努めるとともに、がん医療が高度化、複雑化してきていることを踏まえ、高度の専門性を必要とする医療の一定の集約化を行うなど、すべての県民が身近な地域においてより質の高いがん治療が受けられる体制づくりを推進することをめざします。

1 がん診療連携体制の整備にかかる課題

(1) 地勢上の特性

本県は南北に長い地勢であることに加え、一定規模の人口を擁する都市が長軸方向に点在しており、各地域で一定の生活圏が形成されています。

(2) がん医療圏ごとの人口割合

がん医療圏は概ね20万人以上の人口を基準として設定していますが、伊賀医療圏が約15万人、東紀州医療圏が約6万人の人口であり、特に東紀州医療圏の人口割合は約3%と他の医療圏と大きな隔たりがあることから、がん医療圏の状況を踏まえ、個別に対策を講じることが必要です。

(3) 受療動向

がん医療圏ごとの患者流出率は入院で9.5%～41.4%、外来で5.4%～29.0%（厚生労働省「NDB」令和5年度）となっており、特に桑員、伊賀、東紀州の各がん医療圏において高い流出状況にあることから、県民に、居住する地域で質の高いがん医療を提供するため、地域で一定の診療実績を有する医療機関に医療資源を一定程度集約化し、地域の拠点としての役割を担えるよう環境を整えることが必要です。

2 がん医療圏ごとの体制整備の考え方

これらの状況や課題に鑑み、各医療圏の特性を踏まえて拠点となる医療機関を整備することで、県内全域のがん診療提供体制の強化を図ります。

がん医療圏	体制整備の考え方
桑員	名古屋市への通勤圏内であり、愛知県との生活圏の結びつきが強い地域のため、同県への患者流出が見られますが、県独自の準拠点病院である桑名市総合医療センターが当医療圏のがん医療を主に担っており、地域内での一定の完結のためには機能強化が必要です。
三泗	本県人口の20%を超える県内最大の人口を有するがん医療圏で、市立四日市病院が地域内のがん医療を主に担うとともに、桑員医療圏、鈴亀医療圏もカバーしていることから、これらの医療圏とのさらなる連携強化が必要です。
鈴亀	鈴鹿中央総合病院が主に地域内のがん医療を担っていますが、隣接する三泗医療圏や津医療圏との流出も見られることから、これらの医療圏とのさらなる連携強化が必要です。
津	三重大学医学部附属病院が、都道府県がん診療連携拠点病院として、高度の専門性を必要とするがん患者の受入など中心的な役割を担っています。
伊賀	奈良県や滋賀県と接し、生活圏の結びつきが強い地域のため、これらの県への患者流出が見られます。地域内の医療機関において一定のがん医療を担っていますが、隣接する津医療圏においてカバーしている現状にあることから、津医療圏との連携によるがん診療体制の強化が必要です。
松阪	松阪中央総合病院は松阪医療圏に加え東紀州医療圏のがん医療を補完する役割を担っています。空白の医療圏である東紀州医療圏に隣接しており、同医療圏から多くのがん患者を受け入れているため、その補完的な役割を担うことが必要です。
伊勢志摩	伊勢赤十字病院は地域に離島や多くの中山間地域を含む当医療圏において医療を提供する役割を担っています。空白の医療圏である東紀州医療圏に近接しており、同医療圏から多くのがん患者を受け入れているため、その補完的な役割を担うことが必要です。
東紀州	拠点病院等のない空白の医療圏で、高齢化の進行に伴う医療需要への対応が求められます。当面は松阪医療圏、伊勢志摩医療圏の拠点病院等を中心にがん医療を提供するとともに、将来的にはそれらと連携した地域がん診療病院の整備等を検討する必要があります。

滋賀県

滋賀県 がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院		
						既指定 病院数	今回更新 病院数	今回指定 類型変更 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回指定 類型変更 病院数	計
大津保健医療圏	464.51	344,309	24.3	741.2	15	2			2		0			0
湖南保健医療圏	256.39	353,366	24.7	1378.2	13	1			1		0			0
甲賀保健医療圏	552.02	138,679	10.1	251.2	7	1			1		0			0
東近江保健医療圏	727.97	222,016	16.1	305.0	11				0		0			0
湖東保健医療圏	392.04	151,553	11.0	386.6	4			1	1		0	1	△1	0
湖北保健医療圏	931.4	143,328	10.7	153.9	4	1			1		0			0
湖西保健医療圏	693.05	43,295	3.3	62.5	3				0		0	1		1
計	4017.38	1,396,546	100	347.6	57	5	0	1	6	0	0	2	△1	1

滋賀県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★: 都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
①	大津		現況報告	大津赤十字病院	(1393) 1406	(828) 1031	(1544) 1666	(476) 370	(281) 310	(47) 45	(781) 603
②	湖南	★	現況報告	滋賀県立総合病院	(1638) 1309	(1035) 1030	(1891) 1868	(521) 444	(129) 155	(27) 29	(3171) 2979
③	大津		現況報告	滋賀医科大学医学部附属病院	(1366) 1417	(1278) 983	(2221) 1782	(456) 496	(157) 177	(16) 14	(282) 367
④	甲賀		現況報告	公立甲賀病院	(612) 633	(299) 326	(2429) 670	(126) 111	(148) 141	(49) 31	(829) 629
⑤	湖北		現況報告	市立長浜病院	(666) 712	(411) 427	(923) 1012	(188) 235	(50) 44	(37) 41	(1087) 1182

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	湖東	類型 変更	彦根市立病院	(748)	(316)	(1197)	(169)	(178)	(831)
				762	326	1191	161	72	933
②	湖西	現況 報告	高島市民病院	(329)	(184)	(373)	(0)	(21)	(244)
				344	68	84	0	56	146

滋賀県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点

- ① 大津赤十字病院
- ② 滋賀県立総合病院★
- ③ 滋賀医科大学医学部附属病院
- ④ 公立甲賀病院
- ⑤ 市立長浜病院
- ⑥ 彦根市立病院(類型変更)
- ① 高島市民病院

空白のため、①の病院がカバーしていたが、平成31年度から①が①とのグループ化のもと、がん診療を提供。

①にない診療機能を補完。湖西医療圏の患者の受け入れ体制がある。

大津医療圏

・東近江医療圏を担当
・県指定「がん診療高度中核拠点病院」
(全県域の高度先進医療、人材育成、人材支援を担当)



湖東医療圏は空白の医療圏であったが、地域がん診療連携拠点病院へ類型変更し推薦する。

東近江医療圏に住むがん患者は
大津医療圏へ受診
→③の病院が担当

滋賀県 指定推薦に係る考え方について（1）

1. がんに関する現状

本県において、がんは昭和56年から死因の1位となっており、全死亡の約3割を占め、現在では年間3,700人以上の県民ががんにより亡くなっている。今後、ますます高齢化が進行する中で、がんの罹患数や死亡数は増加することが予測される一方で、がん医療は年々進歩を遂げ、がんは長く付き合う慢性の病気になってきている。

こうしたことから、がんの予防、早期発見、適切な治療、ライフステージに応じた対策、治療と生活の両立支援などの総合的ながん対策は、今後ますます重要となってくる。

2. がん対策における基本理念（第4期滋賀県がん対策推進計画（令和6年3月策定））および目標

＜基本理念＞ 誰もが自分らしく幸せを感じられる「健康しが」の実現
～県民が、がんを知り、がんを予防し、がんになっても納得した医療・支援が受けられ、自分らしく暮らせる滋賀を目指して～

＜全体目標＞

- ・科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・患者本位のがん医療の実現
- ・尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築

＜取り組みの4つの分野＞

- ・がんの予防
- ・がん医療の充実
- ・がんとの共生
- ・これらを支える基盤の整備

3. がん診療連携拠点病院等の現状、今後の役割

- 滋賀県のがん医療は、国指定のがん診療連携拠点病院（５病院）、地域がん診療病院（２病院）、県指定のがん診療連携支援病院（６病院）を中心に、我が国に多いがん（５大がん）について、集学的治療を提供する体制を整えている。今後も５大がん、その他専門とするがんについて、がん診療連携拠点病院等を中心にがん医療提供体制をさらに整備していく。
- 都道府県がん診療連携拠点病院（県立総合病院）は、地域がん診療連携拠点病院に対する診療支援、医療従事者に対する研修の実施など、県内のがん医療のコーディネーターの役割を担う。また、地域がん診療連携拠点病院（大津赤十字病院他４病院）は、各医療圏域において、専門的ながん医療の提供を行うとともに、圏域内の医療機関に対する診療支援、医療従事者に対する研修、患者等に対する相談支援、情報提供などを行う。
- がん診療連携拠点病院等が中心となり、また、滋賀県がん診療連携協議会などでがん診療の連携協力体制を構築しながら、滋賀県内のがん医療の質の向上や安全確保のための取り組み、看護の質の向上、医療従事者の資質向上などを図っていく。

4. がん診療連携拠点病院が指定されていない空白の医療圏への対策

- 湖西医療圏
高島市民病院を地域がん診療病院として推薦。隣接する大津医療圏の大津赤十字病院との連携を前提にグループとして指定。高島市民病院は、大津赤十字病院と連携しつつ、湖西医療圏の専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供などの役割を担う。
- 東近江医療圏
空白の解消については現在協議中であり、現状は、大津医療圏に位置する滋賀医科大学医学部附属病院が担当する。
- 湖東医療圏
彦根市立病院を地域がん診療連携拠点病院へ類型変更し推薦。このことにより湖東医療圏の空白が解消する。

5. 大津医療圏の２つの拠点病院の役割分担

大津赤十字病院

- ・大津医療圏のがん診療ならびに高島市民病院とのグループ元として湖西医療圏のがん診療を行う。

滋賀医科大学医学部附属病院

- ・空白の東近江医療圏を担当し、大津医療圏のがん診療についても積極的に行う。
- ・県全域の高度先進医療を提供する。
- ・県全域の人材育成、人材支援の中核を担う。

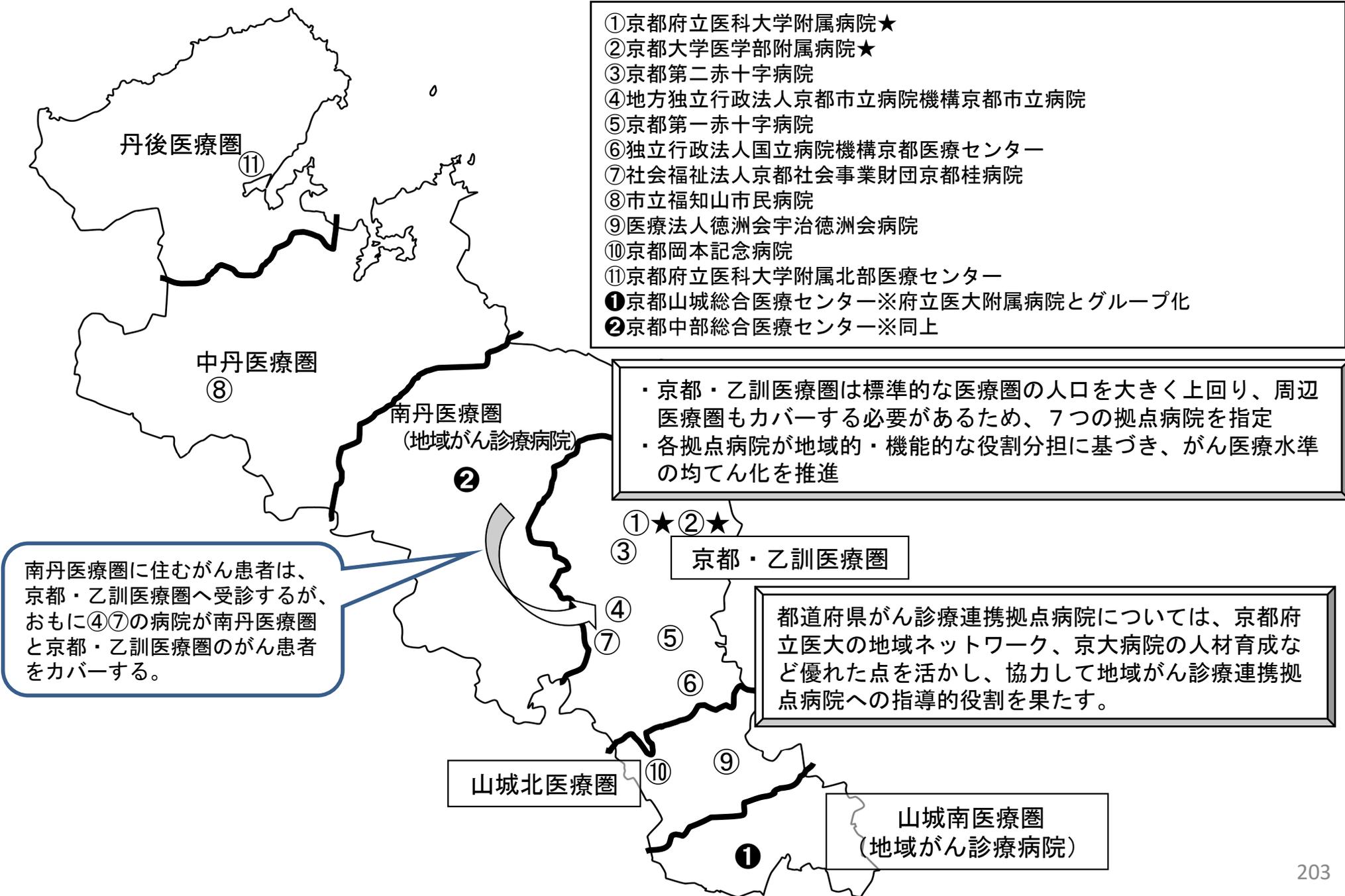
京 都 府

京都府 2 次医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん 診療連携拠点 病院		地域がん 診療病院			
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回更新 病院数	計	
丹後医療圏	844.5	81,090	3.2	96.0	6	1		1		0				0
中丹医療圏	1241.76	177,796	7.1	143.2	16	1		1		0				0
南丹医療圏	1144.29	125,082	5.0	109.3	9			0		0	1			1
京都・ 乙訓医療圏	860.69	1,585,198	63.3	1841.8	102	7		7		0				0
山城北医療圏	257.58	342,751	13.7	1330.7	25	2		2		0				0
山城南医療圏	263.37	194,211	7.7	737.4	3			0		0	1			1
計	4,612.19	2,506,128	100	4258.4	161	11		11		0	0	2	0	2

京都府 令和7年9月1日現在の指定状況と患者受療動向



- ①京都府立医科大学附属病院★
- ②京都大学医学部附属病院★
- ③京都第二赤十字病院
- ④地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院
- ⑤京都第一赤十字病院
- ⑥独立行政法人国立病院機構京都医療センター
- ⑦社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院
- ⑧市立福知山市民病院
- ⑨医療法人徳洲会宇治徳洲会病院
- ⑩京都岡本記念病院
- ⑪京都府立医科大学附属北部医療センター
- ①京都山城総合医療センター※府立医大附属病院とグループ化
- ②京都中部総合医療センター※同上

・ 京都・乙訓医療圏は標準的な医療圏の人口を大きく上回り、周辺医療圏もカバーする必要があるため、7つの拠点病院を指定
 ・ 各拠点病院が地域的・機能的な役割分担に基づき、がん医療水準の均てん化を推進

南丹医療圏に住むがん患者は、京都・乙訓医療圏へ受診するが、おもに④⑦の病院が南丹医療圏と京都・乙訓医療圏のがん患者をカバーする。

①★②★
 ③
 京都・乙訓医療圏

都道府県がん診療連携拠点病院については、京都府立医大の地域ネットワーク、京大病院の人材育成など優れた点を活かし、協力して地域がん診療連携拠点病院への指導的役割を果たす。

山城北医療圏

山城南医療圏
 (地域がん診療病院)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・令和7年10月31日提出の数値

★：都道府県拠点

①	★	現況	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規介入患者数50人以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合 2割程度(%)	がん相談支援センター相談件数
①	★	現況	京都府立医科大学附属病院	2,425	1,981	2,562	973	538	20.0	1,508
②	★	現況	京都大学医学部附属病院	2,507	1,822	7,024	1,212	489	19.1	3,281
③		現況	京都第二赤十字病院	1,418	810	1,373	380	149	8.0	2,107
④		現況	地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院	1,494	1,065	2,048	468	171	9.0	3,363
⑤		現況	京都第一赤十字病院	1,525	1,014	2,056	388	311	8.0	1,134
⑥		現況	独立行政法人国立病院機構京都医療センター	1,493	1111	7952	436	183	9.0	341
⑦		現況	社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院	1,564	1,564	2,276	407	297	14.3	2,410
⑧		現況	福知山市民病院	989	573	1,420	326	100	51.0	1,452
⑨		現況	医療法人徳洲会宇治徳洲会病院	1,059	806	1,023	377	98	26.0	554
⑩		現況	社会医療法人岡病院(財団)京都岡本記念病院	913	719	1,145	238	125	12.0	473
⑪		現況	京都府立医科大学附属北部医療センター	442	415	1,016	201	91	47.0	829

地域がん診療病院

・ 令和 7 年10月31日提出の数値

	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
			院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者実数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規介入患者数	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	がん相談支援センター相談件数 (年間)
①	現況	京都山城総合医療センター	479	501	1,144	0	40	25.0	264
②	現況	京都中部総合医療センター	637	491	1,062	142	32	38.0	40

京都府におけるがん診療体制の整備方針

資料 4

区分	推薦病院	特色	機能分担
都道府県拠点病院	京都府立医科大学附属病院	各地域への医師派遣 地域ネットワークの構築 質の高い緩和ケアの推進、陽子線治療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 緩和ケア部会・地域連携部会の事務局
	京都大学医学部附属病院	がん医療従事者の養成 臨床研究・医療技術開発 外来科学療法、ゲノム医療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 研修部会・外来化学療法部会の事務局
地域拠点病院	京都第二赤十字病院	消化器系がん治療 地域医療支援	肝がん地域連携パスWGの事務局
	地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院	放射線治療 血液がん・小児がん治療	相談支援部会の事務局
	京都第一赤十字病院	救急医療(化学療法の副作用対策など) 消化器系・婦人科がん治療	乳がん地域連携パスWGの事務局
	独立行政法人国立病院機構京都医療センター	緩和ケア 地域・患者への情報提供	院内がん登録部会の事務局
	社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院	肺がん治療、消化器系がん治療 がん患者支援	肺がん地域連携パスWGの事務局
	福知山市民病院	放射線治療 外来化学療法	大腸がん地域連携パスWGの事務局
	医療法人徳洲会宇治徳洲会病院	消化器系がん治療 緩和ケア	胃がん地域連携パスWGの事務局
	京都岡本記念病院	地域医療支援 放射線治療	前立腺がん地域連携パスWGの事務局
	京都府立医科大学附属北部医療センター	内視鏡治療、R2リニアック導入	北部医療圏でがん診療の中核を担う
地域がん診療病院	京都中部総合医療センター	緩和ケア、 ²⁶ リニアック導入	京都府立医科大学附属病院とのグループ指定によりがん診療機能を向上させるとともに、がん診療連携拠点病院との連携を強化し、地域におけるがん診療の中核を果たす。
	京都山城総合医療センター	内視鏡治療	



京都府立医科大学附属病院及び京都大学医学部附属病院を中心として、各地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院がそれぞれの機能・役割を果たすがん診療ネットワークを構築し、住み慣れた地域で、質の高いがん医療が受けられる環境づくりを推進する。

大阪府

大阪府がんの医療圏の概要

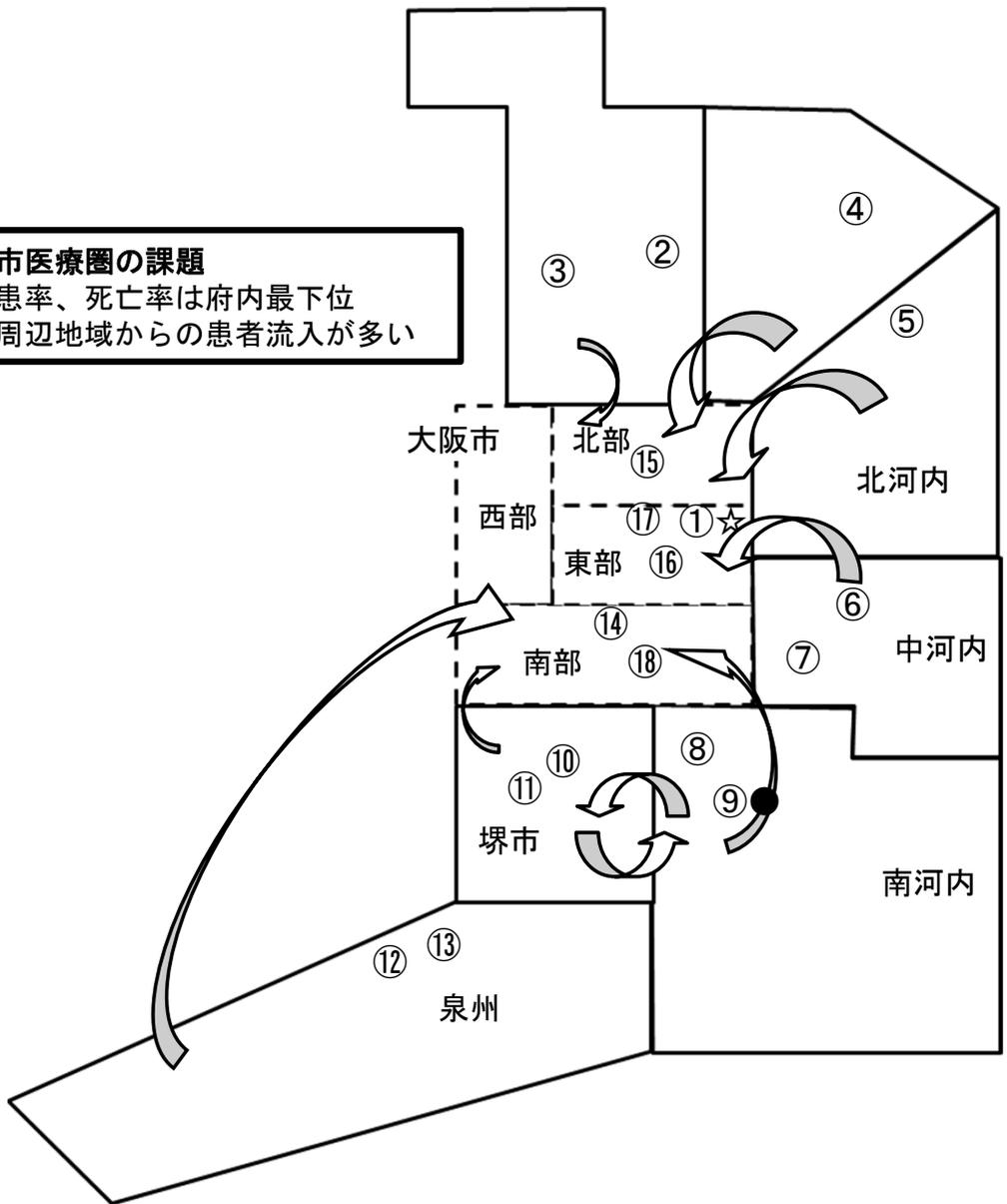
令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度 (人/km ²)	病院数	がん診療連携拠点病院				
						新規申請 病院数	指定更新 病院数	指定類型変更 病院数	現況報告 病院数	計
豊能二次医療圏	275.61	1,061,141	12.1%	3,850.2	46	0	0	0	2	2
三島二次医療圏	213.46	755,289	8.6%	3,538.3	36	0	0	0	1	1
北河内二次医療圏	177.34	1,108,893	12.6%	6,252.9	60	0	0	0	1	1
中河内二次医療圏	128.83	809,045	9.2%	6,279.9	35	0	0	0	2	2
南河内二次医療圏	289.99	568,463	6.5%	1,960.3	37	0	1	1	0	2
堺市二次医療圏	149.83	803,606	9.2%	5,363.5	43	0	0	0	2	2
泉州二次医療圏	444.83	854,491	9.7%	1,920.9	71	0	0	0	2	2
大阪市二次医療圏	225.34	2,815,302	32.1%	12,493.6	173	0	0	0	6	6
北部基本保健医療圏	48.65	719,485	8.2%	14,789.0	39	0	0	0	1	1
西部基本保健医療圏	60.68	499,477	5.7%	8,231.3	28	0	0	0	0	0
東部基本保健医療圏	47.56	791,458	9.0%	16,641.3	59	0	0	0	3	3
南部基本保健医療圏	68.46	804,882	9.2%	11,757.0	47	0	0	0	1	2
計	1905.23	8,776,230	100.0%	4,606.4	501	0	1	1	16	18

大阪府 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

大阪市医療圏の課題
 ・罹患率、死亡率は府内最下位
 ・市周辺地域からの患者流入が多い



☆：都道府県がん診療連携拠点病院 ●：地域がん診療病院

- ①大阪国際がんセンター☆（令和5年4月1日）
- ②大阪大学医学部附属病院（令和5年4月1日）
- ③市立豊中病院（令和5年4月1日）
- ④大阪医科薬科大学病院（令和5年4月1日）
- ⑤関西医科大学附属病院（令和5年4月1日）
- ⑥市立東大阪医療センター（令和5年4月1日）
- ⑦八尾市立病院（令和5年4月1日）
- ⑧近畿大学病院（令和7年4月1日）
- ⑨大阪南医療センター●（令和7年11月1日予定）
 ※近畿大学病院が移転したことを確認の上で、移転日より地域がん診療病院として新規指定予定
- ⑩大阪労災病院（令和5年4月1日）
- ⑪堺市立総合医療センター（令和6年4月1日）
- ⑫市立岸和田市民病院（令和5年4月1日）
- ⑬和泉市立総合医療センター（令和5年4月1日）
- ⑭大阪公立大学医学部附属病院（令和6年4月1日）
- ⑮大阪市立総合医療センター（令和5年4月1日）
- ⑯大阪赤十字病院（令和5年4月1日）
- ⑰大阪医療センター（令和6年4月1日）
- ⑱大阪急性期・総合医療センター（令和5年4月1日）

※括弧内は現在の指定開始日

がん診療連携拠点病院等

・（ ）内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

☆：都道府県がん診療連携拠点病院 ●地域がん診療病院

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	大阪市	☆	現況	大阪国際がんセンター	(4,671) 4,717	(4,361) 4,461	(9,166) 8,997	(2,167) 2,140	(176) 337	(10.0) 14.3	(14,921) 12,168
2	豊能		現況	大阪大学医学部附属病院	(2,783) 2,807	(2,517) 2,583	(3,742) 3,507	(807) 685	(374) 425	(16.0) 17.0	(737) 759
3	豊能		現況	市立豊中病院	(1,722) 1,689	(1,399) 1,395	(2,400) 2,453	(293) 312	(260) 364	(16.0) 16.0	(1,606) 1,636
4	三島		現況	大阪医科薬科大学病院	(2,703) 2,642	(3,033) 2,852	(4,757) 4,452	(914) 891	(360) 361	(34.0) 33.0	(4,980) 3,638
5	北河内		現況	関西医科大学附属病院	(3,404) 3,516	(3,522) 3,681	(6,897) 7,047	(1,063) 1,108	(764) 720	(23.0) 26.0	(8,842) 8,517
6	中河内		現況	市立東大阪医療センター	(1,327) 1,351	(1,198) 1,106	(1,287) 1,326	(276) 202	(274) 259	(19.0) 11.3	(7,639) 1,400
7	中河内		現況	八尾市立病院	(1,170) 1,245	(972) 1,002	(3,761) 1,863	(429) 494	(184) 254	(9.6) 10.2	(4,507) 5,025
8	南河内		更新	近畿大学病院	(3,010) 2,925	(3,386) 3,310	(4,226) 4,289	(821) 894	(382) 471	(24.0) 22.0	(4,012) 4,341
9	南河内	●	類型変更	大阪南医療センター	(715) 558	(440) 424	(2,387) 2,494	(153) 72	(97) 120	(10.0) 12.0	(2,972) 3,204
10	堺市		現況	大阪労災病院	(1,928) 1,959	(2,253) 2,403	(3,798) 4,214	(436) 432	(2,368) 2,442	(24.0) 18.2	(3,566) 3,991

がん診療連携拠点病院等

・ () 内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	のべ相談件数(年間)
11	堺市		現況	堺市立総合医療センター	(1,827)	(1,265)	(1,424)	(610)	(623)	(16.5)	(2,948)
					2,152	1,267	2,397	615	637	21.0	2,543
12	泉州		現況	市立岸和田市民病院	(1,130)	(704)	(1,113)	(407)	(116)	(15.0)	(3,933)
					1,147	621	1,236	383	139	10.0	3,934
13	泉州		現況	和泉市立総合医療センター	(1,311)	(946)	(1,839)	(274)	(240)	(21.3)	(2,078)
					1,308	927	1,819	293	198	14.0	2,043
14	大阪市		現況	大阪公立大学医学部附属病院	(2,945)	(1,912)	(3,117)	(779)	(256)	(4.0)	(1,526)
					3,017	2,360	4,218	1,034	285	4.6	1,089
15	大阪市		現況	大阪市立総合医療センター	(2,381)	(1,427)	(3,867)	(834)	(892)	(9.0)	(1,483)
					2,444	1,349	3,810	877	955	9.0	1,541
16	大阪市		現況	大阪赤十字病院	(2,452)	(1,898)	(3,429)	(664)	(322)	(5.0)	(4,642)
					2,415	1,858	3,374	618	331	5.0	4,196
17	大阪市		現況	大阪医療センター	(1,216)	(931)	(1,380)	(268)	(194)	(4.0)	(3,118)
					1,296	1,024	2,007	334	292	4.0	2,987
18	大阪市		現況	大阪急性期・総合医療センター	(1,824)	(1,560)	(2,217)	(208)	(254)	(5.9)	(968)
					2,363	1,561	2,507	500	222	6.5	423

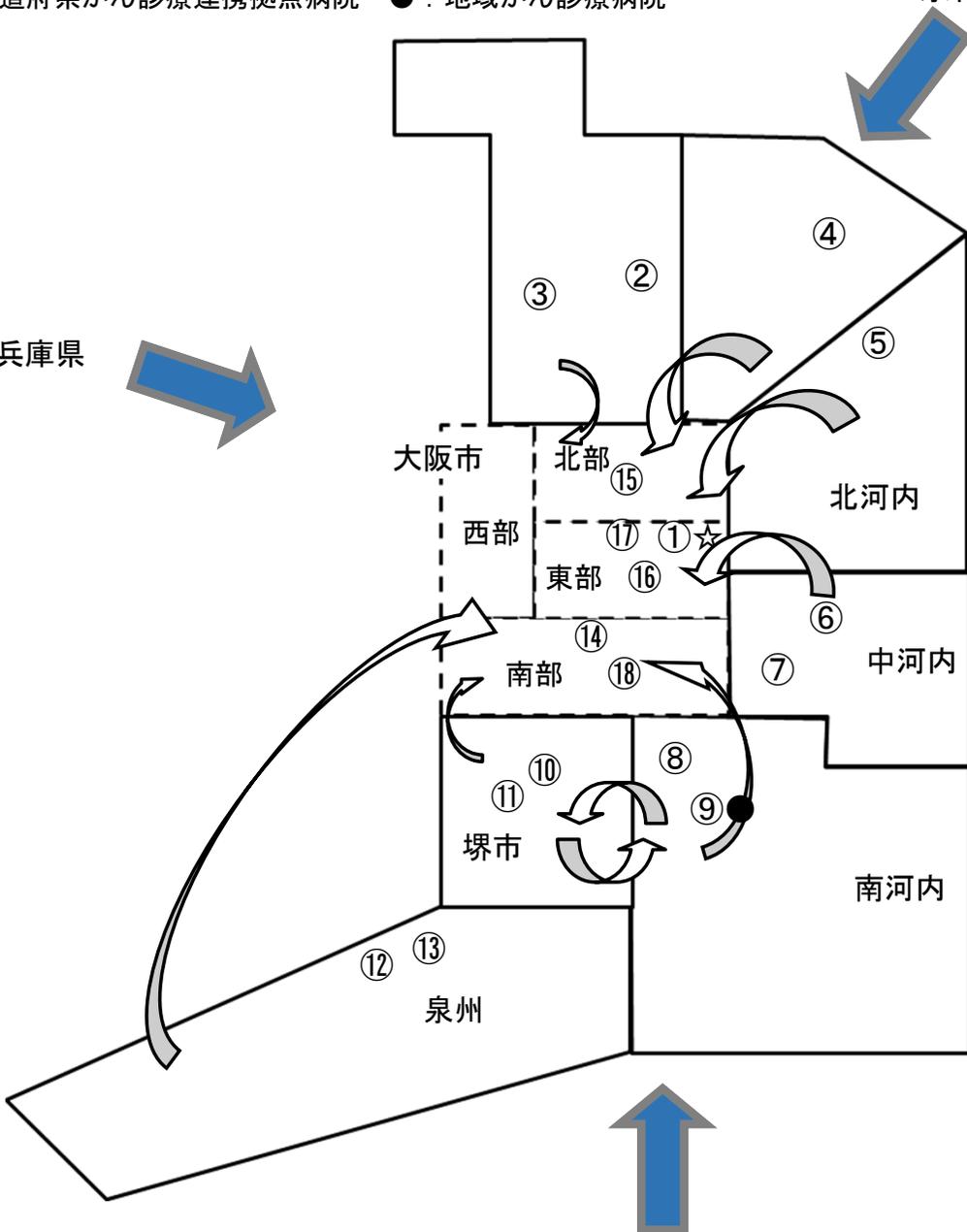
大阪府 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料4

☆：都道府県がん診療連携拠点病院 ●：地域がん診療病院

京都府

兵庫県



和歌山県

発達した交通網が患者の受療動向に大きな影響を与えており、医療圏を超える患者移動や他府県からの患者流入が多い
⇒大阪府と他都道府県との流出入（いずれも流入超過）

レセプト件数 (件)	大阪府内に所在する医療機関における府外に住所を有する患者の算定件数 (流入)	大阪府内に住所を有する患者に係る府外の医療機関における算定件数 (流出)
外来	約26万件	約11万件
入院	約2万9千件	約1万4千件

奈良県

- ①大阪国際がんセンター☆ (現況)
- ②大阪大学医学部附属病院 (現況)
- ③市立豊中病院 (現況)
- ④大阪医科薬科大学病院 (現況)
- ⑤関西医科大学附属病院 (現況)
- ⑥市立東大阪医療センター (現況)
- ⑦八尾市立病院 (現況)
- ⑧近畿大学病院 (更新)
- ⑨大阪南医療センター● (類型変更)
- ⑩大阪労災病院 (現況)
- ⑪堺市立総合医療センター (現況)
- ⑫市立岸和田市民病院 (現況)
- ⑬和泉市立総合医療センター (現況)
- ⑭大阪公立大学医学部附属病院 (現況)
- ⑮大阪市立総合医療センター (現況)
- ⑯大阪赤十字病院 (現況)
- ⑰大阪医療センター (現況)
- ⑱大阪急性期・総合医療センター (現況)

地域特性

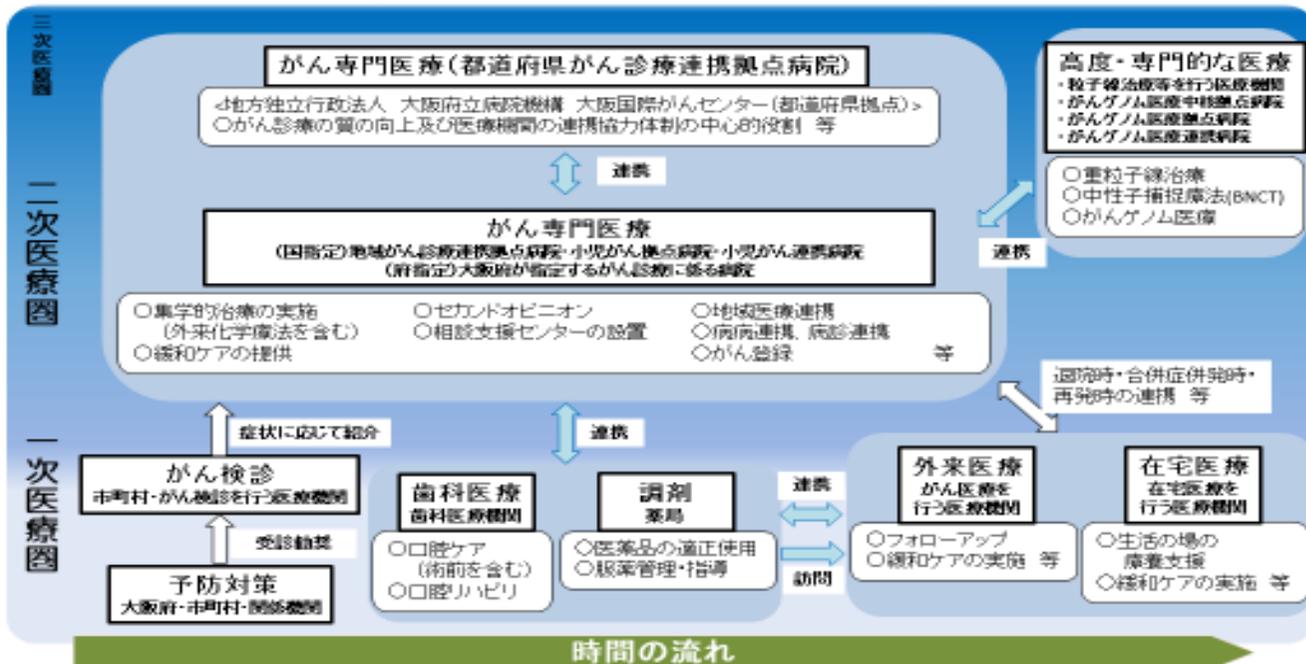
- 府の人口 約878万人
- がんり患者数 約8万人
- 2次医療圏の平均人口 約110万人
- 1拠点病院あたりの人口 約49万人
- 1拠点病院あたりの医療機関数 約530施設

死亡率 68.7⇒全国34位
※年齢調整死亡率(75歳未満・人口10万人対)

病院機能

- 1拠点病院あたりの手術件数 約1,900件

がん医療提供体制

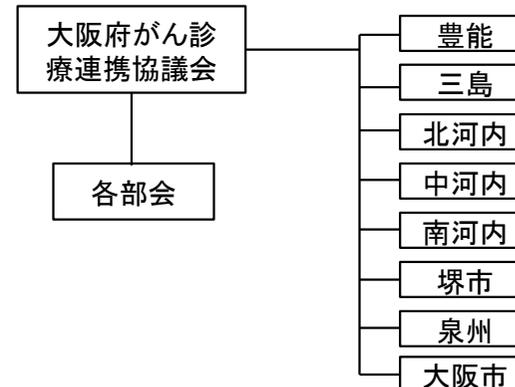


がん診療ネットワーク協議会

2次医療圏ごとに国拠点病院が中心となって運営

【メンバー】

圏域内の国・府拠点病院 医師会 保健所
市町村担当課 大阪国際がんセンター 大阪府



大阪府においては、2次医療圏を基本としつつ、面で支えるがん医療提供体制の構築が重要

【既指定拠点病院の指定更新及び指定類型変更】

大阪府は人口が多く、がんによる死亡率も高い等の課題が多い。府内全域での役割分担と連携体制の強化を図り、より一層、がん医療の充実を図る必要があるため、近畿大学病院の指定更新が必要不可欠。

加えて、近畿大学病院が南河内医療圏から堺市医療圏に移転を予定している11月1日からは、南河内医療圏はがん診療連携拠点病院の無い医療圏になることから、大阪南医療センターの地域がん診療連携拠点病院としての指定類型変更が必要不可欠。

兵 庫 県

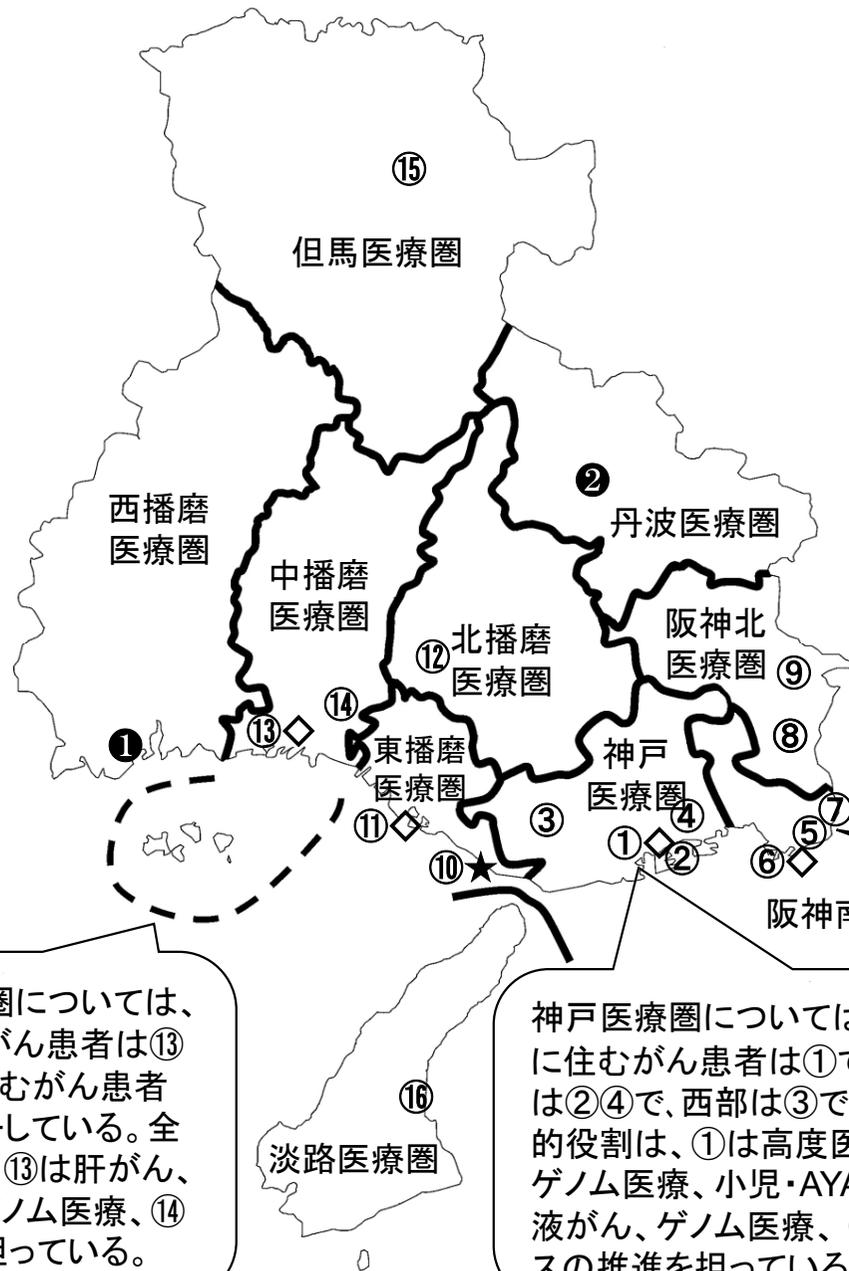
兵庫県がんの医療圏の概要

令和7年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院		
						既指定 病院数	現況 報告	新規	類型 変更	計	既指定 病院数	現況 報告	計
神戸医療圏	557.1	1,486,225	28.0%	2,668	109	4	4	0	0	4	0	0	0
阪神南医療圏	169.1	1,027,823	19.4%	6,077	52	3	3	0	0	3	0	0	0
阪神北医療圏	480.9	694,327	13.1%	1,444	36	2	2	1	0	3	0	0	0
東播磨医療圏	266.3	707,209	13.3%	2,655	39	2	2	0	0	2	0	0	0
北播磨医療圏	895.6	249,946	4.7%	279	21	1	1	0	0	1	0	0	0
中播磨医療圏	865.3	554,756	10.5%	641	36	2	2	0	0	2	0	0	0
西播磨医療圏	1,567.0	229,544	4.3%	146	21	0	0	0	0	0	1	1	1
但馬医療圏	2,133.3	143,841	2.7%	67	10	1	1	0	0	1	0	0	0
丹波医療圏	870.8	94,857	1.8%	109	7	0	0	0	1	1	1	0	0
淡路医療圏	595.6	119,328	2.2%	200	11	1	1	0	0	1	0	0	0
計	8,401.0	5,307,856	100.0%	632	342	16	16	1	1	18	2	1	1

兵庫県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



- ①神戸大学医学部附属病院（令和5年4月1日）
- ②神戸市立医療センター中央市民病院（令和5年4月1日）
- ③神戸市立西神戸医療センター（令和5年4月1日）
- ④神鋼記念病院（令和5年4月1日）
- ⑤独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院（令和5年4月1日）
- ⑥兵庫医科大学病院◇（令和5年4月1日）
- ⑦兵庫県立尼崎総合医療センター（令和5年4月1日）
- ⑧公立学校共済組合近畿中央病院（令和5年4月1日）
- ⑨市立伊丹病院（令和5年4月1日）
- ⑩兵庫県立がんセンター★（令和5年4月1日）
- ⑪加古川中央市民病院（令和5年4月1日）
- ⑫北播磨総合医療センター（令和5年4月1日）
- ⑬姫路赤十字病院（令和5年4月1日）
- ⑭独立行政法人国立病院機構姫路医療センター（令和5年4月1日）
- ⑮公立豊岡病院組合立豊岡病院（令和5年4月1日）
- ⑯兵庫県立淡路医療センター（令和5年4月1日）
- ⑰赤穂市民病院（令和5年4月1日）
- ⑱兵庫県立丹波医療センター（令和6年4月1日）

中播磨医療圏については、西部に住むがん患者は⑬で、東部に住むがん患者は⑭でカバーしている。全県的役割は、⑬は肝がん、血液がん、ゲノム医療、⑭は肺がんを担っている。

神戸医療圏については、北部・中部(西側)に住むがん患者は①で、東部・中部(東側)は②④で、西部は③でカバーしている。全県的役割は、①は高度医療、特定機能病院、ゲノム医療、小児・AYA世代のがん、②は血液がん、ゲノム医療、③④は地域連携のパスの推進を担っている。

阪神南医療圏については、東部に住むがん患者は⑤⑦で、西部に住むがん患者は⑥でカバーしている。全県的役割は、⑤⑦は中皮腫、ゲノム医療、⑥血液がん、中皮腫、ゲノム医療、小児・AYA世代のがんを担っている。

がん診療連携拠点病院の診療実績等

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★: 都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 神戸		現況	神戸大学医学部附属病院	(3,019) 3,087	(1,897) 2,009	(5,327) 5,698	(913) 1,012	(701) 802	(8.0) 7.0	(1,328) 1,215
2 神戸		現況	神戸市立MC中央市民病院	(2,579) 2,684	(2,232) 2,378	(2,269) 2,334	(643) 697	(388) 508	(11.0) 10.0	(1,104) 1,586
3 神戸		現況	神戸市立西神戸MC	(1,622) 1,679	(1,505) 1,509	(2,299) 2,398	(360) 338	(446) 396	(8.0) 7.4	(494) 479
4 神戸		現況	神鋼記念病院	(1,409) 1,605	(1,075) 1,029	(1,350) 1,205	(385) 343	(150) 110	(7.0) 7.0	(208) 244
5 阪神南		現況	関西労災病院	(2,125) 2,172	(2,898) 2,917	(8,239) 8,266	(555) 576	(157) 195	(12.0) 12.8	(796) 714
6 阪神南		現況	兵庫医科大学病院	(2,482) 2,764	(1,831) 1,983	(3,658) 3,901	(677) 654	(447) 452	(15.0) 14.0	(1,456) 1,122
7 阪神南		現況	県立尼崎総合MC	(2,260) 2,382	(1,421) 1,516	(1,384) 1,431	(406) 550	(266) 307	(17.0) 16.0	(791) 423
8 阪神北		現況 (辞退)	近畿中央病院	(588) 495	(419) 395	(1,308) 1,296	(131) 122	(97) 93	(5.0) 3.0	(143) 230
9 阪神北		現況	市立伊丹病院	(1,273) 1,260	(634) 632	(1,239) 1,170	(243) 221	(57) 158	(11.0) 11.0	(609) 685
- 阪神北		新規	宝塚市立病院	(-) 1,414	(-) 628	(-) 1633	(-) 388	(-) 162	(-) 11.0	(-) 217 241

がん診療連携拠点病院の診療実績等

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★: 都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数
10 東播磨	★	現況	県立がんC	(2,734) 2,722	(2,104) 1,708	(3,432) 3,644	(832) 834	(405) 448	(23.0) 24.9	(1,948) 1,518
11 東播磨		現況	加古川中央市民病院	(1,735) 1,886	(1,223) 1,297	(2,731) 2,547	(465) 422	(192) 194	(23.0) 32.0	(571) 651
12 北播磨		現況	北播磨総合MC	(1,429) 1,537	(1,023) 801	(1,299) 1,237	(254) 251	(124) 81	(41.0) 40.0	(615) 507
13 中播磨		現況	姫路赤十字病院	(2,230) 2,343	(1,907) 1,892	(2,797) 2,852	(497) 478	(370) 408	(37.0) 44.6	(592) 265
14 中播磨		現況	姫路MC	(1,102) 1,117	(880) 786	(2,153) 1,551	(358) 306	(235) 217	(26.0) 21.0	(1,031) 2,229
15 但馬		現況	公立豊岡病院	(930) 944	(587) 662	(1,089) 1,095	(132) 113	(73) 86	(30.0) 23.0	(74) 254
② 丹波		変更	県立丹波MC	(536) 498	(315) 327	(546) 594	(89) 63	(209) 162	(32.0) 34.0	(985) 910
16 淡路		現況	県立淡路MC	(825) 772	(806) 635	(3,281) 3,356	(56) 206	(44) 64	(37.0) 37.0	(614) 842

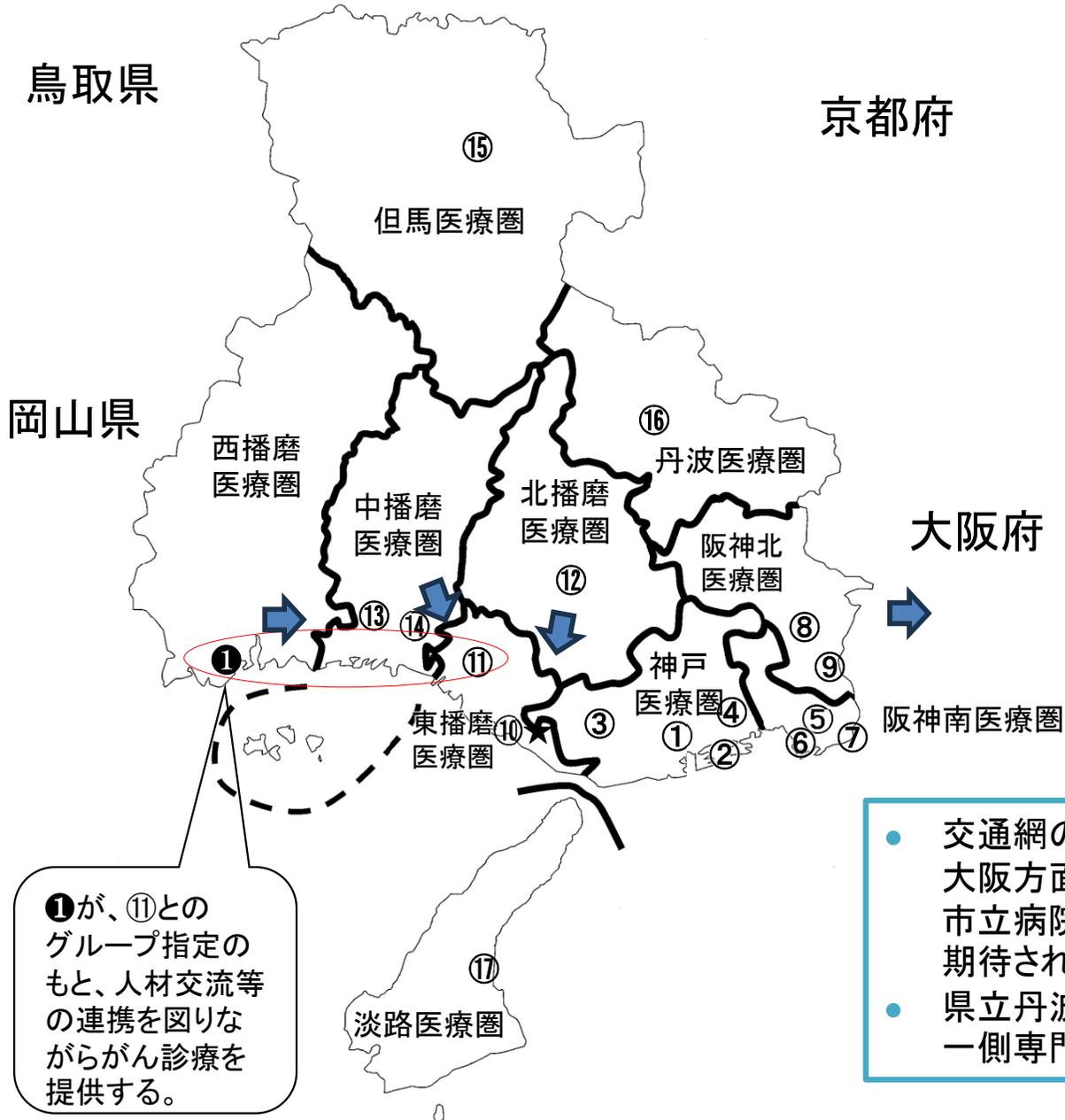
地域がん診療病院の診療実績等

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談 支援センター
			院内がん登 録数(年間)	悪性腫瘍の手 術件数(年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	相談件数
① 西播磨	現況	赤穂市民病院	(332)	(235)	(759)	(71)	(14)	(1,164)
			296	244	695	60	11	872

兵庫県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点



- ① 神戸大学医学部附属病院（現況）
- ② 神戸市立医療センター中央市民病院（現況）
- ③ 神戸市立西神戸医療センター（現況）
- ④ 神鋼記念病院（現況）
- ⑤ 独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院（現況）
- ⑥ 兵庫医科大学病院（現況）
- ⑦ 兵庫県立尼崎総合医療センター（現況）
- ⑧ 宝塚市立病院（新規）
- ⑨ 市立伊丹病院（現況）
- ⑩ 兵庫県立がんセンター★（現況）
- ⑪ 加古川中央市民病院（現況）
- ⑫ 北播磨総合医療センター（現況）
- ⑬ 姫路赤十字病院（現況）
- ⑭ 独立行政法人国立病院機構姫路医療センター（現況）
- ⑮ 公立豊岡病院組合立豊岡病院（現況）
- ⑯ 兵庫県立丹波医療センター（変更）
- ⑰ 兵庫県立淡路医療センター（現況）
- 赤穂市民病院（現況）

- 交通網の利便性などにより、がん患者の一部が阪神南圏域や大阪方面へ流出している状況にある阪神北圏域で、新たに宝塚市立病院が指定されることにより、患者の流出を一部防ぐことが期待される。
- 県立丹波医療センターの指定類型変更により、丹波圏域でより一側専門的ながん医療の提供が期待される。

- ・ 県内すべてののがんの医療圏に、がん医療提供体制を整備
- ・ 医療圏の人口規模、患者の通院圏及び拠点病院間の診療機能、役割分担等を考慮し、必要な場合は相乗的な効果を期待して複数箇所を整備

県がん対策推進計画上の重点対策がん

- ・ 肝がん（年齢調整死亡率の全国平均を上回る状況への対応）
- ・ 肺がん（本県が中皮腫好発地域であることから、中皮腫を含む肺がん対策の実施）
- ・ 小児・AYA世代のがん（小児がん拠点病院を中心とした診療ネットワークの構築）

「肺がん」診療の核となる病院

<医療機関名>

○独)姫路医療センター

○神戸大学医学部附属病院

○神戸市立医療センター

中央市民病院

○神戸市立

西神戸医療センター

○独)関西労災病院

○兵庫医科大学病院

○県立尼崎総合医療センター

<役割・特徴>

中播磨、西播磨医療圏の肺がん手術の大半をカバー

他圏域から患者を受入れ

全県的なアスベスト疾患に対応

県立がんセンター・こども病院を中心に、圏域内に複数整備された病院が、全県的役割を担う

「肝がん」診療の核となる病院

<医療機関名>

○姫路赤十字病院

○神戸大学医学部附属病院

○兵庫医科大学病院

<役割・特徴>

中播磨、西播磨医療圏の肝がん手術の大半をカバー

先進医療（経皮的肝灌流、生体肝移植等）により高度進行肝がんに対応

肝疾患診療連携拠点病院

「小児・AYA世代のがん」診療の核となる病院

（がん診療連携拠点病院のみ掲載）

<医療機関名>

○神戸大学医学部附属病院

○県立尼崎総合医療センター

○（県立がんセンター）

○神戸市立

西神戸医療センター

○兵庫医科大学病院

○加古川中央市民病院

○北播磨総合医療センター

○姫路赤十字病院

<役割・特徴>

地域の小児がん診療を行う連携病院

特定のがん種等についての診療を行う連携病院

小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院

奈良県

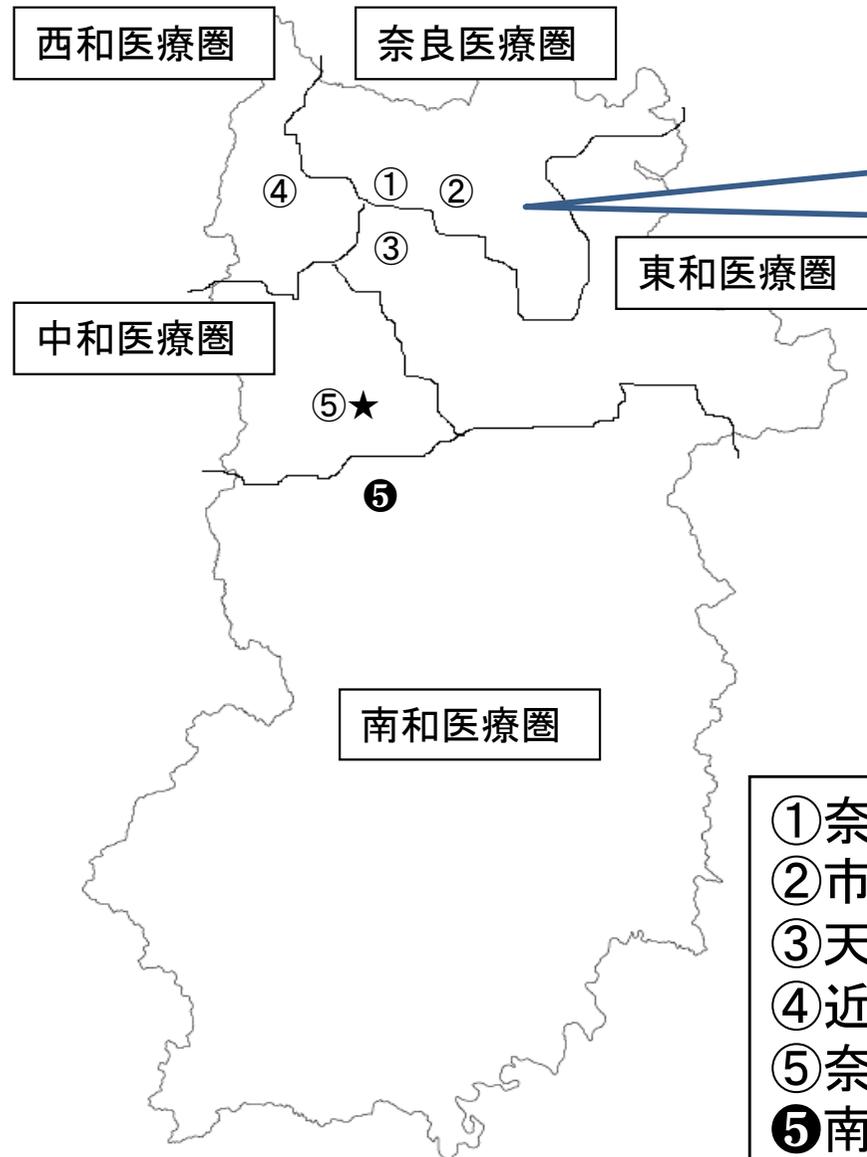
奈良県がんの医療圏の概要

令和7年9月1日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院									
						推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳								
							新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告					
1 奈良医療圏	276.94	345,267	27.1%	1,246.7	22	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 東和医療圏	657.77	187,029	14.7%	284.3	12	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 西和医療圏	168.49	328,085	25.7%	1,947.2	18	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 中和医療圏	240.79	357,094	28.0%	1,483.0	19	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 南和医療圏	2346.92	57,212	4.5%	24.4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
県(全体)	3690.91	1,274,687	100.0%	345.4	75	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

奈良県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◎: 特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)

①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- | | |
|----------------|----------------|
| ①奈良県総合医療センター | (令和5年4月1日)(現況) |
| ②市立奈良病院 | (令和5年4月1日)(現況) |
| ③天理よろづ相談所病院 | (令和7年4月1日)(現況) |
| ④近畿大学奈良病院 | (令和7年4月1日)(現況) |
| ⑤奈良県立医科大学附属病院★ | (令和5年4月1日)(現況) |
| ⑥南奈良総合医療センター | (令和5年4月1日)(現況) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1

・()内は令和6年の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1,000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 奈良		現況	奈良県総合医療センター	(1,735) 1,781	(1,745) 1,524	(1,635) 2,742	(535) 520	(98) 317	(22.0) 25.3	(717) 698
2 奈良		現況	市立奈良病院	(950) 1,037	(634) 930	(1,678) 1,615	(222) 218	(91) 86	(25.0) 26.0	(3,840) 3,889
3 東和		現況	天理よろづ相談所病院	(1,902) 1,827	(1,260) 1,275	(2,253) 2,278	(458) 390	(50) 50	(40.0) 29.0	(357) 585
4 西和		現況	近畿大学奈良病院	(1,127) 1,047	(1,137) 972	(1,435) 1,361	(308) 282	(110) 101	(22.0) 22.0	(1,703) 1,546
5 中和	★	現況	奈良県立医科大学附属病院	(2,685) 2,681	(1,470) 1,490	(3,568) 3,833	(869) 923	(307) 480	(19.0) 27.0	(1,189) 1,349

地域がん診療病院の診療実績等

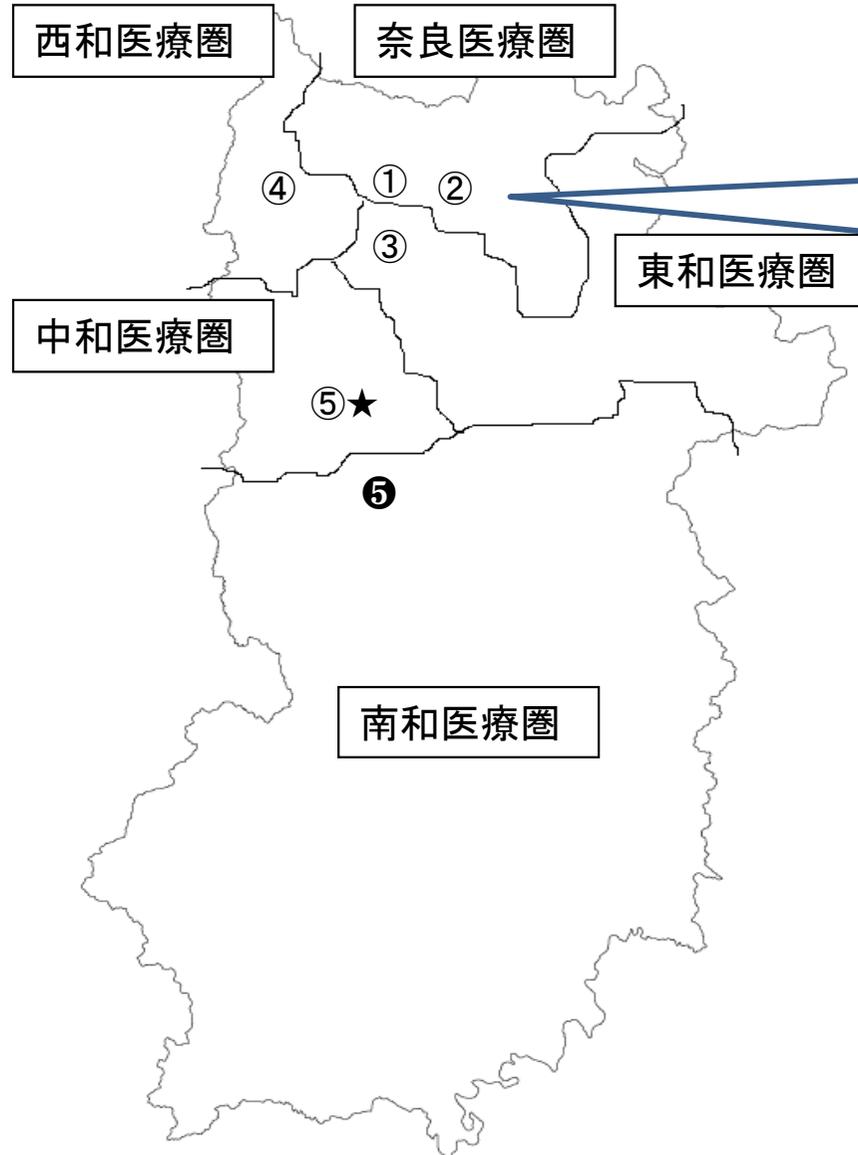
資料3-2

・上段は令和6年の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する 新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住する がん患者の診療の 割合(%)	相談件数 (年間)
⑤	南和	現況	南奈良総合医療センター	(431) 433	(181) 267	(229) 243	実施なし	(64) 59	(52) 44	(56) 46

奈良県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)

①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- | | |
|----------------|------|
| ①奈良県総合医療センター | (現況) |
| ②市立奈良病院 | (現況) |
| ③天理よろづ相談所病院 | (現況) |
| ④近畿大学奈良病院 | (現況) |
| ⑤奈良県立医科大学附属病院★ | (現況) |
| ⑥南奈良総合医療センター | (現況) |

◆今回のがん診療連携拠点病院等の推薦・現況報告に係る奈良県の考え方について

●本県の医療提供体制におけるがん診療連携拠点病院について

都道府県がん診療連携拠点病院〔奈良県立医科大学附属病院〕

地域がん診療連携拠点病院〔奈良県総合医療センター、市立奈良病院、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院〕

地域がん診療病院〔南奈良総合医療センター〕

- ・平成29年度に地域がん診療病院として南奈良総合医療センターが指定されたことにより、全てのがんの医療圏（2次医療圏と同じ）に拠点病院等が整備され、がん医療圏の空白が解消した。
- ・都道府県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院は県指定の病院と協働して「奈良県がん診療連携協議会」を設置し、運営について中心的な役割を担っており、診療実績の共有や情報交換を進めるなど、有機的に連携することで、医療の質の向上に努めている。

すべての医療圏に
拠点病院を整備



県内で、安全かつ安心な質の高いがん医療の提供を！！

●本県のがん診療連携拠点病院の現状

医療圏	奈良医療圏	東和医療圏	西和医療圏	中和医療圏	南和医療圏
対象市町村数	1（奈良市のみ）	9	9	8	12
がん診療連携拠点病院	奈良県総合医療センター 市立奈良病院	天理よろづ相談所病院	近畿大学奈良病院	奈良県立医科大学附属病院	南奈良総合医療センター
人口割合（％）	27.1	14.7	25.7	28.0	4.5

●同一医療圏で重複するがん診療連携拠点病院の役割（奈良医療圏）

<奈良医療圏の特徴>

- ・奈良医療圏は奈良市のみで、市部では面積が最も大きく、県総面積の7.5%を占め、東西長32.02kmと東西に長い。
- ・奈良県の人口の約4分の1以上を占める。

<奈良医療圏におけるがん診療の状況>

奈良県総合医療センター	相互協力により質の高いがん医療を提供！	市立奈良病院
主に奈良医療圏の西部のがん患者を受け持つ		主に奈良医療圏の東部のがん患者を受け持つ
治療：高度な治療や手術支援ロボットの導入の先進的な療法の実施 緩和ケア：緩和ケアチームの強化		治療：主に大腸がんの内視鏡手術や乳がん手術を多く実施 緩和ケア：緩和ケア病床の設置
へき地医療拠点病院としてへき地へ医師を派遣 へき地における住民の医療を確保・支援し、がん予防や早期発見の機能を担うなど地域医療を補完		

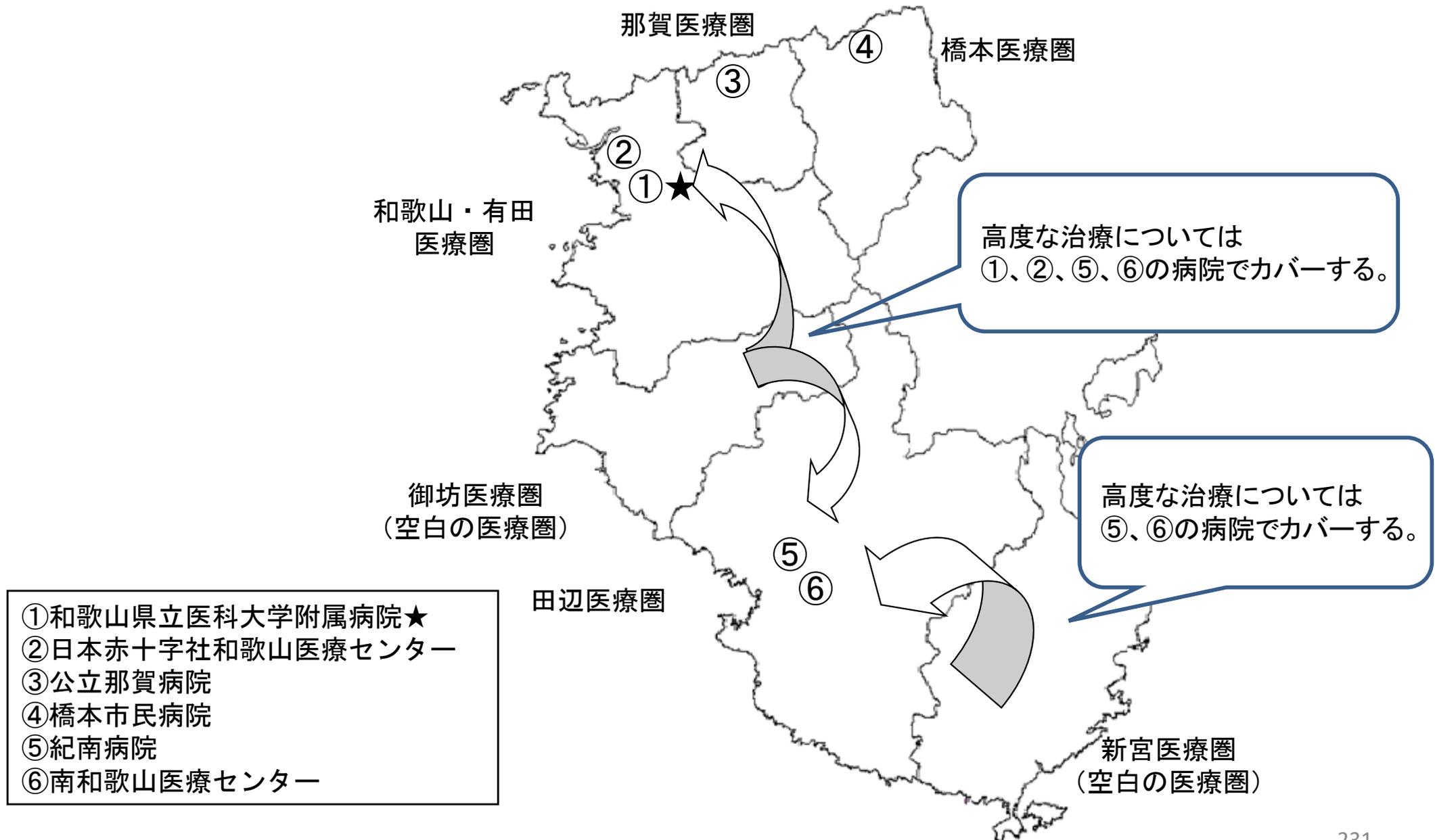
和歌山県

和歌山県のがんの医療圏の概要

	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密 度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院					
							推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳				
								新規申請	指定更新	指定類型 変更		現況報告	新規申請	指定更新		指定類型 変更	現況報告	新規申請	指定更新	指定類型 変更
1	和歌山・有田 医療圏	913.04	459,362	52.7	503.1	48	0			2	0				0					
2	那賀医療圏	266.72	110,037	12.6	412.6	8	1			1	0				0					
3	橋本医療圏	463.42	78,369	9.0	169.1	5	1			1	0				0					
4	御坊医療圏	579.02	55,737	6.4	96.3	4	0			0					0					
5	田辺医療圏	1579.99	112,893	12.9	71.5	9	1			2	0				0					
6	新宮医療圏	922.45	55,961	6.4	60.7	8	0			0					0					
	計	4724.64	872,359	100.0	184.6	82	3	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

和歌山県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

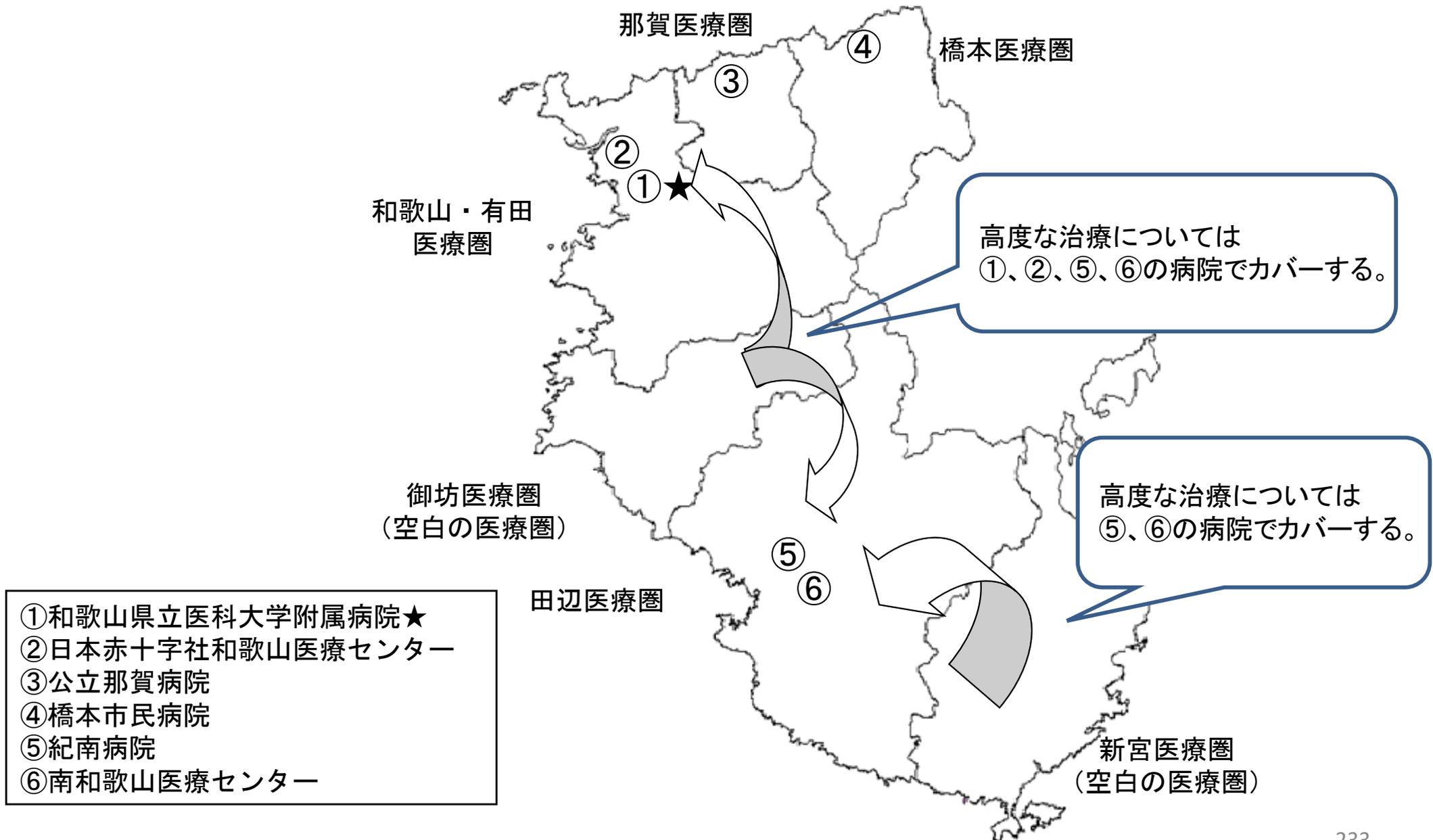
・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	和歌山	★	現況報告	和歌山県立医科大学附属病院	(3,234) 2,602	(2,350) 2,434	(15,971) 3,118	(621) 881	(320) 348	(22) 24	(7,714) 7,289
2	和歌山		現況報告	日本赤十字社和歌山医療センター	(2,785) 2,431	(1,805) 1,901	(3,912) 4,304	(696) 590	(514) 663	(37) 31	(1,435) 1,737
3	那賀		現況報告	公立那賀病院	(437) 581	(343) 570	(2,044) 1,977	(23) 126	(120) 124	(26) 25	(1,329) 1,381
4	橋本		現況報告	橋本市民病院	(364) 572	(301) 313	(430) 553	(84) 90	(149) 314	(27) 35	(940) 1,068
5	田辺		現況報告	紀南病院	(825) 827	(398) 408	(3,512) 983	(202) 203	(117) 165	(42) 28	(900) 737
6	田辺		現況報告	南和歌山医療センター	(665) 655	(456) 468	(3,189) 1,139	(1,330) 168	(108) 147	(48) 28	(1,025) 232

和歌山県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点



今回の指定推薦に係る和歌山県の考え方

県がん診療連携拠点病院

和歌山県立医科大学附属病院(和歌山・有田医療圏)

県内全域をカバー

- ◆和歌山県がん診療連携協議会の運営（地域連携・相談支援、がん登録、緩和ケア・研修教育、化学療法 の各部会）
- ◆地域がん診療連携拠点病院への支援
- ◆がん診療に携わる医療従事者の養成 等

北部（和歌山、那賀、橋本、有田）

地域がん診療連携拠点病院

南部（御坊、田辺、新宮）

日本赤十字社和歌山医療センター(和歌山・有田医療圏)

- ◆最も人口の多い和歌山医療圏で、県立医科大学と連携して高度な医療を提供
- ◆患者数が最も多く、隣接する有田医療圏や大阪府南部からも患者受け入れ

公立那賀病院(那賀医療圏)

- ◆圏域内で中心的な病院であり、隣接する医療圏からも患者は多い
- ◆在宅緩和ケアなど地域との連携に積極的に取り組んでいる

橋本市民病院(橋本医療圏)

- ◆県北東部で中心的な病院であり、隣接する奈良県南西部からも患者は多い
- ◆橋本医療圏で唯一の放射線治療が可能な病院

紀南病院(田辺医療圏)

- ◆県南部で南和歌山医療センターと共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆地域の医療機関との連携も強い

協力・連携

南和歌山医療センター(田辺医療圏)

- ◆県南部で紀南病院と共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆緩和ケア病棟を備え、患者の病状に応じた医療体制を提供

◆今回の推薦の概要

指定継続のみ（新規指定・指定更新・類型変更なし）

同一医療圏での複数設置について

和歌山・有田医療圏

県内の人口の52%が集まる医療圏であり、県全体のがん診療の中心的な役割を担う和歌山県立医科大学附属病院と、診療実績も多い日本赤十字社和歌山医療センターで、当該医療圏と隣接する空白医療圏の御坊医療圏のがん患者もカバーする必要があることから、複数設置が必要

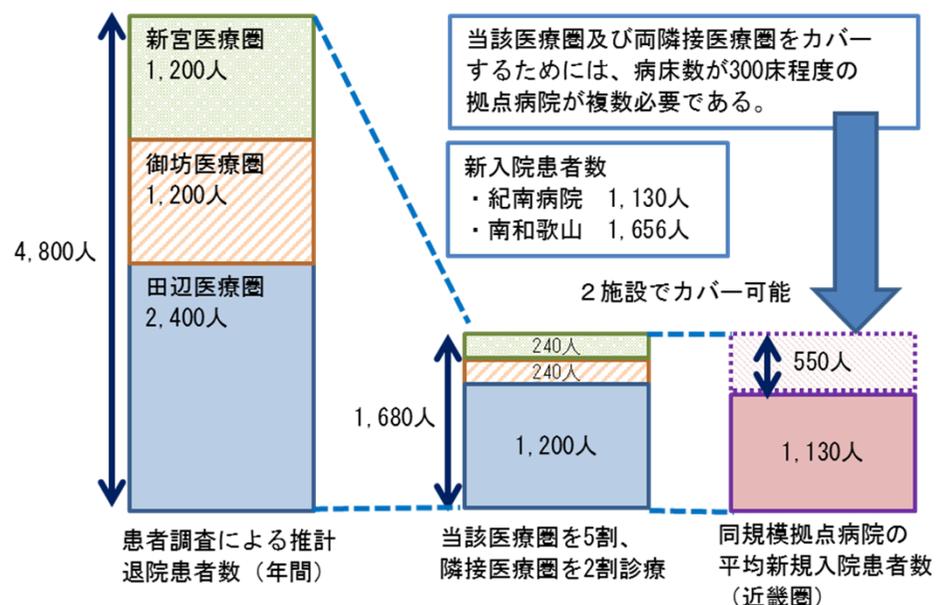
田辺医療圏

隣接空白医療圏の御坊、新宮両医療圏の患者を連携・協力のもとカバーしており、医師数の少ない当該医療圏ではどちらか一方の施設だけでは困難であるため、複数設置は必要。将来的に、両隣の空白医療圏内の基幹病院が「地域がん診療病院」の指定を目指すためのグループ連携を行っていく上でも、両施設の協力・連携が必要。地域医療構想においても病院機能の分化・連携を進めているところであり、がん治療においても病院医師の専門性に基づき治療対象のがん種の棲み分けなどに取り組んでいる。

○田辺医療圏における地域拠点病院のそれぞれの役割（強み）

	紀南病院	南和歌山医療センター
がん種 (我が国に多いがんを除く)	咽頭がん、甲状腺がん 副腎腫瘍 等	脳腫瘍、脊椎腫瘍 縦隔腫瘍 等
診療機能	ロボット支援下内視鏡 手術	緩和ケア病棟

○田辺医療圏及び隣接医療圏の診療について



空白医療圏に関する考え方

本県では空白医療圏（御坊・新宮）が2圏域存在するが、それぞれ隣接医療圏等でカバーしている。県が独自に指定する「県がん診療推進病院」を設置し、一定のがん診療機能の均てん化を図っている。

御坊医療圏

田辺医療圏に隣接。ひだか病院（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）や和歌山・有田医療圏（和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター）でカバー

新宮医療圏

田辺医療圏に隣接。新宮市立医療センター（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）でカバー

鳥 取 県

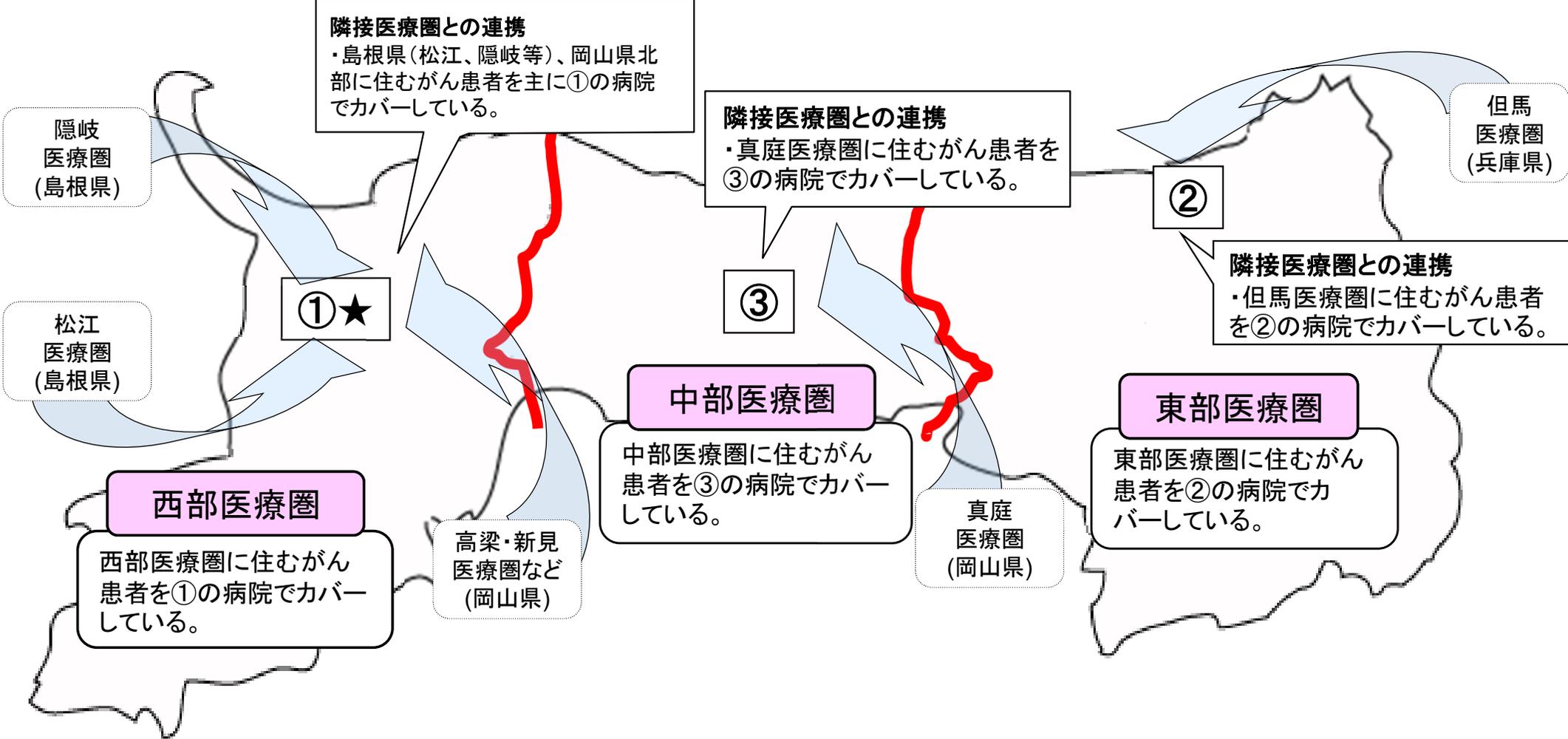
鳥取県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院				
						現況 報告 病院数	今回 報告 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 報告 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 報告 病院数	新規 申請 病院数	計	
東部医療圏	1518.2	212,679	40.5%	140.1	14	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中部医療圏	780.41	92,337	17.6%	118.3	10	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1208.42	219,905	41.9%	182.0	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県(全体)	3,507.04	524,921	100.0%	149.7	43	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0

鳥取県 令和 7 年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



- ①鳥取大学医学部附属病院★
(令和5年4月1日指定)
- ②県立中央病院(令和6年4月1日指定)
- ③県立厚生病院(令和6年4月1日指定)

がん診療連携拠点病院の診療実績等

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに 対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住するがん患者 の診療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	西部医療圏	★	現況報告	鳥取大学医学部附属病院	(2,018) 1,933	(1,723) 1,820	(2,506) 2,226	(500) 558	(149) 117	(58) 68	(1,493) 1,380
2	東部医療圏		現況報告	県立中央病院	(1,287) 1,319	(635) 653	(1,305) 1,378	(245) 256	(125) 129	(59) 37	(6,342) 6,789
3	中部医療圏		現況報告	県立厚生病院	(543) 571	(491) 506	(495) 488	(110) 117	(51) 52	(46) 47	(3,267) 3,012

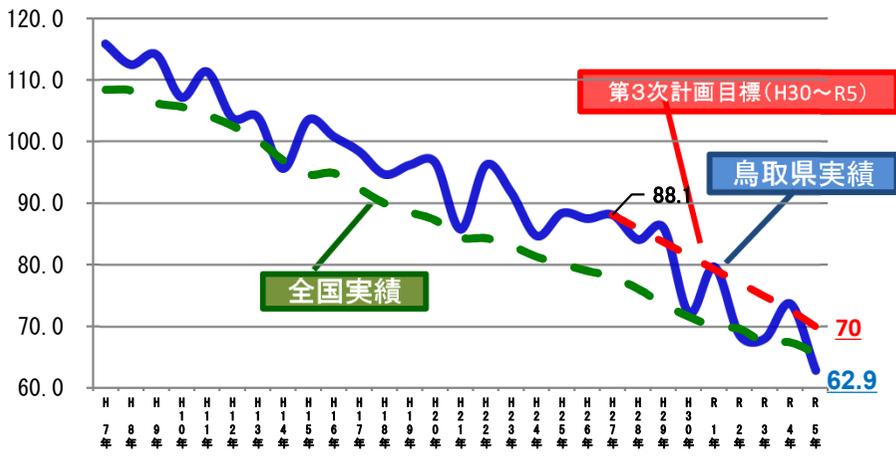
※()内は令和5年度提出、下段は令和6年度提出の数値

指定推薦に係る鳥取県の考え方

鳥取県の現状

- 「全国がん登録」のデータを基に公表された令和3年の年齢調整罹患率は、全国平均よりも高く推移している。
- 75歳未満年齢調整死亡率は、令和4年は73.7(全国41位)であったが、令和5年は、62.9(全国17位)となり、増減を繰り返しながらも着実に減少してきている。

がんの75歳未満年齢調整死亡率の推移



都道府県別がんの75歳未満年齢調整死亡率の推移(順位)

都道府県	2019		2020		2021		2022		2023	
	順位	値								
鳥取県	23	63.6	28	68.1	28	68.1	17	62.9	17	62.9
全国	45	70.0	41	73.7	41	73.7	41	73.7	41	73.7

第4次鳥取県がん対策推進計画(令和6~11年)

- 全体目標: 1 がんによる死亡者の減少 ※新たな目標値を設定
 75歳未満年齢調整死亡率(人口10万人対)を61.0未満とする。(男性:74.0未満、女性46.0未満)
 2 がんになっても自分らしく生きることのできるがんとの共生社会を実現する。

がん診療連携拠点病院の整備方針

- 都道府県がん診療連携拠点病院を1病院、地域がん診療連携拠点病院を二次医療圏(東部・中部・西部)において、概ね1箇所程度整備する。
- 都道府県がん診療連携拠点病院を核に、地域性・専門性等を踏まえ各医療圏に指定された地域がん診療連携拠点病院と共に行う、県全域及び隣接県(島根県、岡山県及び兵庫県)医療圏域の住民に対するがん医療の提供。
- 県民が身近な地域(各医療圏)で、安心して質の高いがん医療が受けられる診療体制の構築。
- がん診療連携拠点病院を中心とした地域医療との連携、がん医療の均てん化を実現する体制の推進。

島根県

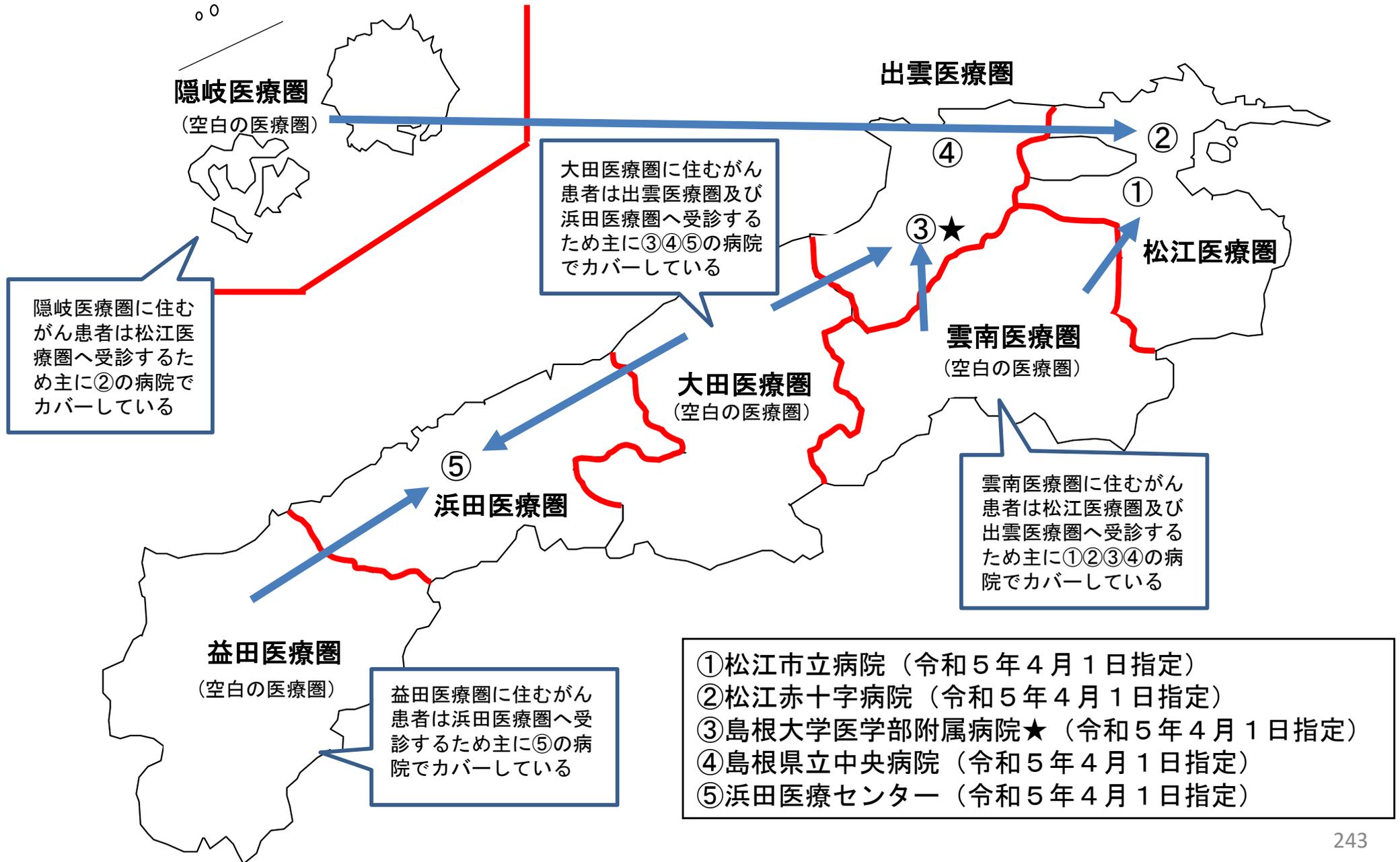
島根県 がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院						
						推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳					
							新規申請	指定更新	指定類型 変更		現況報告	新規申請	指定更新		指定類型 変更	現況報告	新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告
松江	993.9	229,495	36.2	230.9	13	0			2	0				0						
雲南	1164.1	47,268	7.5	40.6	5	0				0				0						
出雲	624.3	169,891	26.8	272.1	11	0			2	0				0						
大田	1244.0	45,735	7.2	36.8	4	0				0				0						
浜田	958.9	70,398	11.1	73.4	6	0			1	0				0						
益田	1376.7	53,012	8.4	38.5	5	0				0				0						
隠岐	345.9	17,810	2.8	51.5	2	0				0				0						
県(全体)	6707.8	633,609	100.0	94.5	46	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

島根県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1 - ①

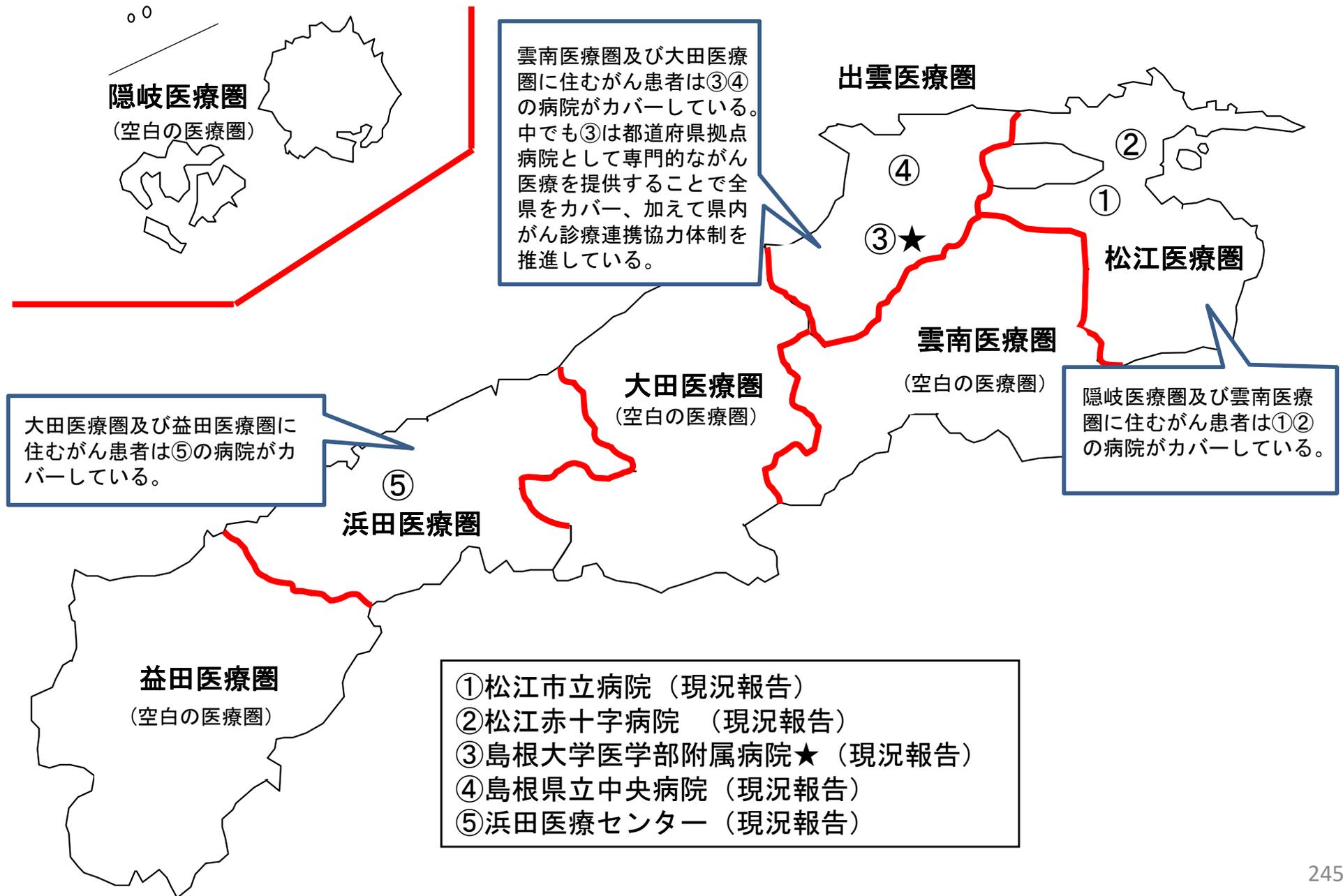
・ () 内は令和5年1月～12月の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★: 都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する 新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合 (%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1 松江		現況報告	松江市立病院	(912) 913	(439) 464	(1,043) 1,100	(210) 213	(293) 309	(40) 24	(509) 391
2 松江		現況報告	松江赤十字病院	(1,188) 1,298	(757) 912	(1,337) 1,559	(285) 281	(143) 152	(53) 18	(1,405) 1,254
3 出雲	★	現況報告	島根大学医学部 附属病院	(1,487) 1,601	(1,285) 1,478	(1,301) 1,326	(549) 501	(319) 244	(37) 39	(2,154) 2,408
4 出雲		現況報告	島根県立中央病 院	(980) 1,014	(694) 587	(1,140) 1,130	(221) 241	(285) 374	(37) 31	(1,341) 1,677
5 浜田		現況報告	浜田医療セン ター	(561) 837	(867) 825	(1,353) 1,180	(0) 112	(127) 127	(48) 42	(864) 943

島根県 令和8年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点



島根県のがん医療提供体制に関する考え方

1. 患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現

東西に長く離島や中山間地域からなる本県特有の地理的要因に関わらず、県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられ、患者や家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上している状態を目指す。

2. がん医療体制の目指すべき姿

- ①拠点病院体制の維持とがん医療機能の向上
- ②拠点病院と地域の病院の連携・機能分担の促進
- ③都道府県拠点病院を中心に集約化されている医療等へのアクセスの推進

3. 今回の推薦の概要

指定継続のみ（新規指定・指定更新・類型変更なし）

4. 指定により期待される効果

拠点病院と空白の医療圏及び拠点病院のある医療圏にある地域の病院等との連携・機能分担を促進させることにより、「できる治療は患者に身近な病院・場所で行う仕組み」を実現する。

岡山県

岡山県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院		
						既指定病院数	今回更新病院数	今回新規指定	計	既指定病院数	計	既指定病院数	今回更新病院数	計
県南東部	1,906.38	894,027	49	469.0	74	5	0	0	5	0	0	0	0	0
県内西部	1,124.51	681,694	37	606.2	50	2	0	1	3	0	0	0	0	0
高梁・新見	1,340.28	51,290	3	38.3	8	0	0	0	0	0	0	1	0	1
真庭	895.64	40,070	2	44.7	6	0	0	0	0	0	0	1	0	1
津山・英田	1,847.66	163,540	9	88.5	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0
計	7,114.47	1,830,621	100	257.3	154	8	0	1	9	0	0	2	0	2

岡山県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

川崎医科大学附属病院は、高梁・新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

倉敷中央病院は、圏域内を広範囲にカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。
岡山大学病院は県拠点病院として、他の拠点病院等を牽引。

岡山済生会総合病院は、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。

岡山赤十字病院は、相談支援について中心的役割を担う。

岡山医療センターは、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

川崎医科大学総合医療センターは、東部地域の医療機関との地域連携において、中心的役割を担う。

- ①岡山大学病院★
(令和5年4月1日)
- ②岡山済生会総合病院
(令和5年4月1日)
- ③岡山赤十字病院
(令和6年4月1日)
- ④岡山医療センター
(令和6年4月1日)
- ⑤川崎医科大学総合医療センター
(令和6年4月1日)
- ⑥川崎医科大学附属病院
(令和5年4月1日)
- ⑦倉敷中央病院
(令和5年4月1日)
- ⑧津山中央病院
(令和6年4月1日)
- ④金田病院
(令和5年4月1日)
※④を中心に⑧ともグループ指定
- ⑥高梁中央病院
(令和6年4月1日)
※⑥を中心に①ともグループ指定

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに 対する新規診療依 頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居 住する がん患者の診療の 割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
①	県南 東部	★	現況 報告	岡山大学病 院	(3,453) 2,781	(1,733) 1,763	(6,338) 3,317	(485) 916	(371) 399	(21.7) 23.0	(1,924) 1,826
②	県南 東部		現況 報告	岡山済生会 総合病院	(1,151) 1,276	(793) 832	(1,066) 1,062	(209) 246	(178) 144	(12.4) 11.9	(1,942) 2,120
③	県南 東部		現況 報告	岡山赤十字 病院	(1,258) 1,244	(826) 780	(1,267) 2,085	(338) 345	(220) 182	(6.0) 6.7	(844) 958
④	県南 東部		現況 報告	岡山医療セ ンター	(1,029) 1,053	(763) 765	(1,504) 1,450	(283) 250	(226) 231	(9.0) 7.0	(2,306) 2,079
⑤	県南 東部		現況 報告	川崎医科大 学総合医療 センター	(868) 835	(690) 755	(1,343) 1,616	(421) 411	(94) 97	(6.9) 10.2	(2,726) 1,309
⑥	県南 西部		現況 報告	川崎医科大 学附属病院	(1,479) 1,457	(966) 970	(2,657) 2,457	(419) 468	(186) 238	(15.2) 13.8	(1,917) 1,285
⑦	県南 西部		現況 報告	倉敷中央病 院	(3,186) 3,046	(2,488) 2,145	(2,933) 2,846	(900) 943	(323) 432	(40.0) 36.3	(3,360) 3,189
⑧	県南 西部		新規 指定	倉敷成人病 センター	956	740	1,154	340	91	7.3	266
⑨	津山 英田		現況 報告	津山中央病 院	(1,206) 1,119	(711) 636	(1,290) 1,304	(285) 290	(105) 145	(37.0) 33.0	(635) 461

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに 対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
④	真庭	現況報告	金田病院	(91) 150	(8) 6	(150) 155	実施なし	(10) 27	(445) 381
⑥	高梁・新見	現況報告	高梁中央病院	(130) 46	(16) 19	(52) 50	実施なし	(17) 21	(124) 172

岡山県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

高梁・新見医療圏及び真庭医療圏に、引き続き地域がん診療病院を指定することにより、患者が自らの医療圏において基本的ながん診療を受けることが可能となる。

なお、高度ながん医療が必要な場合には、グループ先の拠点病院において提供できる体制を構築する。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

⑥の病院は、高梁新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

⑦の病院は、圏域内を広くカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

⑧の病院は女性医療及び西部地域、高梁・新見医療圏との連携する役割を担う。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

①の病院は県拠点病院として、他の地域拠点病院等を牽引する。

②の病院は、①と連携し、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。

③の病院は、①と連携し、相談支援について中心的役割を担う。

④の病院は、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

⑤の病院は、東部地域の医療機関との地域連携において、中心的な役割を担う。

県南の医療圏においては、各拠点病院が自らの医療圏に居住する患者へがん診療を提供する。また、グループを形成する拠点病院(主に④、⑥等)が、地域がん診療病院をサポートする。

- ①岡山大学病院★(現況報告)
(令和5年4月1日)
- ②岡山済生会総合病院(現況報告)
(令和5年4月1日)
- ③岡山赤十字病院(現況報告)
(令和6年4月1日)
- ④岡山医療センター(現況報告)
(令和6年4月1日)
- ⑤川崎医科大学総合医療センター(現況報告)
(令和6年4月1日)
- ⑥川崎医科大学附属病院(現況報告)
(令和5年4月1日)
- ⑦倉敷中央病院(現況報告)
(令和5年4月1日)
- ⑧倉敷成人病センター(新規指定)
- ⑨津山中央病院(現況報告)
(令和6年4月1日)
- ④金田病院(現況報告)
(令和5年4月1日)
※④を中心に⑧ともグループ指定
- ⑥高梁中央病院(現況報告)
(令和6年4月1日)
※⑥を中心に①ともグループ指定

第4次岡山県がん対策推進計画

がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図る

県南東部二次医療圏

- 人口約90万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 新規診断時の放射線療法、薬物療法は増加する見込み

岡山大学病院★(849床・現況報告)

- ・ 県拠点病院として、地域拠点病院・地域がん診療病院を牽引
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成

岡山済生会総合病院(473床・現況報告)

- ・ 緩和ケア推進の中心的役割
- ・ 岡山市中心域からのアクセスが良好
- ・ 地域の医療機関との医療連携を積極的に推進

岡山赤十字病院(500床・現況報告)

- ・ がんに特化した相談支援センターを設け、がん相談に注力
- ・ 独立型緩和ケア病棟14床を開設
- ・ 圏域南部からのアクセスが良好

岡山医療センター(609床・現況報告)

- ・ グループ指定を受ける金田病院が属する真庭医療圏との連携強化
- ・ 血液悪性腫瘍に対応する無菌室を設置
- ・ 圏域北部及び圏域外からのアクセスが良好

川崎医科大学総合医療センター(647床・現況報告)

- ・ 県東部地域の医療機関との連携強化
- ・ 地域のがん医療に携わる人材の育成

県南西部二次医療圏

- 人口約70万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 新規診断時の放射線療法、薬物療法は増加する見込み

川崎医科大学附属病院(1,144床・現況報告)

- ・ 最新の機器を用いての高精度放射線治療や先進医療を实践
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成
- ・ グループ指定を受ける高梁中央病院が属する高梁・新見医療圏との連携強化

倉敷中央病院(1,172床・現況報告)

- ・ 年間外来がん患者のべ数が約15万人
- ・ 病床数、職員数、標榜診療科数等、日本でも最大規模
- ・ 5大がん地域連携クリティカルパスを積極的に運用し、県内最大の活用実績
- ・ がん医療に係るさまざまなセンターを設け、設備を充実
- ・ 緩和ケア病床14床を設置

倉敷成人病センター(269床・新規指定)

- ・ 検診センターとの連携、プレストセンターを設け、女性医療に注力
- ・ 圏域西部、高梁・新見医療圏と連携強化

相互に連携、協力

高梁・新見二次医療圏

- 人口約5万人
- 地域がん診療連携拠点病院との密接な連携により、圏域内でのがん医療を提供

真庭二次医療圏

- 人口約4万人

津山・英田二次医療圏

- 人口約16万人

地域がん診療病院

高梁中央病院(160床・現況報告)

- ・ 地域の中核病院として、救急医療等に尽力
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 高梁市の中心部に位置し、交通アクセス良好

金田病院(120床・現況報告)

- ・ 地域の中核病院として、外来薬物療法室を設置
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 医療圏内の主要な地域から通院が容易

津山中央病院(456床・現況報告)

- ・ 県北の中核病院であり、医療圏のほぼ中央に位置している
- ・ 県北で唯一、放射線治療に対応
- ・ がん陽子線治療センターを整備(岡山大学との共同運用)
- ・ プライバシーに配慮した薬物療法室を設置

○本県の指定推薦の考え方

本県では、「第4次岡山県がん対策推進計画」に基づき、各種施策を推進しているが、がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図ることを目標の一つとしている。

このため、現在のがん医療提供体制を維持し、県拠点病院を中核として、地域拠点病院や地域診療病院等がそれぞれの特徴を活かし、相互に連携、協力することにより、がん医療の均てん化と医療水準の向上を図っていく必要がある。

○がん医療圏における指定推薦の考え方

【県南東部がん医療圏】

県南東部がん医療圏は、面積が広大で、県内で最多の人口を擁する医療圏であり、交通網も発達し、高度ながん医療の提供が可能な病院も多く存在しており、今後ながん医療需要の増大が見込まれるため、複数の地域拠点病院が必要である。岡山大学病院は、県拠点病院として地域拠点病院や地域診療病院を牽引するとともに、各地域拠点病院はそれぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。

【県南西部がん医療圏】

県南西部がん医療圏は、多数の人口を擁し、人口密度が県内で最も高く、交通の利便性もあることから、今後ながん医療需要の増大が見込まれ、複数の地域拠点病院が必要である。各地域拠点病院は、それぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。川崎医科大学附属病院は、高梁中央病院のグループ指定先として高梁・新見がん医療圏との連携強化を図り、同圏域のがん医療をサポートする。また、倉敷中央病院は、圏域内を広範囲にカバーし、地域連携について中心的な役割を担う。

【高梁・新見がん医療圏】

高梁中央病院は、高梁・新見がん医療圏のがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【真庭がん医療圏】

金田病院は、真庭がん医療圏のがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【津山・英田がん医療圏】

津山中央病院は、県北におけるがん医療の中核的な役割を担い、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

広島県

広島県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密 ⁹	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院						
						推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳					
							新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更		現 況 報告	新規 申請	指定 更新		指定 類型 変更	現 況 報告	新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現 況 報告
広島	2506.14	1,335,438	49.5	532.9	92	0			5											
広島西	568.15	136,582	5.1	240.4	12	0			1											
呉	452.69	213,676	7.9	472.0	29	0			1											
広島中央	796.49	226,658	8.4	284.6	19	0			1											
尾三	1034.54	219,197	8.1	211.9	21	0			1											
福山・府中	1095.45	487,449	18.1	445.0	45	0			2											
備北	2024.67	76,633	2.9	37.8	10	1													1	
計	8478.13	2,695,633	100	318.0	228	1	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

広島県 令和 7 年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

ネットワーク型がんセンター (①★、②、③、④)

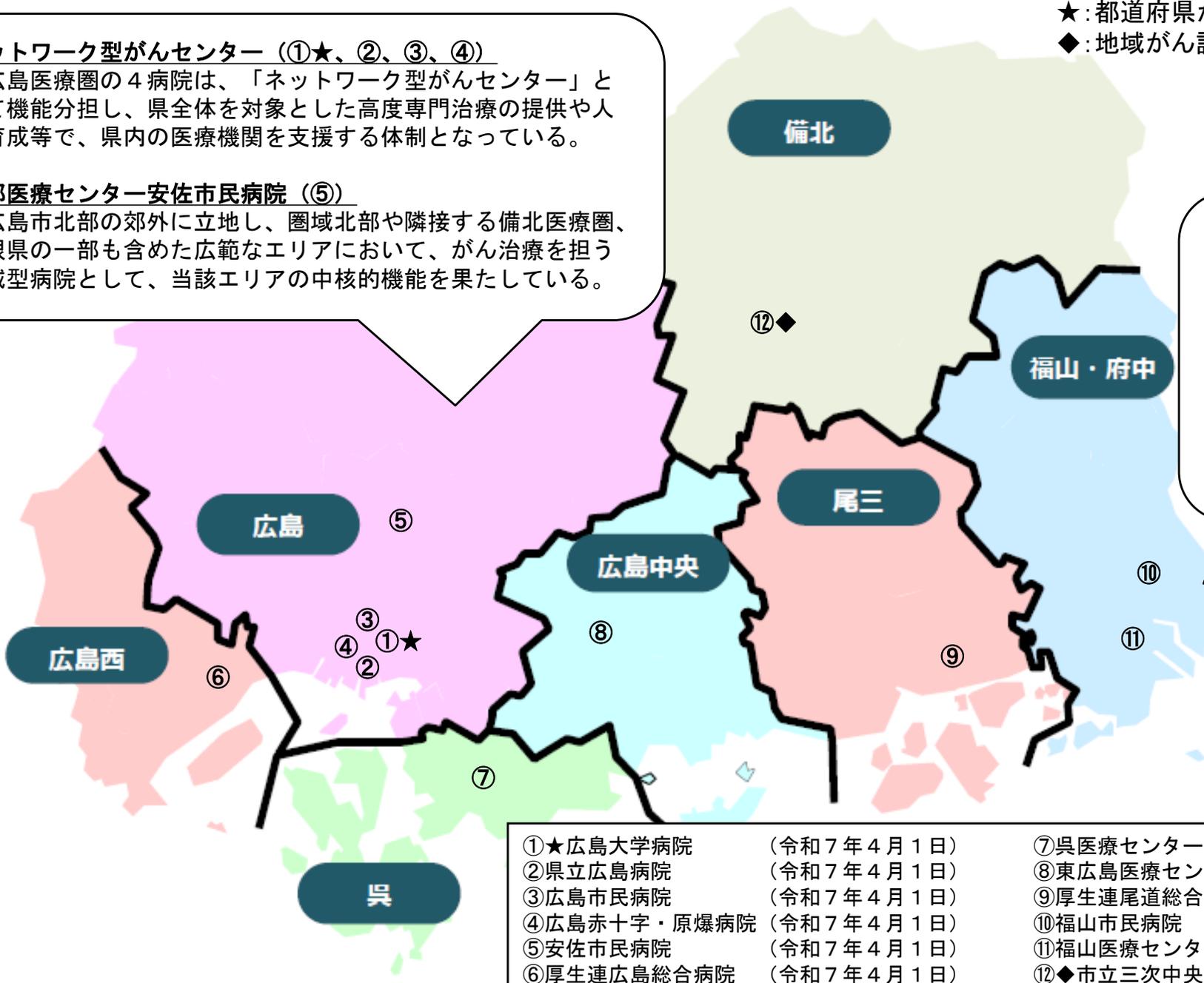
広島医療圏の4病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関を支援する体制となっている。

北部医療センター安佐市民病院 (⑤)

広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏、島根県の一部も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を果たしている。

★: 都道府県がん診療連携拠点病院
◆: 地域がん診療病院

県東部地域において手術症例数等が最も多い⑩と、小児がん及び婦人科系がんの特長があり、患者支援にも積極的な⑪が、隣接県も含めた広範囲の患者のニーズに役割分担をして対応していく。



①★広島大学病院	(令和7年4月1日)
②県立広島病院	(令和7年4月1日)
③広島市民病院	(令和7年4月1日)
④広島赤十字・原爆病院	(令和7年4月1日)
⑤安佐市民病院	(令和7年4月1日)
⑥厚生連広島総合病院	(令和7年4月1日)

⑦呉医療センター	(令和7年4月1日)
⑧東広島医療センター	(令和7年4月1日)
⑨厚生連尾道総合病院	(令和7年4月1日)
⑩福山市民病院	(令和7年4月1日)
⑪福山医療センター	(令和7年4月1日)
⑫◆市立三次中央病院	(令和7年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◆:地域拠点(特例型)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	広島	★	現況	広島大学病院	(2,786) 2,713	(2,847) 2,794	(4,058) 4,031	(858) 777	(421) 427	(22) 20	(1,830) 1,813
2	広島		現況	県立広島病院	(2,225) 2,212	(1,894) 1,292	(2,620) 2,252	(385) 470	(255) 330	(16) 16	(989) 1,049
3	広島		現況	広島市民病院	(2,842) 2,835	(2,190) 2,178	(2,766) 2,779	(728) 839	(218) 200	(19) 17	(1,844) 1,832
4	広島		現況	広島赤十字・原爆病院	(1,717) 1,500	(599) 597	(3,354) 3,169	(376) 387	(184) 297	(14) 13	(417) 418
5	広島		現況	安佐市民病院	(2,252) 2,474	(1,813) 1,945	(1,787) 1,815	(335) 375	(157) 157	(14) 13	(1,913) 1,738
6	広島西		現況	広島総合病院	(1,485) 1,551	(1,093) 1,211	(1,528) 1,372	(244) 263	(127) 123	(49) 53	(556) 591
7	呉		現況	呉医療センター	(1,796) 1,576	(782) 660	(2,059) 2,002	(480) 316	(380) 442	(51) 50	(461) 305
8	広島中央		現況	東広島医療センター	(1,282) 1,323	(832) 948	(1,158) 1,439	(341) 324	(93) 113	(42) 27	(424) 389
9	尾三		現況	尾道総合病院	(1,340) 1,279	(1,476) 816	(1,656) 1,543	(406) 427	(179) 262	(37) 19	(396) 366
10	福山府中		現況	福山市民病院	(1,783) 1,825	(2,403) 1,446	(1,849) 2,301	(515) 495	(210) 212	(30) 31	(2,484) 2,383

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は令和5年10月提出の数値、下段は令和6年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◆:地域拠点(特例型)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
11	福山府中		現況	福山医療センター	(1,185) 1,340	(875) 782	(1,279) 1,279	(324) 324	(133) 133	(22) 25	(247) 247
12	備北	◆	更新	三次中央病院	(867) 901	(869) 754	(844) 911	(164) 156	(139) 129	(50) 48	(641) 410

広島県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点病院 ◆:地域がん診療病院

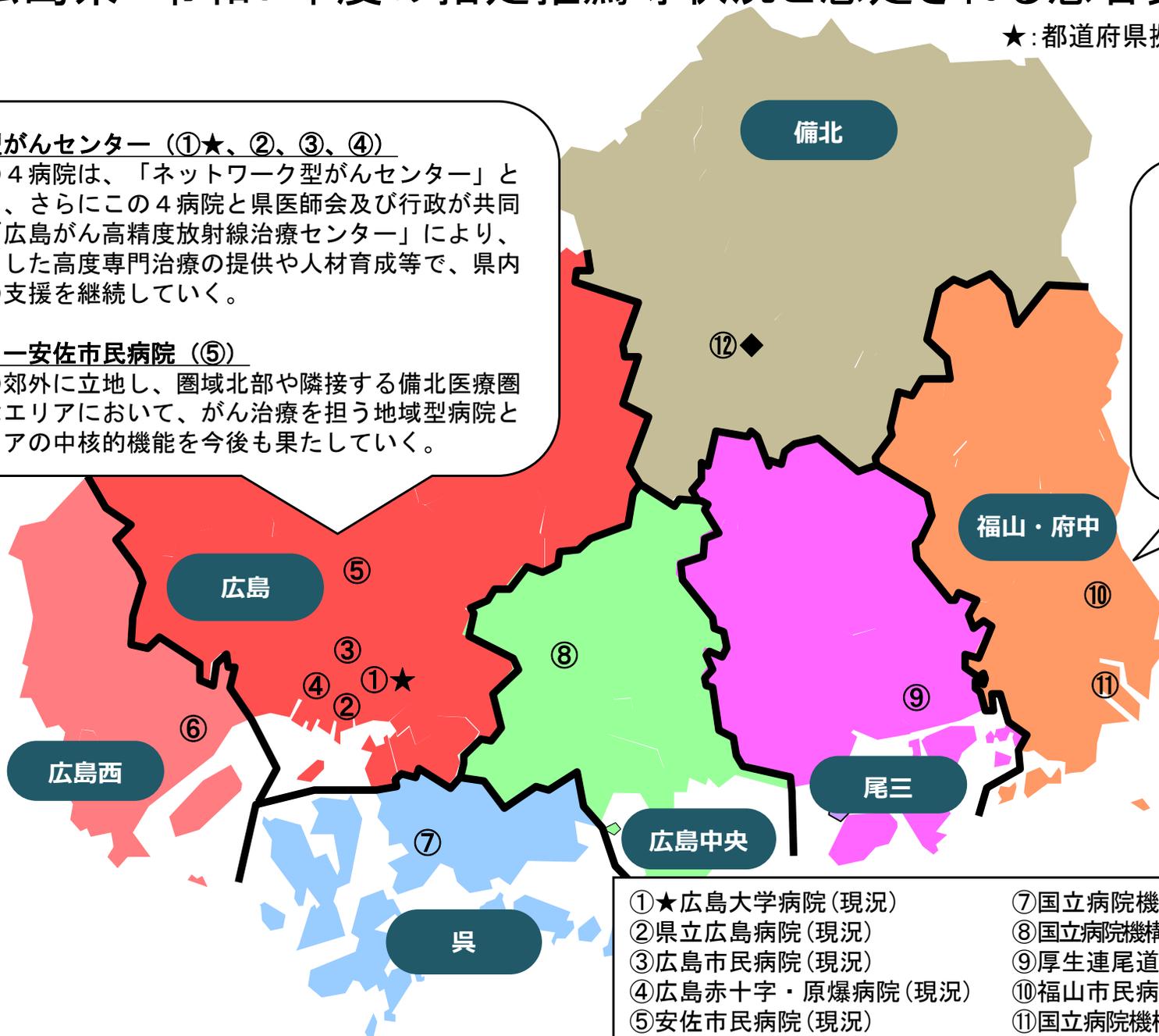
ネットワーク型がんセンター (①★、②、③、④)

広島医療圏の4病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、さらにこの4病院と県医師会及び行政が共同運営している「広島がん高精度放射線治療センター」により、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関への支援を継続していく。

北部医療センター安佐市民病院 (⑤)

広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を今後も果たしていく。

県東部地域において手術症例数等が最も多い⑩と、小児がん及び婦人科系がんに特長があり、患者支援にも積極的な⑪が、隣接県も含めた広範囲の患者のニーズに役割分担をして対応していく。



- ①★広島大学病院(現況)
- ②県立広島病院(現況)
- ③広島市民病院(現況)
- ④広島赤十字・原爆病院(現況)
- ⑤安佐市民病院(現況)
- ⑥厚生連広島総合病院(現況)
- ⑦国立病院機構呉医療センター(現況)
- ⑧国立病院機構東広島医療センター(現況)
- ⑨厚生連尾道総合病院(現況)
- ⑩福山市民病院(現況)
- ⑪国立病院機構福山医療センター(現況)
- ⑫◆市立三次中央病院(類型変更)

指定更新等に係る広島県の推薦方針

ネットワークで構築する広島のがん医療提供体制

- 広島医療圏の広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院、広島赤十字・原爆病院の4病院については、「ネットワーク型がんセンター」としてそれぞれの特色を組み合わせ、連携した高度な専門医療機能や人材育成など、県全体のがん対策推進に貢献している。

【具体的な成果】

- 高精度放射線治療が提供可能な「広島がん高精度放射線治療センター」を整備し、4病院からの患者紹介を中心に、県内全域や県外からの紹介患者に対応している。
- また、広島市立安佐市民病院は、広島圏域北部や他県の一部も含めた隣接する圏域の広範なエリアにおいて中核的な機能を果たしている。
- 福山市民病院、福山医療センターの2病院は、両院の機能的特徴と、人口規模が大きく南北に長いといった福山・府中圏域の地域的特徴を踏まえた役割分担を行い、隣接県も含めた広範なエリアにおける患者のニーズに対応する。
- 広島医療圏及び福山・府中医療圏を除く5つの医療圏については、住民が身近な地域で、良質ながん医療や相談支援などのサービスを受けられるように、それぞれ1施設ずつ地域拠点病院を配置し、更なるがん医療水準の向上を推進する。



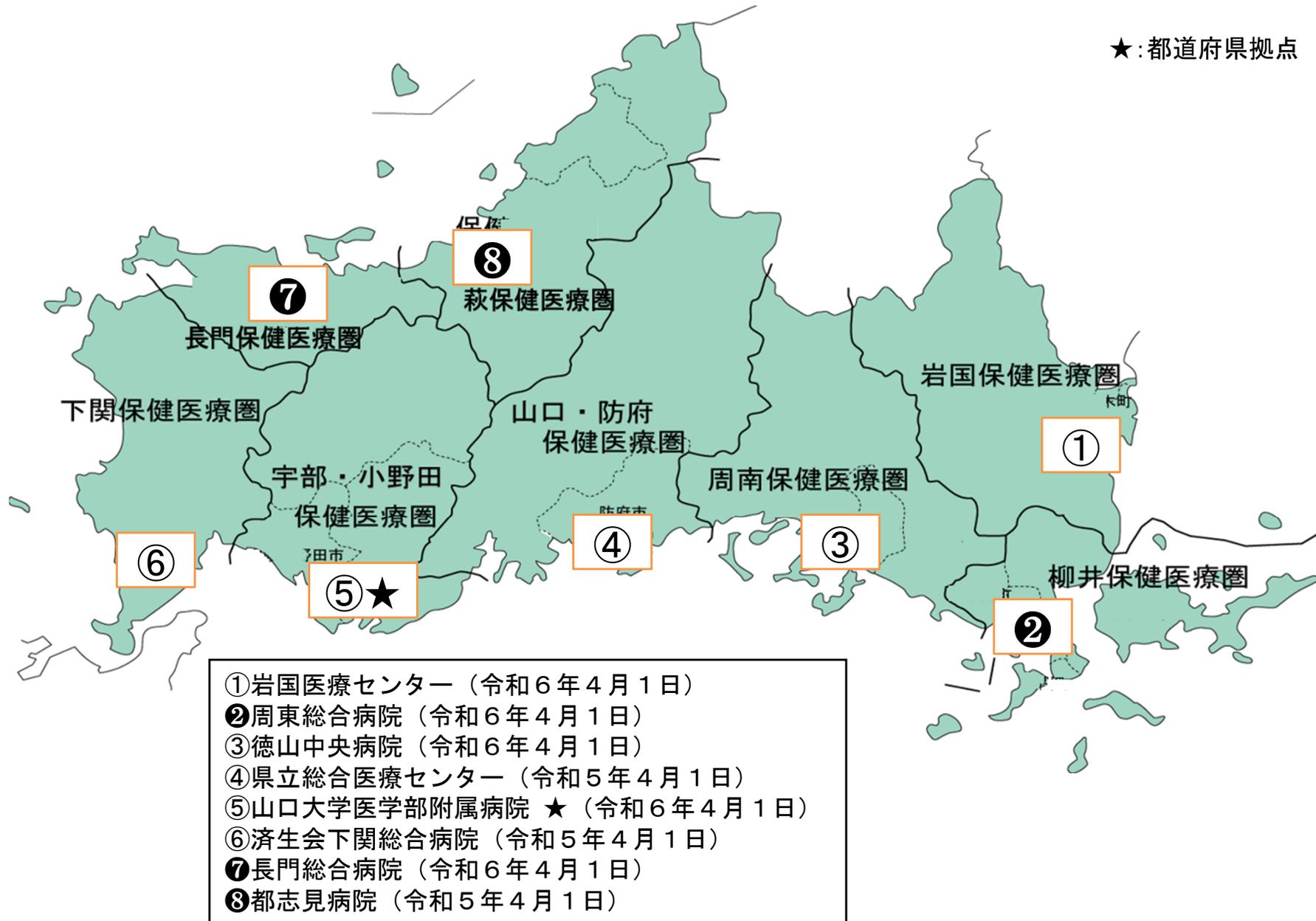
山 口 県

山口県 がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院		
						指定更新	指定類型 変更	現況報告	計	指定更新	現況報告	計
岩国医療圏	884.25	125,372	9.9%	141.8	16			1	1			0
柳井医療圏	397.78	67,229	5.3%	169.0	8						1	1
周南医療圏	837.76	231,298	18.3%	276.1	23			1	1			0
山口・防府 医療圏	1,212.60	298,201	23.6%	245.9	26			1	1			0
宇部・小野田 医療圏	892.38	231,236	18.3%	259.1	28			1	1			0
下関医療圏	716.28	237,343	18.8%	331.4	24			1	1			0
長門医療圏	357.31	29,057	2.3%	81.3	5				0		1	1
萩医療圏	814.26	42,433	3.4%	52.1	7				0		1	1
計	6,112.62	1,262,169	100.0%	206.5	137			5	5		3	3

山口県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・（ ）内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★：都道府県拠点

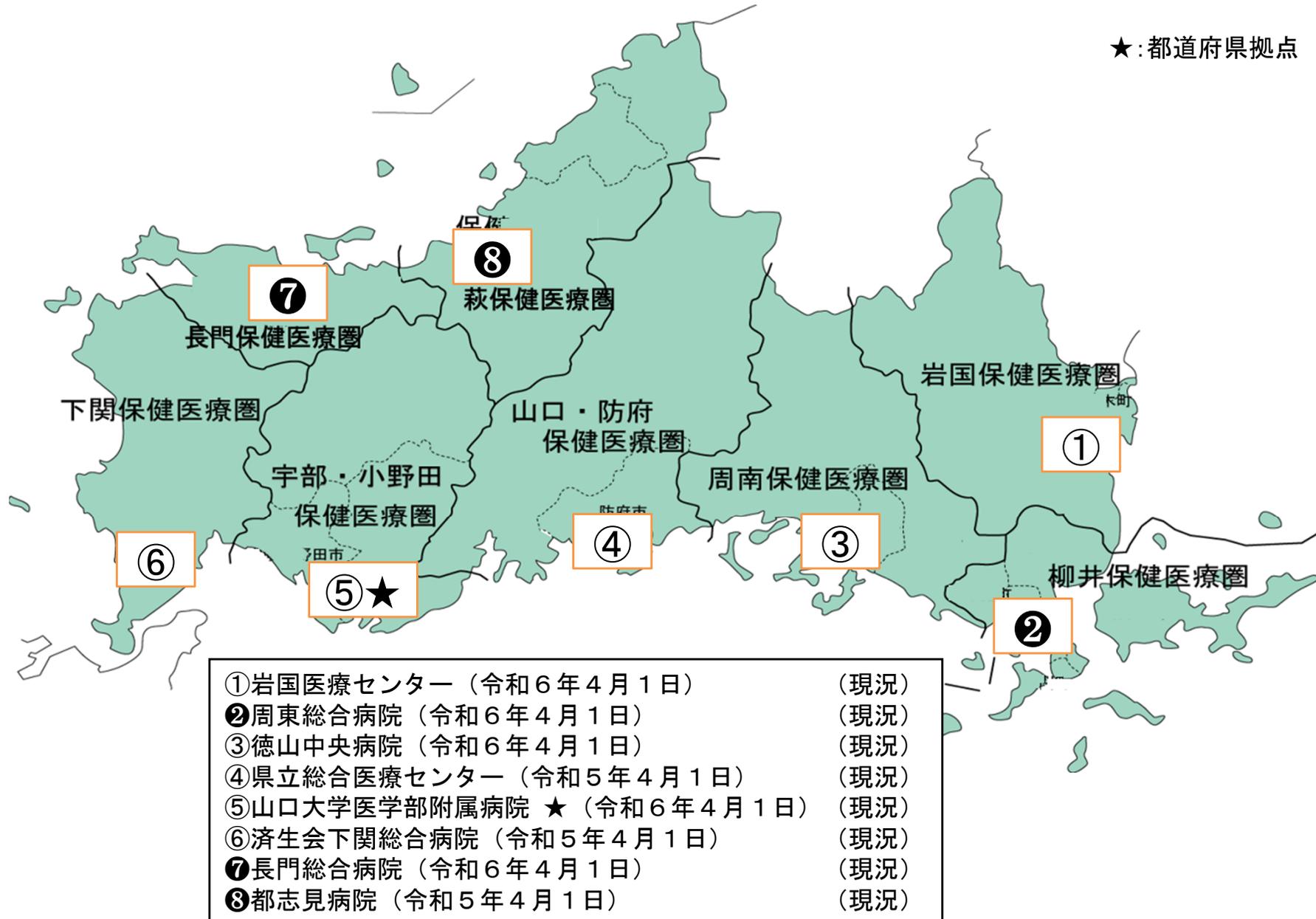
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	のべ相談件数 (年間)
①	岩国		現況 報告	岩国医療センター	(1,158) 1,096	(821) 1,116	(835) 869	(213) 115	(98) 87	(42) 55	(1,268) 1,156
③	周南		現況 報告	徳山中央病院	(1,787) 1,866	(784) 909	(1,786) 1,554	(362) 384	(352) 63	(77) 55	(1,881) 2,099
④	山口・ 防府		現況 報告	県立総合医療 センター	(925) 922	(538) 562	(1,240) 1,218	(205) 249	(172) 129	(43) 29	(2,075) 1,438
⑥	宇部・ 小野 田	★	現況 報告	山口大学医学 部附属病院	(2,106) 2,146	(1,724) 1,789	(1,812) 8,677	(459) 487	(107) 89	(31) 34	(1,329) 840
⑥	下関		現況 報告	済生会下関総 合病院	(1,073) 1,094	(488) 434	(3,560) 3,323	(191) 176	(56) 62	(24) 24	(1,641) 1,608

地域がん診療病院の診療実績等

・（ ）内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する 新規診療依頼数 (年間)	のべ相談件数 (年間)
②	柳井	現況報告	周東総合病院	(497) 507	(356) 276	(664) 657	(108) 90	(58) 68	(1,137) 814
⑦	長門	現況報告	長門総合病院	(248) 306	(276) 172	(633) 666	(112) 92	(1) 1	(812) 454
⑧	萩	現況報告	都志見病院	(161) 124	(105) 96	(152) 137	(-) -	(11) 17	(127) 115

山口県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



今回の指定推薦等に係る本県の考え方について

- がんは昭和56年以来、本県の死亡原因の1位であり、年間約5千人の県民ががんににより亡くなっている。
これまで、がん予防や検診に関する普及啓発、がん登録事業、緩和ケア病棟の整備等、各段階に応じたがん対策を講じてきたが、がんによる死亡は今なお増加しており、がん対策は本県の保健・医療施策の中で非常に重要な課題となっている。
- こうしたことから、県では、地域のがん医療の中核を担うがん診療連携拠点病院の整備を推進してきたところであり、令和6年3月に策定した「第4期山口県がん対策推進計画」に基づき、がん医療水準の更なる向上を目指して、診療機能の充実等を図ることとしている。
なお、本県においてがんの医療圏（以下「医療圏」という。）と2次医療圏は一致している。
- がん診療連携拠点病院については、各地域において等しく質の高いがん医療を提供するため、医療圏に1箇所の整備を基本とするとともに、その指定要件を充たす病院が医療圏内にない場合には、地理的に隣接する医療圏において、当該医療圏からの患者受入が多いがん診療連携拠点病院とのグループ指定により、地域がん診療病院を整備することで、圏域全体をカバーできるようにすることとしている。
- 本県では、8つの医療圏のうち5医療圏においてがん診療連携拠点病院の指定を受けており、そのうち、宇部・小野田医療圏の山口大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として本県がん診療連携の中核的役割を担っている。
また、がん診療連携拠点病院のない3医療圏については地域がん診療病院を整備し、がん診療連携拠点病院と連携して専門的ながん医療の提供等を行っている。
- 今回、5医療圏のがん診療連携拠点病院、3医療圏の地域がん診療病院の現況報告を提出する。

徳 島 県

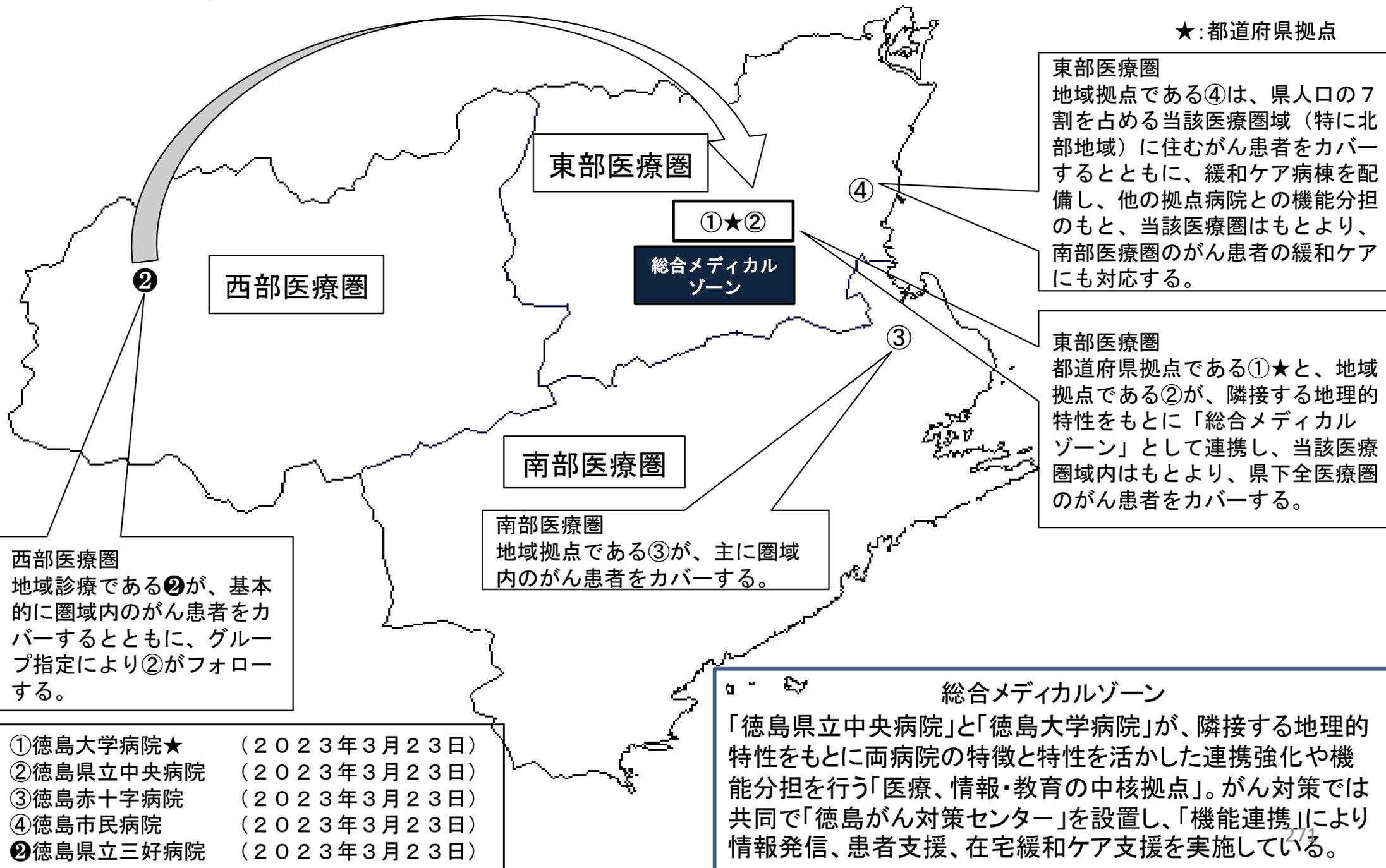
徳島県 がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
東部医療圏	1,017.02	486,003	71.9	477.9	68	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
南部医療圏	1,724.06	125,350	18.5	72.7	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1,405.88	64,893	9.6	46.2	16	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	4,146.96	676,246	100	163.1	103	4	0	0	4	0	0	0	1	0	0

徳島県 令和 7 年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★: 都道府県拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
①	東部	★	現況	徳島大学病院	(2,008) 1,981	(1,619) 1,624	(3,407) 3,418	(902) 858	(134) 117	(33.0) 56.0	(1,886) 1,985
②	東部		現況	徳島県立中央病院	(1,059) 1,100	(796) 804	(1,090) 1,040	(216) 213	(123) 145	(22.5) 29.0	(1,031) 1,262
③	南部		現況	徳島赤十字病院	(1,263) 1,248	(999) 1,009	(1,300) 1,500	(225) 258	(87) 83	(37.7) 57.2	(941) 1,954
④	東部		現況	徳島市民病院	(724) 925	(538) 602	(1,321) 1,127	(246) 281	(88) 129	(14.0) 25.0	(1,182) 1,175

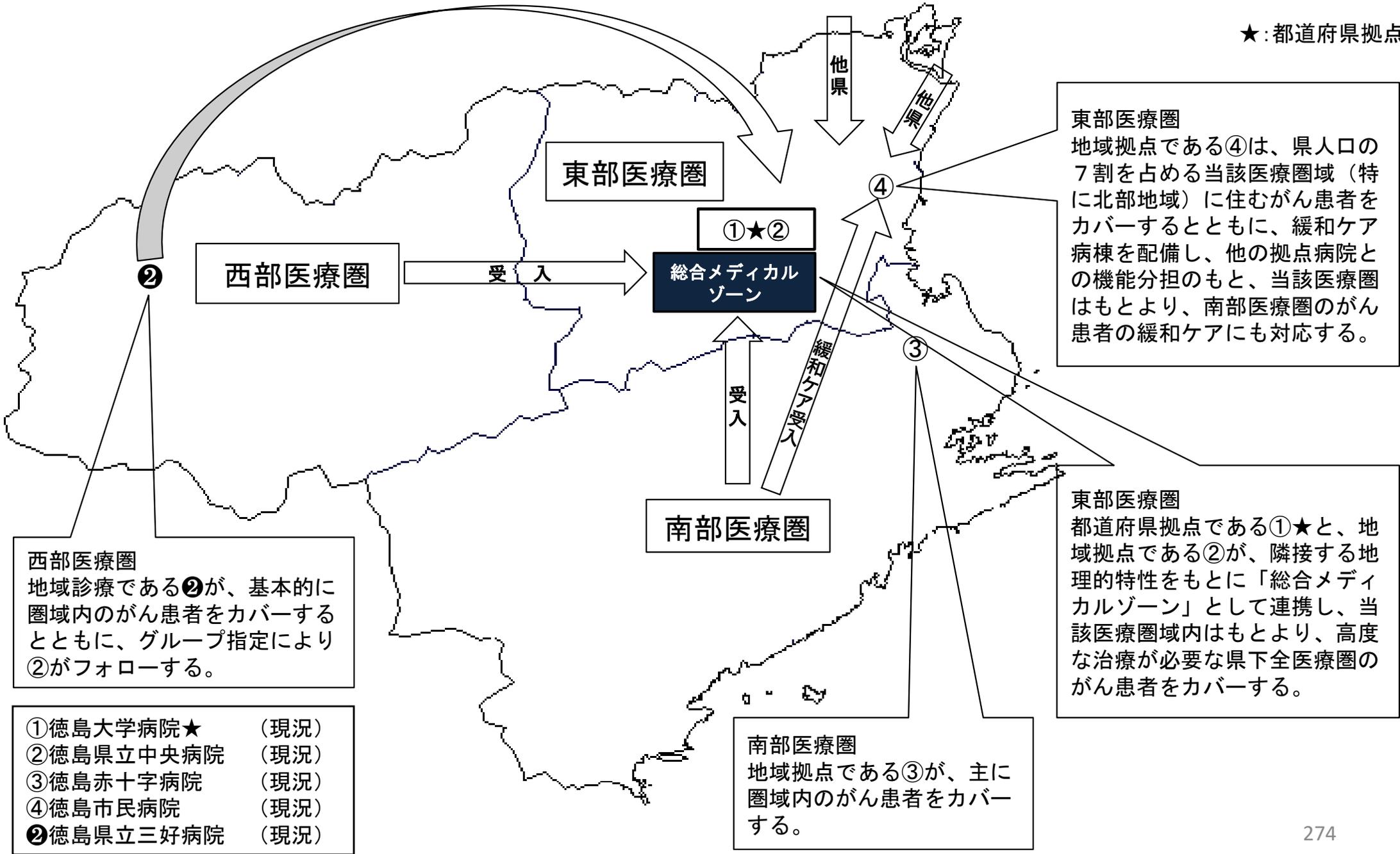
地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
② 西部	現況		徳島県立 三好病院	(243)	(138)	(241)	(65)	(86)	(106)
				201	123	269	49	87	195

徳島県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点



東部医療圏

西部医療圏

南部医療圏

総合メディカルゾーン

東部医療圏
 地域拠点である④は、県人口の7割を占める当該医療圏域（特に北部地域）に住むがん患者をカバーするとともに、緩和ケア病棟を配備し、他の拠点病院との機能分担のもと、当該医療圏はもとより、南部医療圏のがん患者の緩和ケアにも対応する。

東部医療圏
 都道府県拠点である①★と、地域拠点である②が、隣接する地理的特性をもとに「総合メディカルゾーン」として連携し、当該医療圏域内はもとより、高度な治療が必要な県下全医療圏のがん患者をカバーする。

南部医療圏
 地域拠点である③が、主に圏域内のがん患者をカバーする。

西部医療圏
 地域診療である②が、基本的に圏域内のがん患者をカバーするとともに、グループ指定により②がフォローする。

- ①徳島大学病院★ (現況)
- ②徳島県立中央病院 (現況)
- ③徳島赤十字病院 (現況)
- ④徳島市民病院 (現況)
- ②徳島県立三好病院 (現況)

徳島県のがん医療提供体制に関する考え方

1. 東部医療圏（県人口の7割）

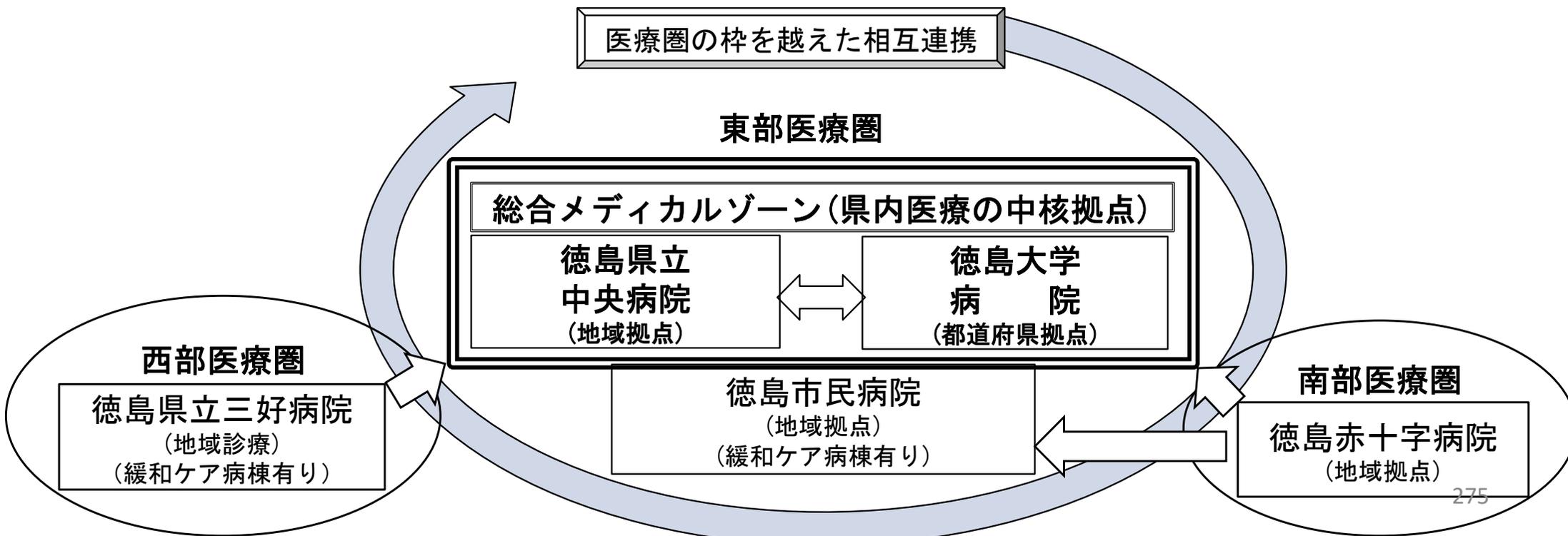
- 都道府県拠点である徳島大学病院と、専門的ながん診療機能を有する地域拠点である徳島県立中央病院は、隣接する地理的特性をもとに「総合メディカルゾーン（県内医療の中核拠点）」として当該医療圏はもとより、高度な治療が必要な県下全医療圏のがん患者をカバーする。
- さらに、地域拠点である徳島市民病院は、人口が集中する当該医療圏(特に北部地域)のがん患者をカバーするとともに、緩和ケア病棟を配備し、当該医療圏はもとより南部医療圏のがん患者の緩和ケアにも対応する。

2. 南部医療圏（県人口の2割）

地域拠点である徳島赤十字病院が、当該医圏域内のがん患者をカバーする。

3. 西部医療圏（県人口の1割）

地域診療である徳島県立三好病院は、緩和ケア病棟を有し、連携する徳島県立中央病院とともに、当医療圏域内のがん患者をカバーする。



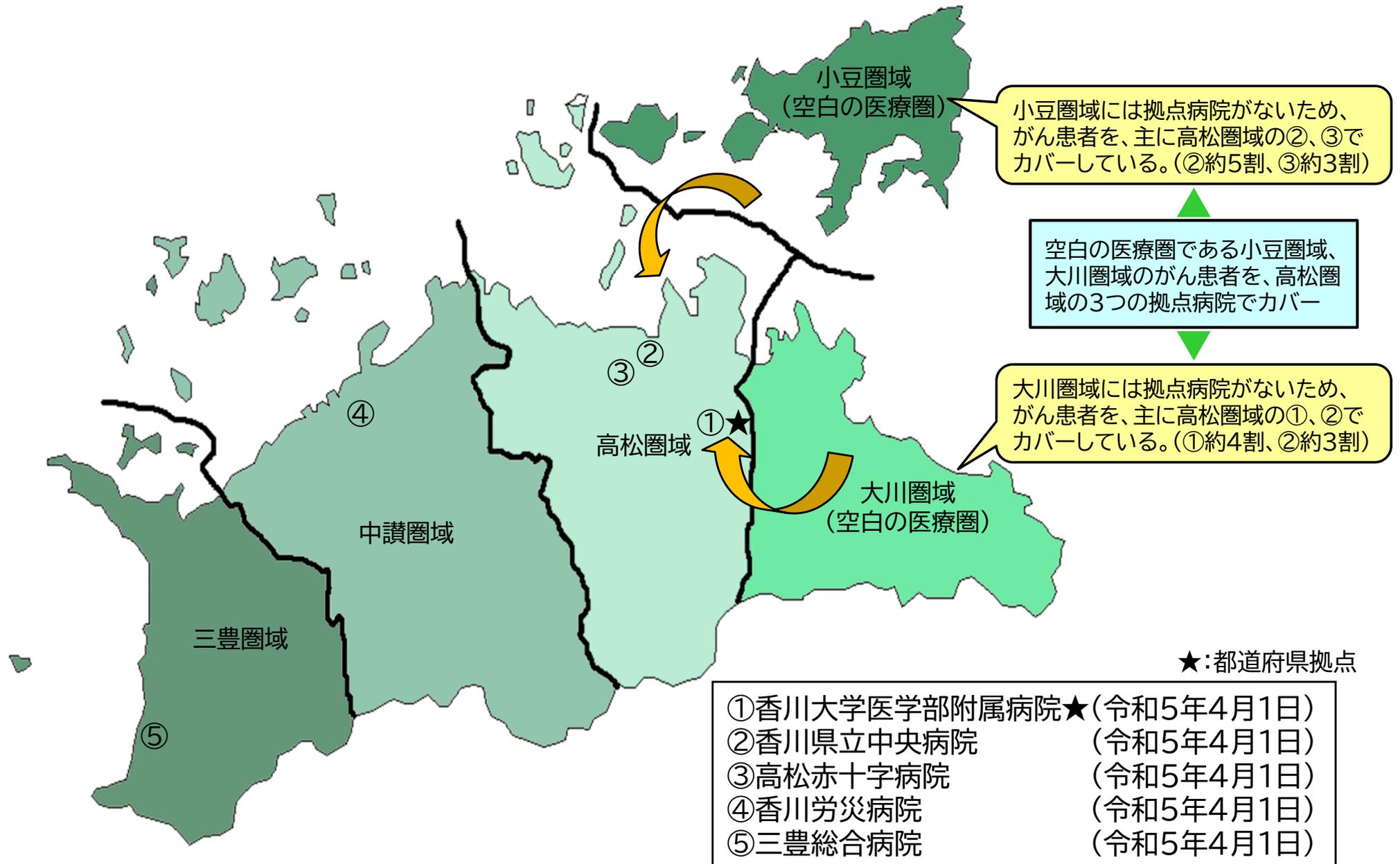
香 川 県

香川県 がんの医療圏の概要

令和7年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口 割合 (%)	人口 密度 (人/km ²)	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療 連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
大川圏域	311.46	71,701	7.63%	230.21	5											
小豆圏域	169.97	25,441	2.71%	149.68	3											
高松圏域	465.41	447,433	47.60%	961.37	36	3			3							
中讃圏域	589.37	278,549	29.63%	472.62	30	1			1							
三豊圏域	340.57	116,841	12.43%	343.07	11	1			1							
計	1,876.78	939,965	100%	500.84	85	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0

香川県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



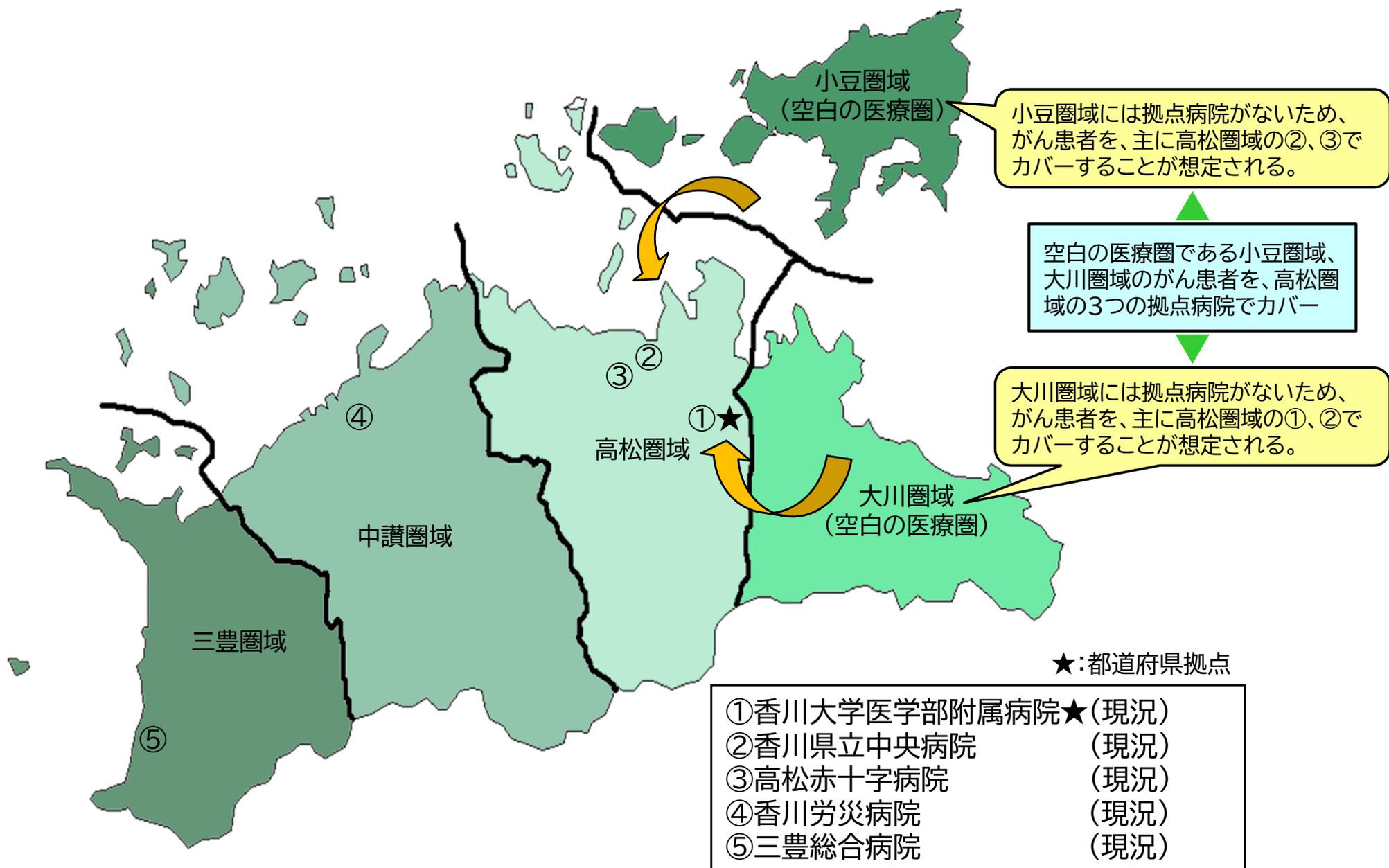
がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
					<u>500件以上</u>	<u>400件以上</u>	<u>1000人以上</u>	<u>200人以上</u>	<u>50件以上</u>	<u>2割程度</u>	
1	高松	★	現況報告	香川大学医学部附属病院	(1,547) 1,692	(1,365) 1,461	(2,362) 2,752	(431) 409	(116) 167	(21) 12	(517) 808
2	高松		現況報告	香川県立中央病院	(1,612) 1,580	(1,228) 1,096	(2,119) 2,034	(297) 304	(211) 169	(22) 24	(8,308) 8,383
3	高松		現況報告	高松赤十字病院	(1,712) 1,283	(908) 914	(2,706) 2,812	(242) 230	(97) 94	(20) 24	(3,360) 4,720
4	中讃		現況報告	香川労災病院	(1,254) 1,300	(548) 618	(2,644) 3,162	(243) 280	(213) 328	(35) 30	(5,224) 4,023
5	三豊		現況報告	三豊総合病院	(713) 698	(590) 592	(837) 841	(63) 112	(138) 157	(55) 47	(705) 1,056

香川県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る香川県の考え方について

1. 本県のがんの状況

- 昭和52年以来、がんは死亡原因の第1位であり、毎年約3千人の県民が亡くなっている。(令和4年のがんの死亡割合は22.2%、他要因を大きく上回る。)
- 高齢化が全国平均を上回って進行している。
(令和4年の高齢化率は32.5%。全国平均より10年以上早いペース)

がんは、県民の生命と健康にとって重要な課題

2. がん診療連携拠点病院の整備の考え方

- 県内の5つのがんの医療圏に対し、5つの拠点病院を整備
- 空白医療圏となっている2医療圏(小豆圏域、大川圏域)を、隣接する医療圏(高松圏域)の3つの拠点病院でカバー

※第七次香川県保健医療計画(2018年3月策定)から、二次医療圏を従来の5医療圏から3医療圏に見直したが、当該計画の期間中における5疾病・5事業及び在宅医療の圏域は、医療提供体制の継続性や激変緩和の観点からそれぞれ設定。第4次香川県がん対策推進計画においても、この圏域に基づいて、地域に根差したがん医療を行うこととしている。

がんの医療圏	拠点病院
大川	(高松圏域にある3病院でカバー)
小豆	(高松圏域にある3病院でカバー)
高松	香川大学医学部附属病院★ 香川県立中央病院 高松赤十字病院
中讃	香川労災病院
西讃	三豊総合病院

★:都道府県拠点

- がん診療連携拠点病院では、専門的ながん医療を提供するとともに、緩和ケア等がん医療に関する研修や合同カンファレンスの開催、地域連携クリティカルパスの運用等により、地域のがん診療を行っている医療機関との連携協力・支援体制を強化。

愛媛県

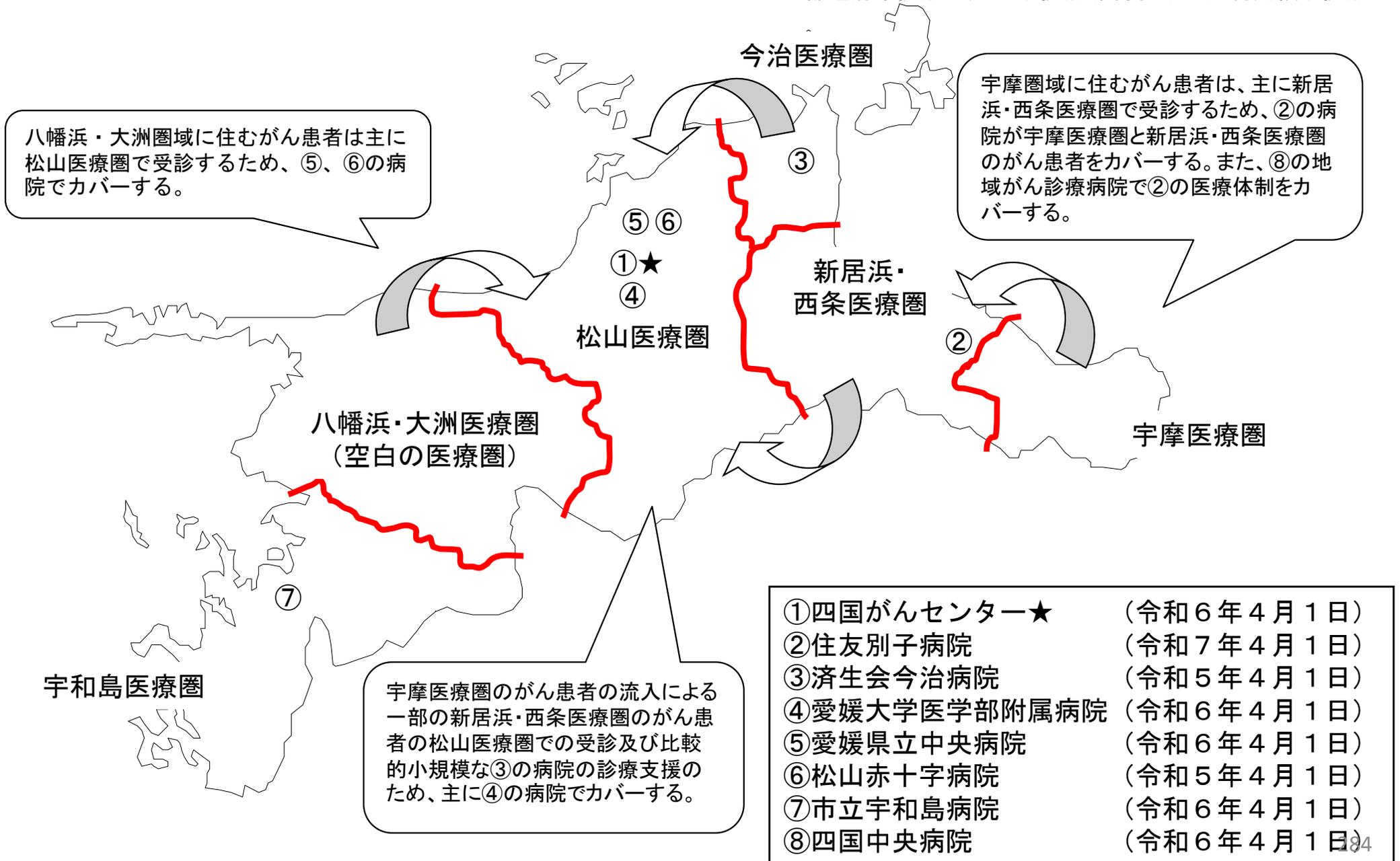
愛媛県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
宇摩	421.24	82,754	6.2%	196.5	9				0				1		
新居浜・西条	744.48	220,729	16.5%	296.5	21	1			1						
今治	449.52	158,181	11.9%	351.9	28	1			1						
松山	1540.83	637,742	47.8%	413.9	50	4			4						
八幡浜・大洲	1472.65	131,669	9.9%	89.4	15				0						
宇和島	1047.51	103,766	7.8%	99.1	12	1			1						
計	5676.23	1,334,841	100%	235.2	135	7	0	0	7	0	0	0	1	0	0

愛媛県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 松山	★	現況報告	四国がんセンター	(1873) 1890	(1272) 1295	(3120) 3427	(758) 757	(369) 414	(27) 27	(5592) 5706
2 新居浜・西条		現況報告	住友別子病院	(548) 525	(505) 483	(535) 567	(107) 108	(99) 78	(25) 19	(465) 640
3 今治		現況報告	済生会今治病院	(521) 558	(389) 451	(502) 513	(258) 251	(111) 60	(21) 23	(3276) 2404
4 松山		現況報告	愛媛大学医学部附属病院	(2384) 2060	(1382) 1344	(2910) 3008	(497) 498	(195) 198	(5) 8	(1183) 1288
5 松山		現況報告	愛媛県立中央病院	(2045) 2116	(1299) 1478	(2801) 2884	(510) 574	(126) 182	(25) 21	(4212) 4441
6 松山		現況報告	松山赤十字病院	(1659) 1620	(949) 1159	(1813) 1835	(303) 284	(185) 242	(23) 22	(2348) 1973
7 宇和島		現況報告	市立宇和島病院	(1120) 1164	(1037) 973	(1253) 1499	(247) 238	(73) 61	(19) 26	(2083) 1776

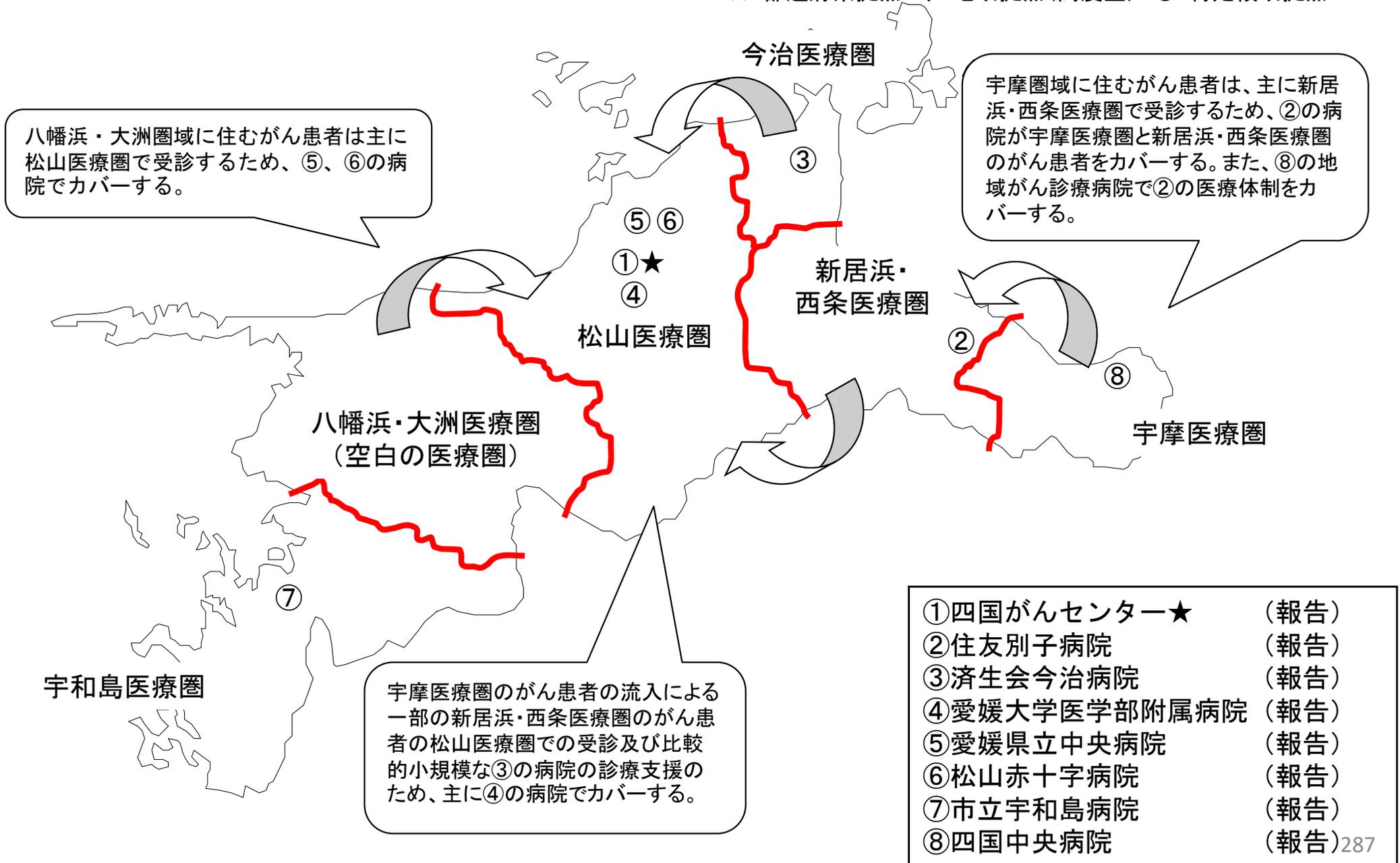
地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は令和5年10月提出の数値、下段は令和6年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 数(年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに 対する新規診療依 頼数 (年間)	相談件数 (年間)
1	宇摩	現況報告	四国中央病院	(424) 394	(96) 101	(142) 152	(40) 29	(49) 47	(537) 551

愛媛県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



○愛媛県におけるがん診療体制について

本県の6つの二次医療圏のうち、宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域については、がん診療連携拠点病院としての要件を満たす医療機関がないため、がん診療については、地理的条件や交通事情、医療機能の集積状況等を踏まえ、それぞれ隣接する新居浜・西条圏域、松山圏域と一体的な診療体制を整備することにより、県内を4圏域に区分した上で、各圏域に拠点病院を配置することにより、県内全域をカバーできる体制を整備している。また、令和6年度から宇摩圏域に地域がん診療病院が指定された。

○二次医療圏の数を上回る拠点病院を整備する理由

本県では、松山圏域に、県拠点病院を含め4拠点病院を整備することに伴い、県全体の拠点病院数は、二次医療圏の数である6を上回る7病院となるが、その理由は次のとおり。

1 患者の受療動向

県内のがんによる入院患者(病院の入院患者。以下同じ。)の約63%が松山圏域に集中し、松山圏域に所在する病院の入院患者の35%は他の圏域からの流入患者であり、県内の入院患者の49%、松山圏域に所在する病院の入院患者の84%を当該4病院で受け入れている。

2 他の二次医療圏との関係

宇摩圏域の患者は、3割が隣接の新居浜・西条圏域、4割が松山圏域に流出し、新居浜・西条圏域の患者の4割近くも松山圏域に流入しているほか、八幡浜・大洲圏域の患者の5割強は、隣接する松山圏域に流出していることから、松山圏域の拠点病院の診療支援は不可欠である。

また、今治圏域は、離島が多い等の地理的条件を考慮し拠点病院を整備するが、より高度な医療を行うには、松山圏域の拠点病院との連携が必要である。

3 拠点病院間の機能分担等

次項「医療機関の機能・役割」のとおり。

以上のことから、医療機関相互の機能や役割分担のもと、本県のがん診療の質的向上を図るための効率・効果的な体制を構築し、県内のがん医療の均てん化を推進する観点から、他の医療圏を支援する体制を構築するため、がん専門病院である四国がんセンターを都道府県拠点病院とするとともに、高度な診療機能を有し、従来から緊密な連携関係にある県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院の3病院が主導的役割を果たしていくことが不可欠である。

【県内のがん診療連携拠点病院の機能・役割分担（総括）】

◆都道府県拠点病院（1病院）

医療機関名	医療機関の機能・役割
四国がんセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○全国がん(成人病)センター協議会の加盟施設としての機能を発揮し、最新技術の本県への導入の拠点とする。 ○都道府県拠点病院として、県がん診療連携協議会を主宰する。 ○がん専門病院として、全県の医療機関に対する支援を行う。

◆地域拠点病院及び地域がん診療病院（7病院）

がん診療の医療圏	医療機関名 (所在圏域)	対象とする2次医療圏 (支援医療圏)	医療機関の機能・役割
東 予	四国中央病院 (宇摩圏域)	宇摩圏域	○拠点病院が存在しない「宇摩圏域」において、地域がん診療病院として拠点病院の機能をカバーするための医療を行う。
	住友別子病院 (新居浜・西条圏域)	宇摩圏域 新居浜・西条圏域	○新居浜・西条圏域及び隣接する「宇摩圏域」が所在する東予地域において、高度ながん診療を行う。
今 治	済生会今治病院 (今治圏域)	今治圏域	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域の医療機関と連携しつつ、今治地域において高度ながん診療を行う。 ○特に、離島の住民の診療、圏域内の中小医療機関の支援を重点的に行う。
中 予	愛媛大学医学部 附属病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (新居浜・西条 圏域、今治圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○特定機能病院及び大学病院として、高度ながん診療はもとより、次の機能を発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療を行う。 ・がん診療のプロフェッショナルの育成等、専門職の養成を図る。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修を行う。 ・医療機関人の医師派遣を通じて、県内の医療技術の向上を図る。 ○特に、「新居浜・西条圏域」、「今治圏域」のがん患者診療と医療機関の診療支援を行う。
	県立中央病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域の拠点病院であるとともに、本県の基幹病院として、高度な医療を行う。 ○県内4圏域にある県立4病院の拠点として、遠隔医療システムや医師派遣等を通じて各県立病院の診療支援を行う。 ○造血細胞移植療法、ガンマナイフ治療等を特徴とする。 ○PET-CTセンターを稼働させ、県内全域の病院・診療所の検査機関として機能している。 ○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。
	松山赤十字病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域において、高度ながん診療を行うとともに、松山圏域の地域医療支援病院として圏域内の医療機関と緊密な連携体制を築いている。 ○がんの分野においても、かかりつけ医を交えたカンファレンス等を積極的に行っているほか、地域のかかりつけ医やホスピス病院と共同して、緩和ケアも含めた在宅医療の充実を推進しており、がんにおける病病連携・病診連携、がんの在宅医療推進の先駆的役割を果たしている。 ○大腸がん、肝がん等の診療体制が充実している。 ○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。
南 予	市立宇和島病院 (宇和島圏域)	宇和島圏域	○南予地域において、高度ながん診療を行うことにより、圏域内完結のがん診療体制を構築する。

高知県

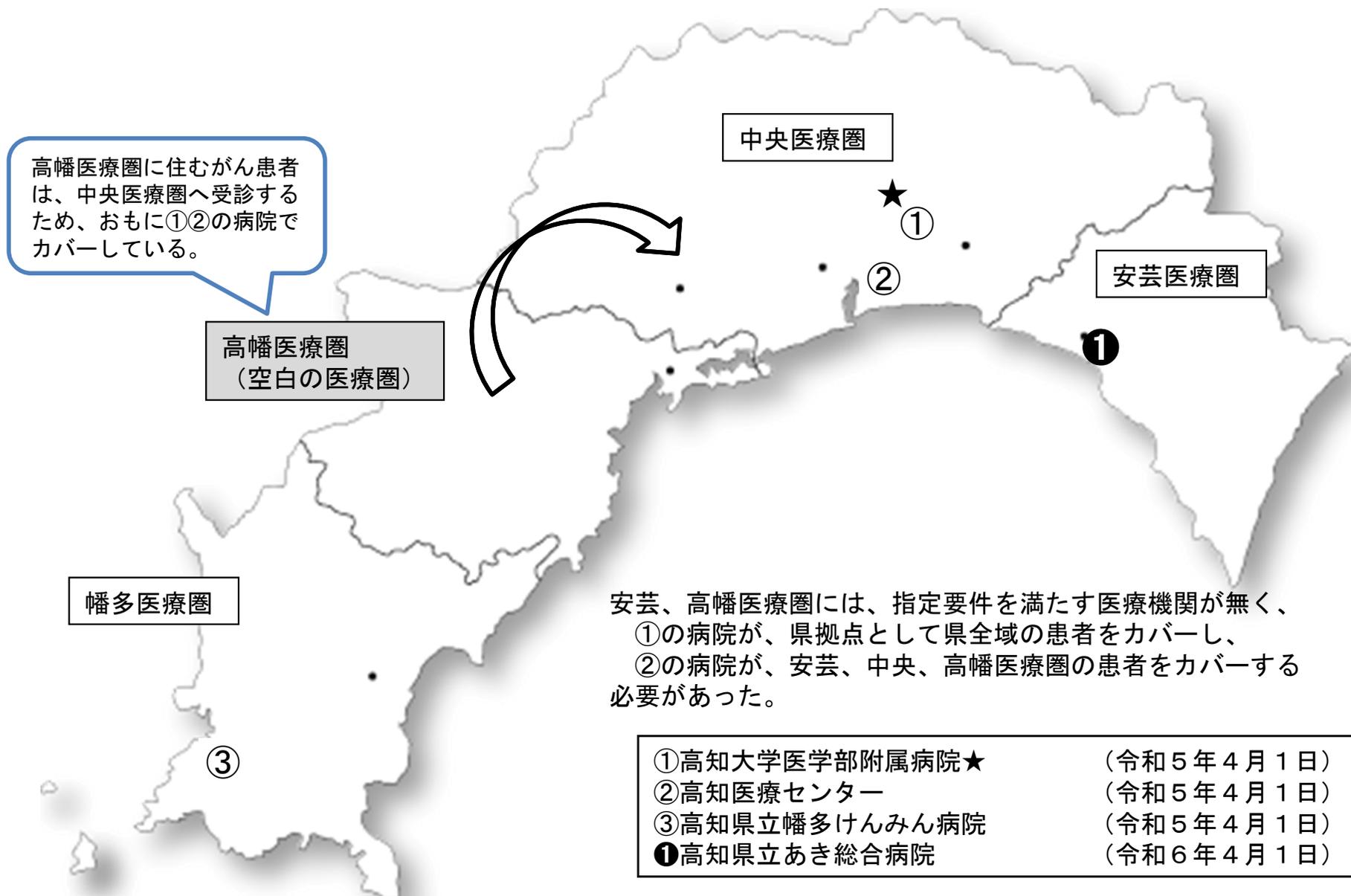
高知県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
安芸医療圏	1128.47	38,657	6.0	34.3	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
中央医療圏	3008.37	489,567	75.8	162.7	89	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
高幡医療圏	1404.99	44,910	7.0	32.0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幡多医療圏	1560.45	72,392	11.2	46.4	15	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	7102.28	645,526	100	90.9	118	3	0	0	3	0	0	0	1	0	0

高知県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び 特定領域がん診療連携拠点病院

- ・ () 内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
 - ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合 (%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	中央	★	現況	高知大学医学部附属病院	(1,327) 1,548	(1,481) 1,576	(2,597) 3,421	(507) 556	(149) 139	(21) 27.5	(1,143) 791
2	中央		現況	高知医療センター	(1,775) 1,671	(1,085) 1,066	(1,957) 2,145	(265) 280	(141) 166	(21) 26	(941) 1197
3	幡多		現況	高知県立幡多けんみん病院	(531) 467	(355) 249	(647) 644	(72) 67	(92) 79	(33) 31	(978) 483 293

地域がん診療病院の診療実績等

- ・ 上段は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	安芸	現況	高知県立あき総合病院	(310) 288	(58) 66	(575) 636	(実施なし) 実施なし	(66) 63	(410) 450

高知県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

空白の医療であったため、高幡医療圏に住むがん患者は、中央医療圏へ受診するため、おもに①②の病院がカバーする体制が整備されている。



①の病院が、県拠点として県全域の患者をカバーし、
②の病院が、安芸、中央、高幡医療圏の患者をカバーする。

指定推薦に係る高知県の考え方（1）

（1）拠点病院の位置づけ

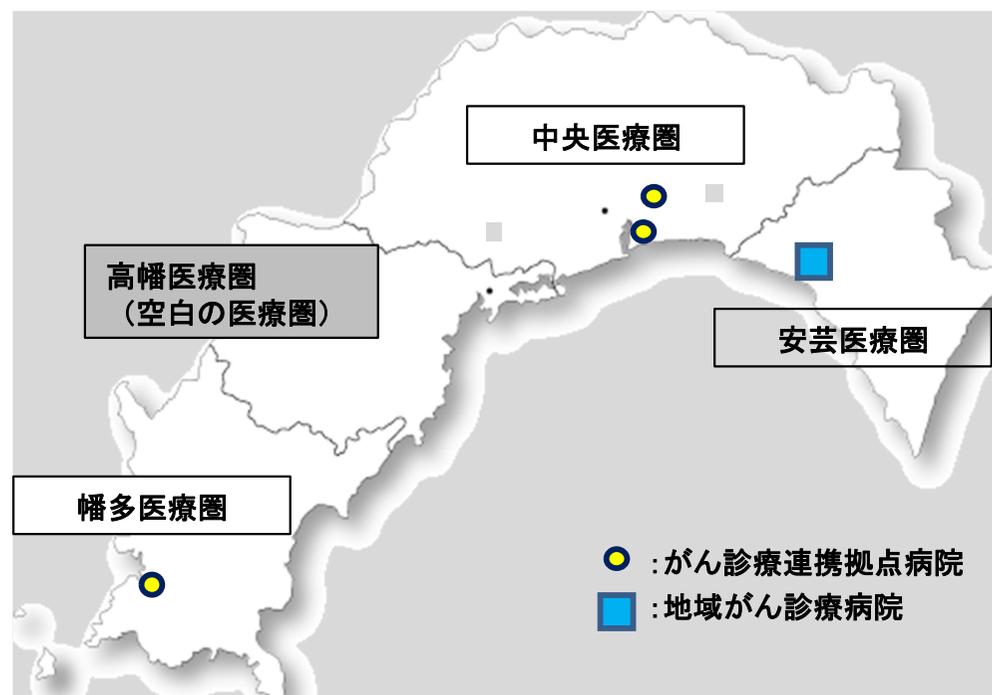
本県では、保健医療計画において4つの二次医療圏（安芸・中央・高幡・幡多）を設定しているが、がん医療提供体制については、次のような医療機能の集積状況やがん患者の医療圏間移動、地理的条件等を踏まえ、県全体として高度医療の確保と患者の利便性の双方を確保できるよう、中央医療圏の拠点病院が中央医療圏に加え安芸・高幡医療圏の患者支援を、幡多医療圏の拠点病院が幡多医療圏の患者支援を主に行っている。

- ①本県では、安芸及び高幡医療圏では、単独で集学的治療を実施できる医療機関がないことから、その役割を中央医療圏の医療機関が担っている。また、幡多医療圏内で集学的治療ができる医療機関は1か所のみとなっている。
- ②がんの入院患者についても、中央医療圏への流出が多い。

二次医療圏名	入院	
	自圏内	中央医療圏への流出
安芸医療圏	43.3%(50.8%)	56.7%(49.2%)
中央医療圏	99.5%(99.5%)	—
高幡医療圏	37.5%(36.8%)	62.5%(63.2%)
幡多医療圏	53.9%(71.0%)	45.1%(28.2%)

※令和4年度高知県患者動態調査結果による
()内は平成28年度調査結果

- ③本県は、東西に長い地形に加えて、中山間部では過疎化が進行するなど地理的条件が厳しい。
- ④幡多医療圏については、中央圏域から地理的に離れた圏域であり、一部患者が中央医療圏や県外に流出しているものの、半数以上、自圏域内で医療が完結している。



指定推薦に係る高知県の考え方（2）

（2）がん診療連携拠点病院等の整備方針及び地域連携体制

○がん診療連携拠点病院等の整備方針について

- ・都道府県がん診療連携拠点病院として、高知大学医学部附属病院を整備している。
- ・地域がん診療連携拠点病院としては、高知医療センターが高知大学医学部附属病院とともに、安芸・中央・高幡医療圏をカバーし、高知県立幡多けんみん病院が幡多医療圏をカバーするよう整備している。
- ・地域がん診療病院として、高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、高知県立あき総合病院が安芸医療圏をカバーするよう整備している。

【本県のがん診療体制を整備するうえでの必要性】

がん診療については、最新の医療を本県でも提供しうる体制づくりを目標とし、医療従事者の育成、診療の相互支援、がんに係る情報の収集・提供等を行うこととしている。その推進体制としては、特定機能病院及び大学病院である高知大学医学部附属病院が、都道府県がん診療連携拠点病院として県全体のがん治療水準の向上と人材の育成、治療連携体制を構築している。

また、高知大学医学部附属病院が事務局となり、高知がん診療連携協議会を開催している。拠点病院だけでなく、がん診療連携推進病院、二次医療圏においてがん診療の中核となる病院、行政等も参画し、本県において質の高いがん医療を受けることができる体制を確保している。

圏域	医療機関名	各医療機関の機能等
全域	高知大学医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成18年度に都道府県拠点病院として指定を受けた国立大学法人の附属病院。 ◆大学病院として、県内全域を対象に、高度ながん診療のみならず、次の機能も発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修。 ・県内医療機関への医師派遣。 ◆県内医療機関の拠点として、遠隔画像システム等を通じて、診療支援を行う。
安芸	高知県立あき総合病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成30年度に地域がん診療病院として指定。 ◆都道府県拠点病院である高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、集学的治療等を提供する。
安芸 中央 高幡	高知医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知大学とともに、安芸・中央・高幡医療圏の患者の診療と、これら医療圏の医療機関の診療支援を行う。 ◆救命救急センター・総合周産期母子医療センター・がんセンター・循環器病センター・地域医療センターといった高度医療機能を備え、県全体の基幹病院と位置付けられている。
幡多	高知県立幡多けんみん病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成24年度に地域拠点病院として整備。 ◆幡多圏域の基幹病院として、高度ながん診療を行うとともに、地域の関係機関との連携のもとに、地域でほぼ完結できる医療の提供を行っている。

福岡県

福岡県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院									
							推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳								
								新規申請	指定更新	指定類型 変更		現況報告	新規申請	指定更新		指定類型 変更	現況報告	新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告			
1	福岡・糸島	559.16	1,770,089	34.8	3165.6	121	2		2		8	0				0								
2	粕屋	206.71	291,669	5.7	1411.0	27	0				1	0				0								
3	宗像	172.7	166,094	3.3	961.7	13	0					0				0								
4	筑紫	233.32	440,505	8.7	1888.0	26	0				1	0				0								
5	朝倉	365.78	79,899	1.6	218.4	8	0					0				0							1	
6	久留米	467.83	442,523	8.7	945.9	47	0				2	0				0								
7	八女・筑後	562.16	125,192	2.5	222.7	14	1			1		0				0								
8	有明	263.81	195,396	3.8	740.7	30	0				1	0				0								
9	飯塚	369.21	166,484	3.3	450.9	19	0				1	0				0								
10	直方・鞍手	251.63	99,283	2.0	394.6	12	0					0				0								
11	田川	363.73	108,407	2.1	298.0	16	1			1		0				0								
12	北九州	601.84	1,027,318	20.2	1707.0	101	0				5	0				0								
13	京築	569.76	175,955	3.5	308.8	14	0					0				0								
	計	4,988	5,088,814	100	12,713	448	4	0	2	2	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

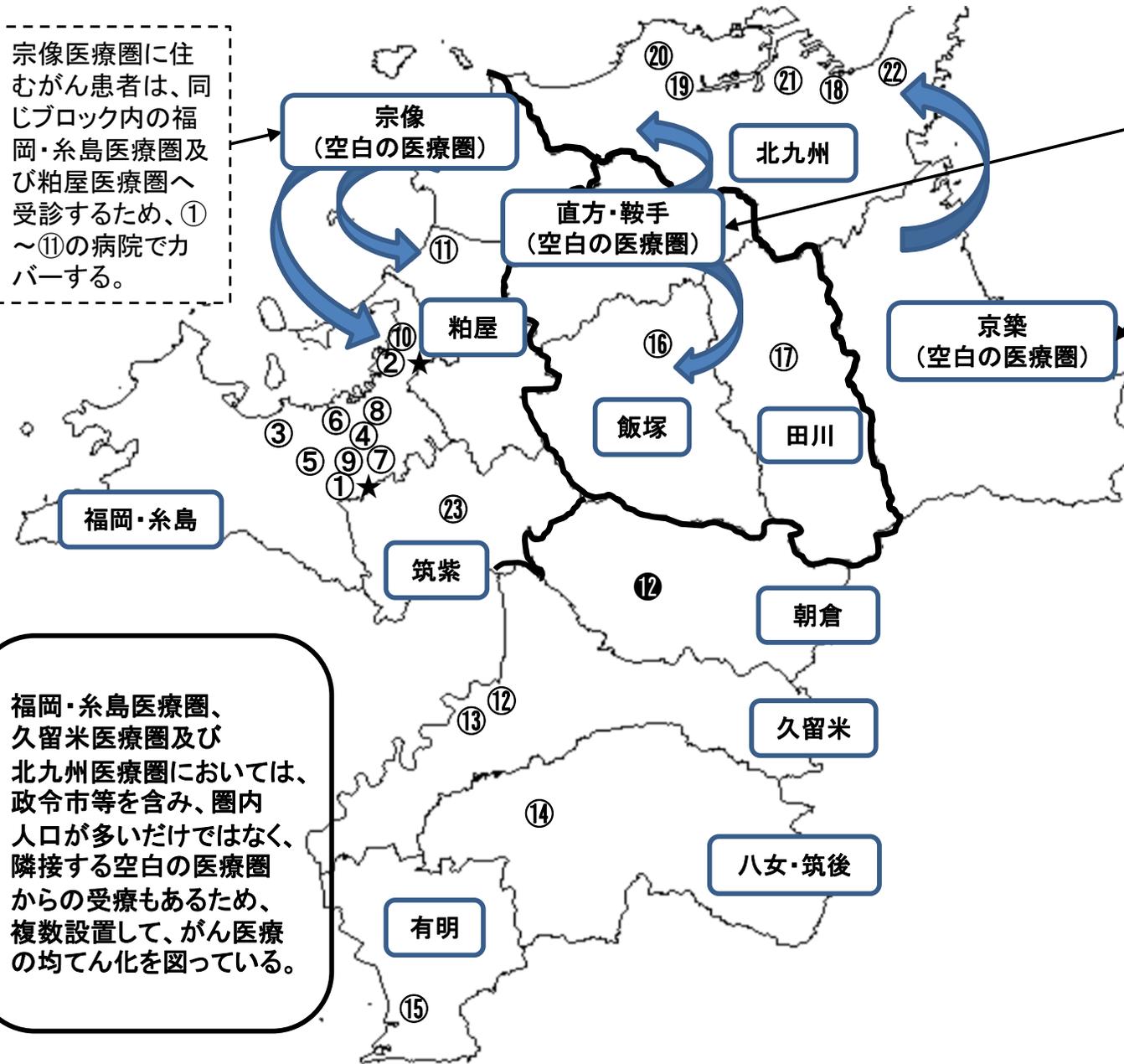
福岡県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点

宗像医療圏に住むがん患者は、同じブロック内の福岡・糸島医療圏及び粕屋医療圏へ受診するため、①～⑪の病院でカバーする。

直方・鞍手医療圏に住むがん患者は、同じブロック内の飯塚医療圏及び田川医療圏、並びに隣接するブロックの北九州医療圏へ受診するため⑩～⑫の病院でカバーする。

京築医療圏に住むがん患者は、同じブロック内の北九州医療圏へ受診するため、⑩～⑫の病院でカバーする。
なお、県境に隣接して大分県の拠点病院がある。



福岡・糸島医療圏、久留米医療圏及び北九州医療圏においては、政令市等を含み、圏内人口が多いだけでなく、隣接する空白の医療圏からの受療もあるため、複数設置して、がん医療の均てん化を図っている。

- | | |
|--------------|------------|
| ①九州がんセンター★ | (令和5年4月1日) |
| ②九州大学病院★ | (令和5年4月1日) |
| ③九州医療センター | (令和5年4月1日) |
| ④済生会福岡総合病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑤福岡大学病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑥浜の町病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑦九州中央病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑧原三信病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑨福岡赤十字病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑩福岡和白病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑪福岡東医療センター | (令和5年4月1日) |
| ⑫久留米大学病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑬聖マリア病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑭公立八女総合病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑮大牟田市立病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑯飯塚病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑰社会保険田川病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑱北九州市立医療センター | (令和5年4月1日) |
| ⑲JCHO九州病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑳産業医科大学病院 | (令和5年4月1日) |
| ㉑戸畑共立病院 | (令和5年4月1日) |
| ㉒九州労災病院 | (令和5年4月1日) |
| ㉓福岡徳洲会病院 | (令和6年4月1日) |
| ㉔朝倉医師会病院 | (令和5年4月1日) |

県内を4つに分けた各ブロックごとに均てん化を図っている。

がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチー ムに対する新 規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居 住する がん患者の診療の割 合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	福岡・糸島	★	現況報告	九州がんセンター	(2077)	(1526)	(5638)	(900)	(499)	(10)	(9706)
					2254	1482	5587	1049	525	10	9584
2	福岡・糸島	★	現況報告	九州大学病院	(2841)	(4504)	(21811)	(1062)	(301)	(13)	(1774)
					3047	4596	21849	1103	331	14	1786
3	福岡・糸島		現況報告	九州医療センター	(2059)	(1744)	(1346)	(274)	(328)	(14)	(605)
					2063	1823	1437	461	292	14	672
4	福岡・糸島		現況報告	済生会福岡総合病院	(1142)	(676)	(1277)	(274)	(328)	(14)	(605)
					1148	600	1024	296	119	4	2177
5	福岡・糸島		現況報告	福岡大学病院	(2114)	(1190)	(2836)	(497)	(224)	(10)	(2156)
					(1948)	1132	2459	446	196	8.1	763
6	福岡・糸島		現況報告	浜の町病院	(1211)	(636)	(1803)	(350)	(195)	(8)	(1603)
					1339	821	1974	359	195	8	1231
7	福岡・糸島		現況報告	九州中央病院	(1009)	(745)	(1089)	(244)	(101)	(4)	(572)
					1044	823	1113	225	117	4	568
8	福岡・糸島		現況報告	原三信病院	(1189)	(745)	(2019)	(236)	(172)	(6)	(125)
					946	664	1994	247	79	3.3	919
9	福岡・糸島		現況報告	福岡赤十字病院	(1100)	(819)	(1333)	(233)	(172)	(6)	(125)
					1136	770	1408	211	141	5	215
10	福岡・糸島		現況報告	福岡和白病院	(811)	(588)	(1070)	(444)	(136)	(5)	(479)
					776	599	1033	435	144	2.4	618

がん診療連携拠点病院

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住 する がん患者の診療の割 合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
11	粕屋		現況 報告	福岡東医 療セン ター	(690)	(404)	(1235)	(190)	(65)	(8)	(627)
					790	470	1152	171	126	13	915
12	筑紫		新規 申請	福岡徳洲 会病院	(1017)	(626)	(2262)	(272)	(120)	(19)	(3473)
					823	612	1019	235	77	18	2018
13	久留米		現況 報告	久留米 大学病院	(2604)	(2514)	(1667)	(812)	(165)	(77)	(749)
					2680	2513	1871	858	165	77	889
14	久留米		現況 報告	聖マリア 病院	(1164)	(740)	(1275)	(249)	(231)	(23)	(341)
					1267	665	1282	189	201	26	366
15	八女・ 筑後		現況 報告	公立八女 総合病院	(460)	(118)	(302)	(128)	(221)	(17)	(211)
					277	177	285	119	161	16	193
16	有明		現況 報告	大牟田市 立病院	(707)	(597)	(695)	(154)	(58)	(29)	(2158)
					657	581	652	178	53	22.82	1582
17	飯塚		現況 報告	飯塚病院	(1900)	(1885)	(2263)	(435)	(719)	(88)	(368)
					2575	2016	2167	529	875	81	403
18	田川		更新	社会保険 田川病院	(365)	(268)	(334)	(112)	(74)	(20)	(194)
					278	268	314	96	64	19	176
19	北九州		現況 報告	北九州市 立医療 センター	(2288)	(1507)	(6671)	(541)	(338)	(14)	(1262)
					2228	1539	6408	522	408	14	1566
20	北九州		現況 報告	JCHO 九州病院	(1737)	(1247)	(1762)	(403)	(295)	(13)	(1277)
					1697	1160	2419	385	315	9	1426

がん診療連携拠点病院

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住 する がん患者の診療の割 合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
21	北九州		現況報告	産業医科大学病院	(1946)	(1666)	(2215)	(943)	(231)	(14)	(1529)
					1999	1806	2215	807	268	17	1587
22	北九州		現況報告	戸畑共立病院	(544)	(361)	(1128)	(621)	(810)	(3)	(1025)
					535	403	1020	601	741	3	1203
23	北九州		現況報告	九州労災病院	(861)	(554)	(1553)	(193)	(102)	(4)	(521)
					739	507	1038	229	91	4	579

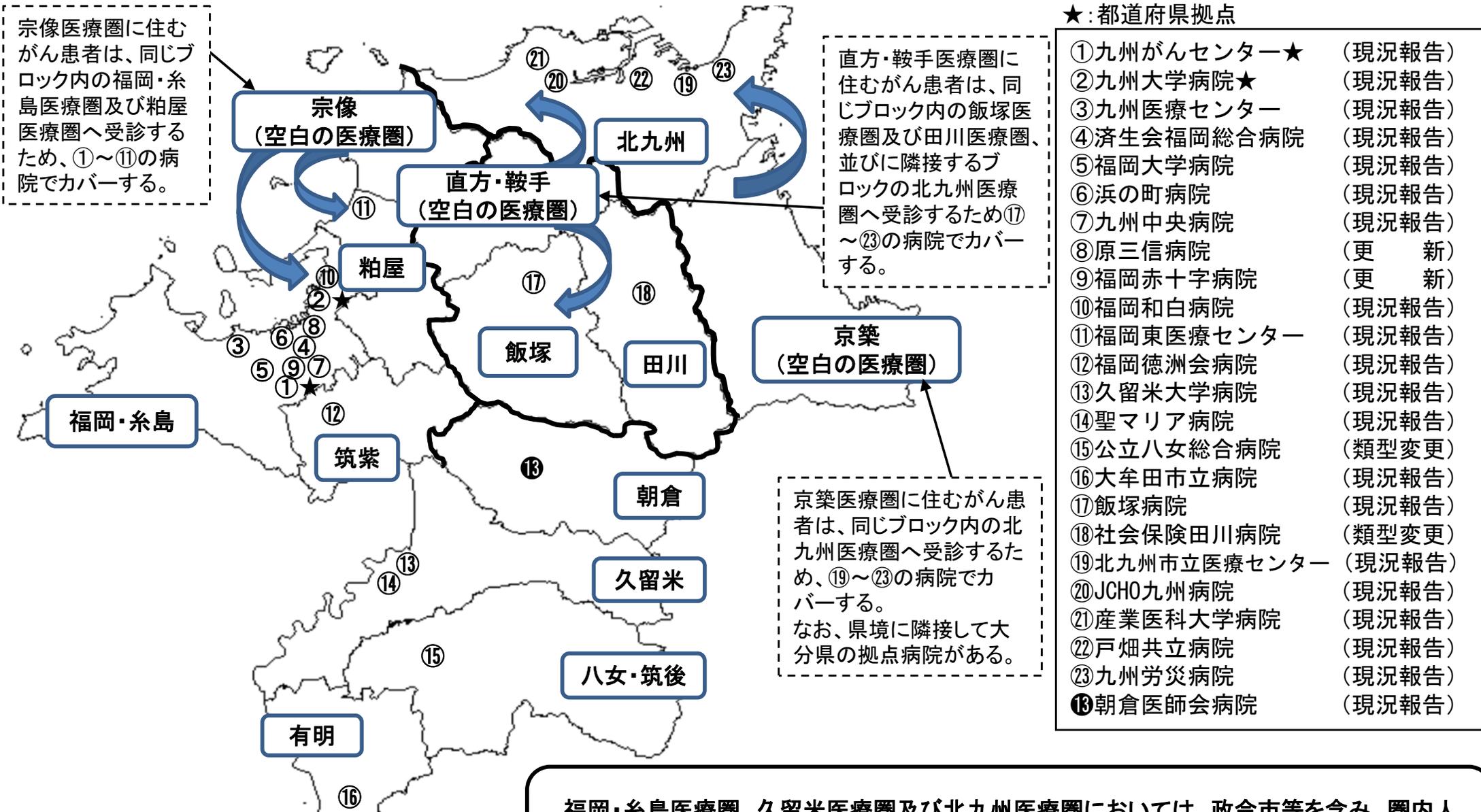
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

・上段は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
⑬	朝倉	現況報告	朝倉医師会病院	(528)	(97)	(1660)	実施無し	(53)	(974)
				513	86	257	実施無し	46	870

福岡県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



県内を4つに分けた各ブロックごとに均てん化を図っている。

福岡・糸島医療圏、久留米医療圏及び北九州医療圏においては、政令市等を含み、圏内人口が多いだけでなく、隣接する空白の医療圏からの受療もあるため、複数設置して、がん医療の均てん化を図っている

福岡県のがん診療連携拠点病院等整備の考え方

1 本県の状況

(1) がん患者等

- ① 本県におけるがんによる死亡者は16,056人（令和5年人口動態統計）、死亡者全体に占める割合は25.5%と、全国値の23.9%を上回っている。
- ② 「全国がん登録」における令和3年の年齢調整罹患率は389と、全国値の379を上回っている。
- ③ 75歳未満年齢調整死亡率は、全国値64.7を上回る69.4（令和5年人口動態統計）である。

(2) 医療圏等

- ① 100万人を超える2次医療圏（福岡・糸島、北九州）を有している一方で、指定要件を満たす医療機関がない2次医療圏（宗像、直方・鞍手、京築）が存在している。
- ② 県内の推計入院患者の動向は、ほとんどが当該2次医療圏の所在する4ブロック（福岡、筑後、筑豊、北九州）内で、流入・流出している。また、他県からの流入患者が、10%超の2次医療圏が複数存在している。

2 整備方針

現在2か所の都道府県がん診療連携拠点病院、21か所の地域がん診療連携拠点病院及び1か所の地域がん診療病院を整備している。

(1) 地域がん診療連携拠点病院

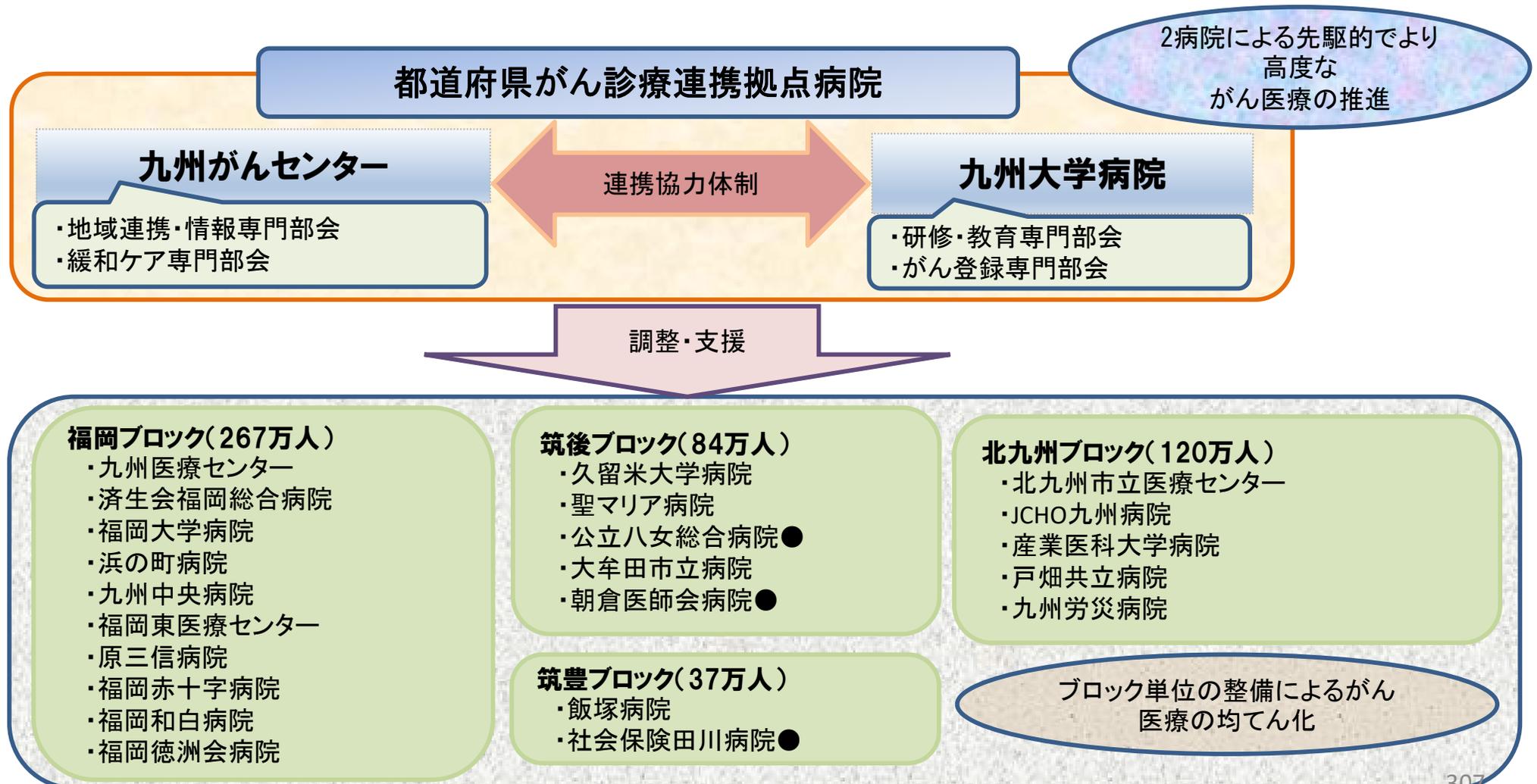
県内13のがん医療圏（2次医療圏）を基準としながら、県内の医療等の状況を踏まえ、引き続き、県内4ブロック単位で整備するという考え方を基本とする。

3 総括

本県のがんにかかる状況を踏まえ、「第4期福岡県がん対策推進計画」において、「がんによる死亡率（75歳未満調整死亡率）を6年間で12%減少させること」を数値目標に掲げている。

この達成のためには、全ての県民が県内どこに居ても質の高いがん医療を等しく受けられるがん医療の均てん化が必要不可欠である。

今後とも、県、がん診療連携協議会、拠点病院等との連携・協力体制を強化し、これを推進していく。



佐 賀 県

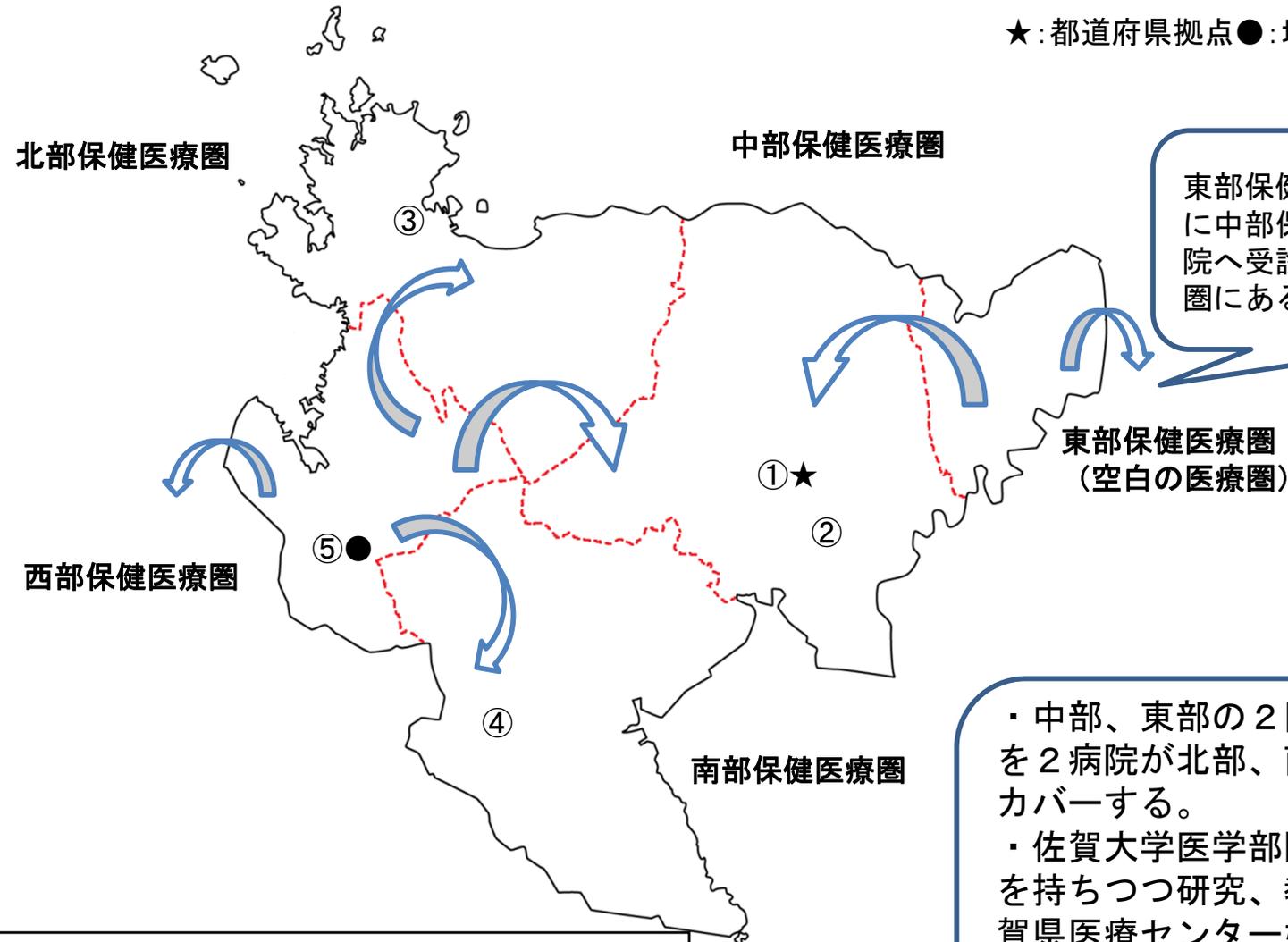
佐賀県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
中部保健医療圏	793.31	342,893	42.26	432.2	37	2			2						
東部保健医療圏	158.59	126,243	15.56	796	13										
北部保健医療圏	523.52	122,982	15.15	234.9	15	1			1						
西部保健医療圏	321.11	71,639	8.83	223.1	9								1		
南部保健医療圏	644.17	147,685	18.2	229.3	21	1			1						
計	2440.7	811,442	100	1915.5	95	4			4				1		

佐賀県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点 ●：地域がん診療病院



東部保健医療圏に住むがん患者は、主に中部保健医療圏の①及び②の拠点病院へ受診するが、隣接する県外の医療圏にある拠点病院にも受診している。

- ・ 中部、東部の2医療圏の県の全人口約58%を2病院が北部、南部、西部と連携しながらカバーする。
- ・ 佐賀大学医学部附属病院が高度な診療機能を持ちつつ研究、教育、人材派遣を担い、佐賀県医療センター好生館が高度かつ専門的な診断・治療を提供するという役割分担等により、県のがん医療の均てん化と水準向上に寄与。

- | | | |
|---------------|---|------------|
| ①佐賀大学医学部附属病院 | ★ | (令和5年4月1日) |
| ②佐賀県医療センター好生館 | | (令和5年4月1日) |
| ③唐津赤十字病院 | | (令和5年4月1日) |
| ④嬉野医療センター | | (令和5年4月1日) |
| ⑤伊万里有田共立病院 | ● | (令和7年4月1日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

- ・令和7年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

※()は昨年の実績

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間入院がん患者延べ人数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) 50人以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	中部保健医療圏	★	現況報告	佐賀大学医学部附属病院	3,727	2.2	(1,781) 1,794	(1,077) 1,051	(1,928) 2,144	(411) 412	(124) 120	(33) 34	(3,002) 3,823
2	中部保健医療圏		現況報告	佐賀県医療センター好生館	48,157	35.6	(1,393) 1,407	(790) 857	(2,858) 2,051	(257) 231	(554) 396	(26.3) 27.9	(2,715) 2,383
3	北部保健医療圏		現況報告	唐津赤十字病院	1,391	19.9	(644) 671	(412) 406	(1,049) 1,008	(165) 195	(136) 147	(38) 39	(3,681) 3,266
4	南部保健医療圏		現況報告	嬉野医療センター	1,981	21.3	(770) 737	(553) 527	(1,020) 930	(182) 114	(82) 101	(34) 37	(1,300) 1,480

地域がん診療病院の診療実績等

資料3-2

- ・令和6年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)							
1	西部保健医療圏		現況報告	伊万里有田共立病院	2111	4.5	213	76	284	0	34	20	57

佐賀県 令和8年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ●: 地域がん診療病院



東部保健医療圏に住むがん患者は、主に中部保健医療圏の①及び②の拠点病院がカバーするが、隣接する県外の医療圏にある拠点病院でもカバーしている。

- ・ 中部、東部の2医療圏の県の全人口約58%を2病院が北部、南部、西部と連携しながらカバーする。
- ・ 佐賀大学医学部附属病院が高度な診療機能を持ちつつ研究、教育、人材派遣を担い、佐賀県医療センター好生館が高度かつ専門的な診断・治療を提供するという役割分担等により、県のがん医療の均てん化と水準向上に寄与。

- | | |
|---------------|--------|
| ①佐賀大学医学部附属病院★ | (県拠点) |
| ②佐賀県医療センター好生館 | (地域拠点) |
| ③唐津赤十字病院 | (地域拠点) |
| ④嬉野医療センター | (地域拠点) |
| ⑤伊万里有田共立病院● | (地域がん) |

今回の推薦等に係る佐賀県の考え方について

佐賀県の現状

- ・ がんによる死亡率（75歳未満年齢調整死亡率）は全国と比較すると高い水準にある。
- ・ がん医療に関し、拠点病院等を地域診療の核として、かかりつけ医を支援しながら、県民に等しく質の高いがん医療を提供する。

拠点病院の整備

- ・ 本県の医療圏は「中部」、「西部」、「東部」、「南部」、「北部」の5医療圏で構成され、「東部」の医療圏は拠点病院のない空白の医療圏となっている。
- ・ 中部、東部の2医療圏で県の全人口の約58%となるが、中部の2病院が北部、南部、西部と連携しながら東部の医療圏のがん患者をカバーする。
- ・ 西部医療圏においては、伊万里・有田共立病院が地域がん診療病院に指定（R7.4.1）され、グループ指定の佐賀大学医学部附属病院と連携し、がん医療を提供している。

<がん診療連携拠点病院>

佐賀大学医学部附属病院

佐賀県医療センター好生館

唐津赤十字病院

嬉野医療センター

<地域がん診療病院>

伊万里有田共立病院

全がん75歳未満年齢調整死亡率



医療圏	人口	人口割合(%)	病院数
中部	342,893	42.26	37
西部	126,243	15.56	13
東部	122,982	15.15	15
南部	71,639	8.83	9
北部	147,685	18.2	21
計	811,442	100	95

5病院の特色を活かし、協力、連携することで、県のがん医療の均てん化と水準向上に寄与することができる。

長 崎 県

長崎県 がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
長崎医療圏	697.07	474,621	38	680.9	46	3			3						
佐世保県北 医療圏	824.20	286,166	23	347.2	34	1			1						
県央医療圏	626.12	261,370	21	417.4	31	1			1						
県南医療圏	467.35	116,500	9	249.3	14	1			1						
五島医療圏	420.04	31,340	3	74.6	4				0						
上五島医療圏	239.47	17,345	1	72.4	1				0						
壱岐医療圏	139.42	22,225	2	159.4	4				0						
対馬医療圏	708.63	25,343	2	35.8	2				0						
計	4,122.30	1,234,910	100	299.6	136	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0

長崎県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

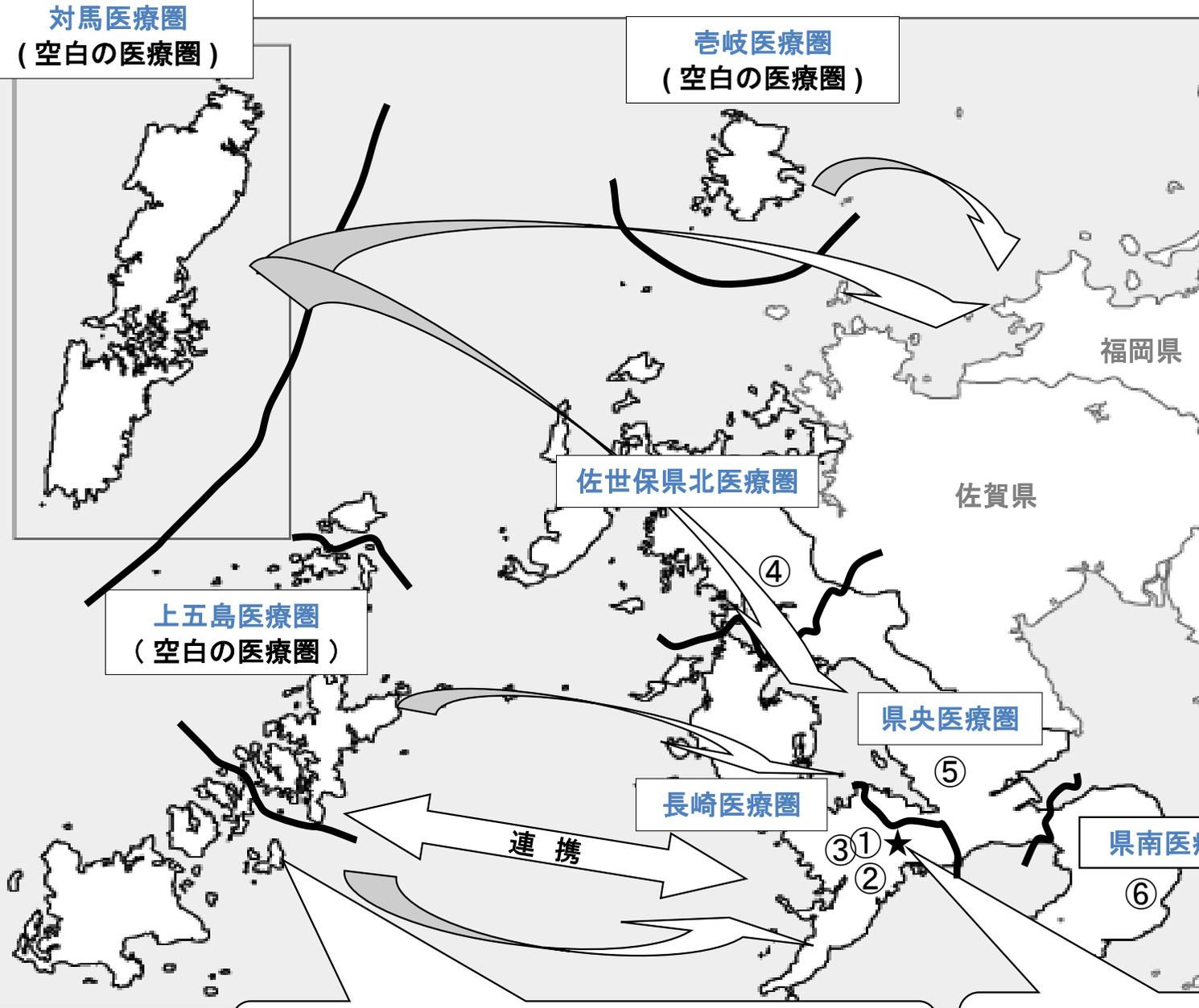
★: 都道府県拠点

- ①長崎大学病院 ★
(令和6年4月1日～令和9年3月31日)
- ②長崎みなとメディカルセンター
(令和5年4月1日～令和9年3月31日)
- ③日本赤十字社 長崎原爆病院
(令和7年4月1日～令和9年3月31日)
- ④佐世保市総合医療センター
(令和5年4月1日～令和9年3月31日)
- ⑤長崎医療センター
(令和6年4月1日～令和9年3月31日)
- ⑥長崎県島原病院
(令和5年4月1日～令和9年3月31日)

【長崎医療圏複数指定の理由】

- 長崎大学病院 都道府県拠点病院
- 長崎みなとメディカルセンター
「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」中心に主に五島医療圏と連携
- 日本赤十字社 長崎原爆病院
「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」を中心に主に上五島医療圏と連携

医療圏数	8ヶ所
拠点病院数	6
現況	6
更新	なし
新規	なし



対馬医療圏
(空白の医療圏)

壱岐医療圏
(空白の医療圏)

佐世保県北医療圏

上五島医療圏
(空白の医療圏)

県央医療圏

長崎医療圏

県南医療圏

五島医療圏
(空白の医療圏)

五島並びに上五島医療圏は、医療圏内のがん診療離島中核病院と、本土地区の長崎みなとメディカルセンター並びに日本赤十字社 長崎原爆病院等が中心となり支援

長崎大学病院は、県全体の調整と連携支援、並びに人材育成等に主導長崎県がん診療連携協議会を主宰

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

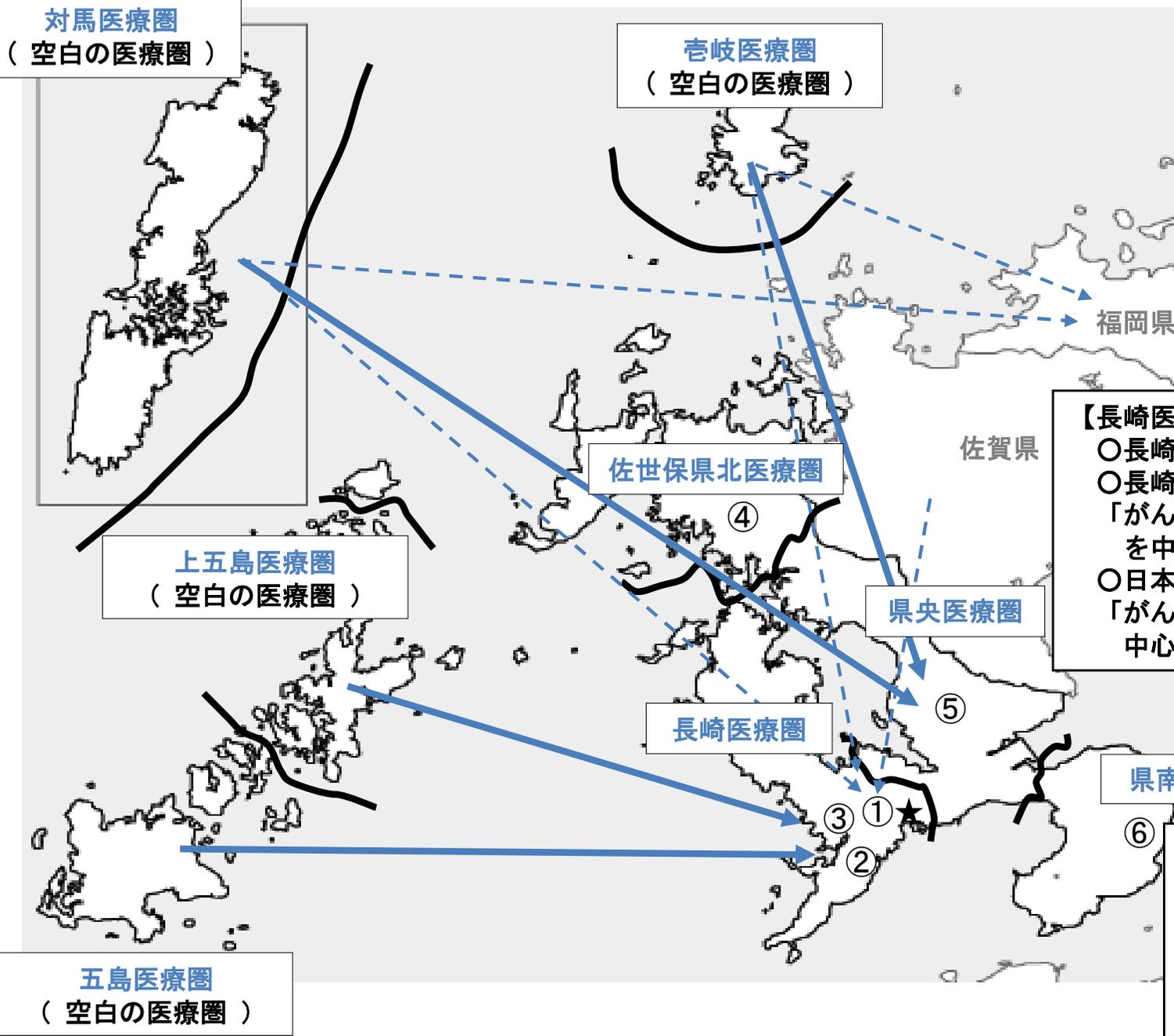
資料 3 - 1

・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値

★:都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療実績	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	長崎医療圏	★	現況	長崎大学病院	(2, 151) 2, 237	(1, 495) 1, 535	(2, 357) 2, 247	(589) 613	(623) 786	(39) 48.0	(918) 872
2	長崎医療圏		現況	長崎みなとメディカルセンター	(1007) 998	(777) 719	(1, 077) 1, 145	(443) 469	(161) 1043	(18) 20.1	(2, 564) 2, 814
3	長崎医療圏		現況	日本赤十字社長崎原爆病院	(1, 102) 1, 099	(757) 754	(1, 243) 1, 410	(364) 370	(149) 97	(19) 20.0	(1, 399) 916
4	佐世保 県北医療圏		現況	佐世保市総合医療センター	(2, 135) 2, 038	(1, 521) 1, 585	(2, 170) 1, 801	(637) 595	(117) 158	(44) 45.0	(1648) 1057
5	県央医療圏		現況	長崎医療センター	(1, 369) 1, 348	(1, 402) 1, 405	(1, 952) 1, 261	(431) 392	(115) 119	(42) 43.0	(1, 105) 864
6	県南医療圏		現況	長崎県島原病院	(417) 402	(348) 375	(821) 659	(191) 163	(439) 519	(31.6) 31.5	(189) 323

長崎県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



★:都道府県拠点

空白の医療圏である4つの離島医療圏は、第1期長崎県がん対策推進計画において位置づけたがん診療離島中核病院と本土地区の地域がん診療病院が連携し、がん医療の質の向上と均てん化を図っている。但し、壱岐・対馬医療圏については、経済圏の関係から、一部の患者は、福岡県の医療機関で受療している。

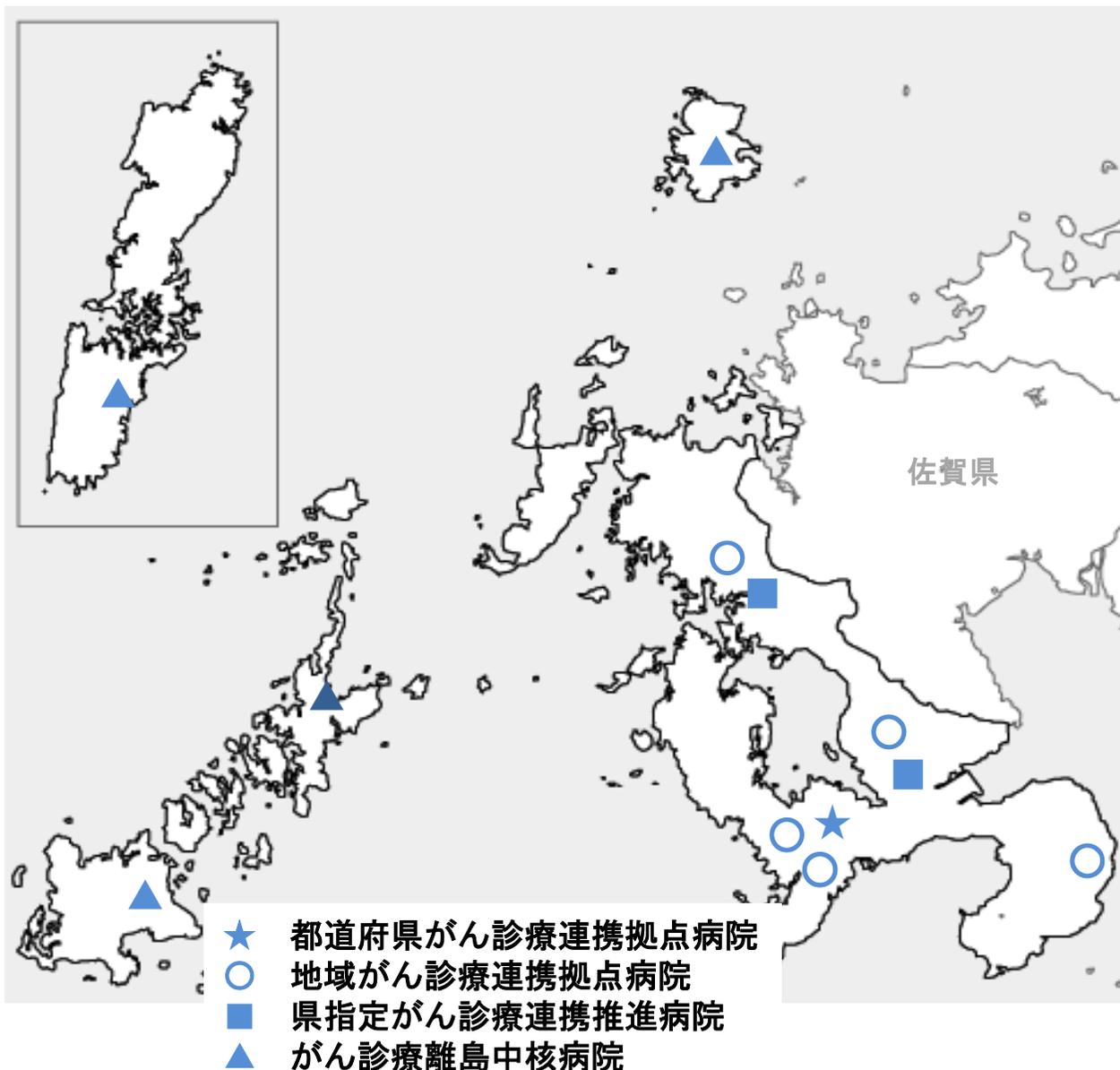
【長崎医療圏複数指定の理由】

- 長崎大学病院 都道府県拠点病院
- 長崎みなとメディカルセンター
「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」を中心に主に五島医療圏と連携
- 日本赤十字社 長崎原爆病院
「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」を中心に主に上五島医療圏と連携

- ①長崎大学病院 ★ (現況)
- ②長崎みなとメディカルセンター (現況)
- ③日本赤十字社長崎原爆病院 (現況)
- ④佐世保市総合医療センター (現況)
- ⑤長崎医療センター (現況)
- ⑥長崎県島原病院 (現況)

今回の指定推薦等に係る長崎県の考え方

長崎県のがん医療提供体制



人口 約123.5万人
医療圏 8か所（本土4か所 離島4か所）

本県のがん医療は、以下の病院の連携により提供【国指定】

- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院
長崎大学病院（長崎医療圏）
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
長崎みなとメディカルセンター（長崎医療圏）
日本赤十字社 長崎原爆病院（長崎医療圏）
佐世保市総合医療センター（佐世保県北医療圏）
長崎医療センター（県央医療圏）
長崎県島原病院（県南医療圏）

【県指定】

※国の地域がん診療連携拠点病院の指定要件をほぼ充足

- ・ がん診療推進病院
諫早総合病院（県央医療圏）
佐世保中央病院（佐世保県北医療圏）

【長崎県がん対策推進計画で位置づけ】

- ・ がん診療離島中核病院
長崎県五島中央病院
長崎県上五島病院
長崎県壱岐病院
長崎県対馬病院

【 長崎県が目指すがん医療連携体制 】

■現状

本県の医療圏の半数は、国指定の拠点病院等がない空白の医療圏で、医療資源の偏在が課題である。空白の医療圏は、全て離島で、近隣の医療圏とは隣接しておらず、支援には多くの課題がある。県指定がん診療連携推進病院は、地域がん診療連携拠点病院の要件をほぼ充足（一部未充足）し、本県のがん医療の一翼を担っているが、同一医療圏に国指定地域がん診療連携拠点病院があり、現時点で新たに指定を受けるのは困難な状況にある。

■今後の整備方針

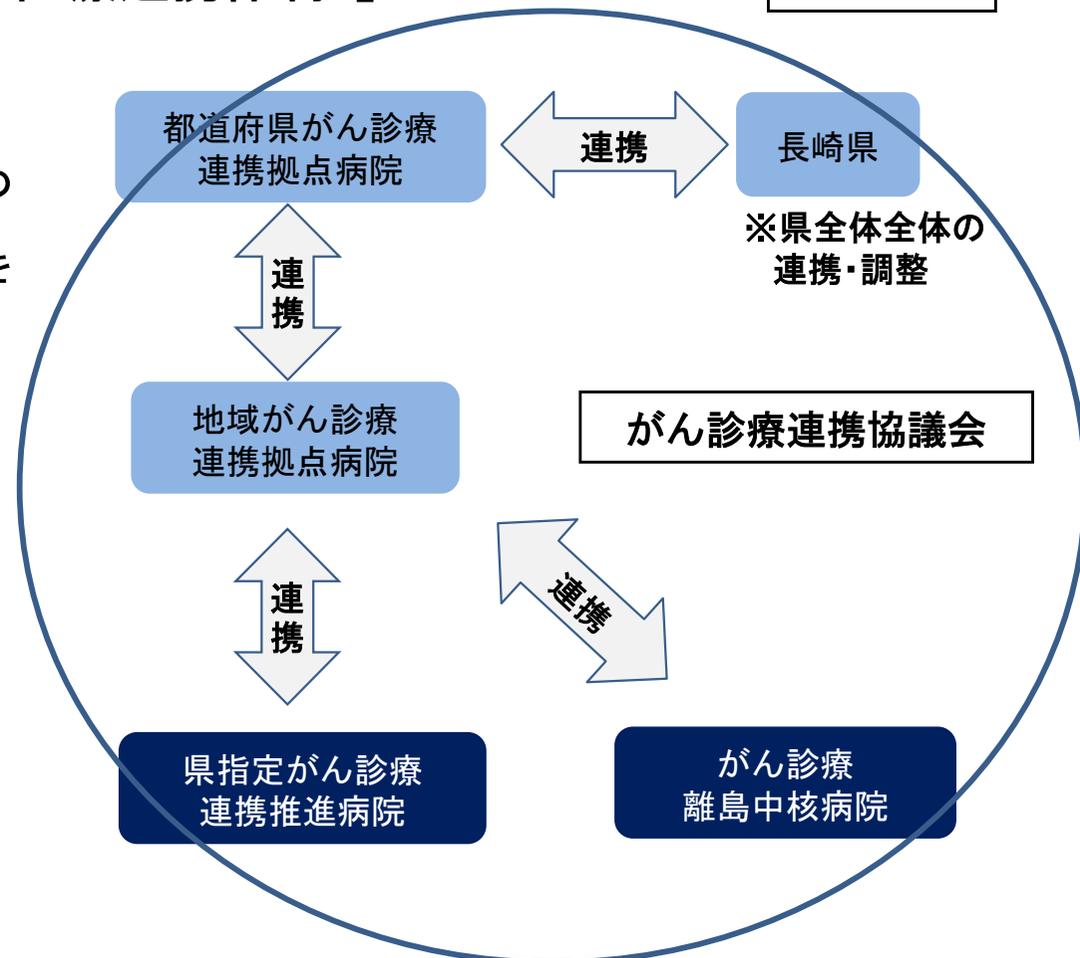
空白の医療圏である離島地域の医療資源の偏在を補うために長崎大学病院を中心として、病理診断におけるあじさいネットの活用等によりがん医療の質の向上に努める。また離島中核病院のがん診療連携協議会への参加や医療機器の整備、研修会の開催等引き続き県内がん医療体制の強化を図る。空白の医療圏との連携は、患者受療動向も錯綜していることから複数病院での支援体制が必要となる。現在国の指定を受けている地域がん診療連携拠点病院と、県指定がん診療連携推進病院の体制強化を図りつつ空白の医療圏の支援体制を構築したい。

■長崎医療圏に対する考え方

長崎市は南北に長く、患者動向からみると概ね3病院に分かれて受療。

各医療機関は、それぞれの特徴を活かした分野を中心に重責を担っており、本県のがん医療に必要な不可欠な医療機関である。

- ・長崎みなとメディカルセンター
主に五島医療圏との連携、及び長崎医療圏（南部地域）の中核病院としての実績とともに、サイバーナイフ導入等高精度放射線治療の一翼を担う。
- ・日本赤十字社 長崎原爆病院
被爆県である本県の特殊性から、被爆者（・二世）に対するがん診療の実績が多い。主に上五島医療圏との連携、及び長崎医療圏（北部地域）の中核病院としての役割を担う。緩和ケア病棟を新設し、緩和ケア医療の充実を図っている。
- ・長崎大学病院
県全域（一部、佐賀県等を含む）のがん診療の質の向上に貢献。がんゲノム医療拠点病院、小児がん連携病院として、特に、合併症、小児、妊婦、多重がん等、特殊な治療を担うとともに、都道府県拠点病院として県内のがん診療医療従事者研修の企画・開催等、人材育成において主導的な立場を担っている。また、がん診療連携協議会において中心的役割を果たしている。



熊本県

熊本県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

2次医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						現況報告病院数	今回更新病院数	新規申請病院数	計	既指定病院数	計	既指定病院数	計
熊本上益城	1,174.4	817,045	49	695.7	101	4	0	0	4	0	0	0	0
宇城	406.9	97,549	6	239.7	10	0	0	0	0	0	0	0	0
有明	421.4	144,051	9	341.8	11	1	0	0	1	0	0	0	0
鹿本	299.7	45,565	3	152.0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
菊池	466.6	190,062	11	407.3	16	0	0	0	0	0	0	0	0
阿蘇	1,079.5	55,459	3	51.4	6	0	0	0	0	0	0	0	0
八代	714.6	126,492	8	177.0	11	1	0	0	1	0	0	0	0
芦北	431.4	38,367	2	88.9	10	0	0	0	0	0	0	0	0
球磨	1,536.6	73,774	4	48.0	11	1	0	0	1	0	0	0	0
天草	878.1	95,476	6	108.7	18	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7,409.2	1,683,810	100	227.3	200	7	0	0	7	0	0	0	0

熊本県 令和7年度の予想される患者受療動向

★:都道府県拠点

空白の圏域については他の拠点病院の他、熊本県独自の拠点病院（熊本県指定がん診療連携拠点病院…■）を設置することでカバー。

鹿本圏域に住むがん患者は、熊本・上益城圏域へ受診するため、主に②の病院で担当。

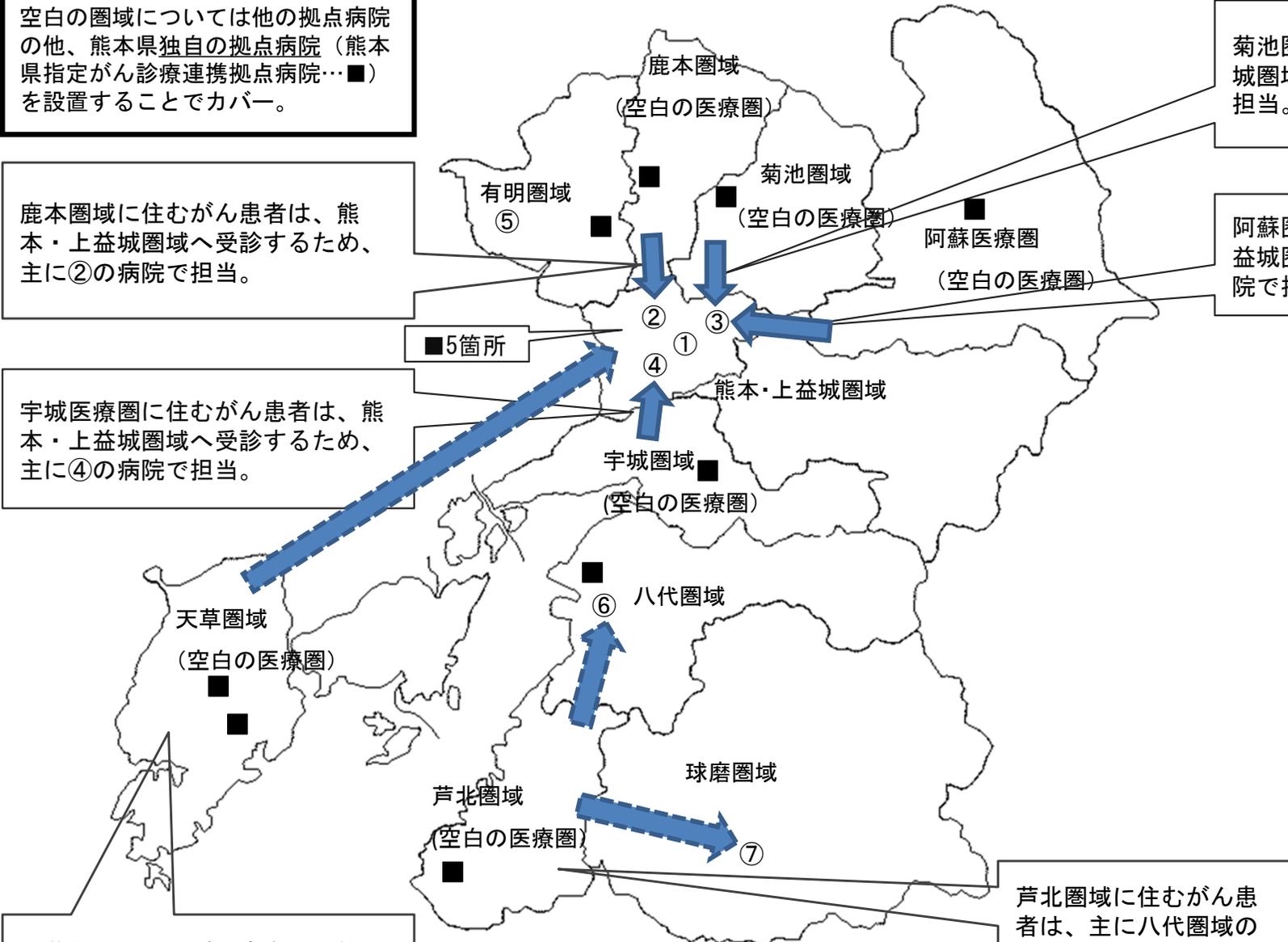
宇城医療圏に住むがん患者は、熊本・上益城圏域へ受診するため、主に④の病院で担当。

天草圏域に住むがん患者は、熊本・上益城圏域でカバー。

菊池圏域に住むがん患者は、熊本・上益城圏域へ受診するため、主に③の病院で担当。

阿蘇圏域に住むがん患者は、熊本・上益城圏域へ受診するため、主に③の病院で担当。

芦北圏域に住むがん患者は、主に八代圏域の⑥の病院及び球磨圏域の⑦の病院でカバー。



- ① 国立大学法人 熊本大学病院★
(平成18年8月24日)
- ② 独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター
(平成20年2月8日)
- ③ 熊本赤十字病院
(平成20年2月8日)
- ④ 社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院
(平成20年2月8日)
- ⑤ 荒尾市立有明医療センター
(平成20年2月8日)
- ⑥ 独立行政法人 労働者健康安全機構 熊本労災病院
(平成19年1月31日)
- ⑦ 独立行政法人 地域医療機能推進機構 人吉医療センター
(平成19年1月31日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

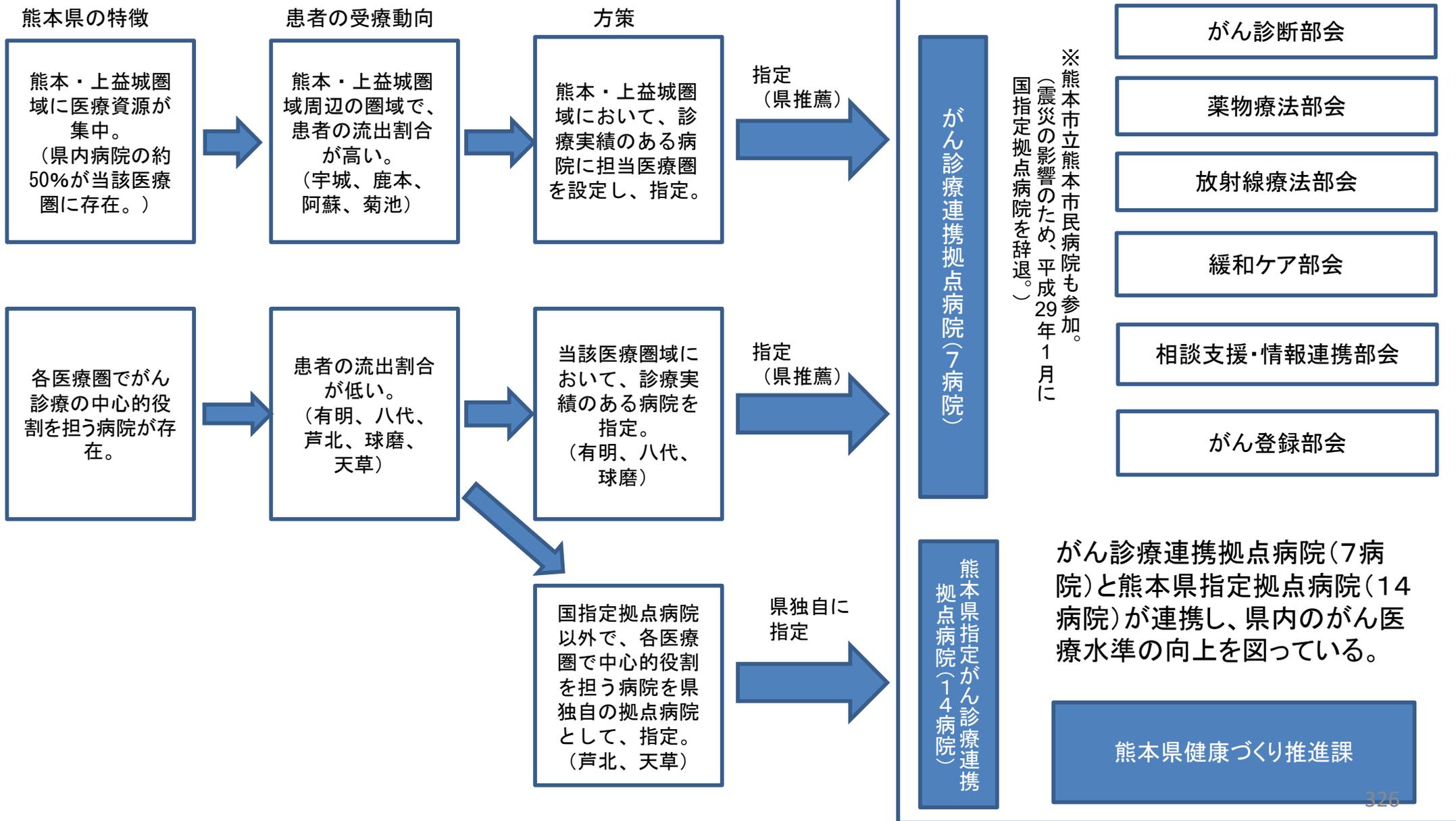
資料 3

・()内は令和6年度提出の数値、下段は令和7年度の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の 手術件数(年 間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチ ームに対する新 規介入患者数 (年間) 50人以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	熊本・ 上益城	★	報告	熊本大学 病院	(3,467) 3,139	(2,849) 2,959	(2,317) 3,474	(820) 934	(558) 577	(15.0) 11.0	(3,065) 2,874
2	熊本・ 上益城		報告	熊本医療 センター	(1,415) 1,831	(961) 898	(1,415) 2,938	(445) 491	(131) 157	(7.2) 17.0	(918) 1,357
3	熊本・ 上益城		報告	熊本赤十 字病院	(1,420) 1,453	(1,117) 1,152	(1,192) 1,286	(458) 567	(132) 161	(10.0) 6.0	(619) 535
4	熊本・ 上益城		報告	済生会熊 本病院	(1,488) 1,406	(1,498) 1,494	(1,846) 1,825	(330) 359	(144) 173	(5.0) 5.0	(1,376) 1,523
5	有明		報告	有明医療 センター	(344) 379	(206) 226	(458) 552	(162) 164	(96) 261	(31.6) 16.3	(996) 1,134
6	八代		報告	熊本労災 病院	(754) 805	(512) 498	(562) 512	(160) 175	(79) 66	(21.0) 32.0	(1,149) 904
7	球磨		報告	人吉医療 センター	(532) 576	(340) 346	(629) 625	(132) 150	(89) 123	(89.3) 45.0	(374) 230

熊本県におけるがん診療体制について



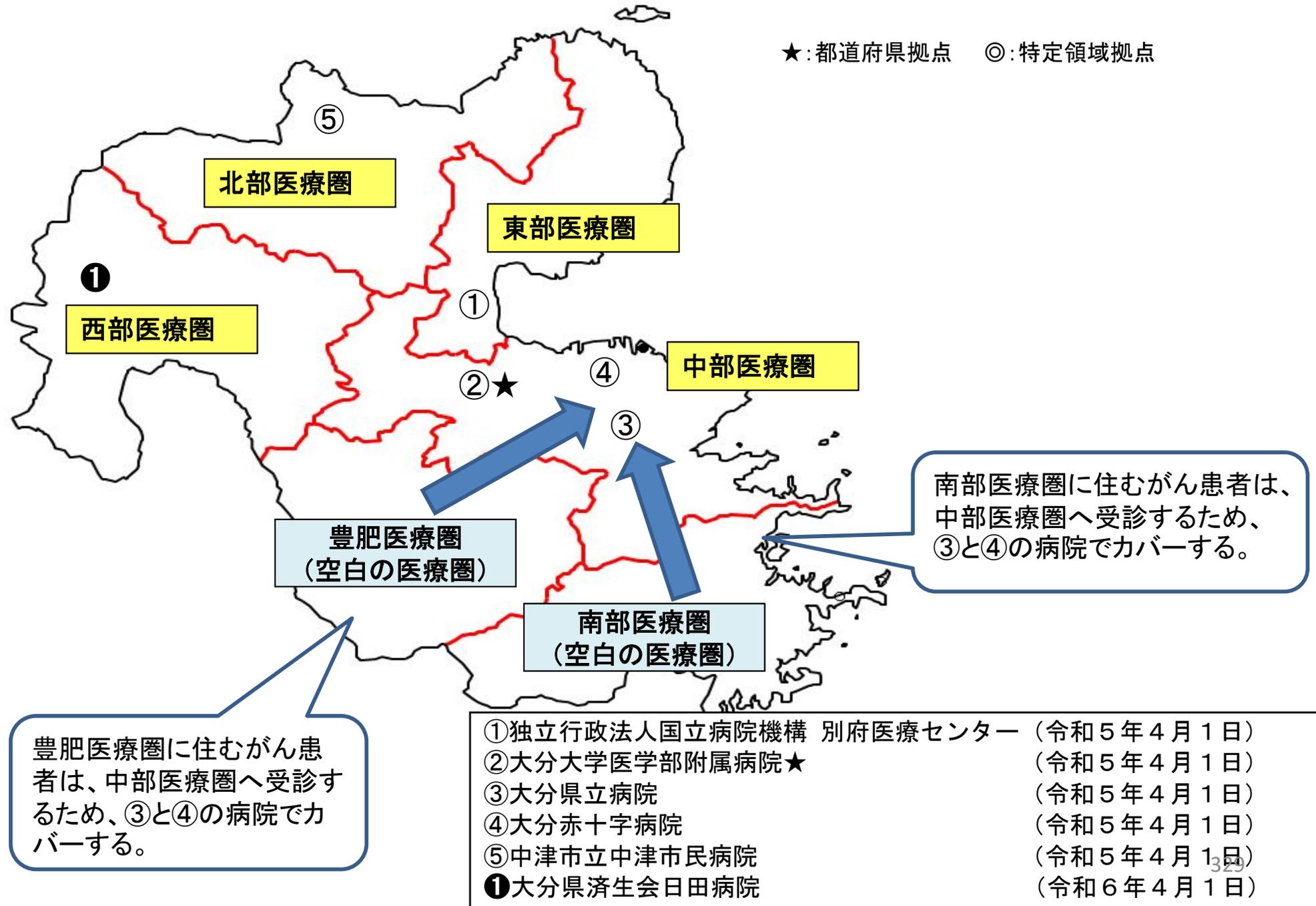
大分県

大分県がんの医療圏の概要

令和7年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			がん診療病院		
						現況報告	今回更新	新規申請	計	現況報告	今回更新	新規申請	現況報告	今回更新	新規申請
東部医療圏	803.83	188,963	17.5	235.69	33	1			1						
中部医療圏	1192.41	547,955	50.8	462.09	61	3			3						
南部医療圏	903.12	60,569	5.7	68.51	8				0						
豊肥医療圏	1080.67	48,303	4.6	45.84	6				0						
西部医療圏	1224.00	78,421	7.4	65.30	20				0				1		
北部医療圏	1136.73	150,622	14.0	133.67	21	1			1						
計	6340.76	1,074,833	100.0	169.51	149	5	0	0	5	0	0	0	1	0	0

大分県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

- ・()内は令和6年10月提出の数値、下段は令和7年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

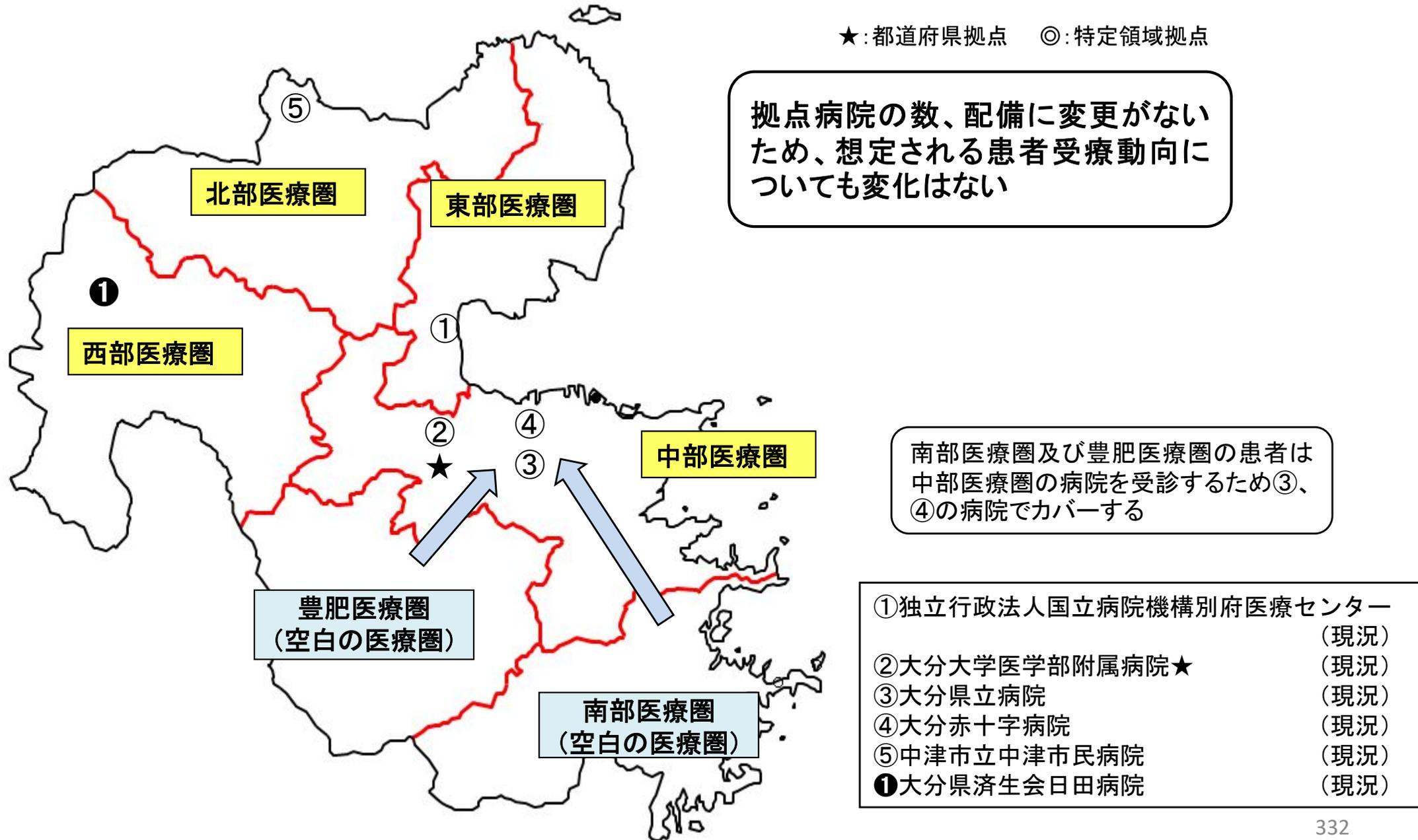
医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
① 東部		現況報告	別府医療センター	(970)	(458)	(1,263)	(74)	(162)	(39.0)	(1,220)
				781	482	1,103	81	120	39.0	1,538
② 中部	★	現況報告	大分大学附属病院	(1,428)	(782)	(1,744)	(410)	(134)	(19.9)	(763)
				1,470	783	1,745	548	142	23.5	735
③ 中部		現況報告	大分県立病院	(1,570)	(813)	(1,652)	(474)	(219)	(21.2)	(1,165)
				1,717	863	1,754	596	223	25.1	1,173
④ 中部		現況報告	赤十字病院	(727)	(519)	(2,371)	(201)	(152)	(13.0)	(764)
				761	571	2,341	112	89	13.0	731
⑤ 北部		現況報告	中津市民病院	(631)	(406)	(1,117)	(214)	(60)	(51.0)	(653)
				580	402	931	217	50	31.0	1,065

地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は令和5年10月提出の数値、下段は令和6年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物 療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
			院内 がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の 手術件数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する 新規診療 依頼数 (年間)	当該2次医療圏 に居住する がん患者の 診療の 割合(%)	相談件数 (年間)
① 西部	現況報告	済生会 日田病院	(317)	(89)	(291)	(112)	(118)	(41.0)	(212)
			292	96	308	100	66	36.0	243

大分県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



拠点病院の指定推薦の考え方

現状

- 本県では、平成20年3月に「大分県がん対策推進計画」を策定し、「がんによる死亡者の減少」と「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」を全体目標として、がん診療連携拠点病院の整備など、がん対策を推進してきた。
- 現在指定されている5つのがん診療連携拠点病院・1つのがん診療病院については、県内におけるがん対策の拠点として、県全体のがん医療水準の向上、均てん化に大きな役割を果たしてきた。
- 令和6年3月に策定した「大分県がん対策推進計画(第4期)」では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す」ことを目標に掲げ、さらなるがん対策に取り組むこととしており、その達成に向けて、現在の1県拠点病院・6圏域4拠点病院・1診療病院体制は必要不可欠のものとなっている。

拠点病院等の役割

○都道府県がん診療連携拠点病院について

大分大学医学部附属病院は、平成20年に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定されて以来、「地域がん診療連携拠点病院」間の連携を図り、「都道府県がん診療連携協議会」の幹事として連携協力体制や医師派遣などの診療派遣、情報の共有化に積極的に努めているほか、「地域がん診療連携拠点病院」に対する積極的な研修の開催等、高度のがん医療の均てん化に大きく寄与しており、その役割を十分に果たしている。

○地域がん診療連携拠点病院について

本県の医療圏は「東部」、「中部」、「南部」、「豊肥」、「西部」、「北部」の6医療圏で構成され、「南部」、「豊肥」の2医療圏は拠点病院のない空白医療圏となっている。

本県の病院・診療所の数、医師等の人数等は、概ね全国水準を上回っているものの、東部、中部医療圏に約半数が集中しており、医療資源の集中化が見られる。特に、中部医療圏内の人口は、約55万人で本県人口(約107万人)の約半数を占めている。さらに高速道路網等の道路整備により、中部医療圏内の病院での受療の増加が見られるため、中部医療圏の拠点病院の整備はさらに充実・強化が必要であると考えている。

南部、豊肥の各医療圏では指定要件を充たす病院がなく、両医療圏とも高速道路等の整備促進により、中部医療圏の医療機関での受療動向が高くなっている。地域の実情に即しながら、医療圏に最低1つの拠点病院等の設置を目指し、現状把握および整備体制に努めている。

以上のことから、中部医療圏については、2つの地域がん診療連携拠点病院を維持し、本県のがん医療に対する体制を維持・強化していきたいと考えている。また、「東部」、「北部」の医療圏についても、これまでの実績及び他に指定要件を充足する病院が無いことから拠点病院の設置を維持していきたいと考えている。

○地域がん診療病院について

「西部」医療圏は、大分県済生会日田病院が令和6年度から「地域がん診療病院」として設置されている。グループ指定を受けている都道府県がん診療連携拠点病院である大分大学医学部附属病院と連携し、「西部」医療圏のがん医療体制の維持向上、かつ、地域のがん患者へ良質な治療を提供するため、引き続きがん診療病院の設置を維持していきたいと考えている。

宮 崎 県

宮崎県がんの医療圏の概要

令和 7 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域 がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院					
						推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				
							新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告	
県北がん医療圏	3,185.9	205,835	20.2	64.6	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県央がん医療圏	2,023.2	505,288	49.6	249.8	43	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南がん医療圏	830.4	60,761	6.0	73.2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県西がん医療圏	1,694.7	247,738	24.3	146.2	35	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7,734.2	1,019,622	100.0	131.8	112	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

宮崎県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①宮崎県立宮崎病院（令和6年3月26日）
- ②宮崎大学医学部附属病院★（令和6年3月26日）
- ③国立病院機構都城医療センター（令和6年3月26日）

★：都道府県拠点

○県央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心



県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県央がん医療圏の①、②の病院で、カバーしている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

() 内は令和5年1月～12月の実績、下段は令和6年1月～12月の実績

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

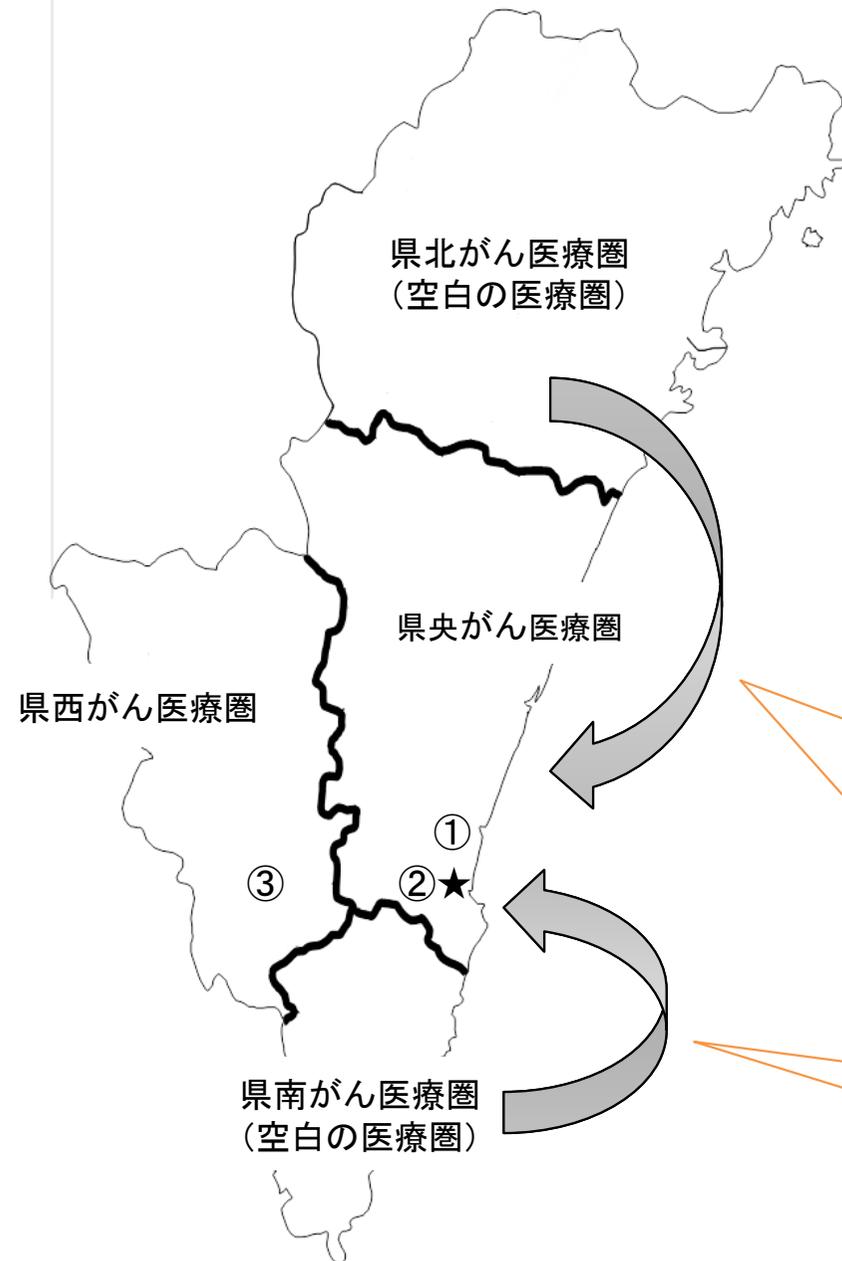
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームの 新規介入患者数 (年間) <u>50人以上</u>	当該がん医療圏に 居住する患者の 診療実績の割合 (%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	県央		現況	宮崎県立 宮崎病院	(1,371) 1,273	(764) 996	(2,625) 1,757	(291) 288	(129) 138	(23) 19.0	(242) 389
2	県央	★	現況	宮崎大学 医学部 附属病院	(1,015) 1,355	(1,184) 1,237	(7,273) 7,175	(277) 277	(135) 128	(12) 15.0	(12,598) 2,755
3	県西		現況	都城医療 センター	(783) 830	(467) 425	(1,800) 1,790	(115) 239	(116) 116	(20) 42.0	(1,359) 1,327

地域がん診療病院の診療実績等

該当ありません

宮崎県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点



- ①宮崎県立宮崎病院（現況）
- ②宮崎大学医学部附属病院★（現況）
- ③国立病院機構都城医療センター（現況）

○県中央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県中央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心

県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、引き続き、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県中央がん医療圏の①、②の病院でカバーする。

がん医療提供体制に係る本県の考え方

宮崎県の地域特性

- 地理的制約 . . . 県土が南北に長く、公共交通網も未発達
- 脆弱な医療体制 . . . 7つの二次医療圏を4つのがん医療圏として再編しても、空白の医療圏が2つ残る
- 医療従事者の不足 . . . がん専門の医療従事者の不足

指定推薦等に係る考え方

- 地域特性を踏まえ、現在の拠点病院を中心とした連携体制を維持し、県内がん医療の均てん化を図る。

宮崎大学医学部附属病院（★都道府県がん診療連携拠点病院）

- ・ 県内の医療連携の中心
- ・ 県内唯一の特定機能病院

宮崎県立宮崎病院

（地域がん診療連携拠点病院：県央がん医療圏）

- ・ 県央がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 空白のがん医療圏の患者の受入も多い

国立病院機構都城医療センター

（地域がん診療連携拠点病院：県西がん医療圏）

- ・ 県西がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 政策医療の中でもがん医療に注力

空白のがん医療圏（県北がん医療圏・県南がん医療圏）

がん診療指定病院（宮崎県指定）である県立延岡病院、県立日南病院で標準的ながん医療を実施

鹿児島県

鹿児島県がんの医療圏の概要

令和7年9月1日現在

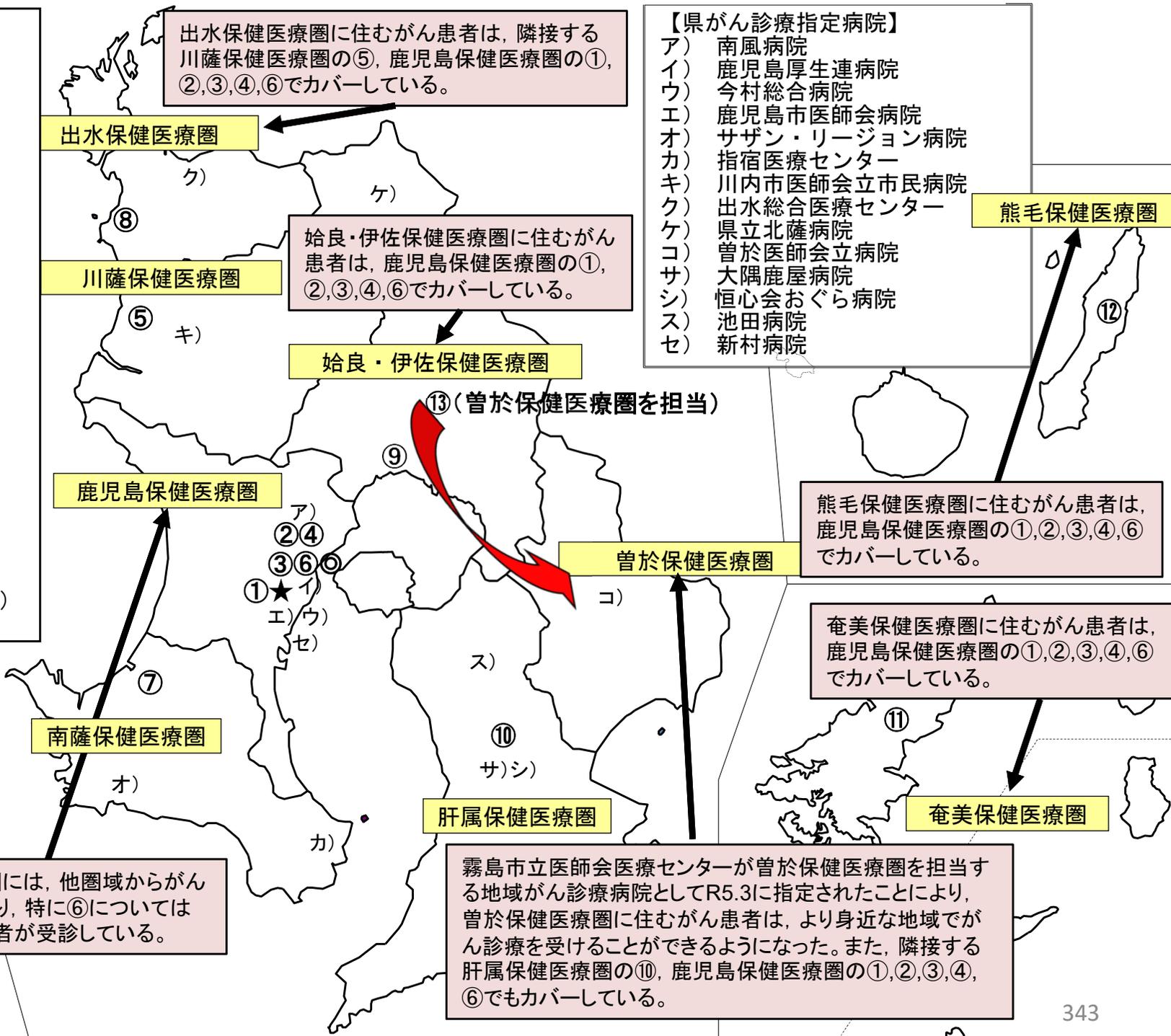
がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院						
						推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳					
							新規申請	指定更新	指定類型 変更		現況報告	新規申請	指定更新		指定類型 変更	現況報告	新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告
鹿児島医療圏	1,045.5	651,062	43.0	622.8	99	0				4	0				1	0				0
南薩医療圏	865.1	113,748	7.5	131.5	29	0				0					0					1
川薩医療圏	986.8	106,041	7.0	107.5	15	0				1	0				0					0
出水医療圏	580.5	75,785	5.0	130.6	8	0				0					0					1
始良・伊佐医療圏	1,371.3	227,359	15.0	165.8	34	0				0					0					1
曾於医療圏	781.0	68,245	4.5	87.4	8	0				0					0					1
肝属医療圏	1,322.9	138,468	9.2	104.7	17	0				0					0					1
熊毛医療圏	992.9	36,242	2.4	36.5	4	0				0					0					1
奄美医療圏	1,240.3	96,331	6.4	77.7	15	0				0					0					1
県(全体)	9,186.2	1,513,281	100	164.7	229	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7

※がんの医療圏と二次保健医療圏は同一

鹿児島県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ① 鹿児島大学病院★ (現況)
(令和5年3月23日)
- ② 鹿児島医療センター (現況)
(令和5年3月23日)
- ③ 鹿児島市立病院 (現況)
(令和5年3月23日)
- ④ いまきいれ総合病院 (現況)
(令和6年3月26日)
- ⑤ 済生会川内病院 (現況)
(令和7年3月14日)
- ⑥ 博愛会相良病院◎ (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑦ 県立薩南病院 (現況)
(令和6年3月26日)
- ⑧ 出水郡医師会広域医療センター (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑨ 南九州病院 (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑩ 鹿屋医療センター (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑪ 県立大島病院 (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑫ 種子島医療センター (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑬ 霧島市立医師会医療センター (現況)
(令和5年3月23日)

- 【県がん診療指定病院】
- ア) 南風病院
 - イ) 鹿児島厚生連病院
 - ウ) 今村総合病院
 - エ) 鹿児島市医師会病院
 - オ) サザン・リージョン病院
 - カ) 指宿医療センター
 - キ) 川内市医師会立市民病院
 - ク) 出水総合医療センター
 - ケ) 県立北薩病院
 - コ) 曾於医師会立病院
 - サ) 大隅鹿屋病院
 - シ) 恒心会おぐら病院
 - ス) 池田病院
 - セ) 新村病院



出水保健医療圏に住むがん患者は、隣接する川薩保健医療圏の⑤、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーしている。

始良・伊佐保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーしている。

熊毛保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーしている。

奄美保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーしている。

霧島市立医師会医療センターが曾於保健医療圏を担当する地域がん診療病院としてR5.3に指定されたことにより、曾於保健医療圏に住むがん患者は、より身近な地域でがん診療を受けることができるようになった。また、隣接する肝属保健医療圏の⑩、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でもカバーしている。

鹿児島保健医療圏には、他圏域からがん患者が流入しており、特に⑥については全県的に多くの患者が受診している。

鹿児島保健医療圏

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・上段()内は令和5年の数値, 下段は令和6年の数値

★: 都道府県拠点 ◎: 特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談件数
					院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談支援センター相談件数(年間)
					500件以上	400件以上	1000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
1	鹿児島	★	現況	鹿児島大学病院	(2,103) 2,113	(1,701) 1,393	(2,600) 1,216	(523) 537	(472) 481	(20) 21	(1,100) 1,197
2	鹿児島		現況	鹿児島医療センター	(948) 924	(811) 710	(1,272) 1,208	(201) 206	(132) 120	(9) 9	(2,832) 2,813
3	鹿児島		現況	鹿児島市立病院	(1,546) 1,544	(2,255) 1,282	(2,221) 2,115	(326) 314	(275) 337	(16) 18	(2,367) 2,483
4	鹿児島		現況	いまきいれ総合病院	(807) 766	(652) 660	(3,915) 1,233	(225) 239	(407) 437	(10) 10	(452) 674
5	川薩		現況	済生会川内病院	(655) 623	(413) 428	(652) 626	(248) 168	(76) 77	(49) 59	(1,034) 2,070
6	鹿児島	◎	現況	相良病院	(1,277) 1,234	(902) 901	(1,618) 1,702	(657) 580	(53) 87	(1) 6	(2,465) 2,884

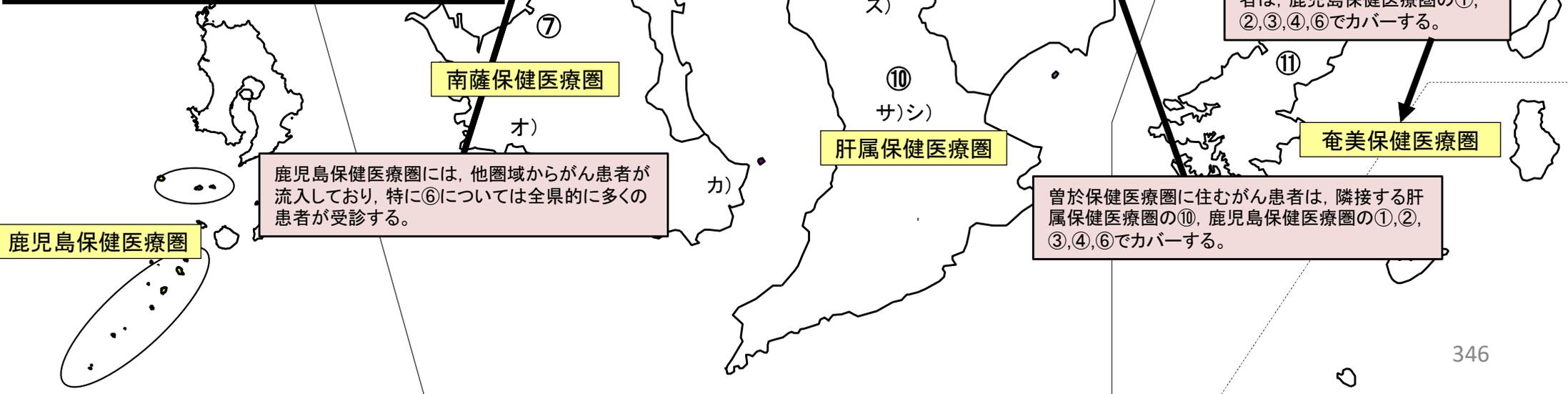
地域がん診療病院の診療実績等

・上段()内は令和5年の数値, 下段は令和6年の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談件数
				院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談支援センター相談件数(年間)
1	南薩	現況	県立薩南病院	(228) 124	(82) 52	(213) 178	(40) 45	(11) 10	(21) 6	(1,288) 1,212
2	出水	現況	出水郡医師会広域医療センター	(270) 202	(191) 203	(978) 1035	(実施なし) 実施なし	(82) 72	(27) 25	(1,313) 1,983
3	始良・伊佐	現況	南九州病院	(349) 451	(80) 60	(1,076) 962	(916) 227	(37) 81	(6) 7	(2,056) 1,081
4	肝属	現況	鹿屋医療センター	(207) 173	(104) 52	(1,311) 382	(139) 126	(33) 40	(19) 19	(709) 515
5	奄美	現況	県立大島病院	(528) 558	(141) 149	(2,210) 764	(94) 89	(258) 305	(42) 57	(689) 796
6	熊毛	現況	種子島医療センター	(177) 156	(20) 29	(1,204) 428	(実施なし) 実施なし	(20) 27	(31) 27	(94) 112
7	曾於	現況	霧島市立医師会医療センター	(443) 505	(206) 253	(669) 854	(実施なし) 実施なし	(24) 23	(18) 28	(2,080) 2,040

鹿児島県 令和8年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ① 鹿児島大学病院★ 【県がん診療指定病院】
(令和5年3月23日) ア) 南風病院
- ② 鹿児島医療センター
(令和5年3月23日) イ) 鹿児島厚生連病院
- ③ 鹿児島市立病院
(令和5年3月23日) ウ) 今村総合病院
- ④ いまきいれ総合病院
(令和6年3月26日) エ) 鹿児島市医師会病院
- ⑤ 済生会川内病院
(令和7年3月14日) オ) サザン・リージョン病院
- ⑥ 博愛会相良病院◎
(令和5年3月23日) カ) 指宿医療センター
- ⑦ 県立薩南病院
(令和6年3月26日) キ) 川内市医師会立市民病院
- ⑧ 出水郡医師会広域医療センター
(令和5年3月23日) ク) 出水総合医療センター
- ⑨ 南九州病院
(令和5年3月23日) ケ) 県立北薩病院
- ⑩ 鹿屋医療センター
(令和5年3月23日) コ) 曾於医師会立病院
- ⑪ 県立大島病院
(令和5年3月23日) サ) 大隅鹿屋病院
- ⑫ 種子島医療センター
(令和5年3月23日) シ) 恒心会おぐら病院
- ⑬ 霧島市立医師会医療センター
(令和5年3月23日) ス) 池田病院
- セ) 新村病院



出水保健医療圏に住むがん患者は、隣接する川薩保健医療圏の⑤、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

始良・伊佐保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

熊毛保健医療圏

熊毛保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

奄美保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

奄美保健医療圏

曾於保健医療圏に住むがん患者は、隣接する肝属保健医療圏の⑩、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

鹿児島保健医療圏には、他圏域からがん患者が流入しており、特に⑥については全県的に多くの患者が受診する。

鹿児島保健医療圏

鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の整備の考え方について

【現状】

- 本県は、9つの二次保健医療圏で構成され、全ての圏域に拠点病院等の指定を受けた医療機関が整備されている。(都道府県がん診療連携拠点病院1, 地域がん診療連携拠点病院4, 特定領域がん診療連携拠点病院1, 地域がん診療病院7 計13医療機関)
- 本県独自の「鹿児島県がん診療指定病院」を14医療機関指定している。

【がん診療連携拠点病院等の整備の考え方】

- 本県におけるがん医療の水準には地域や施設間の格差が見られ、標準的治療や進行・再発といった様々ながんの病態に応じたがん医療を住み慣れた地域で受けられない人もいることから、こうした現状を改善するため、国が指定するがん診療連携拠点病院等(以下、「拠点病院等」という。)及び県が指定する県がん診療指定病院の整備を推進してきた。

その結果、拠点病院等がなく空白の医療圏となっていた曾於保健医療圏を担当する地域がん診療病院として、隣接する始良・伊佐医療圏に位置する霧島市立医師会医療センターが整備され、令和5年度以降、県内全ての二次保健医療圏に拠点病院等が整備されている。

- 地域の医療連携ツールである地域連携クリティカルパスについて、拠点病院等からなる県がん診療連携協議会が、我が国に多い5大がん(肺・胃・肝・大腸・乳)等のパスを整備している。
- がん治療の副作用・合併症の予防や軽減など、がん患者の生活の質の更なる向上を図るため、医科歯科連携など多職種連携の推進に向けた取組を行っている。
- 全ての拠点病院等にごがん相談支援センターが設置され、がん患者やその家族だけではなく、地域住民からの相談に応じているが、その活動の周知が十分とはいえない状況である。

以上、本県の状況に鑑み、引き続き全ての二次保健医療圏にごがん診療連携拠点病院等の整備を維持する必要がある。

沖 縄 県

沖縄県 がんの医療圏の概要

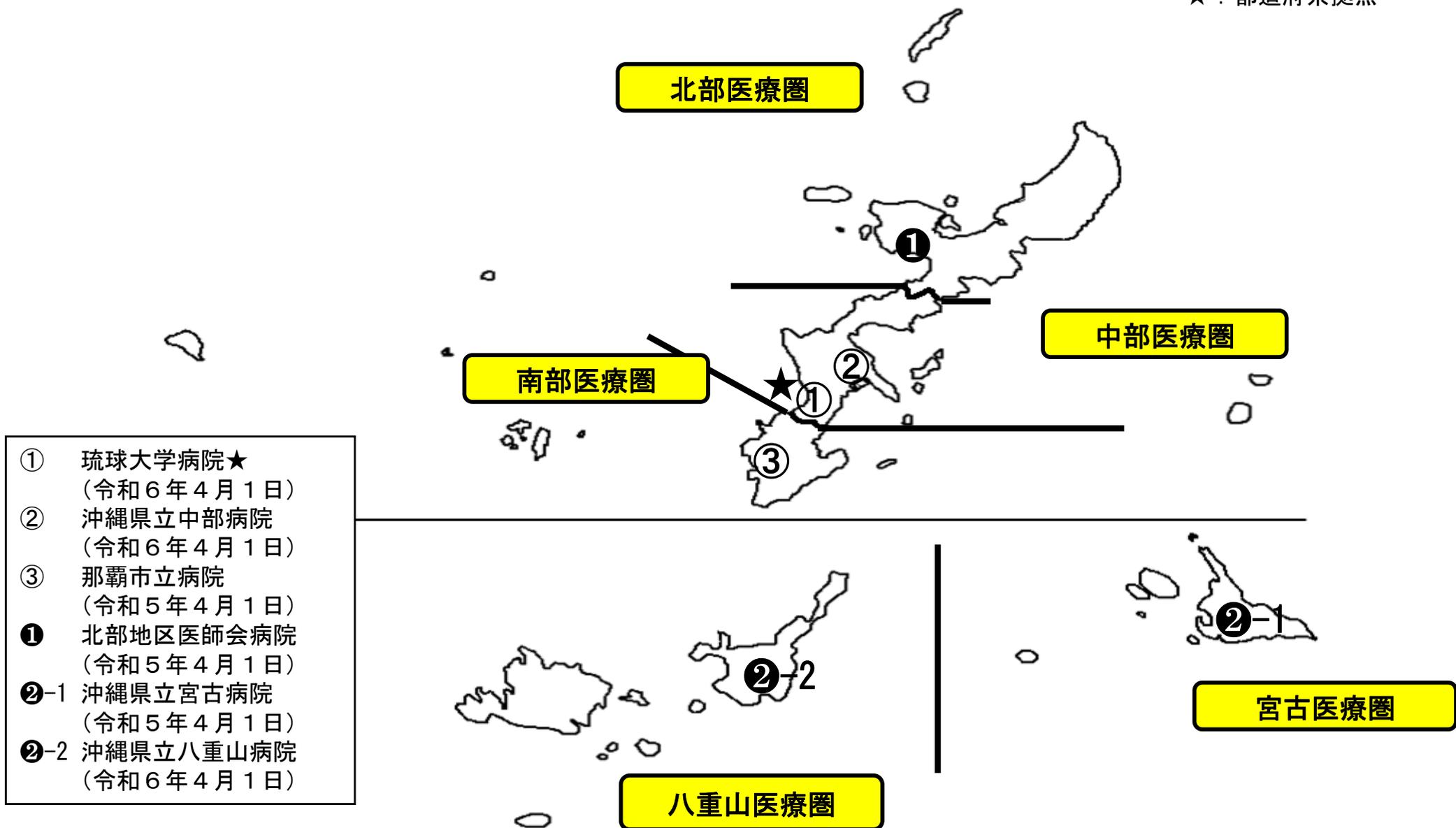
令和 7 年 9 月 1 日現在

がん医療圏名	※R7.7.1	※R7.9.1			※R7.10.1	がん診療連携拠点病院					特定領域がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院					
	面積 (km ²)	人口	人口割合 (%)	人口密度	病院数	新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告	計	新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告	計	新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告	計	
1 北部医療圏	705.31	100,974	6.89	143.2	11															1	1
2 中部医療圏	368.13	521,794	35.59	1,417.4	27				2	2											
3 南部医療圏	390.30	736,498	50.23	1,887.0	44				1	1											
4 宮古医療圏	225.90	53,985	3.68	239.0	4															1	1
5 八重山医療圏	592.44	52,974	3.61	89.4	3															1	1
計	2,282.08	1,466,225	100	3,776.00	89	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3

沖縄県 令和7年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

★：都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は令和5年提出の数値、下段は令和6年提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療機関名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線療法	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u> ※様4機172 (R6.1.1~12.31)	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u> ※様4機173 (R6.1.1~12.31)	のべ患者数(年間) <u>1,000件以上</u> ※様4機174 (R6.1.1~12.31)	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u> ※様4機176 (R6.1.1~12.31)	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) <u>50件以上</u> ※様4機177 (R6.1.1~12.31)	当該がん医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u> ※様4機179	のべ相談件数(年間) ※別紙11 (R6.1.1~12.31)
①	中部医療圏	★	現況報告	琉球大学病院	(1,388)	(741)	(1,590)	(799)	(107)	(20.0)	(1,107)
					1,341	778	1,511	589	114	24.0	1,189
②	中部医療圏		現況報告	沖縄県立中部病院	(805)	(488)	(1,012)	(308)	(112)	(15.0)	(1,179)
					780	497	940	223	158	14.0	1,690
③	南部医療圏		現況報告	那覇市立病院	(825)	(681)	(1,142)	(279)	(150)	(11.0)	(1,145)
					764	561	1,304	258	130	12.8	1,025

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・()内は令和5年提出の数値、下段は令和6年提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療機関名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線療法	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) ※様4機502 (R6.1.1~12.31)	悪性腫瘍の手術件数(年間) ※様4機503 (R6.1.1~12.31)	のべ患者数(年間) ※様4機504 (R6.1.1~12.31)	のべ患者数(年間) ※様4機506 (R6.1.1~12.31)	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) ※様4機507 (R6.1.1~12.31)	当該がん医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) ※様4機501	のべ相談件数(年間) ※別紙11 (R6.1.1~12.31)
①	北部医療圏	現況報告	北部地区医師会病院	(388)	(199)	(306)	(実施なし)	(64)	(41)	(336)
				294	195	317	実施なし	68	52	497
②-1	宮古医療圏	現況報告	沖縄県立宮古病院	(360)	(149)	(3,645)	(実施なし)	(0)	(29)	(597)
				359	156	4,007	実施なし	18	41	580
②-2	八重山医療圏	指定更新	沖縄県立八重山病院	(228)	(92)	(333)	(実施なし)	(40)	(30)	(1,220)
				246	92	365	実施なし	35	30	1,141

沖縄県 令和8年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

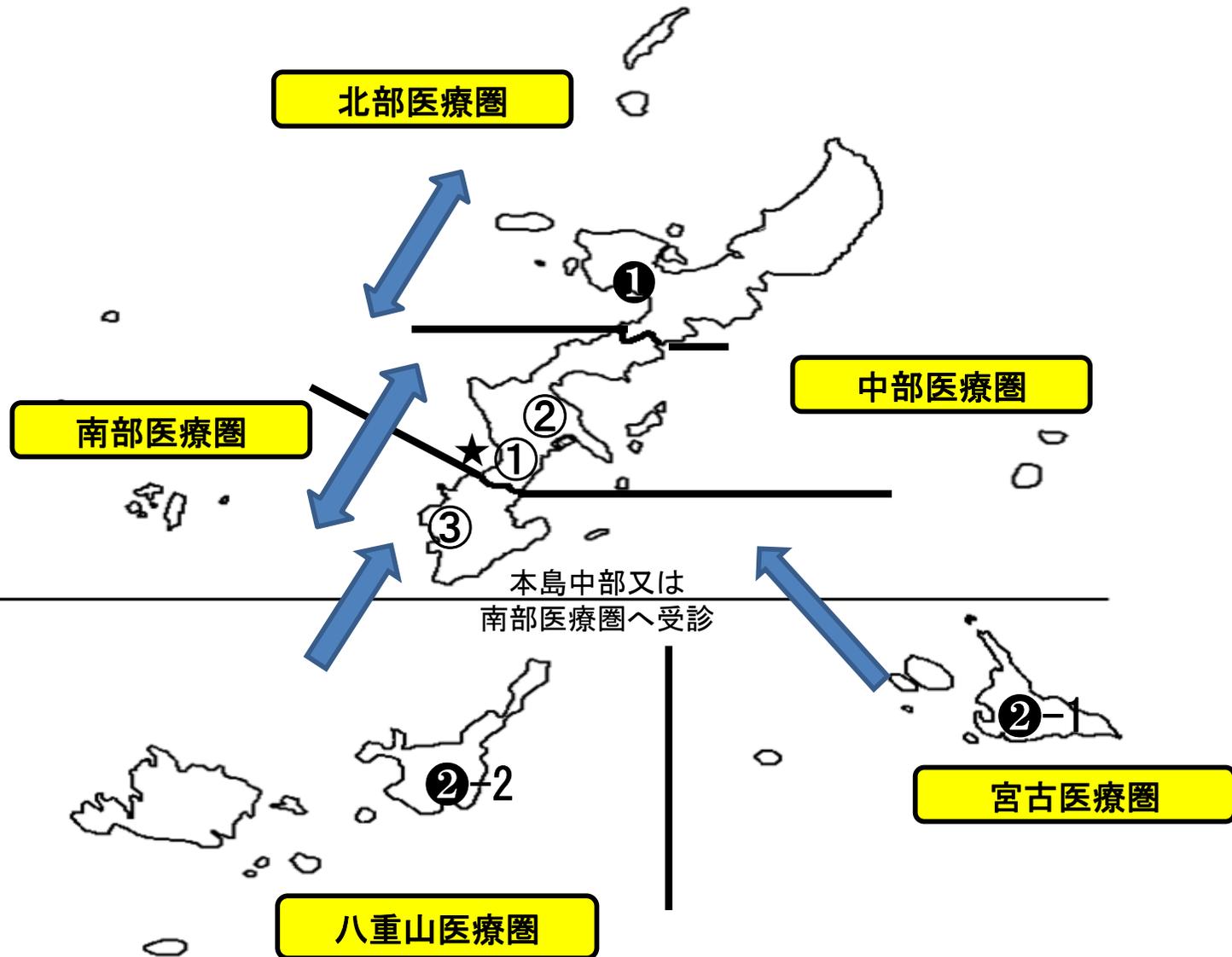
★：都道府県拠点

北部、宮古及び八重山医療圏において、放射線治療等、当該圏域で提供できない医療については、中部又は南部医療圏において提供する体制を整えている。

①琉球大学病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、沖縄県全域及び拠点病院間連携の中心的役割を担っている。

②沖縄県立中部病院は、地域がん診療連携拠点病院として、中部医療圏における中心的役割を担いつつ、宮古及び八重山療圏の医療提供体制を整えている。

③那覇市立病院は、地域がん診療連携拠点病院として、南部医療圏における中心的役割を担っている。



- ① 琉球大学病院★ (現況)
- ② 沖縄県立中部病院 (現況)
- ③ 那覇市立病院 (現況)
- ① 北部地区医師会病院 (現況)
- ②-1 沖縄県立宮古病院 (現況)
- ②-2 沖縄県立八重山病院 (現況)

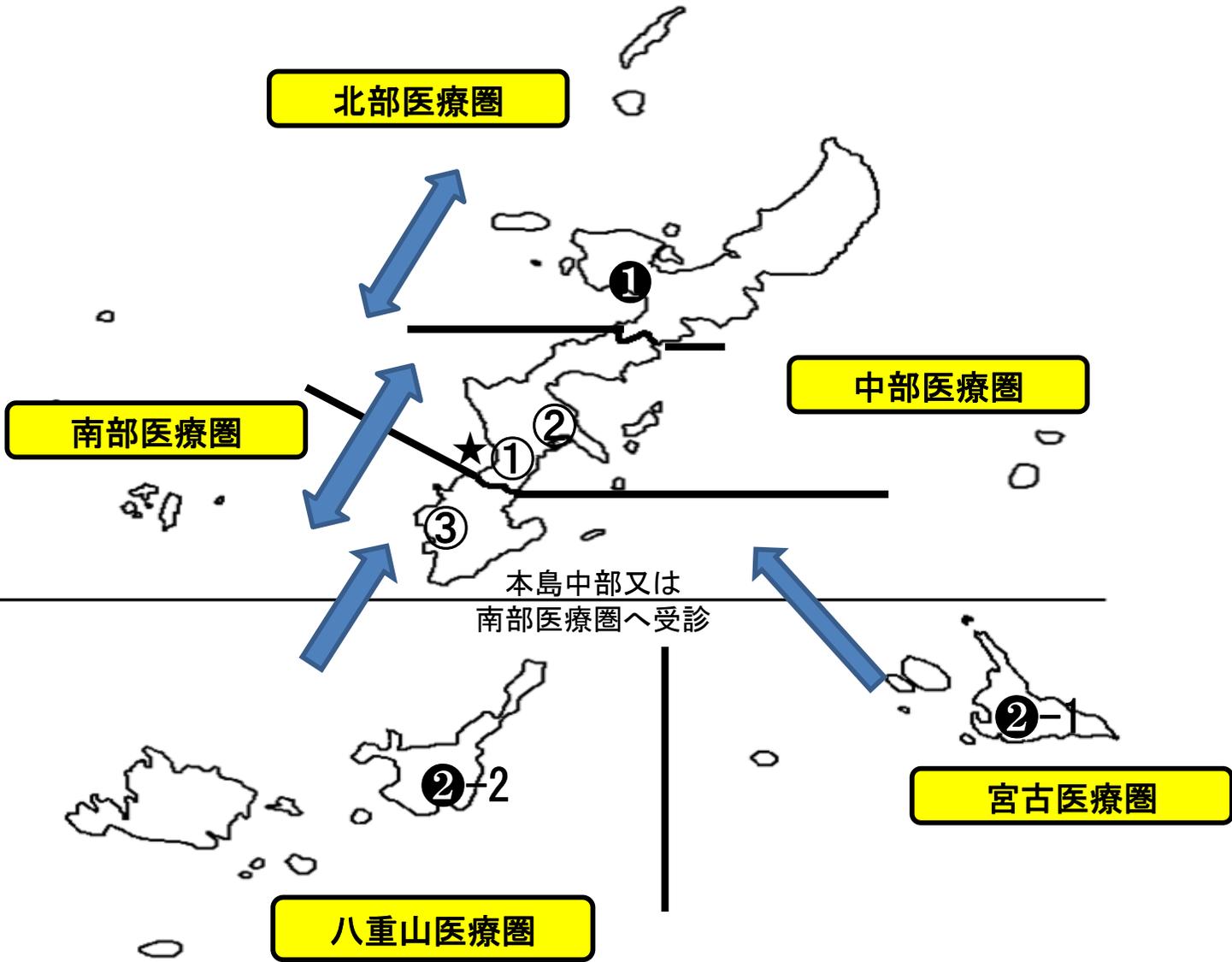
沖縄県 令和7年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点

北部、宮古及び八重山医療圏において、放射線治療等、当該圏域で提供できない医療については、中部又は南部医療圏において提供する体制を整えている。

- ①琉球大学病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、沖縄県全域及び拠点病院間連携の中心的役割を担っている。
- ②沖縄県立中部病院は、地域がん診療連携拠点病院として、中部医療圏における中心的役割を担いつつ、宮古及び八重山療圏の医療提供体制を整えている。
- ③那覇市立病院は、地域がん診療連携拠点病院として、南部医療圏における中心的役割を担っている。

- ① 琉球大学病院★ (現況)
- ② 沖縄県立中部病院 (現況)
- ③ 那覇市立病院 (現況)
- ① 北部地区医師会病院 (現況)
- ②-1 沖縄県立宮古病院 (現況)
- ②-2 沖縄県立八重山病院 (現況)



今回の指定推薦に係る沖縄県の考え方

1 医療提供体制の整備に係る基本的な考え方

第4次沖縄県がん対策推進計画（2024-2029）

《分野目標》

住んでいる地域に関わらず、適切な医療連携に基づく患者本位のがん医療を受けられている。

《施策目標》

- 患者が「がん診療を行う医療機関」において、各医療機関の機能分担に応じた質の高い安心な医療が受けられている。
- 標準治療及び必要な患者が最新の知見に基づく最適な診療を受けられている。
- 医療従事者による適切な意思決定支援を受けられている。
- 適切なチーム医療を受けられている。

都道府県がん診療連携拠点病院			
①	琉球大学病院		
地域がん診療連携拠点病院			
②	中部医療圏	沖縄県立中部病院	
③	南部医療圏	那覇市立病院	
地域がん診療病院			
①	北部医療圏	北部地区医師会病院	※①とのグループ指定
②-1	宮古医療圏	沖縄県立宮古病院	※②とのグループ指定
②-2	八重山医療圏	沖縄県立八重山病院	※②とのグループ指定

都道府県がん診療連携拠点病院及び、5つの二次医療圏全てに地域がん診療連携拠点病院又は地域がん診療病院を整備し、がん診療提供体制を維持することで、県民が適切な医療連携に基づく医療を受けられる体制を整える。

今回の指定推薦に係る沖縄県の考え方

第4次沖縄県がん対策推進計画に基づくがん診療提供体制を整備

